



# 学勢調査2022 提言書

2023年3月  
学勢調査スタッフ一同



# 学勢調査 2022 提言書

2023 年 3 月

東京工業大学  
学勢調査 2022 スタッフ一同



# 代表からの挨拶

2005年に本格実施を開始した学勢調査は、学生が主体の活動として「学生の生の声を伝える」ことを掲げて活動を続け、今回の学勢調査2022で通算9回目を迎えました。2020年に始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響が依然として残っているものの、徐々に対応が緩和されていき、講義や研究活動に加えてサークル活動や部活動など様々な活動が対面で行われるなど、次第にキャンパスに学生の姿が戻りつつある状況での調査実施となりました。様々な規制が緩和されていく一方で、新型コロナウイルス感染症の影響は確実に社会や大学に変化を促しています。このような局面において、学生がこれからの大学に何を求めるか、どのような変化を期待するかという点でも、今回の学勢調査は大きな意味を持つものであったように思います。こうした背景を踏まえ、我々学生スタッフ一同、寄せられた意見を丁寧に分析し、提言を作成しました。本提言書が学生の大学生活をより良いものとする一助となれば幸いです。

学勢調査2022では、学生スタッフによって作成された設問を用いてアンケートを実施し、計2671人の方から回答をいただきました。設問には現在の大学や社会の状況を加味した内容が盛り込まれており、新たな施設に関する質問や授業形式についての質問などが含まれています。今回の調査では、新型コロナウイルス感染症への対応の緩和を受け、キャンパスを利用する学生が増えたため、前回の学勢調査2020に比べて施設関連の回答が増加しました。一方でオンラインでの講義等も行われていたこともあり、システムやサービスに対する回答も多く、幅広い意見が寄せられました。このようにしていただいた数多くの回答に対し、可能な限り多くの学生からの意見を提言書に反映できるように、今回から新たに数値データの分析手法を変更するなどし、より良い提言書の作成を実現できたと考えております。

また、今年度は本調査実施後に東京工業大学と東京医科歯科大学の統合や、入試における女子枠の設置という発表があったことを受け、それら二つのトピックに関する追加調査を行いました。調査結果については本提言書とは別にまとめて公表予定ですが、本提言書の後半に速報を掲載しておりますのでよろしければそちらもご覧ください。

今年度の学勢調査の活動においては、これまで行うことができなかった対面でのミーティングなどを開始し、学生スタッフ間でより綿密なコミュニケーションをとることができました。スタッフのおよそ半数が、今回が初の提言作成という状態で始まった学勢調査2022でしたが、難しい場面もありながらも、学生スタッフ同士で積極的に意見を交換し、お互いにサポートし合うことで無事に提言書を完成させることができました。私自身、代表として活動を進めていく中で、大変さも感じながらも、他の学生スタッフや教職員の皆様の手厚いサポートを受け、判断が難しい状況でも積極的にアイデアを出し合い、協力して物事を進めていく大切さを学ぶことができたように思います。

最後になりますが、学勢調査2022および追加調査に回答してくださった学生の皆様に深く感謝いたします。至らぬ点もあるかと思いますが、今後も学勢調査は皆さんの声を大学に伝えるために精一杯活動していきますので、ぜひこれからもご協力頂ければ幸いです。キャンパスミーティングに対応してくださった各部局の方々には、ご多忙の中無理を言うてしまうこともございましたが、真摯に対応していただきありがとうございました。また、厳しいスケジュールでもついてきてくれた学生スタッフの皆さん、いつも学勢調査の活動を支えてくださっている教職員WGメンバーの皆様、大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

学勢調査2022 代表  
生命理工学院 生命理工学系 3年  
長谷川 義人

# 目次

## 学勢調査 2022 提言書

代表からの挨拶	1
目次	2
1 学勢調査概要	4
1.1 調査目的	4
1.2 調査主体	4
1.3 調査時期・調査対象・調査事項	4
1.4 調査方法・分析方法	4
1.5 回答者の属性と推移	5
1.6 全体会議の記録	5
1.7 キャンパスミーティング	6
1.8 公表と報告	7
2 学修関連	8
提言 2-1 T2SCHOLA の機能改善	8
提言 2-2 授業学修アンケートの実効性の確保	12
提言 2-3 教職課程に対する認識の改善	17
提言 2-4 成績評価制度の改善	19
提言 2-5 各学院・系・コースの専門性を踏まえた就職支援の強化について	23
提言 2-6 シラバスの改善	26
提言 2-7 1、2Q 間及び 3、4Q 間におけるクォーター間休みの設定	30
提言 2-8 教育改革の効果検証の実施	33
提言 2-9 教養科目の改善について	35
提言 2-10 対面授業での録画配信の継続	38
提言 2-11 英語開講科目に関する改善要求	40
3 施設関連	43
提言 3-1 石川台地区へのキッチンカーの誘致、キッチンカーの料理の低価格化	43
提言 3-2 Taki Plaza の席数の拡充	45
提言 3-3 生協食堂メニューの見直し	48
提言 3-4 体育館アリーナにおける冷房の設置	51
提言 3-5 キャンパス内屋外エリアへのゴミ箱の設置	53
4 サービス関連	55
提言 4-1 証明書発行手続きの簡略化	55
提言 4-2 学生勤務報告書のペーパーレス化	57
提言 4-3 学生向け Adobe アカウントの導入に向けた支援	59
提言 4-4 奨学金や就活情報の発信強化	62
提言 4-5 留学に関する現行の制度の継続・強化	64
提言 4-6 コロナ収束後のオンライン留学の継続	72

提言 4-7	<a href="#">留学中における医療体制バックアップの周知(コロナ禍前後を通じて)</a>	81
5	<a href="#">その他</a>	82
提言 5-1	<a href="#">防災訓練前の動画による広報</a>	82
提言 5-2	<a href="#">Work Pod のすずかけ台キャンパスへの設置・用途の拡大</a>	86
提言 5-3	<a href="#">生理用品の無料配布</a>	89
提言 5-4	<a href="#">高校生と大学生向けの公開講座の開講</a>	91
6	<a href="#">調査資料集</a>	93
6.1	<a href="#">基本情報</a>	93
6.2	<a href="#">大学生生活</a>	96
6.3	<a href="#">学修</a>	99
6.4	<a href="#">学修サービス</a>	114
6.5	<a href="#">食事</a>	119
6.6	<a href="#">施設</a>	122
6.7	<a href="#">大学</a>	125
6.8	<a href="#">学勢調査 2022 設問一覧(日本語)</a>	129
6.9	<a href="#">Questions of Student Survey 2022(English)</a>	138
7	<a href="#">学勢調査 2022 追加調査速報</a>	148
7.1	<a href="#">調査目的</a>	148
7.2	<a href="#">調査主体</a>	148
7.3	<a href="#">調査時期・調査対象・調査事項</a>	148
7.4	<a href="#">調査方法・分析方法</a>	148
7.5	<a href="#">回答者の属性</a>	149
7.6	<a href="#">東京医科歯科大学との統合についての調査結果概観</a>	151
7.7	<a href="#">学士課程入試における女子枠の導入についての調査結果概略</a>	152
7.8	<a href="#">追加調査全体を通じての結果</a>	155
8	<a href="#">追加調査 調査資料集</a>	157
8.1	<a href="#">基本情報</a>	157
8.2	<a href="#">東京医科歯科大学との統合</a>	162
8.3	<a href="#">女子枠導入</a>	169
8.4	<a href="#">学勢調査 2022 追加調査 設問一覧(日本語)</a>	172
8.5	<a href="#">Questions of Student Survey 2022: Additional Questions</a>	176
9	<a href="#">謝辞</a>	180
10	<a href="#">学勢調査 2022 学生スタッフ</a>	181
11	<a href="#">学勢調査 2022 WG 教職員スタッフ</a>	183

# 1 学勢調査概要

## 1.1 調査目的

学勢調査は、本学における教育システムや施設、学内サービスなど、大学の運営全般に対して学生の声を取り入れ、本学をより魅力ある大学とすることを目的として行われます。

## 1.2 調査主体

学生支援センター未来人材育成部門に置かれている学勢調査 2022WG が、学生スタッフを募集し、アンケート調査を実施しました。

## 1.3 調査時期・調査対象・調査事項

本調査は 2022 年 6 月 22 日～同年 7 月 22 日に実施しました。調査対象は本学に在籍する全学生です。調査事項については、「6.調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご参照ください。

## 1.4 調査方法・分析方法

本調査は、教務 Web システムのアンケート機能を利用して行われました。本学学生のみが回答できるものの、個人は特定できないようにアンケートを集計するシステムになっています。

調査項目は設問検討会議を通じて学生スタッフが決定しました。回答データの解析についても、学生スタッフがデータの分析、議論を行い、その結果に基づいて提言を作成しました。

## 1.5 回答者の属性と推移

学勢調査 2022 を含む全 9 回のこれまでの学勢調査への回答者数の推移と内訳を図 1 に示します。前回の実施に比べ、回答者数が減少しました。内訳で見ると、学士課程と大学院修士課程の回答者数が減少し、大学院博士後期課程の回答者数が増加したことが分かりました。回答者 2671 人の男女比率については、男性 2091 人、78%、女性 484 人、18%、回答しない 57 人、2%、非回答 39 人、1%<sup>1</sup>と男性が多数を占めています。この結果は本学における学生の男女比率<sup>2</sup>(男性 8823 人、83%、女性 1825 人、17%)に比べ、男性比率が高いです。

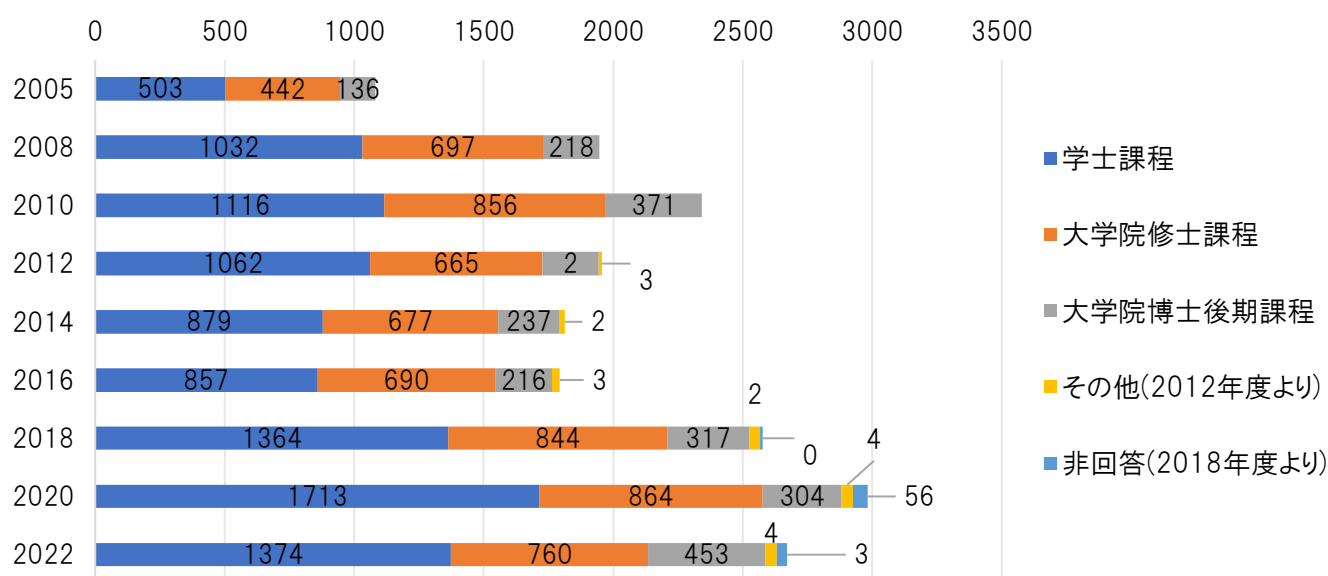


図 1 学勢調査回答者数の推移

## 1.6 全体会議の記録

### ● 設問検討会議

計 11 回にわたり調査項目の検討を実施し、学勢調査 2020 からの不必要調査項目の削除、新たに追加する調査項目の選定を行いました。全て Zoom を用いてオンラインで行いました。学勢調査 2022 設問検討会議の日時・議題は以下の通りです。

- 第 0 回 2021 年 4 月 14 日 (水) 学生スタッフ及び教職員 WG の顔合わせ、データ配布と取り扱い方の説明
- 第 1 回 2021 年 5 月 17 日 (月) 活動の日程検討
- 第 2 回 2021 年 7 月 5 日 (月) 項目検討—役割分担
- 第 3 回 2021 年 9 月 22 日 (水) 項目検討—意見共有

<sup>1</sup> 学勢調査 2022 提言書「6.調査資料集」図 6-1.5 性別 を参照

<sup>2</sup> 東工大データブック 2022-2023(<https://www.titech.ac.jp/public-relations/pdf/databook2022-23-ja.pdf>) 最終閲覧日: 2023 年 3 月 17 日 8:32)



## 1 学勢調査概要

第4回	2021年10月21日(木)	項目検討—意見共有
第5回	2021年11月17日(水)	項目検討—意見共有
第6回	2021年12月22日(水)	項目検討—意見共有
第7回	2022年1月20日(木)	項目検討—全体検討
第8回	2022年2月14日(月)	項目検討—全体検討
第9回	2022年3月7日(月)	項目検討—全体検討
第10回	2022年4月13日(水)	学勢調査2022 広報活動検討

### ● 提言書作成会議

計7回にわたり、提言書作成に関しての議論等を行いました。第1回から第3回まではZoomを用いてオンラインで行いました。第4回から第7回はZoomを用いたオンラインと対面のハイブリッド形式により行いました。学勢調査2022 提言書作成会議の日時・議題は以下の通りです。

第1回	2022年9月15日(木)	学生スタッフ及び教職員WGの顔合わせ、データ配布と取り扱い方の説明
第2回	2022年10月7日(金)	自由記述解析班分け
第3回	2022年10月26日(水)	自由記述解析のグループワーク
第4回	2022年11月7日(月)	数値データ解析検討・分担
第5回	2022年11月15日(火)	数値データ解析共有
第6回	2022年12月7日(水)	数値データ解析共有、担当提言分担
第7回	2022年12月23日(金)	提言案の検討・選別

## 1.7 キャンパスミーティング

キャンパスミーティングとは、調査結果ならびにそれに基づいて作成された提言案について、本学の事務局各部署へ質問書を提出し、話し合いを通じて学勢調査スタッフと各部署教職員の方々との意見交換を行うものです。キャンパスミーティングを行うことにより、大学と学生の間での情報不足による誤解を避け、双方の実態や価値観を照らし合わせることで、相互理解を促進させ、より現実的で実効性のある提言案を作成することができます。今回、ご協力いただいた事務局担当ならびに教職員の方は以下の通りです。ご多用の中、キャンパスミーティングにご協力いただきまして誠にありがとうございました。

—理学院	…… キャリア支援について
—生命理工学院	…… キャリア支援・研究室配属について
—リベラルアーツ研究教育院	…… 文系教養科目について
—保健管理センター	…… 休養室・相談室について
—学生支援センター学生相談部門	…… 休養室・相談室について
—学生支援センター未来人材育成部門	…… キャリア支援について
—学術国際情報センター	…… ソフトウェア包括ライセンスについて
—企画本部ダイバーシティ推進室	…… 休養室について
—総務部人事課労務室	…… 勤怠管理について

- 総務部安全企画課
- 学務部教務課
- 学務部学生支援課
- 学務部留学生交流課
- 東京工業大学生生活協同組合

- …… 防災訓練・ゴミ箱の設置について
- …… 本学の教育とサービスについて
- …… 学生生活全般について
- …… 留学手続き・留学支援(イベント・奨学金等)
- …… 食堂の利用について

## 1.8 公表と報告

本提言書は、学長への奉呈後、インターネットの学勢調査専用サイトおよび冊子で公表されます。冊子は大岡山とすずかけ台の両キャンパス附属図書館で閲覧できます。

※学勢調査専用サイト: <http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/>

学勢調査 2022 データを利用する際には、学内外に関わらず、事前に学生支援センター未来人材育成部門 [gakuseichousa1\[at\]jim.titech.ac.jp](mailto:gakuseichousa1[at]jim.titech.ac.jp) へご連絡ください。

# 2 学修関連

2 学修

提言 2-1

T2SCHOLA の機能改善

## 学生の意見

- 課題一覧(履修している全科目のものをまとめ、未提出の物を一覧化したもの)をホーム画面に置いて欲しい。(同様意見 160 件)
- 自分の履修している授業の一週間ごとのスケジュールを、休講情報や祝日等を反映させたものをホーム画面に置いて欲しい。また、スケジュールを iCalendar 形式でエクスポートできるようにして欲しい。(同様意見 133 件)
- PC 版のマイコースの一覧を、授業番号でなく科目名で表記して欲しい。(同様意見 56 件)

その他、複数挙がった意見については提言下部に記載。

## 現状分析

T2SCHOLA は 2022 年度から本格運用が始まった東工大の新しい学修管理システムです。運用しながら改良を重ねていくというコンセプトで現在使われているため、図 2-1.1 にあるように、T2SCHOLA の使い勝手についての満足度はまだ高いとは言えません。したがって、T2SCHOLA の具体的な機能改善を学生からの意見に基づいて行っていくこと、また、ユーザーが気軽に改善要望やバグの報告ができるような環境を整えていくことは、T2SCHOLA の利便性を高めていくにあたって重要であると言えます。

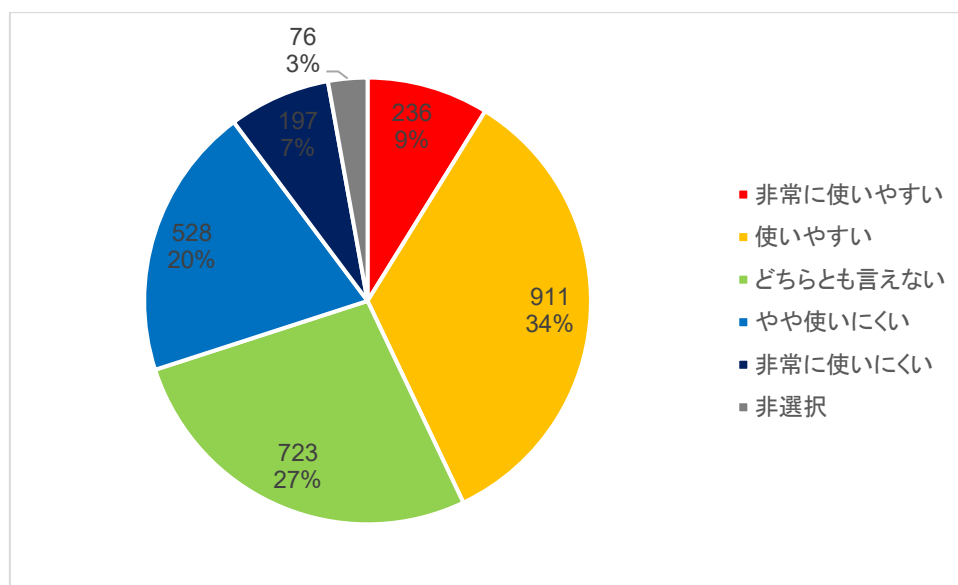


図 2-1.1 「No.19: T2SCHOLA の使い勝手を教えてください。」への回答割合

学勢調査 2022 では、自由記述形式で T2SCHOLA をはじめとしたオンライン学修システムについての意見、要望を募りました。そのうち、回答数が非常に多かった 3 つについて、上の「学生の意見」にまとめました。最も多かった意見は未提出の課題一覧を見ることができるようにしてほしいという意見、2 番目に多かったのは、1 週間のスケジュールを表示して欲しいという意見でした。これらは 2 つとも、T2SCHOLA の前に用いられていた学修システムである OCW-i に実装されていた機能です。図 2-1.2 は OCW-i のトップページの図ですが、休講情報や講義室変更を含めた、その週のスケジュールが表示され、同じページの下部には未提出の課題とその締め切り日が一覧となって表示されていました。一方、現在の T2SCHOLA には、カレンダー機能が存在していますが、図 2-1.3 にあるように、各日締め切りの課題が表示されるものになっており、授業日程を把握することはできません。授業を受ける学生にとっては、授業の日程と課題の締め切りは最も重要な情報であり、T2SCHOLA のアクセスしやすい場所に、視認性の高い形で配置することが強く求められます。

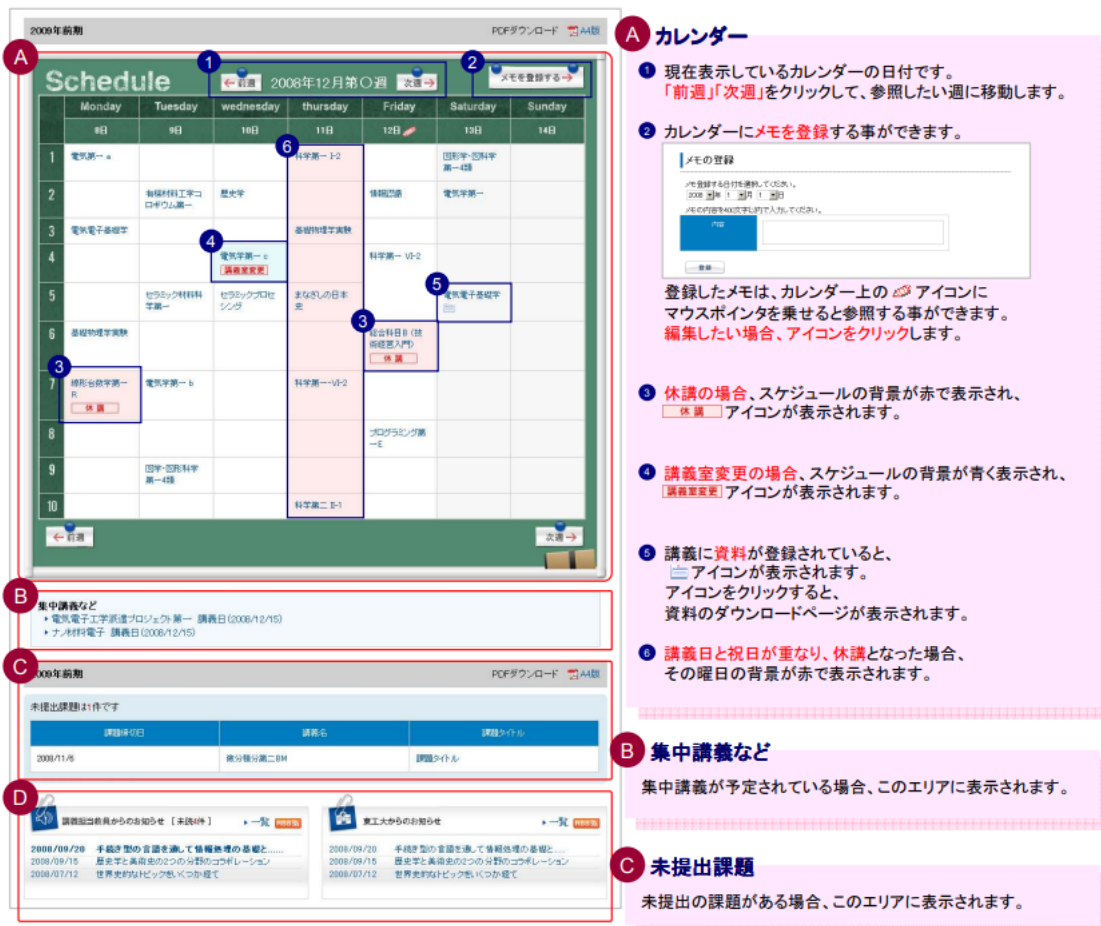


図 2-1.2 OCW-i のトップページ<sup>1</sup>。講義室情報・休講情報を含むその週のスケジュール、未提出の課題一覧などが表示されている。

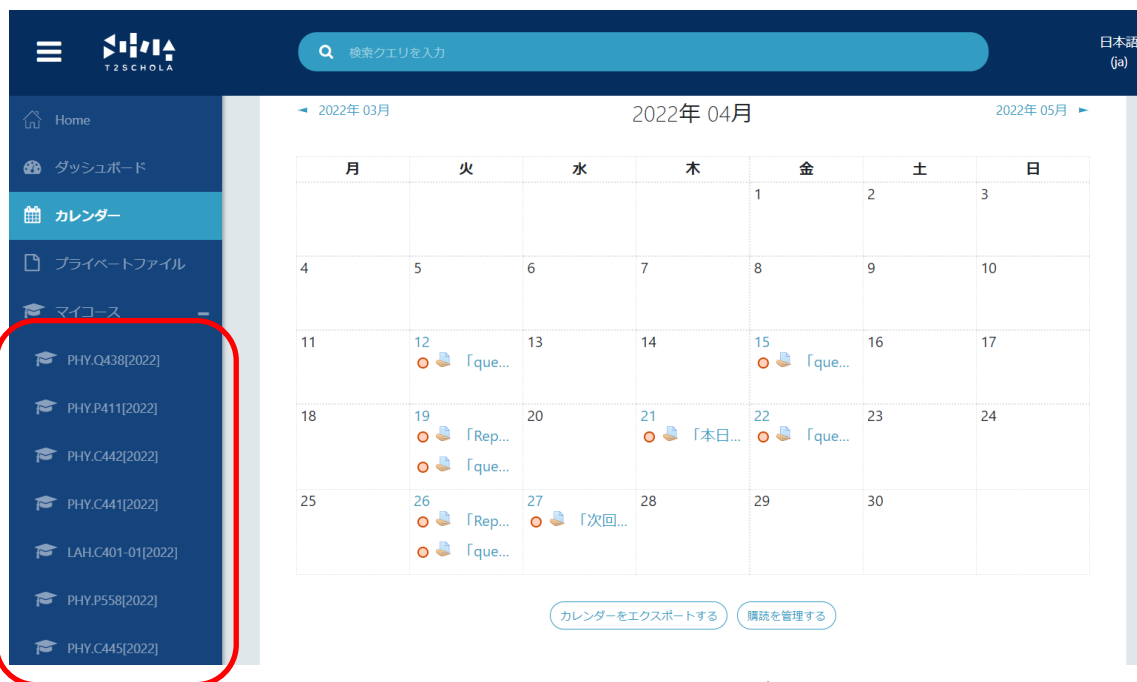


図 2-1.3 現在の T2SCHOLA のカレンダー機能

<sup>1</sup> TOKYO TECH OCW/OCW-i 学生向け 操作説明書: [https://manage.ocw.titech.ac.jp/pdf/manual\\_ocwi.pdf](https://manage.ocw.titech.ac.jp/pdf/manual_ocwi.pdf) (最終閲覧 2023/2/13 16:30)

## 2 学修関連

もう一つ、多く挙げられた意見として、PC のブラウザで T2SCHOLA を利用する場合に、図 2-1.3 で赤く囲った箇所のようにマイコースが一覧の形で表示され、そこをクリックすることでそのコースのページに飛ぶことができるのですが、この表示を科目コードではなく、科目名にしてほしい。というものがありません。東工大の科目コードは、分野や難易度に応じて系統的に付けられてはいますが、内容が類似した授業や、連続で履修することが推奨される授業などでは科目コードも似ており、視認性が低くなってしまいます。また、学生の大多数は自分の受講する科目は科目名で覚えているため、科目コードでの表示では必要な情報にすぐにたどり着くことができなくなってしまう可能性があります。

以上 3 つの意見をはじめ、T2SCHOLA の機能については様々な意見が寄せられました(次項「要望まとめ」参照)。その中には、本来であれば直接 T2SCHOLA の運営部門に伝えれば解決できると思われる小さな機能改善を望むものもあり、T2SCHOLA に対する要望を直接運営に伝えられる機会が少ないことが推察されます。現在、Web 版の T2SCHOLA ではページ最下部に「Help(教員/Faculty)」と「Help(学生/Student)」というボタンがあり、クリックすると図 2-1.4 のような Google Form を通じて T2SCHOLA に関する問い合わせができるようになっています。しかしながら、図 2-1.4 の注意事項にあるように、このフォームは操作方法についての質問を受け付ける目的で設置されたもので、ユーザーの要望を吸い上げることを目的として作られたものではありません。したがって、上記の「要望を運営に伝えられる機会が少ない」という問題の解決のためには、このフォームの受付範囲を広げるか、別の窓口を設置する必要があると考えられます。

学生用 T2SCHOLA 問い合わせフォーム /  
Inquiry about T2SCHOLA for Students

T2SCHOLA の操作に関する質問用の問い合わせフォームです。土日祝日を除く 2 営業日を  
目安に、担当より返信致します。 / You can send a question "how to use T2SCHOLA" on  
this form. Staffs of T2SCHOLA will reply within 2 business days.

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。詳細

\*必須

はじめに下記注意事項をご確認下さい / Please read carefully the following notes

- ・お問い合わせの前に、まず「FAQ」をご参照ください。
- ・このフォームでは、操作に関するご質問のみお受けします。
- ・履修や課題の内容・締切など、講義に関する質問は講義担当の先生へ直接お問い合わせ下さい。
- ・回答については、システムの保守を担当する外部業者（株式会社イーラーニングイーラーニングサポート担当）から返信することがあります。
- ・こちらでお受けした質問内容とその回答は、匿名化した形で後日FAQに掲載させて頂く場合がございますのでご了承下さい。

- Please refer [FAQs](#) before contacting us.  
- You can send a question "how to use T2SCHOLA" on this form.  
- If you want to get information about a course (e.g. deadline of a homework, your course status, and so on), please ask it to the course's instructor.  
- To offer an appropriate answer, a contractor (e-learning inc. support team) may reply to you.  
- The questions and answers through this form will be shared on the FAQ page with data anonymization.

上記注意事項の内容確認 \*

内容を確認しました。 / I confirm the notes.

姓 / Last Name \*

回答を入力

図 2-1.4 T2SCHOLA 問い合わせフォーム<sup>1</sup>

<sup>1</sup> T2SCHOLA のページ最下部「Help(学生/Student)」より遷移(最終閲覧 2023/2/14 10:20)

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

- Q1. OCW-iにあったような、未提出課題の一覧と、履修している講義の(休講情報も含めた)一週間の時間割を、PC版、スマホ・タブレット等向けアプリ版両方のトップに配置することは可能ですか？
- A1. T2SCHOLA は Moodle をベースにしたソフトウェアです。課題一覧や時間割は Moodle の標準機能にはないものなのですぐに作ることはできません。実装にあたっては外部委託になり、コストの問題も発生してくるものと思われます。
- Q2. 要望まとめに記したものを筆頭に、T2SCHOLA についての要望・意見は非常に多岐にわたっており、バグの報告等もありました。今後、T2SCHOLA の運用が広がるにつれ、出てくる意見を迅速に収集するため、現在ある「東工大 IT サービスデスク」とは別に、T2SCHOLA に特化した相談・報告窓口を T2SCHOLA 上に設けることは可能ですか？
- A2. ホーム画面下部にお問い合わせ先が教員・学生に分けて設置してあるので、こちらをお使いください。

## 提言

以上を踏まえて、T2SCHOLA の機能改善について次のように提言します。

1. 課題の一覧、週ごとの講義情報が見られるカレンダーをトップページに配置することを、T2SCHOLA で実施する、もしくは大学統合後の学修システム導入時に検討する
2. PC 版 T2SCHOLA でのサイドメニューの表記並びに要望まとめにある細かな要望について機能改善を行う
3. T2SCHOLA ホーム画面下部にある問い合わせに、操作質問だけでなく「T2SCHOLA への要望やバグ報告も受け付ける」旨を明記する

## 要望まとめ

「No.89: 東工大ポータル(T2SCHOLA,教務 Web,東工大メールシステム,ポートフォリオなど)や OCW について何か意見がある場合は記入してください」という質問への回答の内、T2SCHOLA への要望と判断でき、複数意見が挙げられたものについてまとめます。

- スマホ版の T2SCHOLA が見づらい。(同様意見 37 件)
  - うち約半数はスマホ版で自分の履修している授業をクォーターごとにソートできないことへの不満。
- ログインが手間。(同様意見 18 件)
- 課題のリマインド機能(新課題登録時・締め切りが迫ってきたときの通知)が欲しい。(同様意見 17 件)
- T2SCHOLA 上で更新された情報について、逐一メールで通知して欲しい。(同様意見 16 件)
- PC 版でクォーターにまたがる授業が片方のクォーターの欄でしか表示されない。例えば 1,2Q 開講の授業が 1Q の方にしか表示されないので両方に表示して欲しい。(同様意見 12 件)
- 授業中の小テストなどでも T2SCHOLA を使用するので、セッション切れを遅くしてほしい。(同様意見 11 件)
- 各授業のページで Zoom の URL を掲載して欲しい。(同様意見 5 件)
- 受けている授業の検索がしづらい。マイコースから検索するときは検索範囲をマイコースに限定して欲しい。(同様意見 5 件)
- 資料をダウンロードするとき、PDF を新規タブで開くように統一して欲しい。(同様意見 4 件)
- 課題提出完了の通知をオフにしたい。(同様意見 3 件)
- 資料をダウンロードするとき、日本語が文字化けする。(同様意見 3 件)
- 授業数が多いと画面のロードが非常に遅い。(同様意見 3 件)
- マイコースには過去の授業を表示しないで欲しい。(同様意見 2 件)
- 教員と T2SCHOLA 上でコミュニケーションが取れるようにして欲しい。(同様意見 2 件)

## 学生の意見

- 同じ科目でも教員によって評価基準に差がある。(同様意見 82 件)
- 各クォーターの授業学修アンケートの実効性が疑わしい。(同様意見 9 件)
- 学士課程の教養科目について、「成績の標準化に従っていない」と断言する教員がいる。(同様意見 3 件)
- 履修を期中に諦めた人も授業学修アンケートに回答させてほしい。(同様意見 3 件)

## 現状分析

これまでの学勢調査においても、特に学士課程の1年生から「同じ科目の授業なのに、教員によって成績評価が大きく異なってしまう、いわゆる『教授ガチャ』と揶揄される状況があるので改善して欲しい」という声が挙がっていました。それを受け、複数回にわたって改善へ向けた提言を行い、大学の対応として現在では、各実施委員会での成績に過度な偏りがないかのチェックの実施や、平均点の標準化など、評価の統一化に向けた取り組みが行われています。しかしながら、今回の学勢調査 2022 においても教員による差があるという意見が多数寄せられており、また、公然と標準化に従っていないと言っている教員がいるという声も聞かれています。また、図 2-2.1 にあるように、現在の成績評価制度について未だ 8.7%が不満と回答しており、回答の全体に比べ、特に学士課程の学生は成績評価制度への満足度が低いという傾向が見られます。学士課程の学生にとって成績は系所属や研究室配属にも大きくかわり、非常に重要な点である事からも、成績評価制度の改善へ向けた継続的な取り組みが必要であることは明らかです。

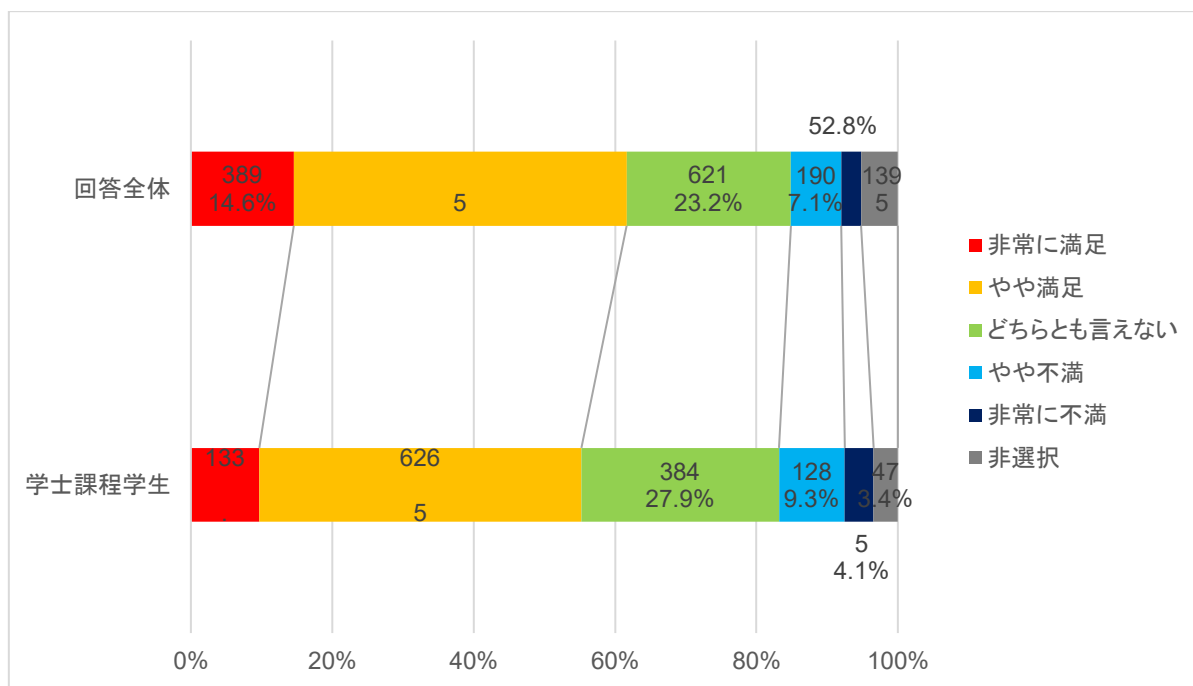


図 2-2.1 「No.41:成績評価制度(GPA や CAP 制、成績開示方法など)について、満足度を教えてください。」への回答割合

学勢調査 2020 では、成績格差の是正のため、成績分布の公開と授業学修アンケート結果の公開を提言しました。成績分布の公開については「…相対的な物差しで履修を評価してしまうことや、安易な授業科目選択となることを危惧しています。」ということで難しいという判断でしたが、「各クォーターに実施される授業学修アンケートの結果の公開については検討する」との回答を頂いております<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> 学勢調査 2020 大学の対応: [http://www.sienp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020\\_gakusei\\_follow.pdf](http://www.sienp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_follow.pdf) (最終閲覧日 2023/3/26 18:00)

授業学修アンケートは教員への授業のフィードバックという形で現在扱われていますが、どのように活用されているのかが学生からは見えないため、実効性について疑いがあるという声も学生から挙がっています。授業学修アンケートは、学生側から教員側へ意見を寄せることのできる数少ないチャンネルの一つであり、学生も一体となって東工大をつくるという「Team 東工大」の理念に照らしても、最大限活用していくべき、非常に重要な取り組みです。その透明性を保ち、アンケートに協力してくれている学生への対応としても、結果を公開することは必須であり、迅速な対応が求められます。

授業学修アンケートの結果公開については 2022 年度 3Q 分から、T2SCHOLA 上で確認することができるようになっていました。「T2SCHOLA 学生用操作ガイド」

([https://docs.google.com/document/d/1e8VxvPhrY9t6ilyCquz\\_F9qHleq\\_jj0Qt4FNMXq64nY/view](https://docs.google.com/document/d/1e8VxvPhrY9t6ilyCquz_F9qHleq_jj0Qt4FNMXq64nY/view)) によると、アンケートの結果確認は

- 担当教員がアンケート集計結果の公開を許可したコースのみ
- その科目のアンケートに回答した学生のみ閲覧可能
- 学生向けの集計結果公開期間中のみ

という条件付きとのことです。また、公開内容については、

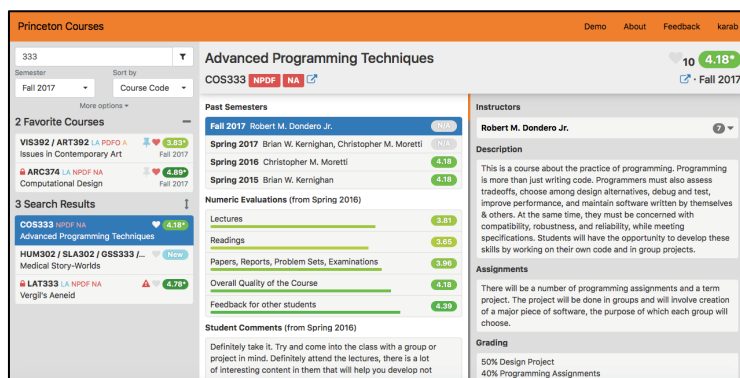
- 科目の情報(科目名、教員名、履修者数、回答者数、科目の回答率)
  - Q11 難易度および Q15 授業外学修時間の設問ごとの回答率を横棒グラフで表示
  - Q12 内容理解、Q13 興味・関心、Q14 目標達成、Q16 成績予想、Q17 満足度の平均点をレーダーチャートで表示
- となっており、授業タイプ別の設問や、自由記述欄の回答結果は公開されないそうです。

これらの点について、授業間の不平等を解消し、成績評価等の透明性を確保するという観点から考えると、現在実施されている公開方法は**不適切な条件が課されており、十分ではない**と考えられます。まず、アンケート結果の公表について、担当教員の許可が必須であることはアンケートの透明性を確保するという観点から、あってはならないことです。アンケートに回答する学生に対して、要約統計量や分布を公開することは事前に許可を取るべき事柄ですが、公開の可否を教員が判断できるようでは、学生からの評価が芳しくなかったから公開を許可しない教員が出現し、結果、アンケートの意義が危ぶまれることになりかねません。また、結果の公開範囲・時期についても、アンケートの結果を用いて科目間の格差を解消するという観点からは適切であるとは言い難いです。その科目の履修を検討する学生がアクセスできるようにすることによってはじめて、このアンケート結果が成績格差・理不尽な評価への抑止力として働くようになると考えられるため、公開範囲・時期を拡大することが必要です。公開内容についても、自分が履修した科目の回答分布や平均点が見られるだけでは、それが高いのか低いのか、判断することが難しいです。したがって、比較対象として他の全授業の分布・平均点についての情報、可能ならば履修した授業と近い授業(同じ系の授業・同じ分野の授業など)のアンケート結果の平均も同時に閲覧できるようにする必要があります。

授業学修アンケートの回答可能対象者についても学生から複数改善を求める意見が挙がっています。現在の授業学修アンケートは、各授業の履修登録者が T2SCHOLA を通じて回答できる形式をとっています。しかしながら、授業に対するフィードバックを得ることが目的のアンケートとしては、一回でも授業を受けたことのある学生すべてが回答を可能にすることが求められます。特に、仮登録時点では教員が履修を取り消すことができるシステムがある以上、特にその授業に対して強い意見を持っているが、履修を途中で諦めたためアンケートに回答できないといった状況が発生することは許されません。授業学修アンケートの回答者範囲の拡大が求められます。

他大学の事例と比較すると、国内外・国公立私立問わず、授業を学生が評価するアンケートの実施とその結果の公開は世界標準になってきていることが分かります。例として、アメリカにある Princeton 大学の Class evaluation のページを図 2-2.2 に示します。海外、特にアメリカでは、学生からの評価が教員の給与や待遇にも影響する制度になっているため、授業の評価や学生からのコメントは非常に重要であり、それらが授業ごとに詳細かつ明瞭に公開されています。学生は専用のサイトにログインすることでこれらの情報を見ることができます。



図 2-2.2 Princeton 大学の講義システム<sup>1</sup>

海外の大学ほど詳細な情報を公開しているかまでは分かりませんが、日本国内の大学についても、学生による授業評価アンケートの結果公開は進んできています。例としては、私立では早稲田大学の学生授業アンケート<sup>2</sup>、青山学院大学の授業改善のための学生アンケート<sup>3</sup>、国公立大学では宮城大学<sup>4</sup>や広島大学<sup>5</sup>などのホームページで、授業評価アンケートや授業改善アンケートの結果が公開されています。特に、青山学院大学の公開ページ(図 2-2.3)では、全体の集計結果を公開(図 2-2.4)していますが、それだけでなく、学生・教職員向けに科目ごとの結果も公表しているということです。これらの結果は過去にさかのぼって閲覧することもでき、公開範囲も現在の本学で授業学修アンケート結果よりも広いものとなっています。

図 2-2.3 青山学院大学の授業改善のための学生アンケートのページ<sup>3</sup>

<sup>1</sup> Princeton Courses: <https://www.princetoncourses.com/> (最終閲覧 2023/2/13 16:00)

<sup>2</sup> 早稲田大学 大学総合研究センター 教育方法研究開発部門 学生授業アンケート: <https://www.waseda.jp/inst/ches/ctl/faculty/evaluation/> (最終閲覧 2023/2/13 16:00)

<sup>3</sup> 青山学院大学 授業改善のための学生アンケート: <https://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html> (最終閲覧 2023/2/13 16:00)

<sup>4</sup> 宮城大学 授業評価アンケート: <https://www.myu.ac.jp/academics/announcement/questionnaire/> (最終閲覧 2023/2/13 16:00)

<sup>5</sup> 広島大学 学生による授業評価: [https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/HU\\_self\\_evaluation/self\\_evaluation](https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/HU_self_evaluation/self_evaluation) (最終閲覧 2023/2/13 16:00)

## 文学部 語学科目トータル

## &lt;アンケート結果&gt;

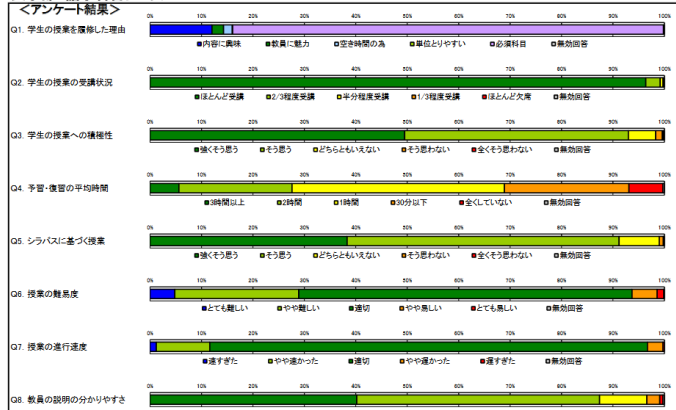


図 2-2.4 図 2-2.3 で一般に公開されているアンケート結果の例(2021 年度前期 文学部 語学科目)<sup>3</sup>

また、本学では授業学修アンケートの回答率の低さも問題となっています。現在公開されている結果を閲覧すると、科目ごとにばらつきはあるものの、回答率が履修者の 20%程度という授業も存在しているということです。この回答率の低迷の一因は、学生からの意見にあるように、授業学修アンケートの実効性自体が疑われているという点にあると考えられます。アンケートの結果がどのように教育改善に役立てられているのか学生から見づらく、回答に対するモチベーションが損なわれているものと思われます。したがって、図 2-2.5 にあるような教育改善のサイクルの構築を目指し、授業学修アンケートの透明性を高めていくことは重要です。

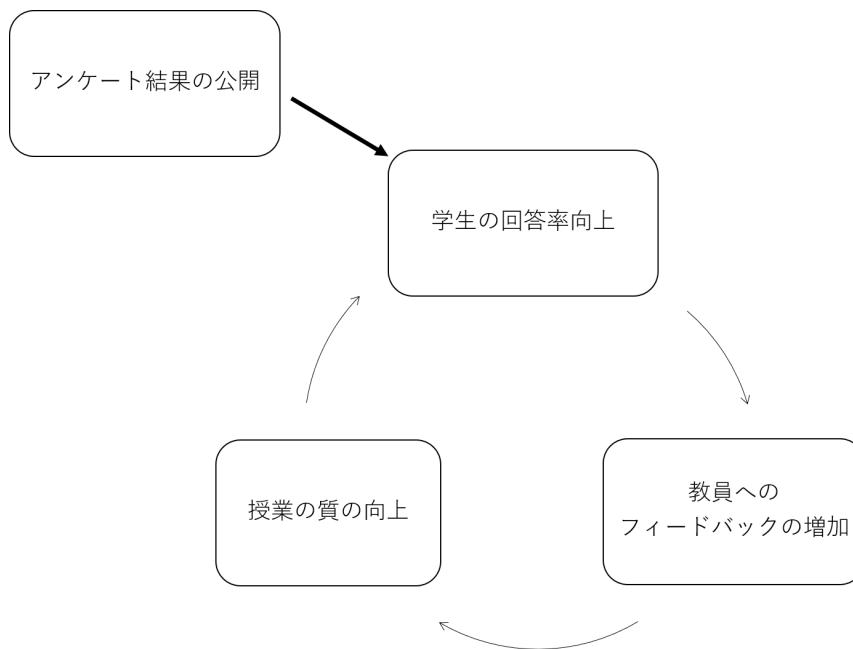


図 2-2.5 授業学修アンケート結果の公開により目指す教育改善の好循環

## 2 学修関連

以上を踏まえて、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 学勢調査 2020 での「提言 2-4 授業学修アンケートの結果を公開して欲しい」という提言<sup>1</sup>について、「…公開内容及び公開方法も含め、慎重に検討して参ります。」という回答を頂きました<sup>2</sup>が、その後どのように進みましたか？

A1. 2022 年度の第 3 クォーターから、教員が承認した場合に限り、T2SCHOLA 上でアンケート結果の抜粋を履修学生に対して公開しています。

Q2. 授業学修アンケートの結果を、その授業を履修していない学生も閲覧することができるようにすることは可能ですか？

A2. この場ですぐにお答えすることはできません。

Q3. 授業学修アンケートの結果を、教員の判断の有無にかかわらず、全授業について公開することは可能ですか？

A3. この場ですぐにお答えすることはできません。

Q4. 授業学修アンケートの結果を公開する際、「その授業と似た授業の結果」、「同じ系の授業の結果」、「同じ学院の授業の結果」、「全学の授業の結果」など、比較対象となるデータと共に公開していただくことは可能ですか？

A4. この場ですぐにお答えすることはできません。

Q5. 授業学修アンケートを、途中で履修を諦めた学生も回答することができるようにする(例えば仮登録した時点の名簿をもとに回答可能にする)ことは可能ですか？

A5. 現在、履修者のみアクセスできる T2SCHOLA 上からの回答になっているため、システム上難しいと思います。

### 提言

以上を踏まえて、授業学修アンケートについて、以下のような提言をいたします。

1. 現在、授業学修アンケート結果の公開にかかっている制限(教員の許可が必須であること、履修者のみが閲覧可能であること、一定の期間限定の公開である事)を撤廃する。
2. 授業学修アンケート結果の公開時、類似科目や他のクラスの結果の平均などを併記する。
3. 履修完了者だけでなく、何らかの理由で履修をあきらめた学生もアンケートに回答できるようにする。

<sup>1</sup> 学勢調査 2020 提言書: [http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020\\_gakusei\\_teigensyo.pdf](http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_teigensyo.pdf) (最終閲覧 2023/3/26 19:00)

<sup>2</sup> 学勢調査 2020 大学の対応: [http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020\\_gakusei\\_follow.pdf](http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_follow.pdf) (最終閲覧 日 2023/3/26 18:00)

## 学生の意見

No.103 「ほしいと思う制度、サービス、施設などがあれば教えてください」

- 教育工学の改善(同様意見 2 件)

No.91 「教員・職員に関して何か意見があれば記入してください」

- 本講義内で極めて高いハードルを課し、単位を取れる人を減らしている。

## 現状分析

本学には教職課程が設置されていますが、教員の人手不足が問題視されている今、本学出身の教員は日本の教育に大きく貢献していくことが期待されます。一方で教員免許状の取得者は、中等学校と高等学校の一種免許と専修免許の取得者を合わせても毎年 10 数名しかおらず、そのうち実際の業務に就く者は数人のみとなっています。人数が非常に少ない一つの理由としては、東京工業大学の特性上、教員を志す学生がそもそも少ないということが考えられます。しかし、研究者を目指す学生たちの中では、実際の教員への就職の有無に関わらず、教員免許を取得しておきたいという要望は一定数存在しており、また教員になることを選択肢の一つとして持っている学生も存在しています。本学で教職課程を修了するためには、学生の専門の傍らで、いくつかの高いハードルを乗り越える必要があります。その一つに、必修科目である 200 番台の教育工学の単位取得が挙げられます。

学勢調査 2022 にて、教職科目の一つである 200 番台の教育工学について強い改善要求が寄せられています。まず一点目に、本科目を履修するための前提条件(100 番台のいくつかの教職科目の履修)が課され、対象となっている約 12 科目取得したい教科によって単位数は異なっている)の単位が取れていない場合、前提試験に合格しなければなりません。例年、その前提試験の合格者は一名程度しかいません。また二点目に、講義の 4 回目に中間試験が課され、この試験に合格しないと教員のほうから無断で履修登録が取り消される、ということが起こっています。この試験に合格すれば単位が取れないということはほとんどありませんが、この中間試験までで履修を諦める人が半分ほどいます。三点目に、本講義内で使用しているゲーミング教材のアクセシビリティが非常に低く、出題される問題に正解しないとスライドの次のページを見ることができないなどが報告されています。これらに対して履修者は、教育工学の授業アンケートに何度も記載を行っていますが、授業の改善は全く見られず、現状維持が続いています。

本件に関して、本提言の著者は教職課程履修者に対して独自のヒアリングを行いました。その結果をいくつか報告いたします。まず前述の一点目に関して、本年度入学した 22B 生は、新型コロナウイルスに罹患または濃厚接触者に認定されたために前提条件となっている講義に出席できず、その講義の単位が取得できなかった人が何名か存在し、その人たちは漏れなく前提試験の対象者となっています。

また教育工学は、二年生以降に取得しなければならない教職必修科目の履修前提条件となっていることが多いため、この科目の単位を取得することができずに教職課程を挫折する人が多く存在しています。教職課程を学士 4 年生で取得するためには、2 年生の一学期でこの科目の単位を取得していなければなりません。そして挫折した多くの人たちは授業アンケートに意見を寄せることもかなわないため、教員側がこのような現状を正しく把握しているとはいえません。

以上を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを行い、次のような回答をいただきました。

Q1. 大学側は教育工学に関わる改善要求が出されていることを把握していますか？

A1. 教務課としては把握していません。

Q2. 講義を行う先生に対して監査のようなものは存在していますか？

A2. 講義は各担当者に一任しているため、監査のようなものは特に存在していません。

Q3. 教職課程を修了する学生が少ないことを大学は問題視しているのか、今まで議論になったことはありますか。

## 2 学修関連

A3. 教務課としては、東京工業大学の学生たちは理系の学業や研究などに従事するために本学を志望していると考えているため、それによって教職課程を習得したい学生の数が非常に少ないと考えていました。議論をしたことがありますかという質問に関して、以前には教職課程の設置の是非を検討したことはありますが、教務課としては東京工業大学に進学して教職課程を専攻するという非常に少ないニーズに応えるために教職課程を設置しているという認識です。

### 提言

1. 教育工学の前提試験及び中間試験の難易度調整
2. 中間試験不合格者に対する補講の実施や補助課題の配布
3. 授業アンケートの一般への公表(学内)、履修登録をした学生への授業アンケートの回答権の付与
  - 各先生方に講義内容が一任されているために、本講義のように学生に不利益が被っている他講義に関しても、授業アンケートを公開することで講義内容の改善の一助になると考えられる。もちろん最終的な判断を下すのは講義担当者であるが、学生の意見を積極的に取り入れるようにする。

## 学生の意見

学士課程の学生から以下の意見がありました。

- GPT だと、成績よりもどれだけ多くの授業を履修したかが重要になる。そのせいで授業をたくさんとることばかり優先されてしまい、好きな授業をとったり、一つの授業に時間をかけて学修することができない。(同様意見 20 件)
- 生命系は 3 年前期までの GPT なので 3 年前期に 40 単位取ることは普通であるほど詰め込んでいてしんどいのが伝わってきます。(同様意見 3 件)
- 合否科目や四大学連合の授業など単位数を圧迫はするものの GPT 的に不利になる授業がとれない。(同様意見 3 件)

## 現状分析

設問 No.41「成績評価制度(GPA や CAP 制、成績開示方法など)について、満足度を教えてください」において、学士課程の学生は修士課程・博士後期課程所属学生に比べて非常に不満・やや不満と答えた学生が多いことが分かりました(図 2-4.1)。

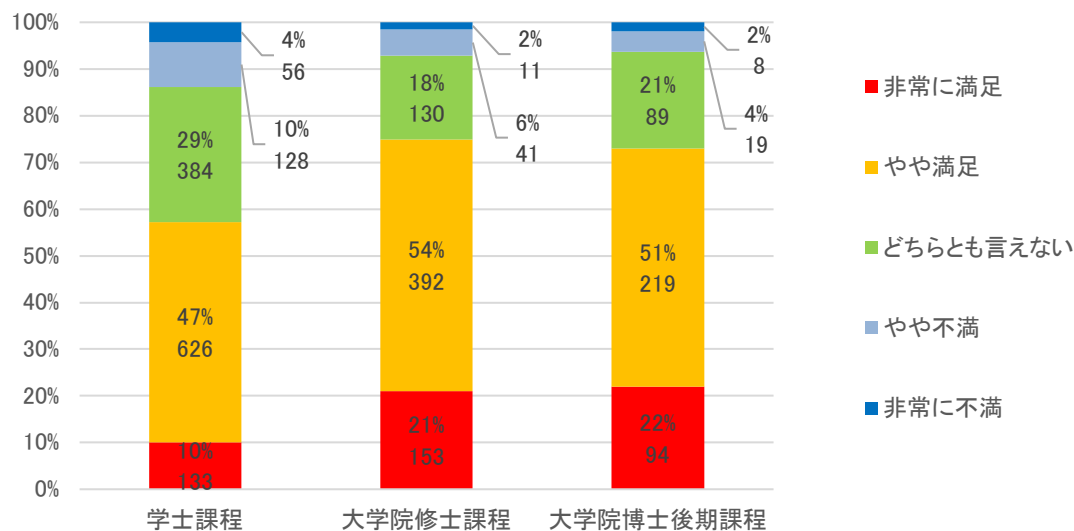


図 2-4.1 「No.41:成績評価制度(GPA や CAP 制、成績開示方法など)について、満足度を教えてください」についての学生の所属課程ごとの満足度の調査結果。

続く設問の、No.42「前問について、どのように改善されるべきか教えてください」における意見では、生命理工学院の学生から、研究室所属に関する改善案が、四大学連合を履修する学生から他大学で取得した単位の評価に関する意見が出ました。

1 つ目の生命理工学系の研究室所属についての現状は次の通りです。

生命理工学院では 3 年生前期までの GPT で研究室配属を決定するために、3 年前期に多くの単位を申告せざるを得ない状況ができています。前回の学勢調査 2020 では、生命理工学院所属学生から「4 年次からの研究室配属にしてほしい。」という意見がありました。今年度の学勢調査 2022 でも生命理工学系へは、3 年前期に多くの単位数を詰め込んでしまう現状について、意見が挙がりました。

申告単位数を増やし過ぎないための制度として、CAP 制度があります。CAP 制度について、学修案内では「1 単位は、授業時間外も含め 45 時間分の学修をもって付与されます(大学設置基準)。(中略)授業時間外に学修する時間を確保して内容をしっかり身につけるために、学年(4 月～3 月)を通して履修申告できる単位数の上限を 48 単位(※条件により、

## 2 学修関連

最大 56 単位)として制限しています。」とありますが、3 年前期だけで 40 単位近くを取る現状は、学修案内に記されている目的を達成しているとは言えません。<sup>1</sup>

この問題は、研究室配属決定に 3 年前期までの成績を用いることと、GPTを用いることの 2 つの組み合わせが原因です。改善案として、以下の 2 点が挙げられます。

- ・ GPT ではなく、GPA によって研究室配属を決定する。
- ・ 半期ごとに申告科目数の制限を設ける。(CAP 制度を半年ごとの設定にする。)

これらの改善案について、可能性があるかどうかをキャンパスミーティングで伺いました。

二つ目の他の大学で取得した単位の評価に関する意見についての現状は次の通りです。

東工大における、四大学連合など他大学で得た単位の扱いは次の通りです。申告した科目の単位数に応じて、CAP 制度の計算には取り入れられます。また、単位の認定を受けた場合、「合格」という扱いにして、学士特定課題研究申請要件と卒業要件の単位には取り入れられます。ただ、GPA と GPT の計算には取り入れません<sup>1</sup>。

四大学連合の他の大学の授業を履修希望する学生は多いかと思えます。東京外国語大学、東京医科歯科大学、一橋大学の成績評価については以下の表のようになります(表 2-4.1、表 2-4.2、表 2-4.3)。どの評価においても最低評価の F が不合格で、それより高い評価は合格です。

表 2-4.1 東京外国語大学の成績評価と GP との対応関係<sup>2</sup>

評点	評語	GP(最大:4)	評点	評語	GP(最大:4)
100-90	S	4	72-70	B-	2
89-87	A+	3.7	69-67	C+	1.7
86-83	A	3.3	66-63	C	1.3
82-80	A-	3	62-60	C-	1
79-77	B+	2.7	59-0	F(不合格)	0
76-73	B	2.3			

<sup>1</sup> 学士課程学修案内 <https://www.titech.ac.jp/student/students/life/resources> (最終閲覧 2023 年 3 月 27 日)

<sup>2</sup> 東京外国語大学 2022 年度履修案内 東京外国語大学学部における GPA 制度に関する規程 [http://www.tufs.ac.jp/common/is/soumu/kitei/08\\_50GPA\\_kitei.pdf](http://www.tufs.ac.jp/common/is/soumu/kitei/08_50GPA_kitei.pdf) (最終閲覧 2023 年 3 月 27 日)

表 2-4.2 東京医科歯科大学の成績評価と GP との対応関係<sup>1</sup>

評価	GP(最大:4)
A+	4
A	3.5
B	3
C	2
D	1
F(不合格)	0

表 2-4.3 一橋大学の成績評価と GP との対応関係<sup>2</sup>

評価	GP(最大 4.3)
A+	4.3
A	4
B	3
C	2
F(不合格)	0

CAP 制度は、学修する時間を確保して内容をしっかり身につけることを目的としているため、他の大学で履修する授業の単位も計算することは妥当だと考えられます。「合格」「不合格」を用いて単位認定をする科目は、本学にもありますが、その科目は GPA では計算せず、GPT では GP2.5(80 点相当)として計算します。

これらの現状を踏まえ、以上の 2 点について大学側にいくつかの質問をしました。

教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答を頂きました。

**Q1.** CAP 制度を半期ごと、またはクォーターごとに設定する際の問題点はありますか？

**A1.** 本学は学期制のため、CAP をクォーターごとに設定することはできません。

学期ごとの CAP については、逆に後期の予定のために前期に詰め込んだりという事ができなくなってしまう可能性があります。

**Q2.** 四大学連合など他大学で得た単位は CAP 制の申告単位数上限には計算されるものの、GPT や GPA には加算されません。このような制度にした理由はありますか？また、そのために GPT で研究室配属を決定する系においては他大学の授業を履修しにくい問題がありますが、四大学連合などの単位を GPT や GPA に加算することによるデメリットはありますか？

**A2.** 学修案内にも記載がありますが、学修時間確保のため、CAP には四大学連合の授業は含まれます。成績評価に関しては、本学の成績評価制度と異なるため、認定か認定でないかになってしまうため、GPT、GPA に加算することは難しいです。

二つ目は生命理工学院への質問とその結果です。

**Q1.** 生命理工学系の研究室所属において、GPT を採用しているのはなぜでしょうか？また、GPT ではなく、GPA を用いて研究室所属を決定する際のデメリットはありますか？

**A1.** 東工大が GPT を導入する以前は、GPA もしくは平均点を研究室所属に使用していました。その結果、GPA や平均点を上げるために自分の得意科目だけを履修する、専門と無関係でも点数の取りやすさだけを優先して科目を選択する、試験で高得点でなかった場合には履修取り消しを要求する、などの問題が生じていました。また、そうした基準で選択した科目を中心に卒業必要単位数ぎりぎりしか履修しない学生も多数いました。

そのような状況下で、苦手でも学修するべき科目を履修してほしい、より幅広い多くの科目を履修してほしい、また、同等の GPA でも取得単位数が大きく異なる場合に同列に評価して良いのか、という議論が起こり、全学の制度とし

<sup>1</sup> 国立大学法人東京医科歯科大学規則集 第 8 編第 2 章第 1 節「東京医科歯科大学学部教育における GPA 制度取り扱いに関する要項」<https://www.tmd.ac.jp/cmnrules/houki/8hen/2shou/1setsu/82105GPA.pdf> (最終閲覧 2023 年 3 月 27 日)

<sup>2</sup> 一橋大学 教務課からのお知らせ 学士課程 GPA 制度に関する要項(22/04/01)  
[https://www.hit-u.ac.jp/kyomu/info/pdf/20220401\\_bachelor\\_gpa\\_2.pdf](https://www.hit-u.ac.jp/kyomu/info/pdf/20220401_bachelor_gpa_2.pdf) (最終閲覧 2023 年 3 月 27 日)



## 2 学修関連

て GPT が導入されました。東工大は全体として GPT 使用を推奨しており、生命理工学系もその方針と上記の経緯を踏まえ、研究室所属の指標として GPT を用いています。

GPT を上げるために、ひたすら単位数を稼ごうとする学生が年々増加していることは認識しており、理想的な状態とは考えていません。一方、GPA を指標とした場合には上記の問題が再発することから、どちらにも一長一短があります。そもそも成績だけで決めてよいのか、ということも含め、ベストな方式を改めて検討する時期が来たと考えています。生命理工学系として、既に再検討に着手しています。

### 提言

一つ目の生命理工学院の研究室配属についての提言は次の通りです。CAP 制度を半期ごとに設定することは、柔軟な履修計画を妨げる可能性がある一方で、学修時間を十分にとるために可能な改善案だと考えます。学生の希望する履修計画の希望を叶えるために、年間の上限単位数の半分で設定するのではなく、年間の上限単位数の制限は維持したうえで、新たに半期ごとに上限単位数を設定することが良いと考えます。その上限は年間上限単位数の半分以上多いが、無理のない単位数に設定すべきと考えます。

あるいは、GPT ではなく、GPA を用いる決定方法か GPT のみでなく GPA も併用する決定方法を用いることでどちらかのみを用いた場合の問題を解決することは可能です。また、選択必修科目を設定するなど、ある程度の自由さを保ちつつも、幅広い科目を受講してもらうことは GPA を用いた場合でも可能だと考えられます。

1. CAP 制度を半期ごとに設定する。柔軟な履修計画を望む学生のことを考慮し、年間の申告単位上限は維持しつつも、新たに半期ごとに申告できる単位数に上限をつける。
2. 生命理工学院の研究室所属に用いる成績評価を GPA にする。または GPA と GPT を併用するなど、GPT のみで研究室所属を決定する仕組みを変更する。GPA のみを用いる場合は、選択必修科目を設定するなど、学修すべき科目を履修するような制度を新たに加える。

二つ目の他の大学(四大学連合の提携大学)で取得した単位の評価に関する意見について提言は次の通りです。CAP 制度は、学修時間を確保して内容をしっかり身につけることを目的としているため、他の大学で履修する授業の単位も計算することは妥当だと考えられます。成績評価制度は、本学の点数による評価とは異なりますが、評語と GP の対応表があり、段階評価を点数に反映することも可能だと考えます。段階評価の点数の反映が難しかったとしても、「合格」又は「不合格」による評価が可能であるため、GPT の算出に用いることは可能だと考えます。

3. 他の大学における授業科目の単位認定が認められた場合、GPT・GPA 制度の対象科目とする。段階評価は他の大学の成績評価と GP の対応に沿った評価を行う。「合格」または「不合格」で学修の評価が行われる場合は、GPT の算出に用いる。

## 数値データ分析

- 設問 48「本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。」、50「本学での博士後期課程進学を選択しないのはなぜですか」において、課程・学院ごとに進学を選択しない理由が異なることが分かりました。(図 2-5.1)。

## 現状分析

本学では、専門を生かした就職は各系・コースの方々が支援し、文系就職は学生支援センター未来人材育成部門がキャリア相談やキャリア関連のイベント運営を通じて支援しています。

設問 48「本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。」、50「本学での博士後期課程進学を選択しないのはなぜですか」において、本学での修士課程進学を選択しない理由と本学での博士後期課程進学を選択しない理由を調べた結果、それぞれ求めている情報について差があることが分かりました。修士課程進学を選択しない理由として、「研究に興味がない」や「今学んでいる分野を極めようと思わない」の割合が比較的高い一方で、博士後期課程進学を選択しない理由として、「その後の進路が不安」の割合が高いことが分かります(図 2-5.1)。

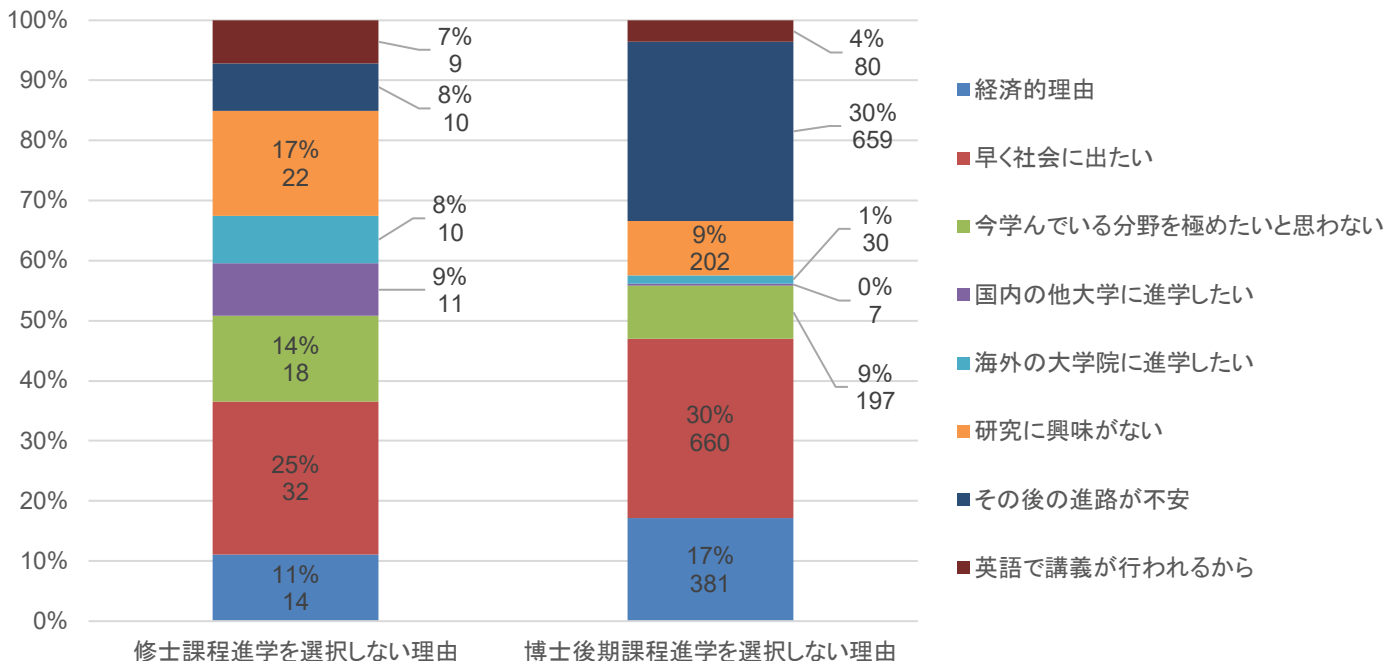


図 2-5.1 (左)「設問 48: 本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)」の回答数割合  
(右)「設問 50: 本学での博士後期課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)」の回答数割合

2022 年度から、学生支援センター未来人材育成部門開催のキャリアイベントのお知らせは、就職活動の有無にかかわらず、東工大生全員に送付されるようになりました。1 年あたり、約 10 種類ほどのメール告知があります。

その一方で、未来人材育成部門でのキャリア関連の支援は全学に向けた支援ですが、専門を生かした就職支援は各系・コースが行っています。各系・コースでの支援に関するお知らせは、その系に所属する全学生へ周知されているわけではありません。下の 2 つの図のように、学院ごとに「学士課程所属学生の修士課程進学を選択しない理由」、「修士課程所属学生での博士後期課程への進学を選択しない理由」も異なるため、専門を生かしたキャリア選択に関しては、各学院での支援が必要になります(図 2-5.2、図 2-5.3)。

## 2 学修関連

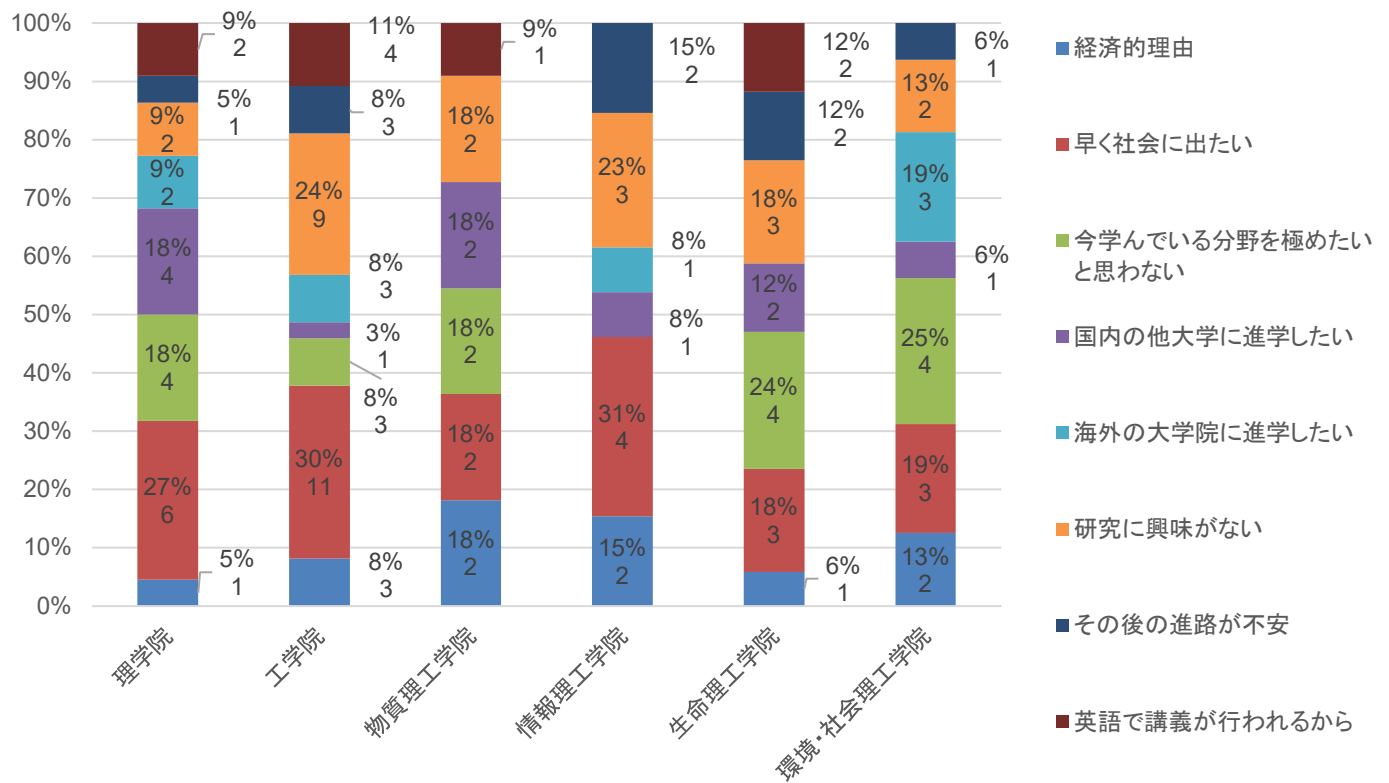


図 2-5.2 学院別学士課程所属学生の修士課程進学を選択しない理由

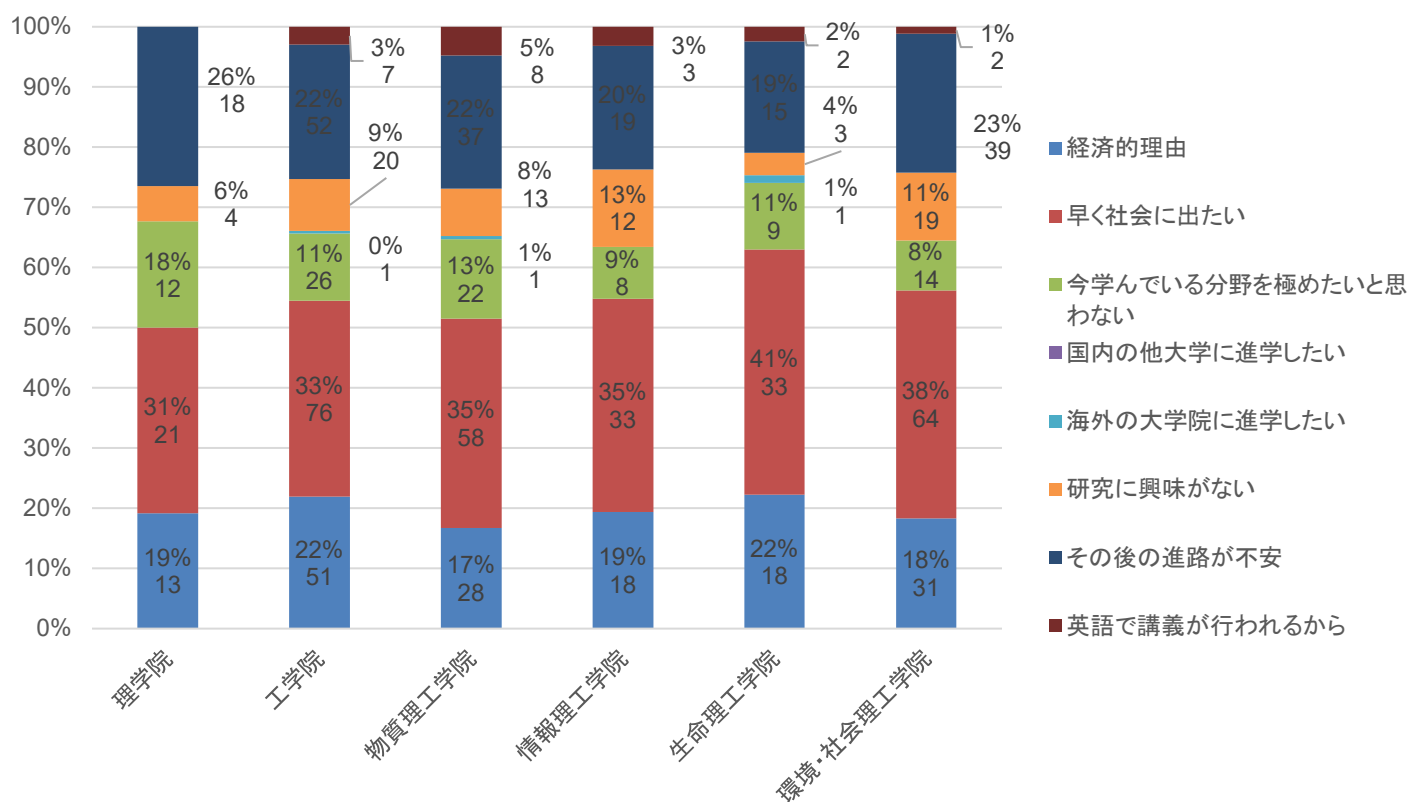


図 2-5.3 学院別修士課程所属学生での博士後期課程への進学を選択しない理由

系での就職活動の支援は、修士課程で就職をする学生が多いために、修士課程の学生が対象となりがちです。学士課程・博士後期課程の学生に対しても希望者には支援は行われていますが、学士低学年のように就職まで時間がある学年には支援が行われていません。

## 提言

未来人材育成部門開催のキャリアイベントのお知らせが全学生へ送付されるようになったことで、学士課程の学生もキャリア関連の情報を得やすくなったと考えられます。一方で、専門を生かした就職や起業に関しては各系・コースでの情報伝達が十分であるとは言えません。したがって、学生への情報伝達を促進するために、以下の提言をします。

1. 各学院・系・コース等で行われているキャリアイベントについて、その学院・系・コースに所属する学生全員が参加できるようにする
2. イベント関連の、お知らせを系・コースの全学生へメールで送付する

## 学生の意見

- 成績評価の基準が不明瞭である。(同様意見 20 件)
- シラバスに授業内容を詳しく書いてほしい/授業開始までに公開されない。(同様意見 124 件)

## 現状分析

「No.36: 専門科目(理工系教養科目を含む)について、履修をどのように決めていますか。(複数選択可)」の設問に対する回答結果では、「興味」(63%)のあとに「系コースの指導」(55%)「シラバス」(46%)と続き(図 2-6.1)、「No.37: 専門科目(理工系教養科目を含む)以外について、履修をどのように決めていますか。(複数選択可)」の設問に対する回答結果では、「興味」(69%)「シラバス」(36%)と続きます(図 2-6.2)。授業に「興味」があるのかを判断するのに、シラバスを確認することはよくあることです。回答結果を踏まえると、「シラバス」は学生の授業履修に大きな影響があるものといえます。

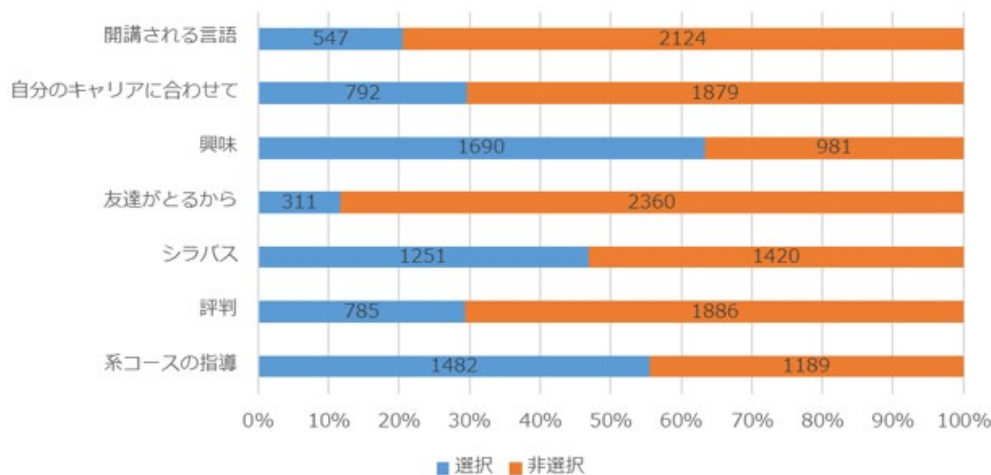


図 2-6.1「No.36: 専門科目(理工系教養科目を含む)について、履修をどのように決めていますか。(複数選択可)」の回答結果

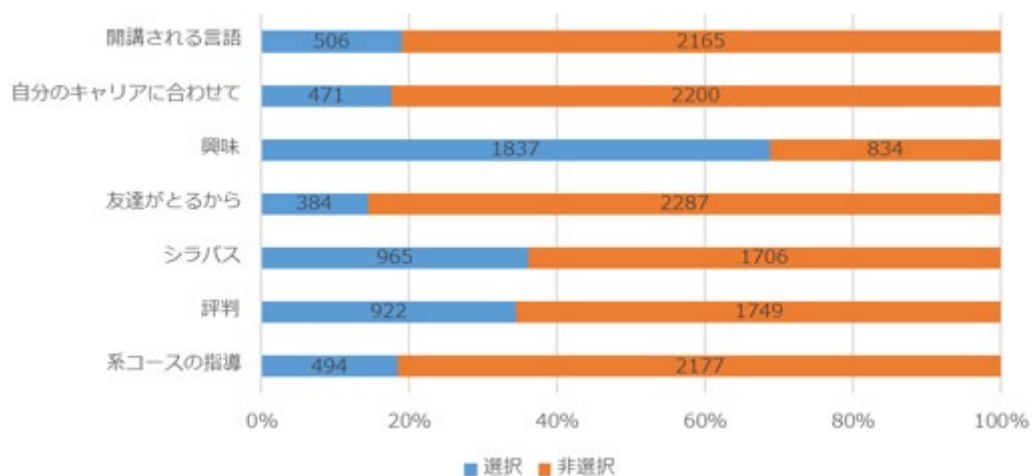


図 2-6.2: 「No.37: 専門科目(理工系教養科目を含む)以外について、履修をどのように決めていますか。(複数選択可)」の回答結果

大学入学後に学生に配布される「学修案内<sup>1</sup>」では、以下のようなことが明記されています(太字は筆者による)。

#### 本学教育の仕組み(5)学びの支援と授業の履修

興味・関心に基づく多様な選択・挑戦ができる教育システムに皆さんがしっかり取り組めるように、アカデミック・アドバイザーや学修相談室等を置き、皆さんの学修を支援します。もし、学修計画や授業の履修方法について疑問がある場合は、アカデミック・アドバイザーをはじめ、類主任や系主任、教務課や学務課に遠慮なく質問をし、ガイダンスを受けてください。また、**授業履修の前に必ずシラバスで授業のねらいや到達目標などを確認して、授業に臨んでください。**

このように学修案内で説明されているシラバスですが、「授業開始前までに公開されていない」という意見が今回の学勢調査 2022 に多く寄せられました。

「シラバス」は、授業を受ける前に授業について入手可能な情報として、学生が最も公平にアクセス可能な重要なものです。しかし、現状学生からは、「授業内容について詳しく書かれていない」、「授業開始前までに公開されていない」、「成績評価の基準が不明瞭である」という意見が挙がっています。シラバスが公開されていなかったり、掲載されている情報が限られていたりする場合、学生はその授業を過去に受講したことがある先輩学生や同級生の口コミから履修登録するかどうかの判断をしなければなりません。このような状況では、学生間での情報の偏りや誤った情報の流布など、学生の健全な大学での学びを阻害することが懸念されます。

シラバスは、授業前の情報源に留まらず、全授業が終了した後においてもなお重要です。学修案内<sup>2</sup>において以下のような記述があります(太字は筆者による)。

#### 4) 成績に対する確認及び不服申立てについて

成績に疑問がある場合は、教員に直接又は教務課又は学務課を通じて確認することができます。また、確認の結果に対し、不服を申し立てることができます。

(中略)

具体の事例は次のとおりです。

##### 1. 受付できる事例

1) 成績の誤記入等, 明らかに授業担当教員の誤りであると思われるもの。

2) **シラバスに記載されている成績評価の基準及び方法に照らして, 明らかな誤りがあると思われるもの。**

(以下略)

しかしながら、現状では「小テスト, レポート課題, 中間試験, 期末試験などの結果を総合的に判断する. 詳細は講義中に指示する。」といった抽象的な成績評価の基準を記しているシラバスも存在しています。具体的な成績の割合が明示されておらず、講義中に成績の割合が示されるとしても、その基準や方法が明文化されていないため、成績について明らかな誤りがあると思われる場合でも学生が教員に指摘することは難しい場合もあります。成績評価は、系所属や研究室配属をはじめとする学生自身の進路に関わる重要な問題であるため、学生は敏感になりがちです。明瞭に成績評価基準が示されていない科目があると、学生は不公平感を抱き、学業に対するモチベーションを失いかねません。

東京工業大学教育本部の HP には、シラバスの例示<sup>3</sup>が掲載されていますが、あくまで例示とそれによる説明にとどまっています。他の大学には、シラバスについて全学共通のマニュアルが存在している大学や、授業紹介動画を公開して

<sup>1</sup> 2022 年度学修案内(学士課程) はじめに [https://www.titech.ac.jp/guide/guide\\_2022/gakubu1/](https://www.titech.ac.jp/guide/guide_2022/gakubu1/) (最終閲覧:2023 年 3 月 26 日)

<sup>2</sup> 2022 年度学修案内(学士課程) 成績と試験 [https://www.titech.ac.jp/guide/guide\\_2022/gakubu1/](https://www.titech.ac.jp/guide/guide_2022/gakubu1/) p.11 (最終閲覧:2023 年 3 月 26 日)

<sup>3</sup> 東京工業大学教育本部 教務・学修関係事項の資料 440\_4-4\_シラバス関係一式(学内限定) <https://www.eduplan.titech.ac.jp/wp-content/uploads/limited/440.pdf> (最終閲覧:2023 年 3 月 26 日)

## 2 学修関連

いる大学も存在します。例えば、筑波大学<sup>1</sup>では、シラバス作成のためのガイドラインが存在し、成績やレポートの評価方法の明示方法などが具体例を持って説明されています(図 2-6.3)。このほか大阪大学<sup>2</sup>にもシラバス作成のためのハンドブックが存在し、教員のシラバス作成を支援しています。

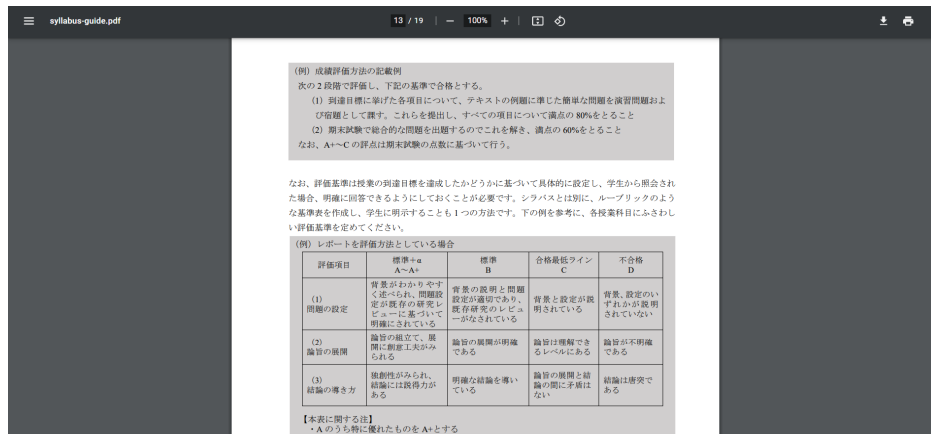


図 2-6.3: 筑波大学 シラバス作成のためのガイドラインの一部

また、千葉大学<sup>3</sup>では、教養科目について教員が授業の内容を紹介する動画が公開されており、紹介動画にシラバスも併記することで履修登録の参考資料としています(図 2-6.4)。このほか早稲田大学<sup>4</sup>では、シラバス講義動画として、専門科目を含む一部の科目で講義紹介あるいは初回講義を学内限定で配信しています。



図 2-6.4: 千葉大学アカデミック・リンク・センターHP の授業紹介動画のページ

東工大においては、シラバスが一部の科目において適切な運用がなされておらず、学生の学修に悪影響が及んでいる状況が存在していますが、他大学においては、形式の違いはあれど、授業履修について学生側により正確な情報を提供しようとする取り組みが行われています。

<sup>1</sup> 筑波大学 「筑波大学:シラバス作成のためのガイドライン」<https://www.tsukuba.ac.jp/about/action-management/pdf/syllabus-guide.pdf>(最終閲覧:2023年3月16日)

<sup>2</sup> 大阪大学 「シラバス作成のためのハンドブック」[https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/support\\_text/assets/syllabus-handbook\\_jp.pdf](https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/support_text/assets/syllabus-handbook_jp.pdf) (最終閲覧:2023年3月16日)

<sup>3</sup> 千葉大学アカデミック・リンク・センター 授業紹介動画 <https://alc.chiba-u.jp/classintro.html>(最終閲覧:2023年3月16日)

<sup>4</sup> 早稲田大学 2023年度シラバス講義動画掲載科目一覧 <http://cnt.waseda.jp/fcontents/open/syllabus/list.html> (最終閲覧:2023年3月16日)

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような解答を頂きました。

Q1. 授業名及びシラバスは学生側にとってどのようなものであるべきとお考えですか。

A1. シラバスの作成については教員に HP にて作成趣旨を説明しています。学修計画、成績評価などを明確に記入することを趣旨にしています。

Q2. 授業名及びシラバスの作成は誰が行っていますか。

A2. 授業を開講している開講元(系や学院)が対応しています。シラバスの作成は教員個人でおこない、会議で承認を得たうえで公開されます。

Q3. シラバスが公開されない場合があるのはなぜですか。

A3. 大学としては原則必ず公開しなければならないと指導しています。しかし、非常勤講師の方などについては情報解禁が間に合わない場合があると考えられます。教務課において全てのシラバス公開を把握することはできていません。

Q4. 授業名及びシラバスの作成についてガイドライン等は存在していますか。

A4. 文章や冊子は作成していませんが、教員向け HP には掲載し、周知しています。シラバスは、学生や社会に向けてどのような授業を行っているかを示すため明確に記入するものとしています。例や書き方の例示はなく、教員同士でチェックを行い内容がわかるかの確認は行っています。

## 提言

以上の現状を踏まえて、以下の提言をいたします。

### 1. 教員向けシラバス作成のガイドラインを改善する

現在、シラバスの作成趣旨と例示による説明が公開されていますが、授業の開講元や教員によってシラバスへの対応に差が出てしまっています。そしてその差は、学生の受講態度や成績評価に対する不満の違いを生み出しています。また、シラバスの公開が遅れてしまう原因として教員が多忙でシラバスを作成する時間がないことも考えられます。他大学にあるような具体的な例示を用いたシラバスや授業紹介動画は、学生にとって分かりやすいだけでなく、教員にとっても短時間で授業に関する正確な情報を提供できる点でメリットがあるものと考えます。

具体的には、シラバスの重要性を強調し、教員に履修登録が開始される1週間前までにはシラバスを公開しておくことを強調することと、成績評価の基準について具体的に明記すること、また、授業紹介動画の作成を推奨することです。

### 2. シラバスの公開について管理体制を強化する

一部の科目においてはシラバスが公開される前に授業が始まるという事態が生じており、学生が授業内容や評価基準等についてよくわからないまま履修登録をせざるを得ない状況が起きています。履修登録が開始される少なくとも1週間前までにシラバスを公開しておくことで、学生のミスマッチを防ぎ、学修に好影響をもたらすことができます。

具体的には、教員が1週間前までにシラバスを公開するように管理体制を見直すことなどが挙げられます。



### 学生の意見

- 1、2Q 間と 3、4Q の間に休みがない/短い。(同様意見 461 件)
  - 次のクォーターに向けての準備が間に合わない。(同様意見 27 件)
  - クォーター間に休みが欲しい。(同様意見 215 件)

### 現状分析

「No.22:現在のクォーター間の休みに満足していますか。」において現状のクォーター間の休みに満足している(非常に満足、やや満足)という学生は全体の 50%であり、不満を持っている(非常に不満、やや不満)という学生は全体の 24%であることが分かりました(図 2-7.1)。自由記述「No.23:前問で『どちらとも言えない、やや不満、非常に不満』を選んだ理由について教えてください。」に書かれた意見を見ると 461 件が、1、2Q 間及び 3、4Q 間のクォーター間休みがないもしくは短い、というものでした。その中で休みが欲しいという意見は 215 件を占めており、「次のクォーターの予習や前クォーターの復習などをする余裕が無い」という意見や、「レポートが終わる前に次のクォーターが来る。」という意見が見られました。

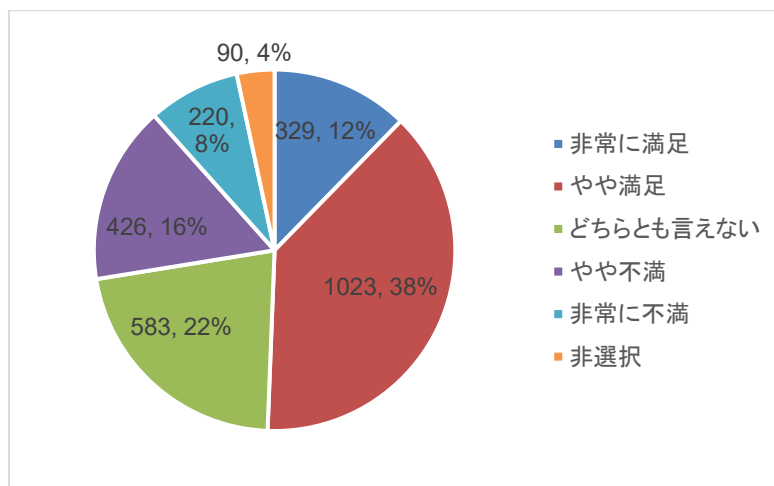


図 2-7.1:「No.22:現在のクォーター間の休みに満足していますか。」の回答結果

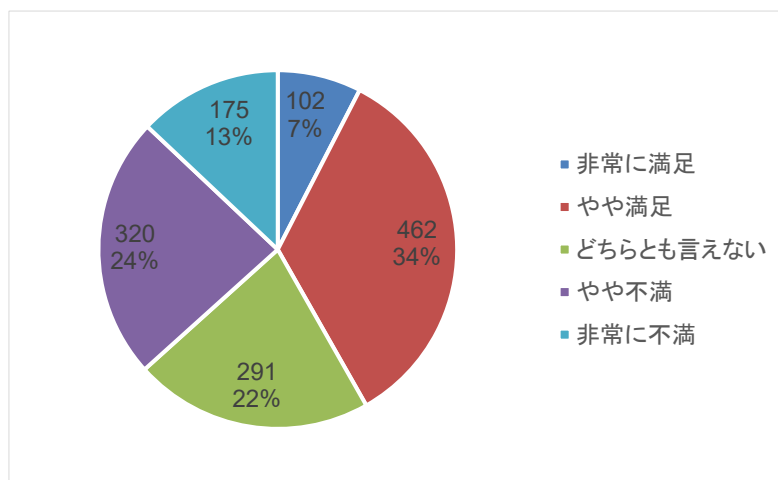


図 2-7.2「No.22:現在のクォーター間の休みに満足していますか。」の学士課程学生の回答結果

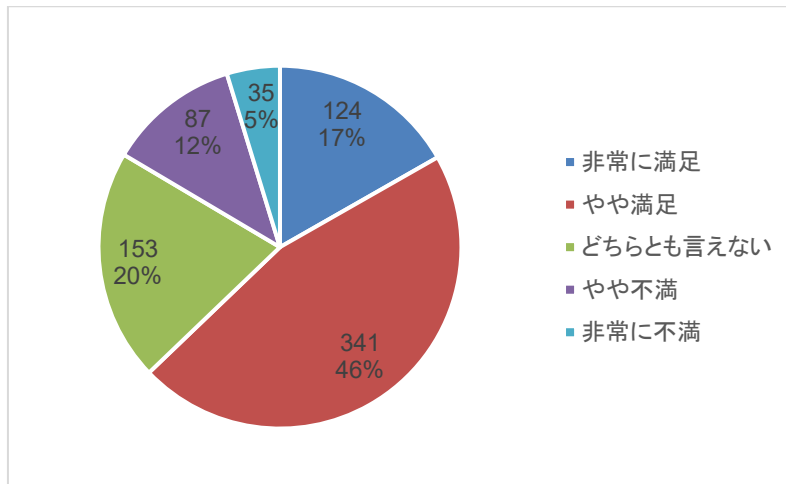


図 2-7.3「No.22:現在のクォーター間の休みに満足していますか。」の大学院修士課程学生の回答結果

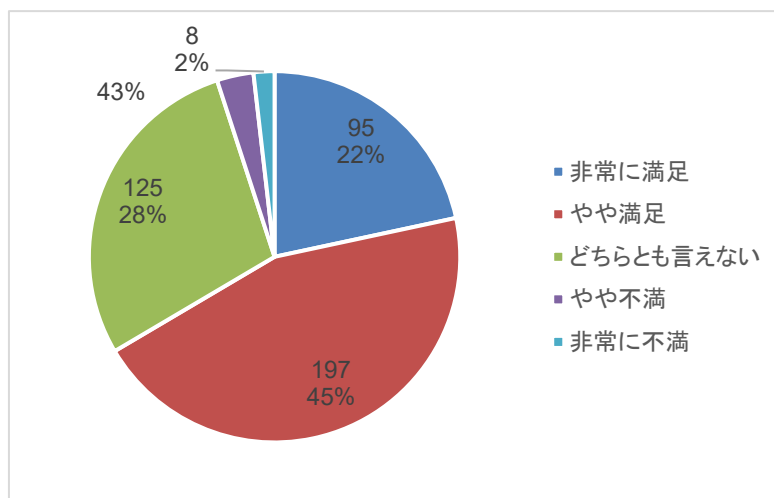


図 2-7.4「No.22:現在のクォーター間の休みに満足していますか。」の大学院博士後期課程学生の回答結果

クォーター制が始まった 2016 年の教育改革では、クォーター制とは「1 年間で 4 つの期に分ける授業制度です。」としたうえで「短い期間で集中的に学ぶことで学修効果を高めることができます。」と説明しています<sup>1</sup>。学士課程の学生にとって次クォーターの予習や前クォーターの復習をする余裕がなく、レポートの期限が次クォーターにまで跨ってしまっている現在の状況においては、『短期的に集中して学ぶ』というクォーター制の主軸ともいえる趣旨が崩壊しており、クォーター制によって本当に学修効果が高まっているのか甚だ疑問です。実際に学士課程の学生には、大学院修士課程や博士後期課程の学生と比較してクォーター間の休みに不満を持っている人が多いです(図 2-7.2, 3, 4)。これは、学士課程の学生は、大学院の学生と比較して期末試験を多く抱えることが一因ではないかと考えます。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. これまでに 1, 2Q 間及び 3, 4Q 間にクォーター間に休みが存在したことはありますか。

A1. 過去の事例を調べたところ、クォーター制初年度である 2016 年度のみ、土曜を含め 3, 4 日休みを設定していました。しかし、長期の休みを設定するのが難しいため、それ以降休みは設定していません。

<sup>1</sup> 東京工業大学 <https://www.titech.ac.jp/education/reform/point/quarter> (最終閲覧:2023 年 3 月 16 日)

## 2 学修関連

Q2. 前回の学勢調査<sup>1</sup>においてあったように法令上の観点からクォーター間の休みの導入は難しいという認識に変わりはないですか。

A2. 変わりありません。

### 提言

以上を踏まえ、次のように提言いたします。

1. 第1クォーター及び第3クォーターの期末試験期間後に土日を含めて3～4日の「クォーター間休み」を設定する

クォーター制の本来の目的である「短い期間で集中的に学ぶことで学修効果を高めること」を達成するためには、学生が前クォーターで学んだことを復習し、課題を持ち越さずに次クォーターの学修に備えることが重要です。そのために土日を含めて3～4日の「クォーター間休み」を設定することを提言いたします。前回の学勢調査2020の提言では、1週間程度の休みを設定することを提言いたしましたが、その場合は、長期休暇が大きく短縮されるため、長期休暇における学生や教員の研究活動や課外活動、留学やインターンシップといった活動に支障が出るため適切ではない、とご回答頂きました<sup>2</sup>。

今回の提言は、土日を含めて3～4日と前回より短い日数です。長期休暇の削減は、避けられませんが、学勢調査2020の提言と比較すると削減する日数は少なくなるものと考えます。また、2016年度に実際に実施されていた日数であることから、法令上の観点からも単位認定の要件を満たすことができる実現可能性が高い提言であると考えます。

具体的には、土曜を含め3、4日休みを設定していた2016年度の日程を参考にした授業日程に変更することを提案いたします。

<sup>1</sup> 学勢調査2020 提言2-5「クォーター間の休みの導入」

[http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020\\_gakusei\\_teigensyo-2.pdf](http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_teigensyo-2.pdf) pp.20-21(最終閲覧:2023年3月22日)

<sup>2</sup> 学勢調査2020 大学の対応 提言2-5「クォーター間の休みの導入」

[http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020\\_gakusei\\_follow.pdf](http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_follow.pdf) p.3(最終閲覧:2023年3月26日)

### 学生の意見

- クォーター制を廃止してほしい。
- 学部と大学院が連結しているはずの学院制は大学院入試があるのでその強みを生かすことができていない。(同様意見 4 件)
- 大学院での英語での講義を廃止してほしい/日本語で講義を行ってほしい。(同様意見 281 件)
- 大学院での教養科目を必修にしないでほしい。(同様意見 15 件)
- 教養卒論に意義を感じない。(同様意見 3 件)

### 現状分析

東京工業大学は、2016年に「将来、科学・技術の力で世界に貢献するため、学生が自ら進んで学び、鍛錬する“志”を育み、卓越した専門性に加えてリーダーシップを備えた理工系人材を養成すること」<sup>1</sup>を目的に「教育改革」を行い新教育体制(学院制)の創設、カリキュラムの刷新、クォーター制の導入、達成度評価の導入などの教育制度や教育環境の刷新を行いました。

しかし、学勢調査 2022 の調査結果からは、「大学院での教養科目を必修にしないでほしい」、「大学院での英語での授業を廃止してほしい」、「学士課程と修士課程の間の継ぎ目がなくなっていない」、「教養卒論に意義を感じない」などの教育改革を通して刷新された制度や授業を疑問視する意見が一部学生から聞かれます。

「No.45: 博士後期課程における文系教養科目について満足度を教えてください。」という設問では、「非常に満足」「やや満足」という回答は合わせて 49.2%に対し、「やや不満」「非常に不満」という回答は合わせて 26.3%でした(図 2-8.1)。

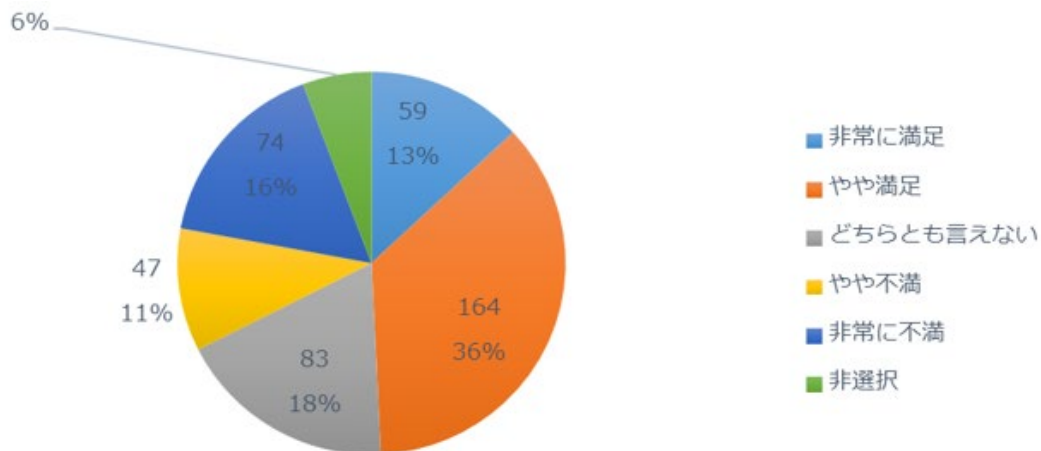


図 2-8.1: 「No.45: 博士後期課程における文系教養科目について満足度を教えてください。」の回答結果

大学院での専門科目の英語開講は、教育改革においてカリキュラム刷新の一つとして取り入れられたものですが、「大学院での英語での講義を廃止してほしい」、「日本語で講義を行ってほしい」という大学院での専門科目の英語開講に否定的な意見が 281 件寄せられました。

以上のような学生の意見は、学生に教育改革の有効性について実感がないために湧き上がるものと考えられます。そこで、教育改革の目的は本当に達成されつつあるのか、目的を達成するための手段として現状の制度改革は適切であったかを評価する機会が必要だと考えます。また、教育改革で行われた教育制度の刷新について未だ根強い批判的な意見があることは、大学側の意見が学生側にしっかりと理解されていないこと、学生側の意見が大学運営に反映

<sup>1</sup> 東京工業大学 東工大教育改革-教育改革とは <https://www.titech.ac.jp/education/reform/concept/upbringing> (最終閲覧: 2023 年 3 月 26 日)

## 2 学修関連

されてきていないと学生側が感じていることの2点に原因があるのではないかと考えます。言い換えるならば「学生と大学運営側のコミュニケーション不足」です。教育改革という大きな改革について、これまで大学運営側は学生とのコミュニケーションが少なかったと言えるでしょう。統合や女子枠の導入という改革を控える中で、大学と学生のコミュニケーションを促進し、より良い東工大となっていくためにも学生への意見調査や意識調査を含め、教育制度について評価をすることは重要であると考えます。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

**Q1.** 教育改革はどのような経緯で始まったのですか。

**A1.** 本学の HP<sup>1</sup>に詳細は載っています。そこに記されているコンセプトを達成するために始めました。

**Q2.** 教育改革の前に現状把握のための調査は行われましたか。

**A2.** 学生に対しては行っていません。産業界からの問題意識や当時の三島学長からの学生に充実した学びと楽しい学生生活を送ってほしいという願いなどが根底にありました。

**Q3.** 教育改革の効果を検証するための調査を既に行いましたか。あるいは、調査を行う予定はありますか。

**A3.** 卒業生・修了生アンケートを教育改革前に一度実施しており、それ以降は毎年実施しています。この結果は、東京工業大学教育本部の HP に結果を公開しています<sup>2</sup>。また、1年前は修士課程の卒業生が教育改革初年度に入学した学生であったため、直接ヒアリングも行いました。結果の検証についてはこれから進める予定です。報告書としてまとめることができるよう調整を進めています。

## 提言

以上を踏まえ、次のことを提言します。

### 1. 2016 年におこなわれた教育改革に対する効果を検証し、その結果を公開する

教務課とのキャンパスミーティングで言及があったヒアリング調査についての報告書を公開し、学内外に広く周知することを提言いたします。また、卒業生・修了生アンケートについても経年変化を分析し、そこからわかる教育改革の効果について報告書をまとめ、公開することも提言いたします。

報告書の公開は、学生の声を大学運営により反映させるために必要不可欠なことであり、調査結果を広く周知することは学生と大学側でコミュニケーションが生まれるきっかけとなると考えます。学生と大学側で活発で建設的な議論を行うためにも教育改革の効果検証とその結果の公開を強く望みます。

<sup>1</sup> 東京工業大学 東工大教育改革-教育改革とは <https://www.titech.ac.jp/education/reform> (最終閲覧:2023年3月16日)

<sup>2</sup> 東京工業大学 教育本部 <https://www.eduplan.titech.ac.jp/activity/investigation/> (最終閲覧:2023年3月16日)

### 学生の意見

- 文系教養科目を必修にしないでほしい。(同様意見 31 件)
- 文系教養科目の授業の種類を増やしてほしい。(同様意見 66 件)

### 現状分析

2014 年から設置している設問「No.15: 本学に進学した理由を教えてください。(研究・就職のため・教養力の育成 など)(複数選択可)」において「教養を身につける」ためと答えた学生の割合は、学勢調査の年度を経るごとに減少していました(図 2-9.1)。東工大で教養といったとき、一般に「理工系教養科目」と「文系教養科目」の 2 種類を指すものと思いますが、「研究を行うため」や「専門を極めるため」という回答選択肢を選んだ学生はほぼ同じであることから、ここでは「文系教養科目」に注目して現状を見ていきます。

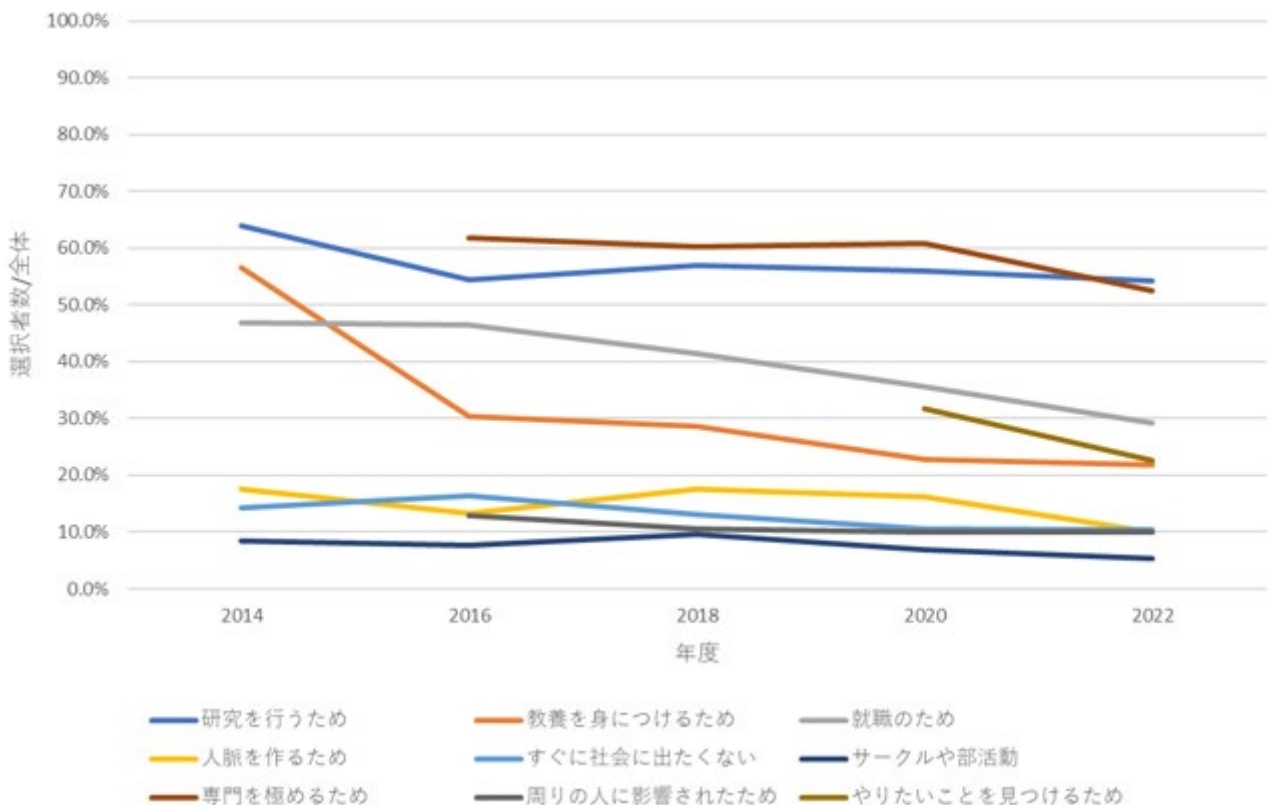


図 2-9.1: 「No.15 本学に進学した理由を教えてください。(複数選択可)」という設問についての回答者割合の推移

「No.15: 本学に進学した理由を教えてください。(研究・就職のため・教養力の育成 など)(複数選択可)」と「No.12: あなたが思う東工大の人材育成における進むべき方向性を教えてください。(複数選択可)」について合わせてみた時に、進学理由として「教養を身につける」を選んだ学生は、人材育成の方向性として「専門力の向上」を選ぶことは 30.6%と他の進学理由の群と比較して少ないですが、「文理融合型の人材」を選ぶことが 12.5%と他の進学理由の群と比較して多くなっています(表 2-9.1)。この結果から、文系教養科目についてポジティブな立場を取る人が少なからず存在しているのではないかと読み取れます。自由記述を見てみると「文系教養科目の授業の種類を増やしてほしい」という声がかかる一方で、「大学院での文系教養科目を必修にしないでほしい」など文系教養科目についてネガティブな意見も見られます。

表 2-9.1:「No.15 本学への進学理由」と「No.12 人材育成の進むべき方向性」のクロス集計

進学理由/人材育成の方向性	グローバルな人材	専門力の向上	理工系全 域の見地 を持った 人材	文理融合 型の人材	リーダー シップの ある人材	就職に強 い人材	合計
研究	18.6%	38.4%	21.3%	6.9%	8.2%	6.5%	100%
専門を極める	16.5%	41.4%	22.3%	6.5%	6.9%	6.4%	100%
教養を身につける	17.4%	30.6%	22.2%	12.5%	8.1%	9.2%	100%
就職	14.7%	35.1%	20.8%	6.6%	7.1%	15.6%	100%
人脈	20.2%	34.5%	17.0%	8.7%	8.5%	11.1%	100%
サークルや部活 などの課外活 動	11.9%	38.9%	23.4%	8.6%	7.4%	9.8%	100%
やりたいこと を見つける	15.7%	36.8%	23.1%	8.7%	6.1%	9.5%	100%
すぐに社会に出 たくなかった	12.8%	41.8%	27.3%	5.0%	5.2%	8.0%	100%
周りの人に影響 された	18.0%	33.2%	23.3%	8.4%	8.4%	8.8%	100%

以上のことから、文系教養科目についてはポジティブな立場をとっている人についてもネガティブな立場をとっている人についても、現状では満足度がそれほど高くないのではないかと考えられます。

これらのことを踏まえ、リベラルアーツ研究教育院の先生方とキャンパスミーティングを実施し、以下の回答を頂きました。

**Q1.** 前回までの学勢調査の結果と比較して「教養を身につける」ために本学へ入学したと回答した学生の割合が減少していました。そのような学生の意識の変化を感じていますか。また、それに応じて文系教養科目を見直すことは行っていますか。

**A1.** 学生の要望に応えるための見直しとして、一つ一つの授業のフィードバックを参考にコア科目の改善を行っています。その結果、卒業生アンケートの結果から、専門科目の満足度よりは低いものの年々コア学修科目の満足度が上がってきていることが読み取れます。「教養を身につける」ために入学する人が減っていることについては、大学入学後に改めて教養が大切であるということを実感してもらうことが必要だと考えています。

**Q2.** 「教養を身につけるため」という回答割合が減少した一方で、そう回答した学生は、大学が目指す人材育成の方向性として「文理融合型の人材」を志向する傾向があるようです。ILAとしてこのような学生を後押しする教育活動を行っていますか。また、行う予定はありますか。

- A2. 「文理融合」は、専門知と教養で構成されるものですので、教養教育そのものを拡充することが重要であると考えています。これから行う活動については、学士課程については未確定なので詳しいことを現在お伝えすることはできませんが、博士後期課程の文系教養科目は、2科目しかなかったものを統一し、これから別の科目の選択肢を増やしていく予定です。興味がない人へのアプローチとしては、立志プロジェクトにおいて「自分に関連するテーマ」であると感じてもらいたいと考えています。
- Q3. 一部の大学院の学生から、研究との兼ね合いから文系教養科目を非必修化してほしいとの声があります。このような声についてどのようにお考えですか。
- A3. そのような意見についてはよく耳にしています。単に講義を取りたくないという人と土曜の対面での開講が研究に障る等の意見があり、これまで対応してきました。コロナ禍により Zoom 開講になったことで学生の負担が減ったのではないかと考えています。
- Q4. 一部の学士課程の学生から、教養卒論についてその意義を問う意見が挙げられています。このような意見についてどのようにお考えですか。
- A4. 形式的で意義を感じないということについて、何が必要なことであるか検討しているところです。現状としてクラス運営だけで手一杯になってしまっているのがその改善策を考えています。教養卒論は、論理的に書く力と専門でない人に専門の内容を伝える力を育むことを目的としています。アメリカのトップスクールの学生と比較すると書いてきた文章量や読書量に大きな差があります。教養卒論で少しでもスキルアップをすることでグローバルに活躍できる人材を目指してほしいと願っています。

## 提言

以上を踏まえ、次のことを提言いたします。

### 1. 文系教養科目のカリキュラムについて随時改善する

これまでの授業評価アンケートなどを用いた授業改善に加えて、新しく学生のニーズに合わせた科目やコースを開講するとの話がキャンパスミーティングでありましたので、科目の新規開講や統廃合などを1年ごとに検討・実施することを提言いたします。また、学生にその改善が分かるよう、報告書を作成して公開することも合わせて提言いたします。



### 学生の意見

- 対面が再開しても授業の録画配信を継続してほしい。(同様意見 6 件)
- 英語開講科目において録画配信をしてほしい。(同様意見 10 件)
- 復習に役立てたいため録画配信を希望する。(同様意見 10 件)

### 現状分析

2020 年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本学でもオンライン授業が導入され、授業の録画配信が盛んにおこなわれるようになりました。2022 年度後学期以降、本学では講義は原則対面授業とする方針が取られており、それに伴い録画配信を行う授業が少なくなりました。

学勢調査 2022(以降、本調査)は原則対面授業となる直前(6 月末～7 月末)に行われた調査ですが、録画配信を継続してほしいという意見が多数見受けられました。図 2-10.1 は、No.34 「対面授業の録画と公開を希望しますか？」に対する回答を表示したものです。「希望する」「授業によっては希望する」と回答した人が全体の 86%となっており、多くの人が希望していることが分かります。また、図 2-10.2 は No.35 「どの対面授業の録画と公開を希望しますか？」という複数選択可の設問に対する回答を表示したものです。座学の授業については録画と公開を希望すると回答した学生が全体の 8 割以上いました。

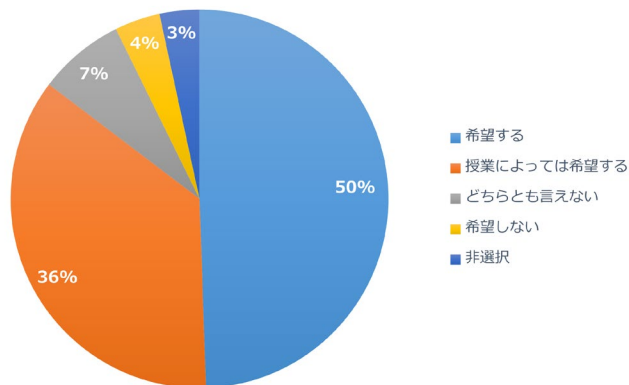


図 2-10.1 No.34 「対面授業の録画と公開を希望しますか？」に対する回答

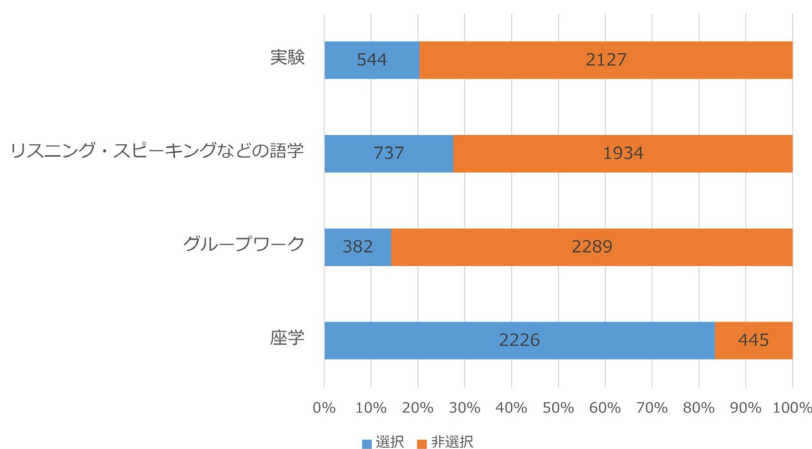


図 2-10.2 No.35 「どの対面授業の録画と公開を希望しますか？」に対する回答

「復習に役立てたいため録画配信を希望する」と回答した学生が多かったです(同様意見 10件)。特に、大学院課程の専門科目については原則英語開講されているため、「録画配信を用いて復習をしてやっと理解ができるようになる」という意見が寄せられていました。また、英語クラスと日本語クラスが同時開講されている科目に関しては英語クラスのレベルを確かめる上でも録画配信を行ってくれるとありがたいといった意見もありました。

対面授業の録画は、オンライン授業よりも特別な機材が必要となり、また特別な操作が必要なため大変になると思いますが、録画配信により講義受講後に確認が取れることで学修効果が大きくなると思います。

以上の現状分析をもとに、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. ハイフレックス対応の教室は現在どのくらいありますか？

A1. 大岡山キャンパスには現在 32 講義室、すずかけ台キャンパスには現在 16 講義室ハイフレックス対応の教室があります。今後、すずかけ台キャンパスに追加で 8 講義室を整備する予定です。

Q2. ハイフレックス対応の授業を今後増やしていくことは考えていますか？

A2. 今年度(2022 年度)後期から全対面授業という方針を取っていて、今のところハイフレックス対応の授業を大きく増やしていく予定はありません。

Q3. ハイフレックス対応の授業を増やしていくとした場合、障害となるものには何がありますか？

A3. ハイフレックス対応の授業を増やしたいという意見の理由により検討するかどうかが決まると思います。大学が気にしているのは「教育の質」です。コロナ禍でオンライン授業化が進んだ際に大学で議論されていたのは、「大学で学ぶ意味は対面で授業を受けること、キャンパスで学ぶことこそが大事ではないか」ということでした。コロナ禍時に対面への大きな要望があったことから、授業はオンラインでも対面でもどちらでもいいから受けられれば良いということではないと認識しています。明らかにハイフレックスであることが必要不可欠である(教育効果が明らかに高い)ということであれば、先生・学生の都合が良いという理由のみでは(通学の負担が減るなど)、ハイフレックス化を検討するには不十分であると考えます。教育的な効果があるのであれば検討の余地があると考えています。

## 提言

コロナ禍により、対面授業の機会が失われオンライン授業へと全面的に移行せざるをえなかった時がありました。対面授業でしか行えない教育はあるとは思いますが、オンライン授業化したことで、対面授業のみしかなかったときと比べて録画配信が増えたために復習しやすくなったという良い点もあると思います。対面授業では、機器の関係上、また対面授業の運用上、録画配信をする上での課題はあると思いますが、以下の 2 つの提言をします。

1. 対面授業でも、特に需要の大きい座学の科目や英語開講科目について録画配信を増やしていくこと。
2. 対面講義を録画する機器を貸し出せる環境を整えること。

## 学生の意見

- 大学院課程の専門科目を英語開講にする価値を感じない。英語ができるようになる効果を感じない。(同様意見 16 件)
- 英語開講科目において教員の英語力が低く、講義の質が悪い。(同様意見 16 件)
- 大学院進学に向けた準備を学士課程の英語授業で行ってほしい。現状の英語授業のみでは対策が不十分と感じる。(同様意見 4 件)
- 英語開講科目の敷居が高いのでハードルを下げてほしい。(同様意見 5 件)

## 現状分析

### 1. 英語開講科目に対する学生の意識

学勢調査 2022(以後、本調査)においては、主に大学院課程の学生からは「専門科目を英語開講にする価値を感じない、英語ができるようになる効果を感じない」(同様意見 16 件)という意見が寄せられました。また、主に学士課程の学生からは「大学院進学に向けた準備を学士課程で行ってほしい、現状の英語授業のみでは対策が不十分と感じる」(同様意見 4 件)、「英語開講科目の敷居が高いのでハードルを下げてほしい」(同様意見 5 件)という意見が寄せられました。このように、英語に苦手意識を持つ本学の学生は多く、特に大学院課程の専門科目が原則英語開講であることに対する不安・不満を抱える学生が多い傾向がみられました。

しかし、大学院課程の専門科目が原則英語開講であることが大学院課程への進学を妨げる大きな要因にはなっていないということも図 2-11.1 より読み取れます。本調査では、設問 3-11-1「進学予定について、以下のうち当てはまるものを選んでください。」において「学士課程で卒業する予定である」と回答した人を対象に、設問 3-11-2にて「本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか」という質問を複数選択可能式で行いました。回答選択肢としては、「英語で講義が行われるから」を含む 8 項目、およびその他(自由記述)を設けました。図 2-11.1 は、本学修士課程に進学を希望しない理由として選ばれた項目の割合を示したグラフです。縦軸は各選択肢を本学修士課程に進学しない理由として選択した人の割合、横軸は設問のその他の回答選択肢を除く選択肢としています。修士課程に進学しない理由として「英語で講義が行われるから」を理由に挙げた学生は 12%と全 8 項目の中で一番少ないことが分かりました。

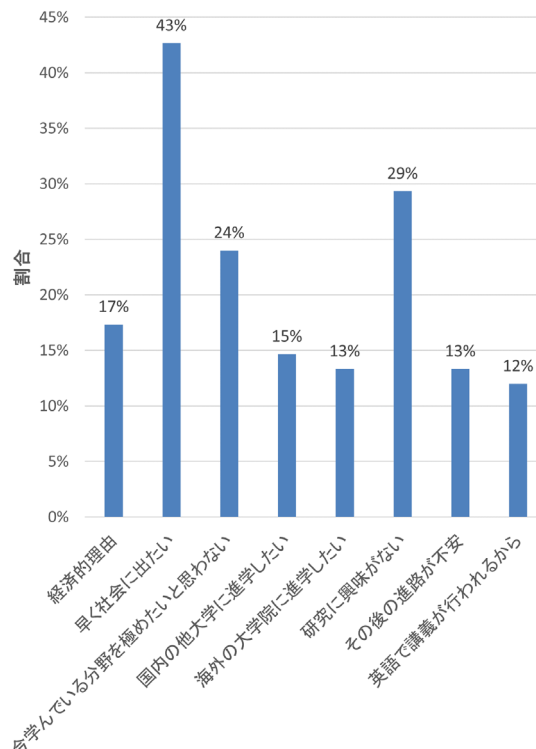


図 2-11.1 本学修士課程に進学を希望しない理由として選んだ項目の割合

## 2. 受講者からの英語開講科目の質・やり方に対する言及

**英語開講科目にすることで講義の質が悪くなっている**という指摘が多くの学生から寄せられました。主な意見としては、英語を比較的得意と感じている人や留学生から「教員の英語力が低く、講義の質が落ちていると感じる」というものがありました。

また、**講義の進め方や求められている英語力が同じ英語開講科目によっても異なる**ことも学生の意見によって明らかとなりました。「大学院の英語開講科目が英語と日本語の両方の説明をする時間を設けている教員がいる」といった意見や「グループワークで受講者の英語力のばらつきにより本来の効果が得られないことがある」といった意見が見受けられました。

以上に示した英語開講科目に対する意見から、大きく分けて2つのアプローチが有効だと考えました。一つ目は教員の英語力向上に対する対策をすること、二つ目は学生が英語力を継続的に向上できるための工夫をカリキュラムやシラバスに組み込むことです。

1つ目の教員の英語力向上に対する対策については、学勢調査2020の提言2-8「教員の英語能力引き上げ」でも言及しています。本学教員を対象とした英語の研修を行っているという現状がありますが、本調査の結果からもわかるように教員の英語力に対する不満の声は多く、より強化した対策を行う必要があると思います。具体的には、授業評価アンケートにて教員の説明力・英語能力に対する設問を設け、著しくスコアが低い教員には研修を必須とする、といった対策が考えられます。

二つ目の学生が英語力を向上していけるようにするための工夫については、カリキュラムの改善、シラバスの改善の2つ有効なアプローチがあると考えます。カリキュラム面としては、大学院課程での英語開講科目受講に向けて、学士課程の英語科目の内容をより強化する、専門科目の講義の中で専門用語の英語に触れる機会を作るなどが挙げられます。またシラバス面としては、同じ英語開講科目の講義であっても求められている英語力が異なるという現状から、シラバスの開講言語の表記を細分化することで、英語開講科目へのハードルを下げることができると考えます。現状、本学のシラバスには、開講科目が英語か日本語のみと記載されていますが、講義終了後に行われる授業評価アンケートでは、講義の説明の言語、資料の言語など項目を分けて聞く質問が用意されています。授業評価アンケートの項目のような細分化した言語に対する項目をシラバスに導入することも有効なアプローチだと考えます。

開講言語表記についての参考事例として、国際基督教大学のシラバスの例を挙げます。国際基督教大学のシラバスでは、図2-11.2<sup>1</sup>のようなシラバスに教授言語の詳細について、「講義」、「教科書・参考文献・教材」、「課題・レポート」「ディスカッション・その他」「教員とのコミュニケーション」の記載があります。

Language of Instruction(教授言語の詳細)
Lecture: Japanese
Readings/Materials: Japanese
Assignments: Both Japanese and English
Discussions/Presentations/Other learning activities: Japanese
----
Communication with the instructor: Japanese
講義: 日本語
教科書・参考文献・教材: 日本語(文語)
レポート: 日本語(英語でもよい)
ディスカッション・プレゼンテーション・その他: 日本語
教員とのコミュニケーション: 日本語

図 2-11.2: 国際基督教大学のシラバス内の教授言語の詳細項目

<sup>1</sup> 国際基督教大学 開講科目一覧: <https://campus.icu.ac.jp/public/ehandbook/SearchCourseAndSyllabus.aspx> (最終閲覧: 2023年2月19日 19:29)

## 2 学修関連

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 授業評価アンケートでは講義と資料の言語について細かく聞く質問(例:主に日本語講義で英語資料、主に英語講義で英語資料 など)が設定されていますが、各授業のシラバスにこのような情報を掲載することは可能でしょうか？

A1. 教務課としては英語開講科目なら講義資料も英語だと解釈していました。現状、これ以上シラバスの項目を細かく掲載することは考えていません。これ以上細かくなることによってシラバス自体が見にくくなることを危惧してのことです。講義と資料の言語について細かく聞く質問を取り入れる場合は、慎重な検討が必要だと考えています。

Q2. グループワークの有無、及びグループワーク内での使用言語の情報を各授業のシラバスに掲載することは可能でしょうか？

A2. A1と同様に、取り入れる場合は慎重な検討を要すると考えます。

Q3. 授業評価アンケート内で教員の説明力、英語力等についての設問を設定することは可能でしょうか？

A3. 授業評価アンケートの設問追加に関しては、学内での検討が必要な項目となりますので、現在ここでご回答することはできません。英語開講科目の対策としては、本学教員を対象にした英語の研修を開催しています。

### 提言

大学院課程での専門科目が原則英語開講であることに対し、多くの学生から不満や不安の声が挙げられました。これからグローバル化がより進んでいく中で英語力を身に着けることは重要なことであるため、自身の英語力に対する不安や教員の英語力に対する不満を少しでも解消できるよう以下の点を提言いたします。

1. 授業評価アンケート内で教員の説明力・英語力等の設問を追加し、著しくスコアが低い教員については現在行われている教員を対象にした英語の研修への参加を必須とするなど対策を取る
2. 学士課程の専門科目講義から資料に専門用語の英語を載せるなど工夫を行い、大学院課程を見据えた対策を行っていく
3. 学生が英語開講科目のレベルを自身で判断し、講義の受講をしやすくするため、シラバスの開講言語について「講義説明」「講義資料」「グループワーク」と項目を分け表示する

## 3 施設関連

3 施設

提言 3-1

### 石川台地区へのキッチンカーの誘致、 キッチンカーの料理の低価格化

#### 学生の意見

- キッチンカーに関する要望として次の意見が寄せられました。
  - 価格が高い。(同様意見 137 件)
  - キッチンカーの料理の種類を増やしてほしい。(同様意見 18 件)
  - キッチンカーの出店が曜日固定でマンネリ化している。(同様意見 4 件)
  - 本館前以外へのキッチンカーの配置。(同様意見 14 件)

#### 現状分析

現在、キッチンカーは大岡山地区本館前に平日に 2 店舗出店しています。月曜日から金曜日まで合計 10 店舗の平均最低価格は 650 円となっており、「キッチンカーの料理の価格が高い」という意見が多く寄せられました。また、出店店舗は曜日で固定されており、授業などで通学する曜日が決まっている学生は毎週同じキッチンカーが出店しているという状況になっているため、「マンネリ化している」「種類を増やしてほしい」という意見があげられました。

現在、大学内での昼食を買うことができる場所は、第二食堂、生協 BENTO、生協の売店、コンビニエンスストア、キッチンカーの 5 種類です。第二食堂、生協の売店、キッチンカーはいずれも本館近くにあります。緑ヶ丘地区や石川台地区で昼食を買うことができるキャンパス内での選択肢としては生協 BENTO のみです。また、2023 年度の秋学期ごろに新たな食堂が大岡山西地区にできることになっていますが、特に石川台地区からは遠く、依然として昼食の選択肢は少ないままの状況が続くと思われます。

これらの現状を踏まえ、学生支援課生活支援グループ、安全企画課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. キッチンカーの出店数を増やすことは可能でしょうか。

A1. 1 店舗あたりの売上が減ることは問題となりますが、採算が取れるのであれば可能です。

Q2. 現在、行っている石川台地区、緑ヶ丘地区の学食 BENTO の販売の需要はどれほどあるでしょうか。

A2. コロナ前から減少傾向です。石川台、緑ヶ丘地区で 1 日 10 個～15 個程度の売り上げです。

Q3. 石川台地区、緑ヶ丘地区へキッチンカーを出店した場合、採算が取れる見込みはあるのでしょうか。

A3. 2022 年 7 月 4 日から 1 ヶ月、石川台地区へトライアル出店した際には採算が取れませんでした。そのため、緑ヶ丘地区でも同様の結果になると思われます。

Q4. キッチンカーを出店する場所の条件などはあるのでしょうか。

A4. 明確な規定等はありませんが、出店したい場所の管理者などと相談する必要があります。

Q5. 低価格の料理を販売するキッチンカーなど、出店するキッチンカーの希望を伝えることは可能でしょうか。

A5. 業者に希望を伝えることは可能です。一つの業者が複数の店舗を管理している形態なので、希望の店舗をその業者が管理しているかなども関係します。「価格を下げたら利用者が増えるのでは」などの要望を伝えることは可能ですが、実際に店舗にいただけるかはわかりません。また、既に定期的にキッチンカーの種類の変更を行っています。曜日についての要望を出すことは可能ですが、管理業者とキッチンカーオーナーとの兼ね合いになります。

#### 提言

以上を踏まえて、次のように提言いたします。

1. 石川台地区、大岡山南地区をターゲットにした石川台地区へのキッチンカー出店の再トライアルの実施。

2022年7月にトライアルを実施した時点では対面授業も増えてきていましたが、まだオンライン授業の割合も高かったため、出校制限のない現在のキャンパスの状況とは違います。そのため、キッチンカーのトライアル出店についての周知を徹底した上でもう一度トライアルを実施し、採算が取れるかどうかの検証を行うべきだと考えます。

2. 学生のニーズに合わせた低価格の料理を販売するキッチンカー出店のためのアンケートを実施する。

価格が高いという意見が学生から多く寄せられている一方で、原材料高騰などの社会情勢上、キッチンカーの経営も難しいように思います。そのため、一度キッチンカーに関するアンケート調査を行い、キッチンカーに対する学生からのニーズなどを確認することにより、キャンパス内でのキッチンカーの立ち位置を改めて明確にすることが必要だと考えます。

### 学生の意見

- Taki Plaza に関する要望として次の意見が寄せられました。
  - ・机、椅子を増やしてほしい。(同様意見 36 件)
  - ・1 人席を増やしてほしい。(同様意見 4 件)

### 現状分析

Taki Plaza の現在の座席の構成は以下のようになっています。

- ・地下 2 階: 4 人席(図 3-2.1)、移動可能なデスク(図 3-2.2)、壁際に長椅子
- ・地下 1 階: ソファ(図 3-2.3)
- ・1 階: ソファ(図 3-2.4)
- ・2 階: 畳(図 3-2.5)、カウンター(図 3-2.6)、大机、ソファ(図 3-2.7)



図 3-2.1 地下 2 階の 4 人席<sup>1</sup>



図 3-2.2 地下 2 階の移動可能なデスク<sup>2</sup>

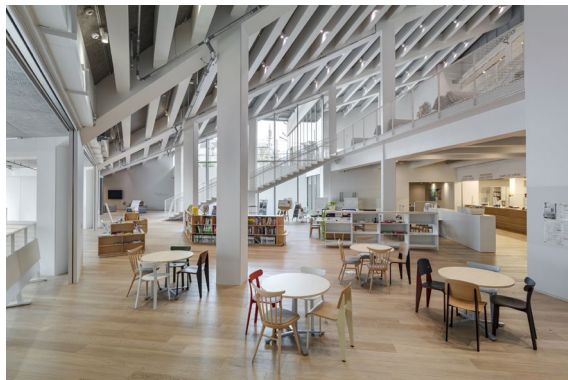


図 3-2.3 地下 1 階の 4 人席<sup>3</sup>

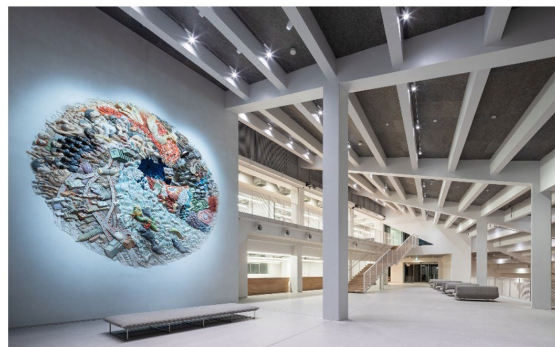


図 3-2.4 1 階のソファ<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 東京工業大学 Hisao & Hiroko Taki Plaza(Taki Plaza)(TPG 主催)異文化を体験できる【Taki plaza Bar】:  
<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/facilities/takiplaza> (最終閲覧 2023/3/26 20:00)

<sup>2</sup> Hisao & Hiroko Taki Plaza 地下 2 階: <https://takiplaza.gakumu.titech.ac.jp/news/news-805/> (最終閲覧 2023/3/26 20:00)

<sup>3</sup> Hisao & Hiroko Taki Plaza 地下 1 階: <https://takiplaza.gakumu.titech.ac.jp/news/news-814/> (最終閲覧 2023/3/26 20:00)

<sup>4</sup> Hisao & Hiroko Taki Plaza 1 階: <https://takiplaza.gakumu.titech.ac.jp/news/news-822/> (最終閲覧 2023/3/26 20:00)



### 3 施設関連

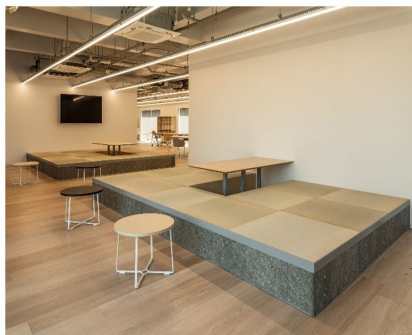


図 3-2.5 2 階の畳<sup>1</sup>

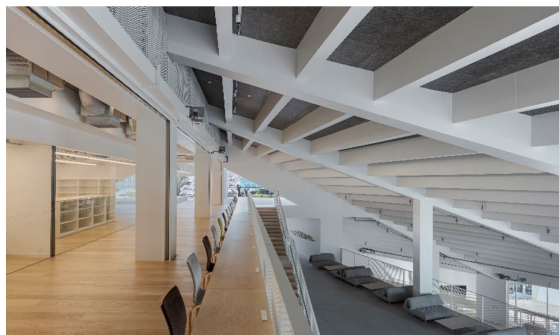


図 3-2.6 2 階のカウンター<sup>1</sup>

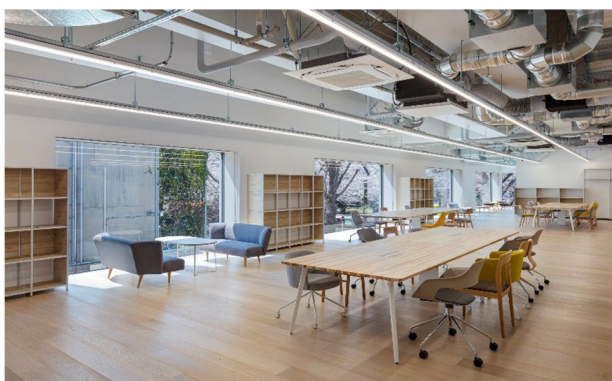


図 3-2.7 2 階の大机、ソファ<sup>1</sup>

現在、Taki Plaza は特に昼休みに混雑している状況です。飲食可能なスペースは地下 2 階全域と地下 1 階の 4 人席、1 階のソファ、2 階の長机と畳スペースとなっており、特に地下 2 階は大変混雑しています。また、地下 2 階の大部分のスペースが 4 人席に充てられています。そのため、1 人で利用するときでも 4 人席に座らざるを得なくなる場合があり、その結果として収容可能人数を下回ってしまうことがあります。混雑時には地下 2 階と地下 1 階をつなぐ部分の大階段(図 3-2.8)に座る学生もいますが、数人にとどまっています。

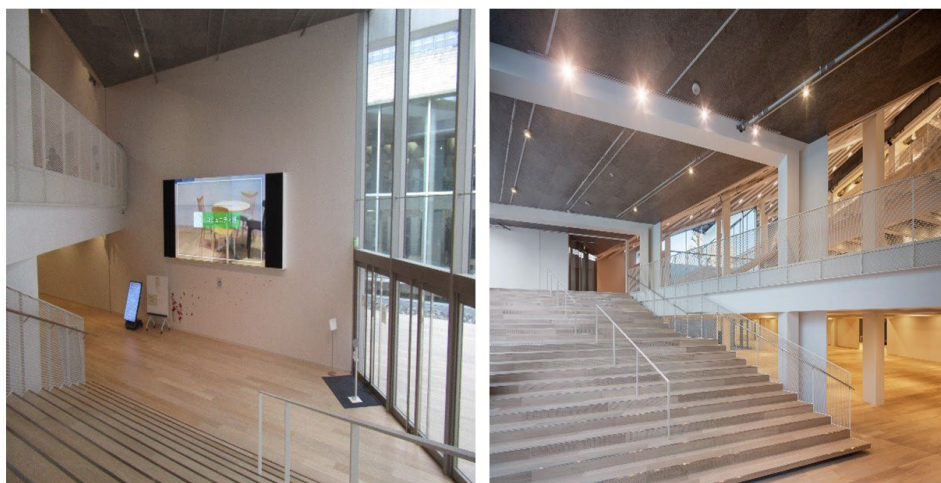


図 3-2.8 地下 2 階と地下 1 階をつなぐ部分の大階段<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Hisao & Hiroko Taki Plaza 2 階: <https://takiplaza.gakumu.titech.ac.jp/news/news-826/> (最終閲覧 2023/3/26 20:00)

これらの現状を踏まえ、学生支援課支援企画グループとのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. フロアに机や椅子を増やすことは可能でしょうか。

A1. 要望、予算、感染リスクなどの影響次第では可能です。しかし現状スペースはないと思われます。

Q2. 学生から「一人席を増やしてほしい」という意見が寄せられているのですが、一人席を増やすことは可能でしょうか。

A2. 現在設置されている4人席などの机、席を減らせば設置することは可能ですが、Taki Plaza は学生の交流の場という趣旨で設置された建物なので、趣旨に合わないと思われます。

## 提言

以上を踏まえて、次のように提言いたします。

1. 地下2階と地下1階をつなぐ部分の大階段(図3-2.8)に座ることが可能であることを周知する。また、大階段に座ることを促すため、誰でも自由に使える座布団などを階段前に用意する。

Taki Plazaの地下2階と地下1階をつなぐ部分の大階段(図3-2.8)は座って利用することが可能ですが、現状学生内での周知が不十分であるように思われます。また、地面に座ることに抵抗のある学生もいると考えられるので、利用を促すと同時に座布団などを用意することで、そのような学生への利用も促すことができます。これにより、Taki Plaza内の総座席数を増やすことができ、学生の交流の場というTaki Plazaの設置趣旨も満たすことができます。

2. 地下2階に大型の机(6~8席)を設置する。

大型の机は、複数のグループで座ることが可能であり、また1人の方も抵抗なく利用することができると思います。

学生の意見

- 値段が高い。(同様意見約 260 件)
- 料理の質を上げて欲しい。(同様意見約 80 件)
- 量が少ない。(同様意見約 60 件)

現状分析

学勢調査 2022 の「平日の昼食は主にどこを利用していますか。」という設問 (No.65) の回答は図 3-3.1 のようになり、生協食堂(第一・第二)は「大学周辺の飲食施設」に次いで 2 番目に多く、約 20%の学生が利用しています。

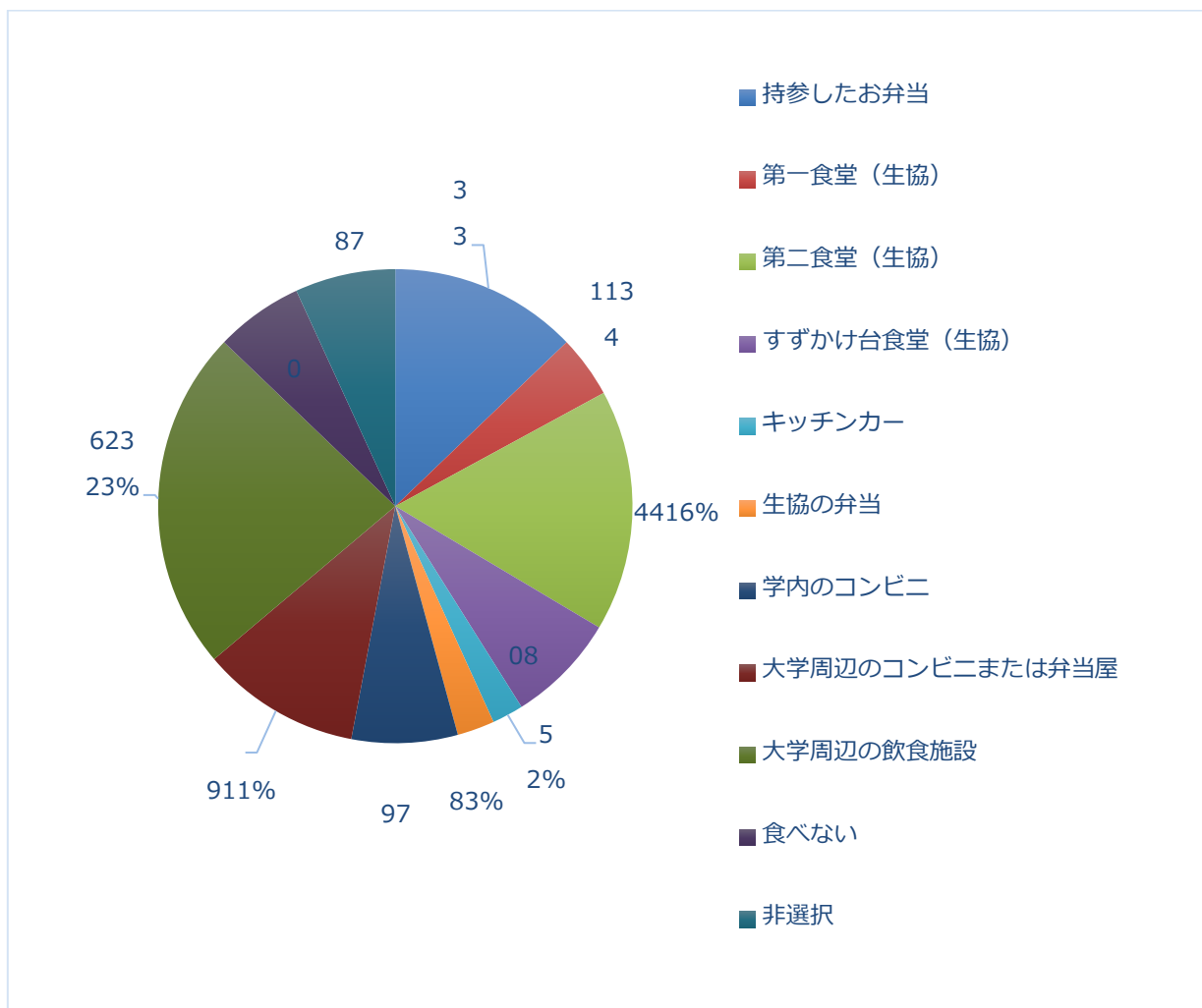


図 3-3.1 平日の昼食で主に利用する施設

一方、学勢調査 2022 の「生協食堂をどれくらいの頻度で利用しますか。」という設問に対する回答は図 3-3.2 のようになり、「利用しない」と答えた人が最も多く、「利用しない」または「あまり利用しない」と答えた人が約 65%を占めています。

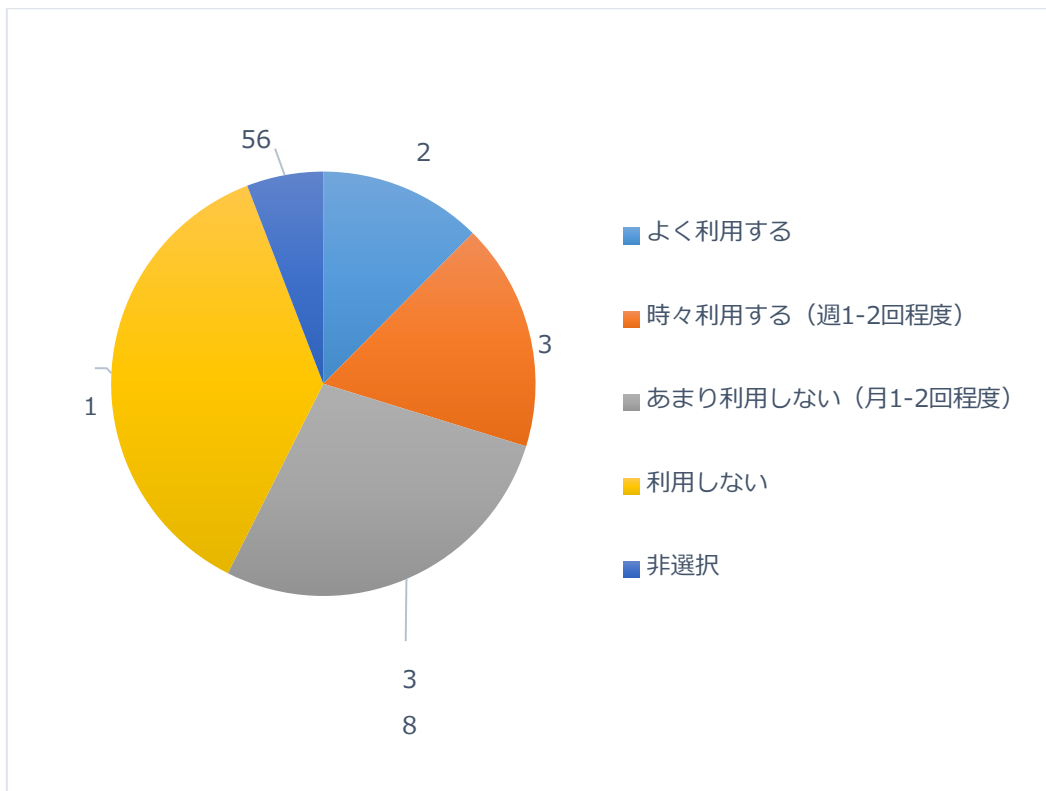


図 3.3-2 生協食堂を利用する頻度

生協食堂を利用しない理由について、学勢調査 2022 での「生協食堂を利用しない理由を教えてください。」という自由記述回答の設問に対しては、「価格が高い」もしくは「コスパが悪い」という意見が約 150 件、「あまり美味しくない」という意見が約 90 件、「量が少ない」という意見が約 40 件ありました。

また、学勢調査 2022 の「生協食堂について要望がある場合は記入して下さい。」という自由記述回答の設問でも、価格(約 260 件)、質や味(約 80 件)、量(約 60 件)の改善を求める声が多くありました。特に量については、丼ものの具材の量に対する要望も聞かれました(7 件)。

現状を踏まえ、東工大学生支援課生活支援グループ、大学生協とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

**Q1.** 夏頃に実施されているという生協食堂アンケートについて、実施期間や実施(告知)方法、おおよその参加人数について、またアンケートを受けて今までにどのような変更があったかを教えてください。

**A1.** 今年度(2022 年度)のアンケートは 2022 年 7 月 4 日から 21 日まで実施し、194 人の方から回答を頂きました。このアンケートは大学生協全体で取り組んでいるものです。回答の中では、価格や味、混雑状況への評価もありましたが、給茶機への要望が相当数ありました。現在、カレーの中盛りは税抜 280 円で提供しており、生協としては頑張っています。これ以上の値下げは経営的に無理です。昼休みの時間が決まっており多くの学生さんが利用されるため、時には 40 分に 400 人もいらっしゃいます。短時間で沢山の学生さんが次の授業に間に合うようにしなければならず、そのためにはある程度の人件費が必要になります。東工大特有の傾向としては、学生さんからの要望では、価格と同じくらい健康面や栄養バランス、野菜についての意見が多いです。アンケートを受けて小鉢系の商品を増やしました。

**Q2.** 学勢調査に寄せられた意見の中で、丼ものを大盛りにした時にご飯だけでなく具も大盛りにしてほしいという意見も多数あったのですが、これは可能でしょうか？

**A2.** 商品によって変わってきます。例えば竜田丼などは具の大きさが決まっているため、具を大盛りにはできません。東工大パワー丼は、現状大盛りになると具も増えています。

### 3 施設関連

#### 提言

以上を踏まえまして、次のことを提言いたします。

1. 生協食堂のメニューに、量に対するコスパ重視の東工大オリジナルメニューを追加する
2. 丼ものの具材を大きくする
3. アンケートをこまめに実施したり意見箱を設置したりすることで、学生の意見を細かく反映する(特定のメニューに対して等)

オリジナルメニューの選定の際には、アンケートにより学生から意見を募ることを提案いたします。そのアンケートの実施・集計に学生が参加することも検討しております。

丼ものの具材を大きくすることに関しましては、値上げがやむを得ない場合、その分具材が大きくなったと感じられることが必要だと考えております。

特に1つ目につきまして、コロナ禍や物価高騰などの社会情勢により生協側の経営状況も厳しいかとは思いますが、学生の生活支援のため、是非ともご検討頂きますよう、よろしくお願いいたします。

### 学生の意見

- 体育館アリーナに空調をつけて欲しい。(同様意見 20 件)

### 現状分析

大岡山キャンパスにある体育館のアリーナには、現在空調設備がありません。そのため、特に夏場などにはアリーナ内の気温が非常に高くなり、館内で活動を行う上で熱中症など体調不良者が出るのが懸念されています。このような状況を受けて、学勢調査には、過去の調査から継続して「体育館アリーナに空調設備が欲しい」との意見が寄せられています。

体育館に導入可能な空調設備は、大きく以下の三つに分けられます。

- エアハンドリングユニット
- 汎用パッケージエアコン(ガス式:GHP、電気式:EHP)
- スポットエアコン

エアハンドリングユニットは、オーダーメイドが基本の大規模な設備であり、高性能であるものの非常に高価なシステムのため、アリーナへの導入は費用対効果に優れないと思われます。そのため、現実的であると思われるのは汎用パッケージエアコンおよびスポットエアコンとなります。

汎用パッケージエアコンは、基本的に既製品であり、エアハンドリングユニットと比較すれば安価な価格で導入が可能です。床に置くタイプや天井に設置するタイプ、室外機の形式などでさまざまな種類があります。

一方のスポットエアコンは、局所的に冷風を送る空調設備です。そのため一般的なスポットエアコンは、体育館のような広い空間を冷やすのに最適ではありませんが、人がいるところに対し冷風を送ることで熱中症を予防する効果が期待されます。また、体育館のような大きな空間を冷やすことを重視したスポットバズーカ<sup>1</sup>(図 3-4.1)のようなスポットエアコンは、より効果的に体育館における空調としての機能を果たすことが可能です。スポットエアコンタイプは汎用パッケージエアコンよりもさらにコストを抑えて導入できる点もメリットの一つです。



図 3-4.1 スポットエアコンの例(スポットバズーカ)

<sup>1</sup> イーズ スポットエアコン URL <https://esinc.co.jp/goods/spot-school-2/> (最終閲覧 2023/03/22)

### 3 施設関連

以上の現状を踏まえ、学生支援課生活支援グループとのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

- Q1.** 現在、体育館アリーナにおいて利用できる空調設備等はあるのでしょうか。またそれらの利用状況はいかがでしょう  
うか
- A1.** 体育館アリーナ以外には空調があります。アリーナには大型の扇風機が存在し、サークル活動などで利用しています。扇風機などは要望を聞いて買い替えや買い足しなどを行っています。
- Q2.** 体育館アリーナに空調設備を設置する際にハードルとなる要素はどのようなものがあるのでしょうか。
- A2.** これまでも検討してはいますが、古い建物なので効率よく空調を設置するのは難しいです。屋根に当たる直射日光が効率を落とすという問題もあります。また、施設整備課にも検討してもらっていますが予算の問題も大きいです。式典などでも使いますので、空調の需要はあると認識していますが、費用対効果が優れないという状態です。

## 提言

以上を踏まえて、体育館アリーナにおける冷房の設置について以下のように提言します。

### 1. 体育館アリーナへのスポットエアコンの導入

コストを考慮して、比較的成本の小さいスポットエアコンの導入を提言します。一般的なスポットエアコンは体育館のような広い空間では効果が少ないとされることもありますが、現状分析で述べたような体育館向けのスポットバズーカのようなスポットエアコンであれば、コストを抑えた上で、暑さ対策として非常に有効であると思われます。また、費用対効果に懸念があるようであれば、まずはリース方式などの方法も検討することで、より費用を抑えた導入が可能であると考えます。

### 学生の意見

- キャンパス内にゴミを捨てられる場所を増やして欲しい。(同様意見 20 件)
- 附属図書館にゴミ箱を設置して欲しい。(同様意見 40 件)

### 現状分析

現在、東京工業大学の大岡山キャンパスでは、講義室や Taki Plaza にはゴミ箱の設置があるものの、屋外にはほとんどゴミ箱が設置されていません。この現状に対して、2016 年の学勢調査以降、「ゴミを捨てる場所が少ない」「ゴミ箱を増やして欲しい」という意見が継続して多くの学生から寄せられています。

キャンパス内の屋外エリアにゴミ箱が設置されていないということは、他大学と比較しても稀なケースです。実際、東京大学、一橋大学、慶應義塾大学などのキャンパスには屋外エリアにゴミ箱が設置されています。このことを踏まえると、東工大において屋外にゴミ箱を設置することは不可能ではないと思われます。

ただし、下記の安全企画課とのキャンパスミーティングでの回答 A1.にもあるとおり、運用の面で問題となる点が存在していることも事実です。しかし、それらの問題については、ゴミ箱の撤去という形ではなく、運用方法の変更等によって対応することで、学生のキャンパス利用の利便性を維持していくことが可能であると考えます。例えば、回答 A1.ではカラスによるゴミ荒らし、不審物の問題、ゴミ捨てのルールが守られない、などの問題が挙げられていますが、これらは蓋付きのゴミ箱の導入、中身の見えるゴミ箱(図 3-5.1)の導入や、ゴミ捨てルールを明確化して周知する等の方法で、ある程度の効果が見込めると考えます。

このような対応をとり屋外にゴミ箱を設置することは、利便性の向上だけでなくゴミのポイ捨ての防止も期待でき、またキッチンカーなどのキャンパス内サービスの利用促進にもつながると考えます。



図 3-5.1 中身の見えるゴミ箱<sup>1</sup>

以上を踏まえて、安全企画課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 大学構内の屋外におけるゴミ箱の数が少ないと思われませんが、理由などはございますか。

A1. 平成 28,29 年に屋外のゴミ箱について大学内のある会議で議論がありました。カラスによるゴミ荒らし、不審物の問題、ゴミ捨てのルールが守られない、社会のゴミ箱撤去の流れなど様々な点についての議論がなされ、3,4 ヶ月の試行期間を設け、問題がないことを確認した上で、ゴミ箱を徐々に削減したという経緯があります。

<sup>1</sup> 株式会社シロ産業 ステンレス分別ゴミ箱(中身確認透明扉) URL:

<https://www.webshiro.com/syohinsetumei9/M458S-271LSA.html> (最終確認 2023/03/22)



### 3 施設関連

Q2. 大学構内におけるゴミ箱の増設に関して、現在行われている/検討されている対策などがありますでしょうか。

A2. 今のところ検討はしていません。ゴミを捨てる際は講義室のゴミ箱を利用していただきたいと考えています。

## 提言

以上を踏まえまして、以下のように提言いたします。

### 1. キャンパス内屋外エリアへの容量の大きいゴミ箱の設置

キャンパス内の屋外エリアにゴミ箱を再設置することで、利便性の向上、ポイ捨ての防止などが期待できます。また容量の大きいゴミ箱を設置することによって、ゴミが溢れ出すなどの問題に対応することが可能であると思われます。また、場合によっては中身の見えるゴミ箱や防鳥のゴミ箱を導入することで、防犯や動物によるゴミの荒らしに対応可能だと考えます。

# 4 サービス関連

## 学生の意見

- 博士後期課程進学後も、修士までの成績証明書を自動発行機で発行できるようにしていただきたい。(同様意見 2 件)
- 在学証明書や成績証明書のオンライン発行サービスがほしい。(1 件)

## 現状分析

証明書自動発行機で発行できるのは次の通りです<sup>1</sup>。

- 在学証明書(和文及び英文)
- 学業成績証明書(和文及び英文)
- 卒業見込・修了見込証明書(最終学年時のみ発行可能)
- 卒業・成績証明書(本学の学部卒業生で引き続き大学院に進学した者)
- 健康診断証明書
- 学生学校生徒旅客運賃割引証(通称「学割」)
- 通学定期券購入証明書
- 学業成績書(学部・本人確認用)

このうち、成績証明書と卒業証明書について、本学の学士課程の卒業生で修士課程に在籍している学生は学士課程の時のものが発行できますが、博士後期課程に在学中の場合、本学の修士課程を卒業していてもその成績証明書と修了証明書の発行はできず、教務課で別途申請する必要があります。

成績証明書・修了証明書は就職活動、留学、奨学金の申請等で必要なものであるため、今回博士後期課程の学生でも簡単に申請ができるようになれば、より各諸手続きがスムーズになると考えます。また、博士後期課程学生における就職活動は、進学理由の 2 番目に割合として多く(図 4-1.1)、また留学希望も他の課程と比べて割合が多い(図 4-1.2)ことから、需要もあると推察されます。

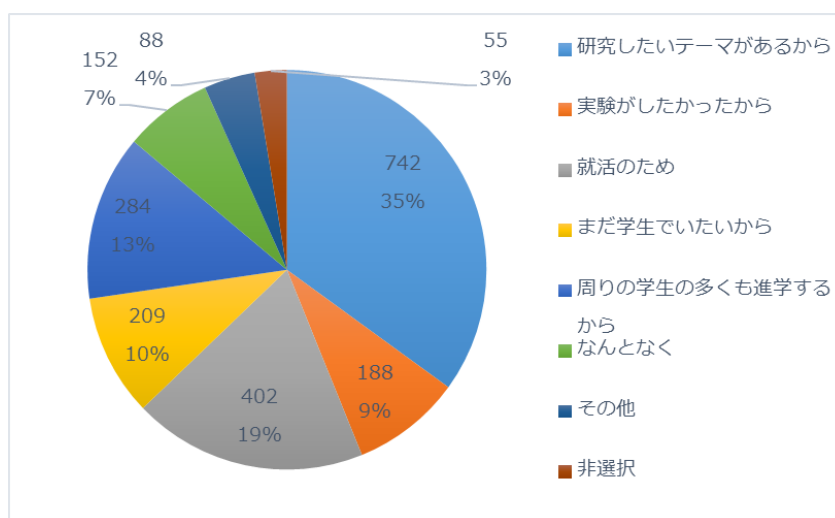


図 4-1.1 博士後期課程に進学した、または進学希望である理由

## 4 サービス関連

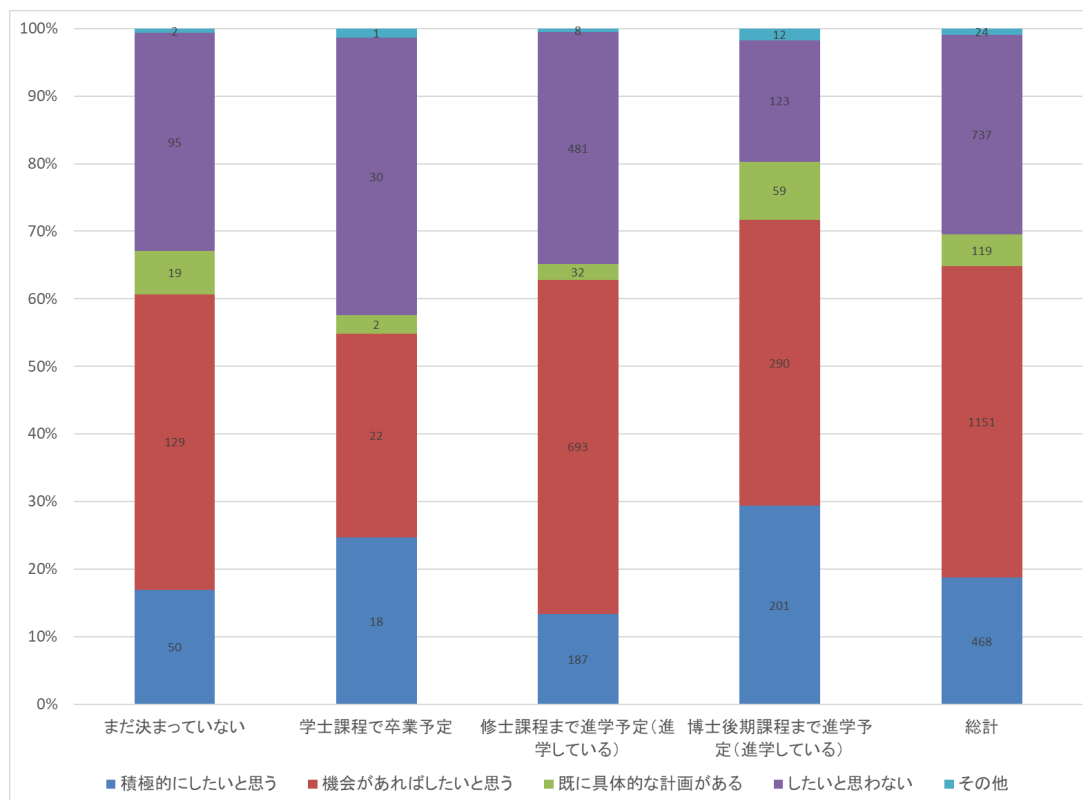


図 4-1.2 課程別の留学をしてみたい人の割合

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

**Q1.** 博士後期課程に所属する学生のみ前課程の成績証明書・修了証明書の発行を教務課で申請する必要があるのはなぜでしょうか。

**A1.** 博士後期課程と修士課程の成績証明書に関しては、修了論文の題目を入れる必要があります。論文題目の中にはテキストデータで表示できないものもあるため、学位申請書の論文題目は画像として一括で切り取ったデータを使用しています。画像データを証明書に反映させるのは、現状システム上の問題のために証明書発行機で発行することができません。

**Q2.** オンラインで成績証明書や修了証明書を PDF で発行するようなことは系統的に可能でしょうか、また検討しているのでしょうか？

**A2.** 今は対応できていないです。発行機も数年前のものなので、最新の発行機では対応できるかもしれません。しかし、PDF で発行する必要があるのか分らないです。偽造防止用紙を使用しているため、PDF にすると偽造の恐れもあります。

**Q3.** 海外の大学院への応募等は PDF でスキャンして提出する場合があるが、そのような場合でも紙で発行するのでしょうか。

**A3.** PDF が良いという場合は個別に対応しているところもあります。

### 提言

証明書自動発行機で、博士後期課程に在学中の本学の学生が修士課程の成績証明書および修了証明書を発行できるように提言します。現状の証明書自動発行機は、博士後期課程の成績証明書・修了証明書に対応していないため、発行機の刷新を提言します。また、現在 PDF への対応は個別でできていることから、今後海外の大学院への出願件数の増加といった需要が増えた場合にオンライン化を検討することを提言します。

学生の意見

- 書類申請のオンライン化(同様意見 18 件)
  - RA・TA などの勤務報告書の提出のオンライン化(6 件)
  - 入学手続きのオンライン化(5 件)
  - その他、授業料免除や各種支援制度の手続きのオンライン化

現状分析

現在、東工大では学生が RA(リサーチアシスタント)または、TA(ティーチングアシスタント)などの学生アシスタントとして業務に従事した場合、Excel ファイルで勤務報告書(図 4-2.1)を作成し、予算を担当(管理)している教員の所属する事務グループへ毎月印刷したものを提出することになっています。緊急事態宣言下では、メールや Slack で学生勤務報告書を提出することができましたが、宣言解除された現在、部署によって対応が分かれています。私たち学勢調査の学生スタッフは、謝金を頂きながら提言作成にかかわっています。そのため、勤務報告書を提出していますが、窓口での提出のほかメールや Slack での提出が可能です。一方で、研究室で TA や RA として勤務し、所属している学院の事務室に勤務報告書を提出する際には、印刷した勤務報告書を提出することになっており、メールや Slack での提出は認められておりません。また、業務ごとに確認者となる教員のサインをもらう必要があり、学生の負担になっていると考えます。

2022年4月 勤務報告書 学生アシスタント(TA・RA・謝金従事者等)

期間: 2022/4/1 ~ 2022/4/30 所属: \_\_\_\_\_ 学籍番号: \_\_\_\_\_ 連絡先: 内線等 \_\_\_\_\_

業務従事者氏名: \_\_\_\_\_ 署名(自署): \_\_\_\_\_

日	時	0 8時	0 9時	0 10時	0 11時	0 12時	0 13時	0 14時	0 15時	0 16時	0 17時	0 18時	0 19時	0 20時	0 21時	1	2	3	4	業務内容(TA, RAの場合)
4/1	金															0:00	1:15	0:00	0:45	〇〇研究室補助
4/2	土															0:00	0:00	0:00	0:00	〇〇研究室準備等
4/3	日															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/4	月															7:30	0:00	0:00	0:00	
4/5	火															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/6	水															5:10	0:00	0:00	0:00	〇〇研究室準備等
4/7	木															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/8	金															0:00	1:15	0:00	0:00	
4/9	土															0:00	0:00	0:00	0:00	〇〇研究室補助
4/10	日															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/11	月															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/12	火															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/13	水															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/14	木															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/15	金															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/16	土															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/17	日															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/18	月															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/19	火															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/20	水															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/21	木															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/22	金															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/23	土															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/24	日															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/25	月															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/26	火															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/27	水															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/28	木															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/29	金															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/30	土															0:00	0:00	0:00	0:00	
4/31	日															0:00	0:00	0:00	0:00	

業務コード	業務内容	金額
1	TA	1,000
2	RA1	2,000
3	RA2	3,000
4	謝金	1,000

確認者: 理学院〇〇系 理学院〇〇系 理学院〇〇系 理学院〇〇系  
 氏名: 教授 大岡 山 准教授 すずかけ 台 准教授 すずかけ 台 教授 大岡 山  
 署名: 大岡 山(自署) すずかけ 台(自署) すずかけ 台(自署) 大岡 山(自署)

図 4-2.1 学生アシスタント勤務報告書

学勢調査では以前からペーパーレス化・書類手続きの簡素化を求める学生の意見が寄せられており、大学に対して、提言を行ってきました。2018 年度に実施した学勢調査 2018 でも、今回の学勢調査 2022 と同様、ペーパーレス化を希望する学生の意見が寄せられておりましたので、それに対する提言をいたしました(提言 4-1「ペーパーレス化の推進」)。その際に、人事課とのキャンパスミーティングで以下のやりとりがありました。

Q1. 勤務報告書の手続きを Web 上で完結することに対して問題点は考えられますか。

## 4 サービス関連

A1. 2019年4月からの働き方改革を受けて教職員の勤務状況をしっかり把握しなければならなくなったこともあり、勤務報告の手続きを Web 上で行う手続きの検討を始めています。現在、他大学を視察し、他大学の動向も踏まえ検討している最中です。しかしながら、まずは教職員の方を先に導入することを考えていますので学生の方の導入は遅れることが予想されます。

また、2020年度に実施した学勢調査2020では、留学に必要な6つの書類のペーパーレス化を提言し(提言4-14「留学手続きのペーパーレス化」)、2022年4月から東工大電子申請システム(T2APPS)から一部の書類の提出ができるようになりました。このように東工大においてもペーパーレス化が進んでいることから、学生勤務報告書についてもオンラインでの提出が可能であると考えます。

これらの現状を踏まえて、人事課労務室に質問をいたしました。また、留学生交流課とはキャンパスミーティングを実施しました。それぞれ、以下のような回答をいただきました。

Q1. 学勢調査2018から3、4年ほどたった現在、教職員の勤務報告書のペーパーレス化や Web 上で行えるシステムの導入などはどれほど進んでいますか。

A1. (人事課労務室)システム開発を経て、常勤事務職員については2022年1月から勤怠管理システムによる勤務管理を開始し、2023年1月から非常勤職員(※)にも利用範囲を拡大しました。これにより Web 上での出退勤の打刻や、勤務等記録簿、休暇簿等の各種書類のペーパーレス化が進みました。

また、大学統合が発表されましたが、新大学における職種や勤務形態など、勤務にかかわる制度の検討を行う必要があるため、現在の勤怠管理システムの利用範囲の拡大は現時点で停止しております。

※事務局所属の非常勤職員(特任専門員は除く)

Q2. Web 上で行えるシステムを TA・RA 学生が使用できるまでのスケジュールや計画があれば、教えていただけますでしょうか。

A2. (人事課労務室)大学統合のこともあるため、現時点では見通しは立っていない状況です。

Q3. 事務処理支援サービスを使用した教職員および学生の反応はどうか(作業の手間が省けた。以前の申請方法との比較など)。

A3. (留学生交流課)既存の決済サービスを活用しているため、使いづらい部分は存在しています。学生からの反応としては、使い方が分からないといった意見をいただきます。負担が増えたという意見はなく、使いやすくなったといったポジティブな意見もありません。教員からの反応としては、長く東工大にいる方から手続きが煩雑で難しいという意見をいただきます。事務としては、書類が減り、申請状況の把握などもできており助かっています。

## 提言

以上を踏まえて、学生勤務報告書のペーパーレス化について以下のように提言します。

- 学生勤務報告書のオンライン手続きのシステム導入を提言いたします。
  - しかし、人事課労務室からの回答にもありましたように、大学統合による勤務制度の検討が必要なため、オンラインでの学生の勤務管理は難しいと考えます。そこで、大学統合までの期間は、暫定的に全学で現行の勤務報告書をメールや Slack での提出が可能にさせていただきたいです。
  - 大学統合後にオンラインでの勤怠管理システムを学生へとすみやかに拡大をお願いします。

## 学生の意見

- Adobe アカウントの無償配布、または安価での提供。(類似意見 55 件)

## 現状分析

Adobe(アドビ)社<sup>1</sup>が提供しているサービスの中に、Adobe Creative Cloud コンプリートプラン(以下、Adobe CC)という Adobe 社のアプリをすべて使用することができるプランがあります。時期により 1 年目の割引率の変動がありますが、学割を適用して Adobe CC を購入する場合、1 年目は 1738~1980 円/月(20856~23760 円/年)、2 年目以降は 3278 円/月(39336 円/年)と、学生にとっては少し高価なものになっています<sup>2</sup>。Adobe CC を全学導入(包括契約)している国公立大学は 20 大学<sup>3</sup>であり、その中に東工大も含まれています。そのため、東工大の学生は、研究室または学内にある大学所有 PC で Adobe CC の共有デバイスライセンスを利用して、Adobe 社のソフトを無償で使うことが可能です。

しかし、コロナ禍で大学に行く機会が減ってしまい、研究室にある大学所有 PC や学内にある教育用電子計算機を使用することが難しくなってしまった他、教育用電子計算機にインストールしている Adobe Font 内のフォントや、Adobe CC 内のアプリが少ないなど、Adobe CC の機能に大きな制限があります。また、講義やサークルで使用する際に満足にアプリを使えないといった声が、今回の学勢調査で寄せられました。

## 他大学の例

Adobe CC に関して他大学の状況を共有いたします。多くの大学では Adobe CC を全学導入してなかったり、東工大と同じく大学所有 PC のみの利用に限られていたりします。しかし、一部の大学では、通常の学割よりも高い割引率で Adobe CC を提供できており、東工大においても実現可能性があると考えます。

- 東京工芸大学<sup>4</sup>
  - 芸術学部生、大学院芸術学研究生及び専任教員のみ個人所有の PC での利用が可能
- 横浜国立大学<sup>5</sup>
  - 東工大と同じく、大学が保有・管理する PC(※私物 PC は対象外)
- 北海道大学<sup>6,7</sup>
  - 東工大と同じく、大学が保有・管理する PC(※私物 PC は対象外)
  - ただ、北海道大学の生協では、Adobe CC を北大生限定で販売しており、「Adobe Creative Cloud 包括ライセンス A 1 年間」では税込み 8000 円で提供されている
- 学生用ライセンスパック <https://www.adobe.com/jp/creativecloud/buy/education.html>
  - コンプリートプラン 15,576 円(年額税込、最低発注本数:30 本~)が Adobe 社から提供されている。
  - 脚注には「発注本数に応じて価格割引」とあるため、確認はしていないが北大はこの価格割引の一例かもしれない。

<sup>1</sup> Illustrator や Photoshop などのクリエイティブツールや、Adobe Acrobat に代表される文書のデジタル化を促進するツールを提供している米国企業

<sup>2</sup> Adobe 社 Creative Cloud 学生・教職員個人向け (最終閲覧 2023/3/26): <https://www.adobe.com/jp/creativecloud/buy/students.html>

<sup>3</sup> Adobe 社 Creative Cloud 教育機関向け | 大学・高等教育機関 (最終閲覧 2023/3/26): <https://www.adobe.com/jp/creativecloud/buy/education.html>

<sup>4</sup> 東京工芸大学 情報処理教育研究センター【学生・専任教員個人用】Adobe 製品 インストール手順 (最終閲覧 2023/3/26): <https://www.cc.t-kougei.ac.jp/manuals/adobe-home/>

<sup>5</sup> 横浜国立大学 情報基盤センター Adobe 製品の利用 (最終閲覧 2023/03/26): [https://www.itsc.ynu.ac.jp/class/adobe\\_apply.html](https://www.itsc.ynu.ac.jp/class/adobe_apply.html)

<sup>6</sup> 北海道大学 情報環境推進本部 本学提供ソフトウェアについて Adobe ライセンス (最終閲覧 2023/03/26): [https://www.oicte.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2020/12/Adobe\\_00.pdf](https://www.oicte.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2020/12/Adobe_00.pdf)

<sup>7</sup> 北海道大学生協【在校生向け】Adobe ライセンス (最終閲覧 2023/3/26): <https://ec.univ.coop/shop/c/c0106/>

#### 4 サービス関連

以上の現状を踏まえ、学術国際情報センターとのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. Adobe ソフトは現在、大学所有 PC のみの利用に限られていますが、実際に学生にどのくらい利用されているのでしょうか

A1. 統計がないので把握できていません。ポータル経由のダウンロードは年間 4000 程度あります。

Q2. MATLAB や Microsoft Office は、学生の個人利用 PC でも使用できますが、Adobe は利用できないのはなぜでしょうか。学生が使用できるソフトの選別基準などはあるのでしょうか。

A2. 全学生に配布する目的のソフトではないため。東工大では、包括系ソフトウェアを以下の 3 種類に分類しています。

- 研究系ソフトウェア
  - ◇ 研究室などで研究目的で利用するためのソフトウェア。以前は一部の部局で使用していたものを他部局でも利用できるようサイトライセンスを結んだ。個人 PC で利用できるかどうかはソフトウェアによる。スパコン(TSUBAME)の一部として契約しているソフトウェアもある。MATLAB や ChemOffice / ChemDraw などが該当。
- 事務系ソフトウェア
  - ◇ 業務に用いるソフトウェアであり、以前は個別に購入していたが、トータルコスト削減やライセンス不正使用の防止のために包括契約を結び複数部局で利用している。Microsoft Office や Adobe が該当。
  - ◇ Microsoft Office の場合、全教職員分の契約を結ぶと学生分ライセンスが無償で提供される教育機関向けライセンスプログラムがあり、その包括契約を結ぶことで学生が無償で利用できるようになっている。
  - ◇ Adobe の場合、業務での PDF の閲覧/編集(Adobe Acrobat の使用)が主目的である。Acrobat のみのパッケージは提供されておらず、Adobe CC として契約している。元々が業務目的であるため、学生所有の個人 PC での利用は契約に含まれていない。
- セキュリティソフトウェア
  - ◇ 安全上、全ユーザーに対してインストールを推奨し、購入しているソフトウェア。個人 PC へのインストールも可能。

また、キャンパスミーティングの中で、Adobe では教育機関がまとめて購入し、学生用に割り当てる学生ディスカウント(以下、学生用ライセンスパック)を提供している<sup>1</sup>と説明があり、学生用ライセンスパックに関するお話についても聞かせていただきました。学術国際情報センターからうかがったお話の一部を紹介いたします。

- 学生用ライセンスパックの適用を検討しましたが、実施には至っていません。
  - ライセンス数を決めて卸売をするため、売れ残った場合の費用負担が大きいです。
  - 人数(ライセンス数)により値段が変動します。
    - ◇ 現状分析の他大学の例で取り上げた北海道大学は総合大学であり、需要が多いため安く提供できていますが、東工大でどの程度の割引価格が適用されるのかは分かりません。
- 学生 Slack などを利用して購入希望人数がある程度確定できれば、Adobe 社への割引価格の確認については GSIC で対応します。
- その後の販売方法(大学生協との契約?)やライセンス管理方法、それらの工数確認などの検討も必要です。可能ならば、受益者負担として購入希望の学生の協力も得られるとありがたいです。
- 学生用ライセンスパックはユーザ指定ライセンスなので、サークルでの不特定多数による利用はライセンス違反となります。

<sup>1</sup> Adobe 社 Creative Cloud 教育機関向け | 大学・高等教育機関 (最終閲覧 2023/3/26) :

<https://www.adobe.com/jp/creativecloud/buy/education.html>

## 提言

以上を踏まえて、学生向け Adobe アカウント導入に向けた支援について以下のように提言します。

- 学生用ライセンスパックの導入
  - まず初めに、Adobe CC を個人 PC への導入を希望する学生数の把握
  - その後、希望する学生数が多い場合、希望する学生の代表となる学生有志団体の設立を呼びかける
    - ◇ 学生有志団体: 希望する学生の取りまとめや、不正利用対策や学生用ライセンスパックの販売方法の検討など、大学の関係部署と学生との調整役として導入に向けて主体的に動く団体



## 学生の意見

- 学士課程での就職・早期卒業者への支援、博士後期課程後の就職状況など就職情報へのアクセスや、奨学金の情報を知る機会を増やしてほしい。(類似意見 9 件)

## 現状分析

### 奨学金

学生の意見として、教務 Web システムの所属情報を利用して対象となる奨学金・支援制度を表形式にして一覧で見られるようにして自分に合うものを見つけたい、奨学金の情報を簡単に得たいとの声がありました。現在、東工大の学費・奨学金のホームページや窓口で、奨学金や支援制度の情報を得ることができるほか、一部の奨学金に関しては東工大メールアドレス(以下、m アドレス)あてに奨学金の情報やホームページへの紹介メールが送られてきます。しかし、ホームページをつぶさに確認しないといけないため、学生に負担がかかっていると考えます。

### 就職情報

学勢調査において、就活情報を知る機会を増やしてほしいといった意見もある一方、就活情報メールをもう送ってこないでほしいとの意見も見られました。また、英語での就活情報の配信や、学士・修士・博士後期課程の就活情報といった学生の所属や条件に合わせた情報配信や内定者の就活経験を後輩に伝える機会がない、との意見がありました。大学には様々な背景を持つ学生がおり、ダイバーシティ&インクルージョンを推進していく中で、個別状況に合わせて就活情報を提供することが難しくなることが懸念されます。

現在の東工大でのキャリア情報の取得方法を紹介します。

- 紹介メール(東工大生に一斉送信、または対象者に向けたメール)
  - 東工大の学生支援センター未来人材育成部門では、m アドレスあてにキャリア相談窓口から就職活動イベントの紹介メールが多く送られてきます。2022 年 1 月から 2023 年 1 月末までに 55 件のメールがありました。
  - メールで紹介されたイベントの中で、内定者学生と就活を始める学生との交流イベントは、9/21,22 に実施された「夏休みキャリアガイダンス～就活を終えた先輩の話を聞こう～」の 1 件
- キャリア相談窓口
  - キャリアアドバイザーと就職に関する相談ができ、教務 Web システムを通して面談の予約が可能
- 就活体験記
  - 教務 Web システムから 2019 年以降に投稿された体験記を閲覧することが可能
  - 2018 年以前のは就活資料室で閲覧可能
  - 就職体験記についてのメールが、2-3 月に就職対象者に向けて送られてきた投稿のお願いのメールのみであり、あまり認知されていない可能性がある

また、東工大のキャリア・就職支援のホームページでは、学校推薦や専門分野特有の就職情報は、各系・学科・専攻のみが取り扱っている場合があり、各学院・系の教員や事務職員の方への相談が推奨されており、留学生の就職支援に関しては、JAPI(日本国際化推進協会)を始めとした団体への相談を紹介しています。

学生の意見でもありましたが、内定者と就活生との交流の場が少ないといった課題や、就職体験記の認知度の低さにより情報発信が不足していると考えられます。

以上を踏まえて、学生支援課(経済支援グループ)および学生支援センター未来育成人材部門(キャリア支援)とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

**Q1.** コロナ前(2020 年以前)とコロナ後(2020 年以後)における奨学金や就活情報の問い合わせ数、奨学金申請数の変動を教えてください。

**A1.** (学生支援課・経済支援グループ)コロナ前後で変化はあまりない。

(学生支援センター未来育成人材部門・キャリア支援)コロナ後は相談件数が 25%増えている。

Q2. コロナ禍になり、学生が大学キャンパスに来ないなどといったことがあり、情報発信が難しくなったと思います。奨学金や就活情報の発信に関して、コロナ前から取り組んでいること、そしてコロナ禍から新しく取り組んだことがありましたら教えていただきたいです。

A2. (学生支援課・経済支援グループ)奨学金の情報を詳細に分類しすぎると見づらかったり、条件が別々になってしまったりと余計に複雑になってしまう。そのため、学生自身が調べる形になってしまっている。留学生に対しては、出身国によって対応が異なるため、条件が合致した人に対しては個別にメールが送信される。

また、奨学金や支援制度をメールや窓口で相談する上で、学年や所属を明らかにしてもらえるとありがたい。

(学生支援センター未来育成人材部門・キャリア支援)コロナ後は大学の入構制限があったため、すぐに Zoom 相談に切り替えた。就職ガイダンスも Zoom で配信し、その後 Webiner 登録者に対して録画を提供。就活体験記は、就職ガイダンスでも紹介している。

## 提言

以上を踏まえて、奨学金や就職情報の発信強化について、以下のように提言します。

- 既存の仕組み(ホームページや学院や系の相談窓口など)の広報や認知度の向上に向けた取り組みの実施を強化する。
  - 全学利用の Slack を活用
    - ◇ 「#修士\_奨学金」や「#博士\_就活情報」といったチャンネル分けをし、希望者が参加する形に。
- (学生支援センター未来育成人材部門・キャリア)内定者と就活生の交流の機会を増やす。
  - 2022 年 9/21,22 に実施された「夏休みキャリアガイダンス～就活を終えた先輩の話を聞こう～」のようなイベントの開催回数を増やし、学生間での情報共有や、内定者を通して就活生に向けた就職イベントの広報などを実施
    - ◇ 就職活動の経験を後輩に伝えたいとの声があり、就活生にとって同じバックグラウンドを持つ先輩の体験談が非常に参考になる。

### 学生の意見

No.56「留学を考える上で何か障壁はありますか。」という質問に対する回答。

- 「語学に自信がない」(選択式回答、1314 人/2671 人、全体の 49%)
- 「経済的理由」(選択式回答、1271 人/2671 人、全体の 48%)
- 「情報がない」(選択式回答、326 人/2671 人、全体の 12%)

No.59「留学に関する取り組みについて、良いと思うもの(複数選択可)」という質問に対する回答として、以下のものを選択した学生の人数も多かったです。

- 「留学奨学金」(選択式回答、839 人/2671 人、全体の 31%)
- 「留学コンシェルジュ」(選択式回答、492 人/2671 人、全体の 18%)
- 「留学イベント」(選択式回答、419 人/2671 人、全体の 16%)
- 「グローバル理工人育成コース」(選択式回答、508 人/2671 人、全体の 19%)

また、No.55「留学しようと思ったきっかけを教えてください」という質問に対する回答として、以下のような自由記述の回答が見られました。

- 留学しようと思ったきっかけとして、留学なら資金援助があること。(同様意見 6 件)

### 現状分析

学勢調査 2022 では、留学に関する制度についての意見が多く寄せられています。本提言では、留学に関する現行制度についての分析を行い、1.奨学金、2.留学コンシェルジュ制度、3.留学イベント、4.グローバル理工人育成コース の 4 つに注目して提言をまとめました。

全体の約 70%が(程度に差はありますが)留学してみたいと回答しました(図 4-5.1)。しかし、アンケート実施時には全体の約 80%の学生が留学していません(図 4-5.2)。このギャップがどのように生まれているのかを見ると、留学に関する主要な障壁の 1 つに、「経済的理由」(約 48%)があることがわかります(図 4-5.3)。

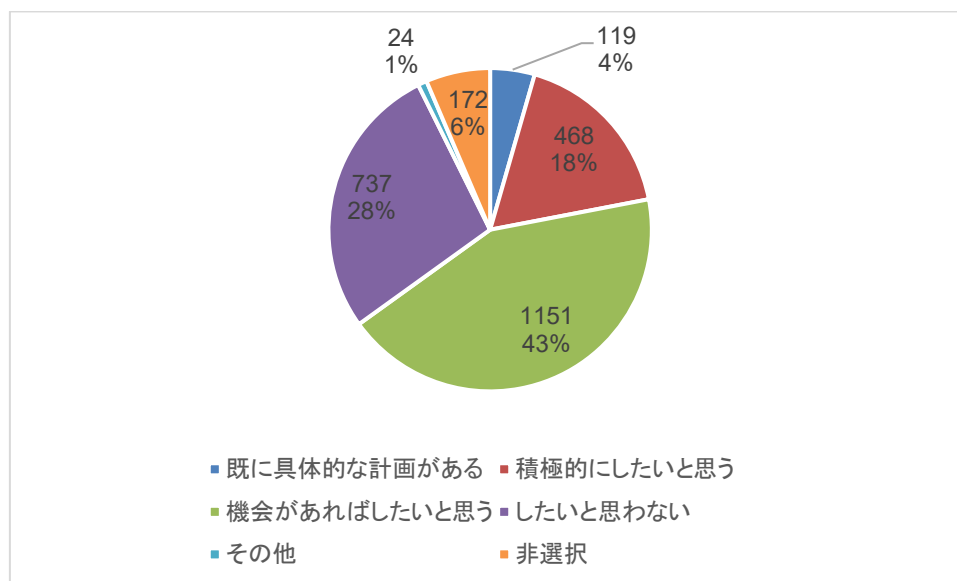


図 4-5.1 「留学をしてみたいと思いますか。」への回答割合

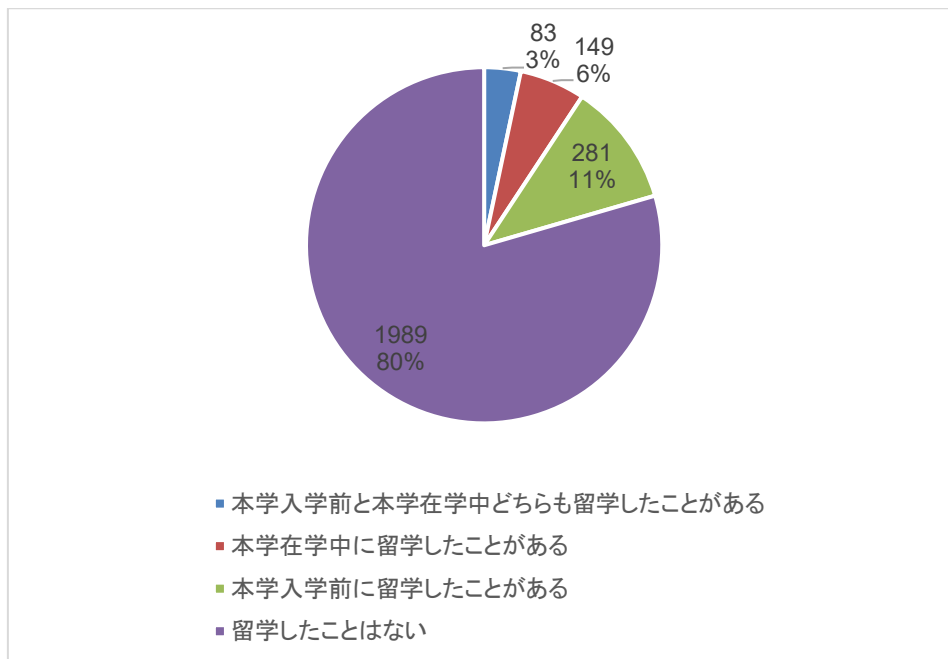


図 4-5.2 「あなたは留学したことがありますか。」への回答数

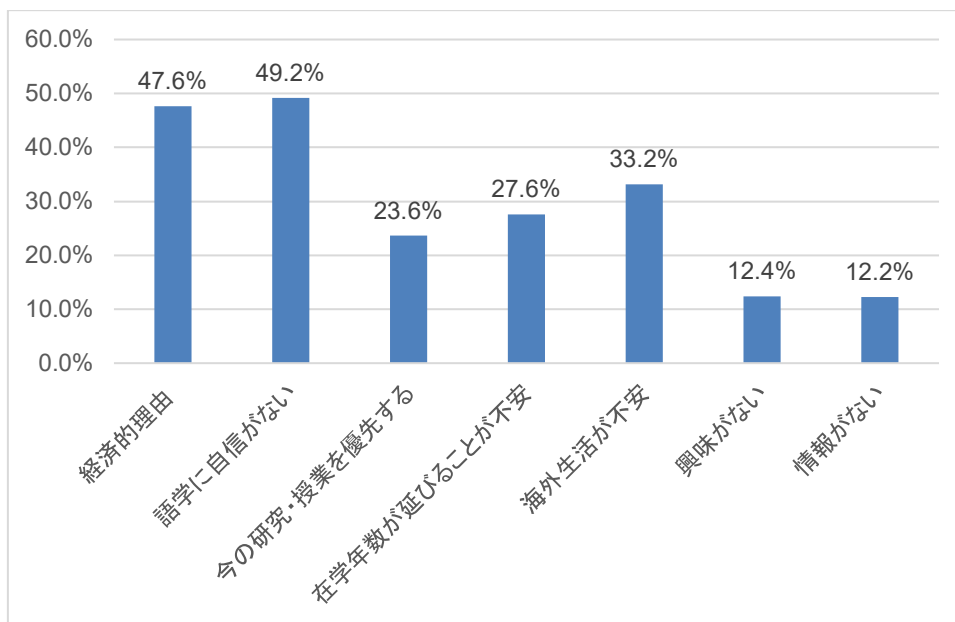


図 4-5.3 「留学を考える上で何か障壁はありますか。」における選択率

また、ここで、留学に関する東工大の取り組みについて、学生が良いと思っているものを紹介します。「留学奨学金」と回答した学生が 30%以上となっており、他の取り組みと比べても最も高い評価を得ていることがわかりました(図 4-5.4)。

#### 4 サービス関連

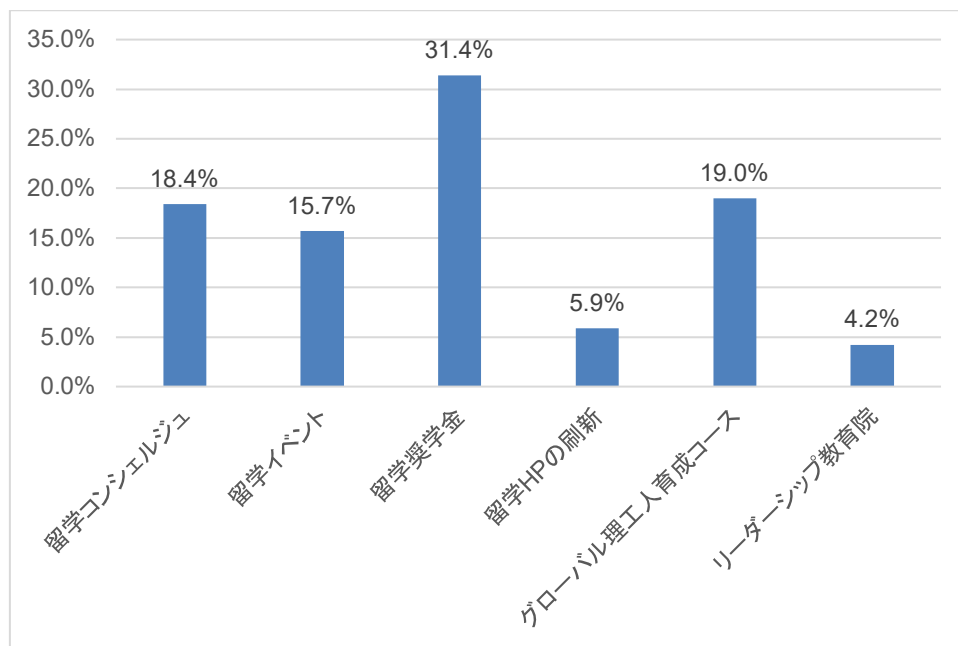


図 4-5.4 「留学に関する東工大の取り組みについて、良いと思うものがあれば教えてください。」への選択率

経済的支援が留学を促進するということに関して、以下、奨学金の利用が留学のきっかけとなった事例 6 件について紹介します。

「留学しようと思ったきっかけを教えてください。」という質問に対して、「留学ならば資金補助がある」という回答が 6 件ありました。具体的には、「B2D でお金が少し出るから」「グローバル理工系からのメールで、全く留学費用がかからない外部プログラムの留学の案内を見つけたため。」と、大学が実施している奨学金を利用できることを知ったことが留学のきっかけになったという回答がありました。「殻を破るぞ！越境型理工系博士人材育成プログラムに採択され、学外活動を行うため。」という回答もありました。本奨学金は、本大学が博士後期課程を対象に、生活費相当額の研究奨励費と研究費の支援を 3 年間受給するものです。

加えて、学外の奨学金である、「次世代研究者挑戦的プログラム(JST)に採択されたため」、との具体的な回答も 2 件ありました。学外奨学金を学内向けて周知することも、留学を促進するものと推察されました。

これらの現状を踏まえ、奨学金に関して留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答をいただきました。

**Q1.** (制度実態)昨年度の日本からの留学における奨学金の規模(金額と期間)とその対象者を教えていただけませんか？

**A1.** JASSO の奨学金は、全体で年間 5000 万円程、学生 1 人当たり 8 万円程利用可能です。東工大基金は、留学生交流課が把握している額で、(出資して下さる人数や金額により、年ごとに差が出る)全体で年間 500 万円ほど、こちらも学生 1 人当たり 8 万円程利用可能です。各財団が募集しているものもあり、この奨学金は多種多様。比較的期間が長い留学に行く学生は、各財団が募集している奨学金を利用する傾向があります。

**Q2.** (利用実態)昨年度の日本からの留学における奨学金制度の制度別利用者数と利用率を教えていただけませんか？

**A2.** GPA が 2.3 以上で応募が可能であるなど、間口が広いので、JASSO 奨学金は応募しやすいです。申し込んだ学生のうち、8 割程が審査を通ります。審査通らなかった、残りの学生が、東工大基金を利用する印象です。

**Q3.** (制度今後)今後の奨学金の拡大/縮小見込み等ありましたら、その背景(理由)を教えてくださいませんか？

A3. (拡大/縮小)JASSO の奨学金は、超短期的な(ex.8 日間)留学も受給の対象でしたが、来年度からは 31 日以上の留学が対象に変更されます。受給額に変更はありません。

(拡大/縮小)東工大基金は(Q1 にもあるように)、出資してくださる人数や金額により、全体の規模額が変わるため、年によって拡大/縮小があります。これに関しては、取り扱っている部署(留学生交流課の管轄外)の営業努力次第の部分もあり、年ごとに変化します。

(縮小)トビタテ！留学 JAPAN は、来年度から、高校生への支援を強化するにあたり、大学生の枠が減ります。毎年、本学の学生の採択が多かった印象ですが、採択数は減るだろうと予想しています。

(拡大)留学奨学金制度を実施する財団が、増えている印象はあります。

奨学金以外にも、留学に関する取り組みとして学生からの評判が良い(図 4-5.4)、グローバル理工人育成コース・留学コンサルジュ・留学イベントについても以下のように分析しました。

グローバル理工人育成コースは、奨学金に次いで学生からの評判が良い制度です(図 4-5.4)。また、留学における障壁(図 4-5.3)において約 50%を占める「語学に自信がない」および約 12.2%を占める「情報がない」という問題に対して効果的にアプローチが可能な制度であるように思われます。以下の図 4.5-5 および図 4-5.6 から分かるように、グローバル理工人育成コースは特に学士課程の学生からの評判がよく、「語学に自信がない」という学生に対して評判のよい制度となっていることが推測されます。また、コース履修生は、TOEIC/TOEFL の無料受験、オンライン英会話の無料受講の特典が優先的に受けられるなど、英語力向上のための機会が優先的に設けられていることも、半数を占める「語学に自信がない」と答えた層への、留学者を増やすという観点では非常に効果的な方法ではないかと考えられます。

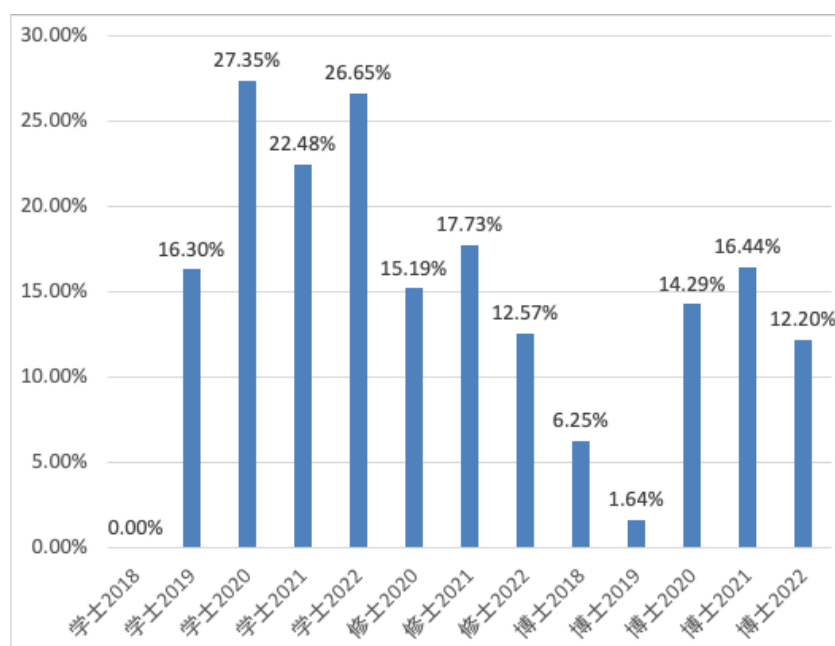


図 4.5-5 評価する取り組みとして「グローバル理工人育成コース」を選択した人の課程学年別割合

#### 4 サービス関連

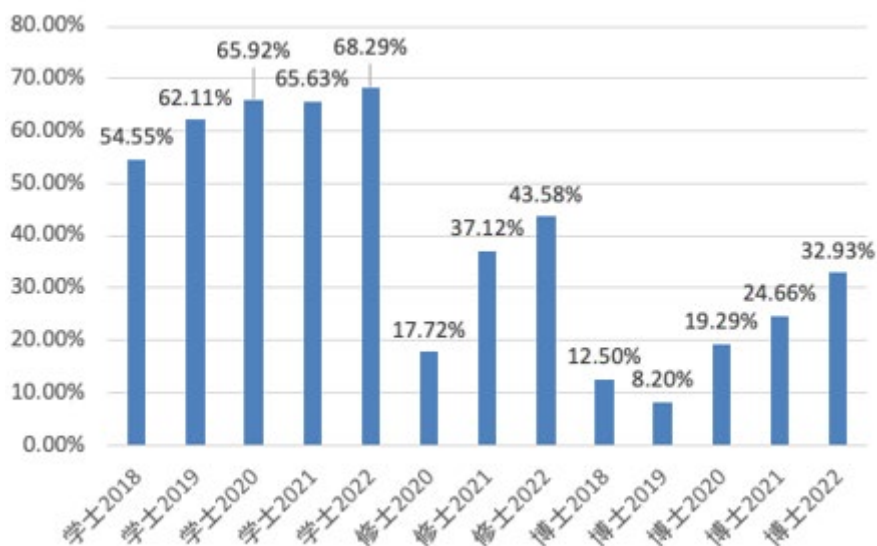


図 4-5.6 留学の障壁として「語学に自信がない」を選択した人の課程学年別の選択率

加えて、「留学をしようと思ったきっかけを教えてください。」という設問への自由記述の回答を参照してみると、以下のような意見がありました。

- 超短期派遣に参加して、刺激を受けた(複数件)
- グローバル理工人育成コースに所属したこと
- グローバル理工人育成コースのオンライン留学を受けて
- 留学について考えるオンライン講義で興味を持ったため

超短期派遣という1~2週間程度で開催される留学プログラムが気軽に楽しめたことで、次の留学につながるという意見が見られ、コロナで過去2年程プログラム数がかかり減っていましたが、今後も短い期間の留学の継続が望ましいという可能性が示唆されました。

これらの現状を踏まえ、グローバル理工人育成コースについて留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

**Q1.** どのような目的で制度を開始し、制度のうちどのような点を重視しているのか、教えていただけませんか。

**A1.** この制度は、2013年に、大学・企業などでグローバルに活躍できる人材を育成することを目的として、開始しました。現在、学士課程の学生が2000人、修士課程の学生が100人程度所属しています。修了のための条件が厳しいため、修士学生の履修者数は学士課程に比べて、少なくなっています。指定科目の履修、留学、語学力(例えば、TOEICで何点以上等)の所定条件を満たすと認定されます。学生に留学をしてもらうことがこのコース設置の目的ではなく、大学卒業後のその先を見据えたカリキュラムになっています。具体的には、学生にいろんな大学・企業で活躍してほしいと考えております。また、留学した方の経験を紹介するシンポジウムも開催しています。

**Q2.** グローバル理工人育成コースでは、どのような目的での利用が多いのか、また利用目的別にどのような学生の利用がどれほど(利用者数と利用率)あるのか、教えていただけませんか。

**A2.** 留学に行きたいという学生の利用が多いです。また、コース在籍者はTOEIC/TOEFLの無料受験、オンライン英会話の無料受講の特典が優先的に受けられるなどの理由から、英語力を高めるための履修が多い印象です。

**Q3.** 今後のグローバル理工人育成コースの拡大、縮小見込みとその背景(理由)を教えてくださいませんか？

**A3.** 超短期派遣留学は、2022年度夏にタイ、そして、春に4プログラム(シンガポール、シンガポール&マレーシア、イギリス、オーストラリア)復活しました。1プログラム12人ほどの採用で、年間10プログラムぐらい本来は実施しており、来年度にはさらに他のプログラムも再開する予定です。

図 4-5.4 において 3 番目に選択率が高い留学コンシェルジュについても、留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

**Q1.** どのような目的で留学生コンシェルジュ制度を開始し、制度のうちどのような点を重視しているのか、教えていただけないでしょうか。

**A1.** 2013 年度から、南 6 号館の 1 室で始動しました。Taki Plaza プラザ完成後から現在にかけては、Taki Plaza プラザ地下 1 階のブースを使うようになり、利用者数が増加しました。学期始まりの 4 月・10 月あたりに利用者が多いです。留学に関する相談を、1 回 1 時間、留学経験または海外での学位取得経験のある者が対応しております。学生団体である FLAP に協力していただき、留学コンシェルジュ制度の周知を行ってもらっており、コロナ禍で、オンラインでの相談も開始し、現在は、Zoom、対面両方で相談を受け付けています。

**Q2.** 昨年度の日本からの留学における留学コンシェルジュ、どのような目的での利用者が多いのか、また利用目的別にどのような学生の利用がどれほど(利用者数と利用率)あるのか、教えていただけないでしょうか。

**A2.** 年間に 100 人ほどの利用者があり、学期の始まりの時期は、利用者が増えますが、そうでない時期は週に 1、2 人ほどの学士の利用があります。学士の方がメインで 7 割ほど、その他大学院生が 3 割ほどです。学士の方は留学したいけれど、何をすればいいかわからない、という相談が多く、修士以降になると、具体的にしたいことはあるが、どののためにどうすればいいのかわからないという相談が増えます。

**Q3.** 今後の留学コンシェルジュの拡大、縮小見込みとあればその背景を教えてくださいませんか？

**A3.** 縮小の予定はなく、制度の拡大を進めていければと考えています。例えば、FLAP(トビタテ! 留学 JAPAN の説明依頼や、留学書類のチェック委託等、既に行っている状態。)との、さらなる連携を強化・模索できればと思っています。

図 4-5.4 において 4 番目に選択率が高い留学イベントは、課程ごとに比較すると、博士後期課程における評価が高いことがわかります(図 4-5.7)。また、27.85%と修士 3 年目の学生が多いことから、もう少し詳細な分析を行いました。すると、図 4-5.7 で 20%を超えたのは、過去の留学経験が多い区分(修士 2020 及び博士後期課程)だとわかりました(図 4-5.8)。

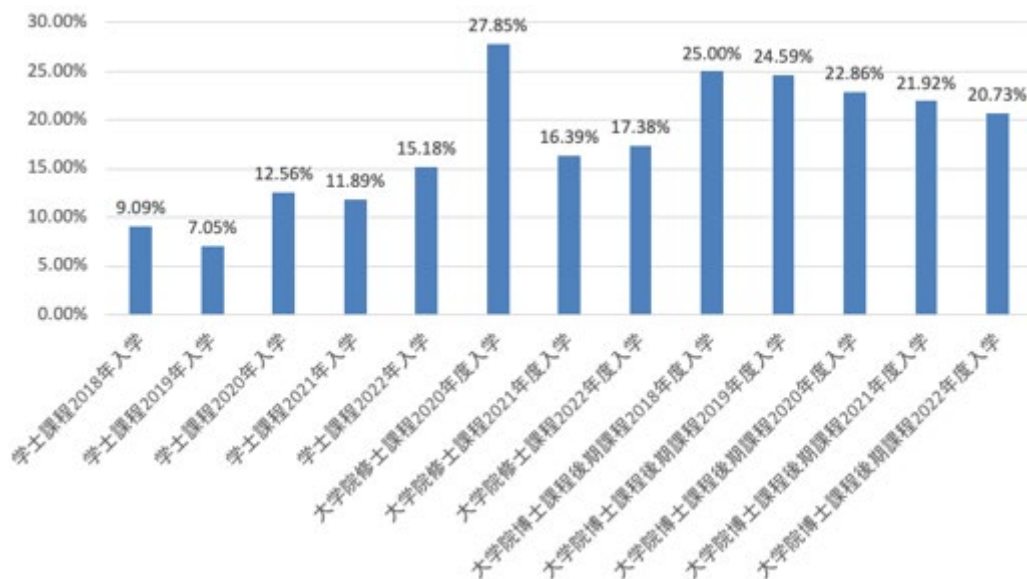


図 4-5.7 評価する取り組みとして「留学イベント」を選択した人の課程学年別割合



#### 4 サービス関連

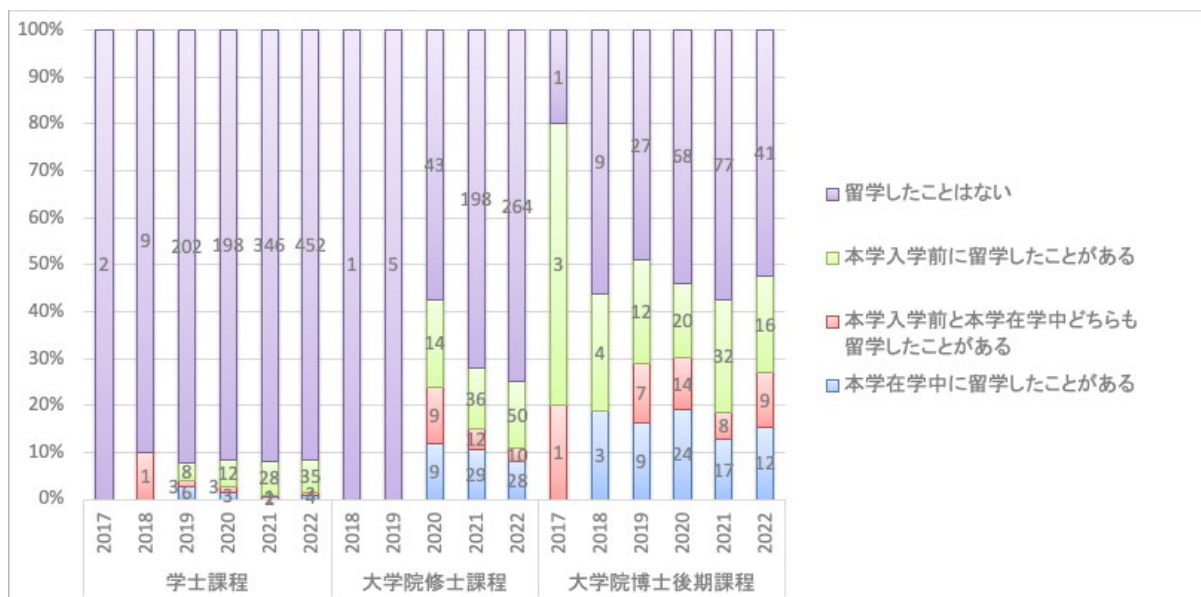


図 4-5.8 留学経験者の課程学年別割合

これらの現状を踏まえ、留学イベントについて留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答をいただきました。

**Q1.** どのような目的で制度を開始し、制度のうちどのような点を重視しているのか、教えていただけないでしょうか。

**A1.** (東工大留学フェア)一番大きな留学イベントは、東工大留学フェアと呼ばれるもので、コロナ前は蔵前会館で実施していました。4、5月の履修登録を終えて落ち着いた時期に、実施していました。学士1、2年性を中心に毎年500名近くに参加していただいております。今後は、Taki Plazaとのハイブリットで実施していく予定です。(2022年度の東工大留学フェアの開催報告は、以下のURLを参照[<https://www.titech.ac.jp/news/2022/064384>])

(留学説明会) Taki Plazaで実施される4月の若葉祭でも、ブースを設け、留学説明会を実施しております。

(留学報告会・留学座談会)コロナ前まで、水曜の午後の時間帯に実施していた留学報告会・留学座談会ですが、再開予定です。

(留学シンポジウム)学内やグローバル理工人育成コース修了した社会人を、バラエティが出るように3人ほどお招きして、留学の経験を紹介するシンポジウムも開催しております。

**Q2.** 昨年度の日本からの留学における留学コンシェルジュですが、どのような目的での利用者が多いのか、また利用目的別にどのような学生の利用がどれほどあるのか、教えていただけないでしょうか。

**A2.** 目的としては、留学に関する情報を集めるために来てくれる学生が多く、元々少しでも興味のある学生が来ていたり、友達に誘われて来ていたりする印象です。予約なしでふらっと立ち寄り、留学コンシェルジュよりも間口が広いイメージです。学士3-4年の学生から、英語や語学を早いうちに学べばよかったという意見があり、学士1、2年生がターゲットのイベントが多いです。実際に学士1、2年生が参加者の7、8割を占めます。修士学生向けのイベントの実施は特に企画していませんが、別部署のものはあります。

**Q3.** 今後の留学イベントの拡大、縮小見込みとあればその背景(理由)を教えていただけないでしょうか?

**A3.** 留学交流会の参加対象者を、現在留学イベントなどで、高校生や保護者の方にも拡大しています。また、留学座談会は、今後再開予定です。

## 提言

以上を踏まえて、留学に関する現行 4 つの制度について次のように提言いたします。

### 1. 留学奨学金制度の強化・継続

半数近くが留学の障壁として上げる経済的な理由を解消すべく、現行の奨学金制度の強化・継続することを提言します。東工大の取り組みとして 30%以上が評価していることから、現行の制度の継続もこの提言に含みました。どの学年もほぼ半数近くが経済的理由を障壁と挙げていることから、課程により対象を絞らずに継続・強化することを提言いたします。

### 2. グローバル理工人育成コースの強化・継続

留学の障壁として最も多く挙げられている「語学に自信がない」という理由の解消、および 12%近くが留学の障壁として挙げる「情報がない」という理由の解消のため、現行のグローバル理工人育成コースの強化・継続することを提言します。本コースを評価する人数・割合は課程別に見ると学士課程が最も高くなっており、これらの学年区分を対象にした留学イベントが有効に機能している可能性も示唆されました。

### 3. 留学コンシェルジュ制度の強化・継続

12%が留学の障壁として挙げる「情報がない」という理由を解消すべく、現行の留学コンシェルジュ制度を強化・継続することを提言します。その際、修士課程・博士後期課程に比べ、「情報が少ない」を選択する割合が高かった学士課程に少しウエイトを置いた制度の強化・継続が望ましいと推察できました。

### 4. 留学イベントの強化・継続

現行の留学イベント制度の強化・継続することを提言します。既存の留学イベントは、実際に留学経験のある人が多い層(大学院修士課程 3 年目、大学院博士後期課程)からの評価が高く、実際の留学のきっかけになりやすい、または留学において有用なイベントとなっていると考えられます。さらには留学の障壁として挙げられる「情報がない」という問題の解消にもつながると考えます。

### 数値データ分析

No.56「留学を考える上で何か障壁はありますか。」という質問に対する回答として、以下のものを選択した学生の人数が非常に多かったです。

- 留学を考える上での障壁は「経済的理由」(選択式回答、1271人/2671人、全体の48%)
- 留学を考える上での障壁は「海外生活が不安」(選択式回答、887人/2671人、全体の33%)

### 現状分析

留学の障壁として、経済的理由が半分以上、海外生活が不安と答える人が3分の1おられます(図4-6.3)。これらが障壁になっていることで留学の機会を逃している学生のために、オンライン留学という解決方法について提言いたします。

学勢調査2022における留学に関するアンケート結果は以下の様になりました。

回答者のうち、全体の70%あまりが少なくとも機会があれば留学したいと考えております(図4-6.1)。しかし、アンケート実施時には全体の75%において留学経験がありません(図4-6.2)。留学に興味がないことが留学の障壁だとする学生は、全体のわずか12%であり(図4-6.3)、これは、留学の障壁が取り除かれれば留学をする学生が大幅に増えることを意味します。また、留学の障壁として、約半数の48%が「経済的理由」を挙げております。

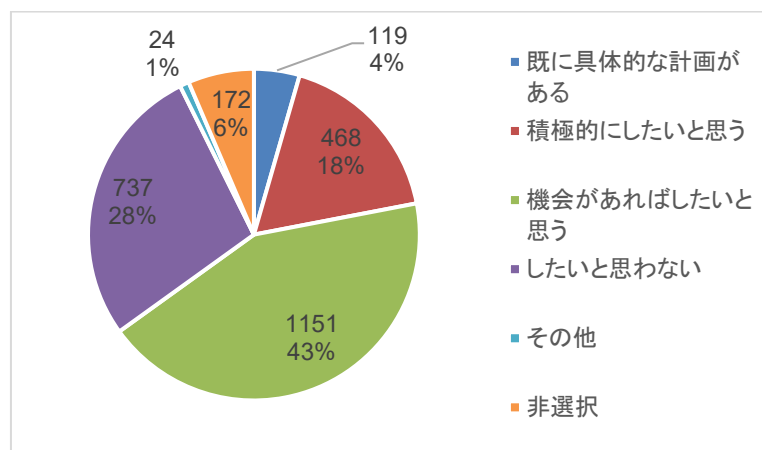


図 4-6.1 留学希望に対する回答

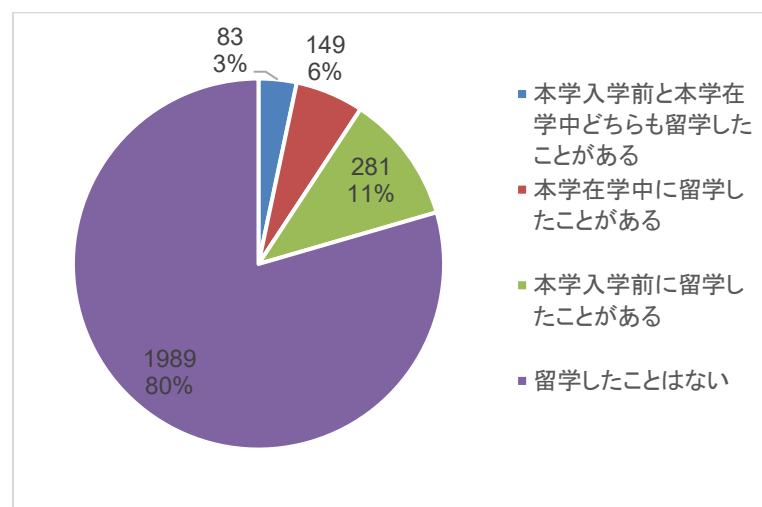


図 4-6.2 留学経験有無、またその時期

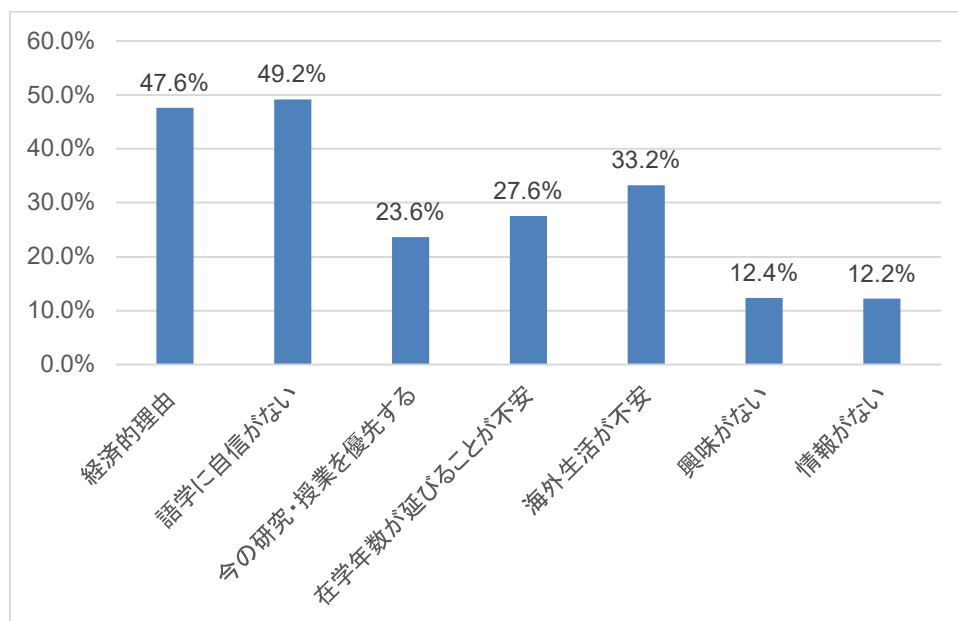


図 4-6.3 「留学を考える上で何か障壁はありますか。」における選択率

留学の障壁として、「経済的理由」をあげた人の学年別人数と、回答者に占めるその割合を算出いたしました。その結果は以下に記します。なお、回答者総数が 10 人以下と少ない、学士課程入学年度 2017 年、修士課程入学年度 2018-2019 年、博士後期課程入学年度 2017 年は、割合のグラフでは削除しました(図 4-6.5)。

人数で見ると、学士、修士、博士後期課程の順で減っていき、学年が若いほどに選択者の人数も多いことがわかりました(図 4-6.4)。しかし、割合で見ると、ばらつきに変化があります。全体平均 48%であるから、修士課程 2020 以外は割合に関する大きなばらつきはなかったものの、修士・博士後期課程の割合が、学士に比べてわずかながら大きいと見えます。修士課程 2020 が 66%と突出して大きい(図 4-6.5)のは、在学中に留学をしたことで奨学金を獲得する大変さを理解したのではないかと推測しました。

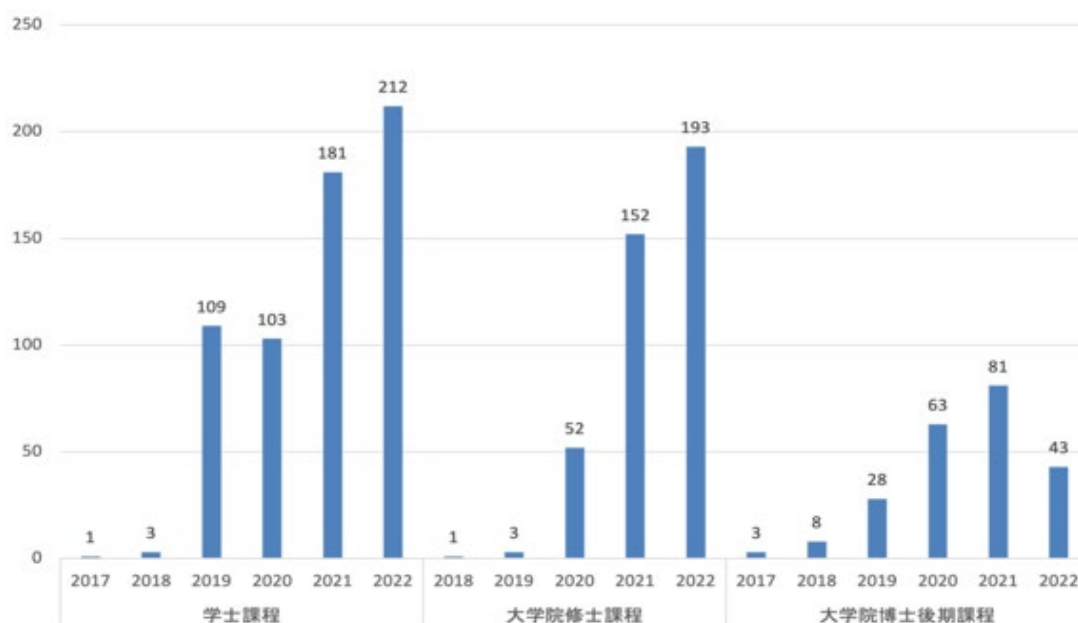


図 4-6.4 留学の障壁「経済的理由」、課程入学年度別分析(人数)

#### 4 サービス関連

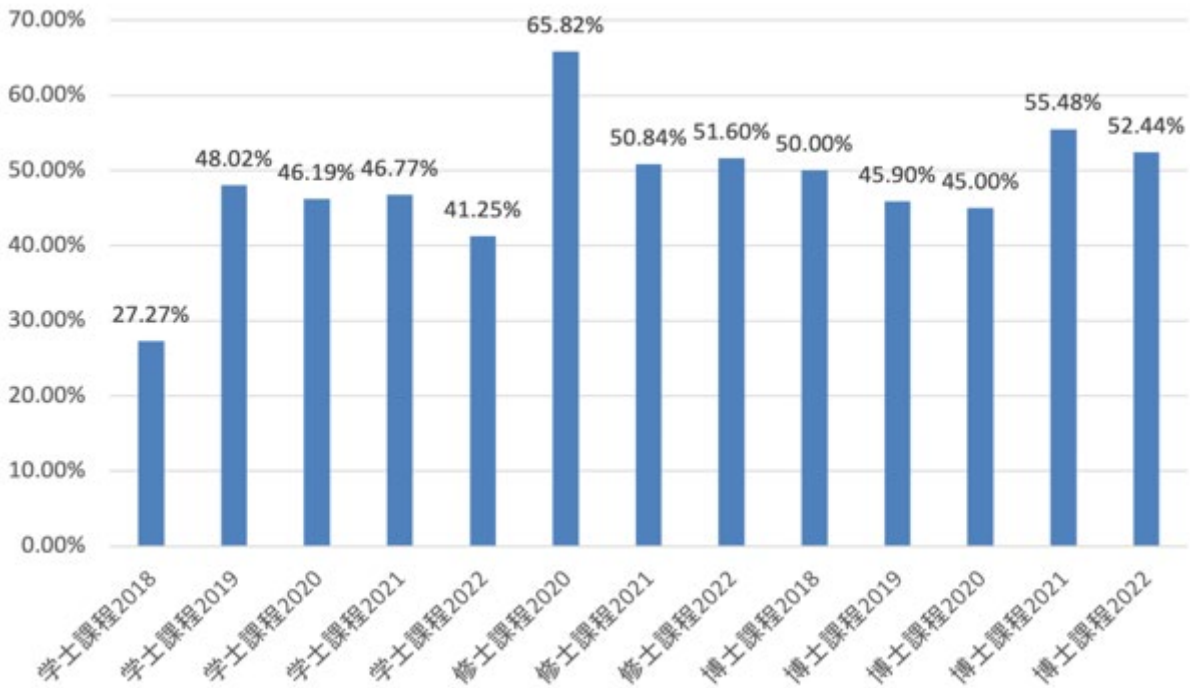


図 4-6.5 留学の障壁「経済的理由」、課程入学年度別分析(割合)

同様に、留学の障壁として、「海外生活が不安」を選択した人の学年別人数と、回答者に占めるその割合を算出いたしました。

図 4-6.6 に示された人数を見ると、先ほど同様、学士、修士、博士後期の順で減っていくことがわかります。また、学士、修士は、学年が低くなるほど、その人数が多くなる傾向です。図 4-6.7 に示した割合を見ると、回答者数に占める割合がわかります。回答者全体における、海外生活が不安を留学の障壁として選択した学生の割合は、33%です(図 4-6.3)。この平均値は、ほぼ 2 人に 1 人が選択した学士課程の学生によって大きく押し上げられていることがわかります。学士課程では、学年が下がるごとに、その割合が下がる傾向があることがわかります。同一課程において、学年が低くなるにつれて選択者の割合が減る傾向は、修士課程、博士後期課程でも同様です(図 4-6.4)。

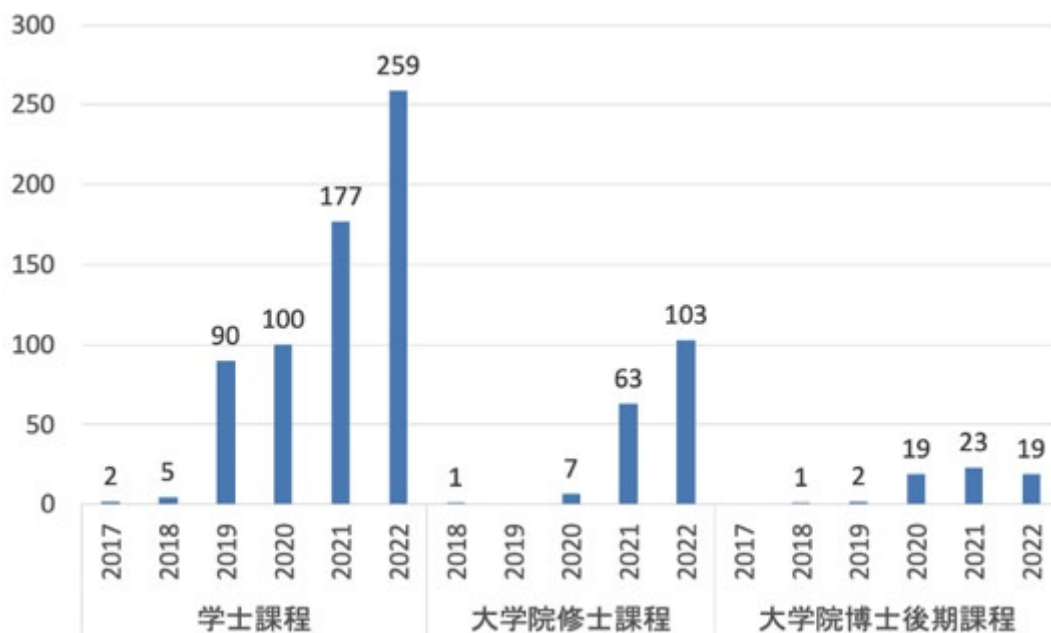


図 4-6.6 留学の障壁「海外生活が不安」、課程入学年度別分析(人数)

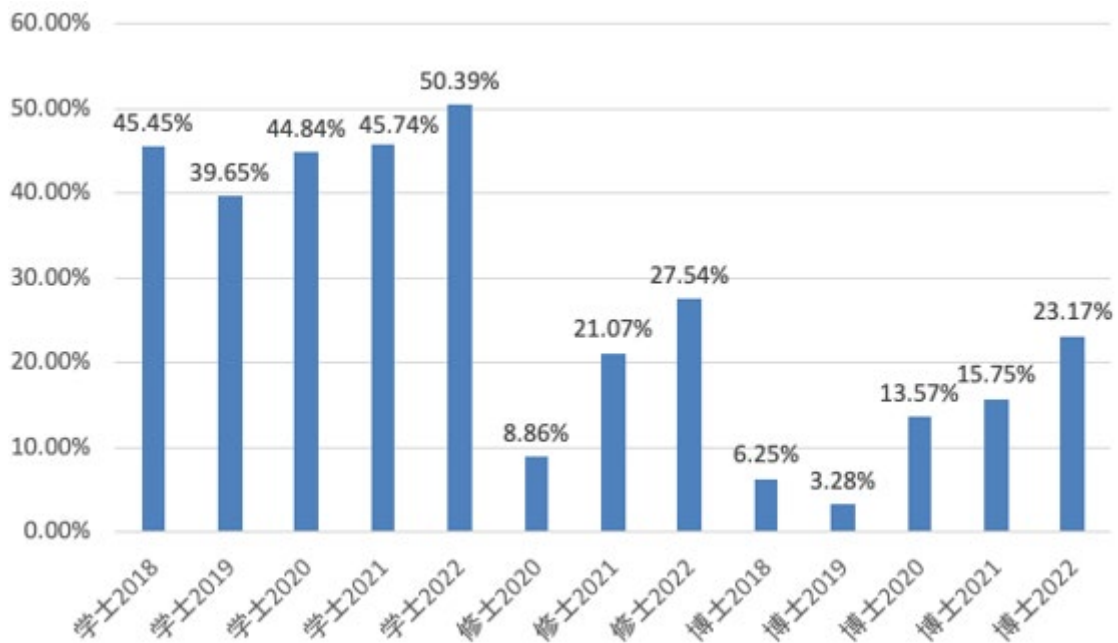


図 4-6.7 留学の障壁「海外生活が不安」、課程入学年度別分析(割合)

その他の留学への障壁も、オンライン留学のカリキュラム設計の参考になればと、割合のみですが、学年ごとの分析結果を示します。図 4-6.8~12 の順に、「語学に自信がないこと」「今の研究・授業を優先する」「在学年数が延びることが不安」「興味がない」「情報がない」となっています。

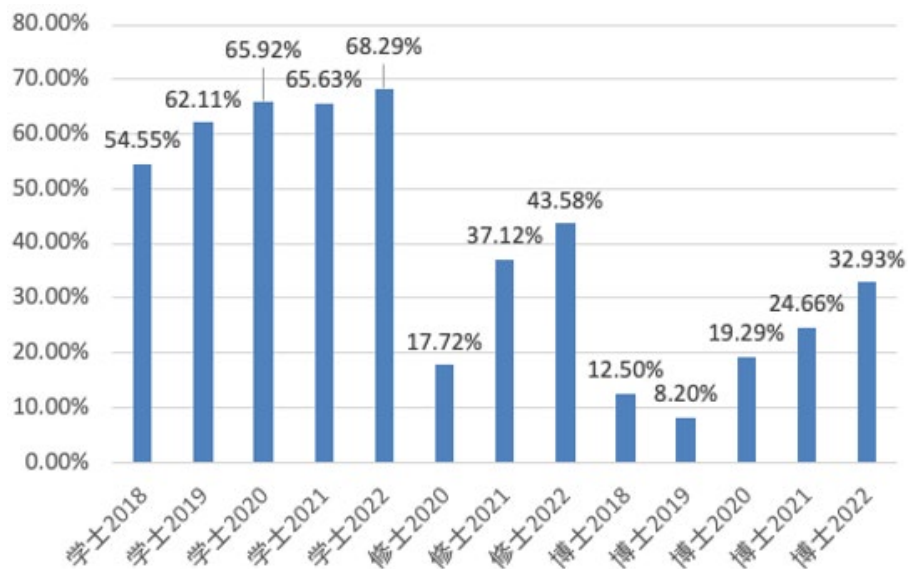


図 4-6.8 留学の障壁「語学に自信がないこと」、課程入学年度別分析(割合)

4 サービス関連

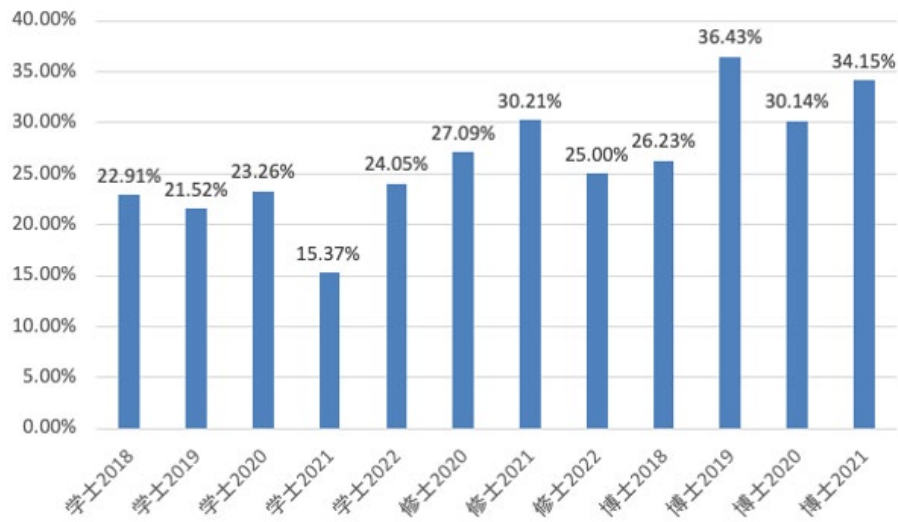


図 4-6.9 留学の障壁「今の研究・授業を優先する」、課程入学年度別分析(割合)

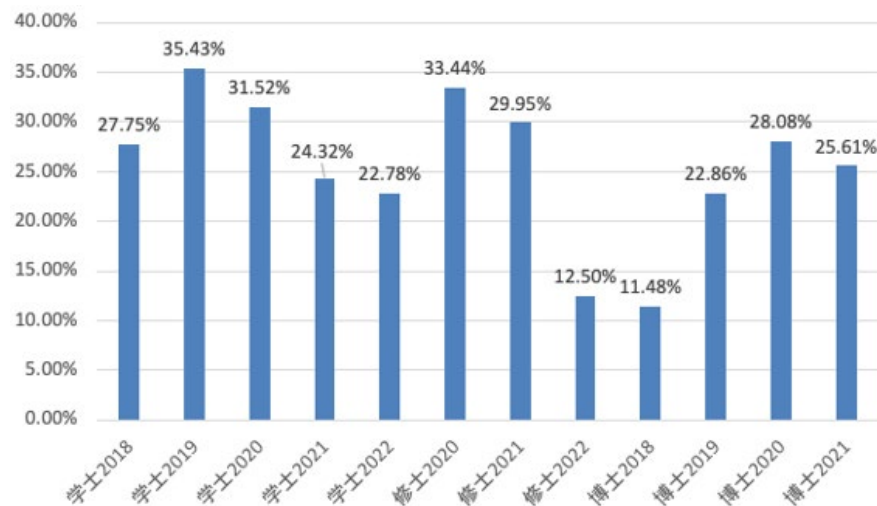


図 4-6.10 留学の障壁「在学年数が延びることが不安」、課程入学年度別分析(割合)

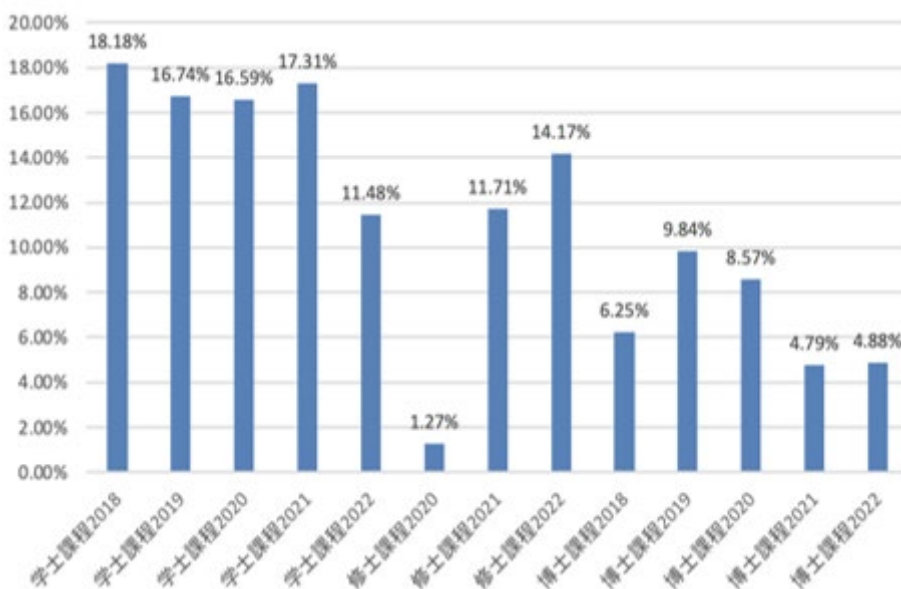


図 4-6.11 留学の障壁「興味がない」、課程入学年度別分析(割合)

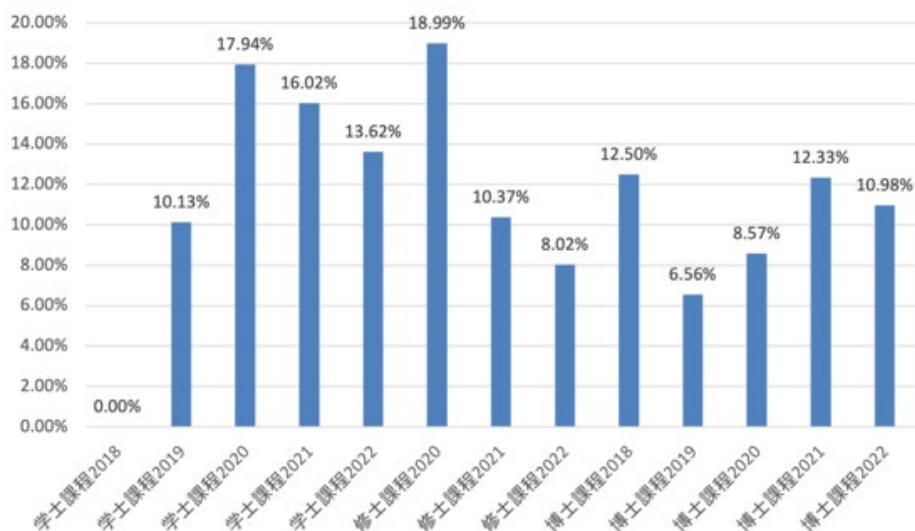


図 4-6.12 留学の障壁「情報が無い」、課程入学年度別分析(割合)

選択式回答とは別に、どのようなカリキュラム構成のオンライン留学需要があるか、参考となるよう、No.55「留学のきっかけを教えてください」という自由記述式の設問への回答を紹介します。

全ての自由記述回答に目を通し、分類し、同意見が日本語のものは5件以上、英語のものは3件以上含まれるものを記載いたしました、非常に参考になる分析結果と推測いたします。ただし、英語での回答においての留学が指す意味合いは、「日本に現在来ている留学を指す場合」と「今後の日本からの留学を指す場合が混在している点」に注意いただければ幸いです。

#### 具体的な理由

- 「語学力を上げたい、外国語を話したい」(同数意見102件)
- 「実際に外国人と英語で話したい、話せるようになりたい」(同数意見24件)
- 「海外で働きたい(研究したい)、日本よりも海外で働くことに魅力、海外でキャリアを積むのはどうということなのか知りたい」(同数意見17件)
- 「海外将来に住みたい、海外で生活できるようになりたい、海外で住むという選択肢を持つておくため」(同数意見16件)
- 「海外で学位を取りたい、海外の研究環境(取組み)や研究姿勢を知りたい」(同数意見20件)
- 「学会発表、ディスカッション等、研究・論文における英語力・海外の人との交流の必要性」(同数意見9件)
- 「海外の教育環境、授業、大学生活、学生のレベルを知りたい」(同数意見16件)
- 「海外の学生・研究者と交流したい、彼らの考えを知りたい」(同数意見12件)
- 「興味ある分野に強い国、最先端の国で勉強・研究したい」(同数意見8件)
- 「日本で学ぶだけだと事足りない、海外の方が研究のレベル高い」(同数意見11件)
- 「今の経済等の動向から、日本よりも海外の方が発展しているため、将来的に日本にとどまらずに活動してみたいと思うから。日本で生涯裕福に暮らしていけるか不安なため」(同数意見7件)
- 「行きたい国、大学、研究室が海外にある、もしくはあれば行きたい」(同数意見13件)
- 「過去の留学経験・海外学会訪問・国際協力研究・在住経験・海外旅行経験が良かった、過去の留学でうまくいかなかったことをリベンジ」(同数意見34件)
- 「過去に留学経験、在住経験があった」(同数意見6件)
- 「親・大学の先生等、周囲の勧め、友達に誘われた」(同数意見14件)
- 「留学生・外国の人・技術者・科学者との交流した経験が良かった、もっと交流できるようになりたい」(同数意見10件)
- 「留学経験者・留学生等の周囲からの話、説明会での話、パンフレットを見たのが良かった。留学経験者・海外移住者を見て留学したいと思った、周りにしている人多い」(同数意見50件)
- 「外国の文化に触れているから。海外のものが好きだから」(同数意見6件)
- 「就活、キャリア形成の強みになるから」(同数意見9件)
- 「大学生のうちに留学したい、時間があるのが今だから、社会人になったら留学の機会減るから」(同数意見



#### 4 サービス関連

- 12件)
- 「留学制度が充実しているから」(同数意見5件)
- 「留学ならば資金補助ある」(同数意見6件)
- 「Improve language or new language」(同数意見5件)
- 「Better education(ranking)」(同数意見7件)
- 「Better research level, techniques or equipment are there」(同数意見4件)
- 「Experience different work-life style and living environment」(同数意見6件)
- 「Be able to learn in different lab operations or research of other countries.」(同数意見10件)
- 「Be able to learn in the different education systems of other countries.」(同数意見4件)
- 「Make friends and connections overseas」(同数意見11件)
- 「Like living, visiting abroad, or enjoying traveling.」(同数意見4件)
- 「To get a better reputation in career」(同数意見3件)

#### 曖昧な理由

- 「今後・将来のため、経験積むため、選択肢を増やすため、視野を広げるため、多角的に物事を見られるようになるため、成長のため、自信をつけたい、刺激を受けるため」(同数意見94件)
- 「日本とは異なる他国の価値観・環境に触れる、いろんな人に出会う、異文化交流」(同数意見92件)
- 「グローバルな人材になりたいから、グローバルに活躍したいから」(同数意見6件)
- 「国際的な人間になりたいから、国際意識が欲しいから、世界に目を向けられるように意識したいから、世界的に活躍したいから」(同数意見9件)
- 「New experiences, opportunities, horizon(視野), more possible options」(同数意見34件)
- 「Understanding different social environments, cultures, and knowledge, and getting a different perspective or global perspectives」(同数意見34件)

#### 理由なし

- 「海外っていいよね、海外に行きたい、海外で過ごしたい、海外を見たい」(同数意見10件)
- 「面白そうだから、(留学、海外に)興味あるから」(同数意見17件)
- 「楽しそうだから」(同数意見5件)
- 「特になし」(同数意見5件)

#### 具体的なきっかけを含んでいる理由(上部と重複有)

- 東工大のパンフレットを見て、海外大学と提携を多く結んでいることを知ったから。
- 立志プロジェクトなどで、自分と立場の違う人の知見が重要であると感じたから。
- 立志プロジェクトの受講中に調べたシドニー工科大学の留学プログラムに興味があったから。
- 第二外国語が面白くて履修を続けているから。
- ロシア語を履修しているのでそれを活かせるあるいは鍛えられる場がほしい。
- 独学で中国語を勉強しており、その研さんのため。また、中国の優れた技術・システムを積極的に吸収したいと考えたから。
- 日本に来ている留学生を見てすごいと思ったから。
- 留学フェアで影響を受けたから。
- 留学について考えるオンライン講義に興味を持ったから。
- 高校生の時に、マサチューセッツ州のケンブリッジに行って、MITとハーバード大学の入学説明会と体験授業を受けて、心を奪われた。
- 本学の説明会で学士3年になったら大半の学生が留学すると聞いたから。
- 海外で博士をとりたいから、そのための準備。
- 留学セミナーへの参加。
- パンフレットを見ていいなと思ったから。
- 研究室の先生が共同研究をされている、その道の第一人者の教授のもとで指導を受けたいから。

- 海外に滞在する大学のプログラムがあったから。
- 大学1年生と2年生では語学力を高めることを目的として海外留学をしていたが、今は海外で働くことを視野に入れており、それに役立つような留学プログラムを探している。
- 超短期派遣のプログラムが楽しかったから。
- 高校生の時シンガポール国立大学の敷地内を歩いて、楽しそうだったから。
- 大学に入る前から大学生のうちに留学をしようと思っていた。東工大には機会が沢山あり、機会を逸することはないと思う。
- 東工大の留学プログラムの豊富さを知り、活用して経験値を増やしたいと思ったため。多くの人が留学を経験しているため。
- 10日間の気軽なプログラムだったため。
- 母語以外の言語を教養授業で勉強し始めました。
- 去年1年生のときに留学担当の先生の話聞いて興味を持ったから。
- 国際開発サークルに入っているので海外の人との交流に興味があるから。
- 系等のガイダンスで留学の勧めを受けて。
- 気軽に留学できる制度が充実してきたから。
- 殻を破るぞ！越境型理工系博士人材育成プログラムに採択され、学外活動を行うため。
- JST SPRING.
- 留学したいと思ってはいたが経済的な部分で難しいと感じていたところ、次世代研究者挑戦的プログラムに採択されたため。
- 東工大立志プロジェクトに興味を持ったから。
- グロ理のオンライン留学。
- 金銭的にかなりサポートを受けられるプログラムを見つけられたので。
- グローバル理工人コースの講義履修。
- 超短期派遣。
- 超スマート社会の卓越教育院に所属しており、世界では様々な専門分野で活躍している人もいて、その人の下で共同研究できるという期待が高まっているから。
- 超短期派遣プログラムに1年次に参加して、刺激を受けたため。
- B2Dでお金が少し出るから。
- グローバル理工人の紹介。
- グローバル理工人育成コースに所属したこと。
- 東工大の留学支援が充実してることを知ったから。
- グローバル理工人コースのセミナーを受講した際にそう思った。
- 研究室に留学生がおり、海外の人とのコミュニケーションに興味を持ったから
- My bachelor's program has a requirement for taking a short time summer camp.
- Because I want to learn more advanced knowledge. Therefore, if I have a chance, I will look to Western countries, especially industrial centers like Germany and the United States. (他の国への留学の”足掛かり”)

これらの現状を踏まえ、留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答をいただきました。

Q1. (制度実態)どのような目的で制度を開始し、制度のうちどのような点(方法論/設けている制度のうちどの制度が大事である等)を重視しているのか、教えていただけないでしょうか。

A1. オンライン留学はコロナ禍が始まってからの制度です。コロナ禍で実施できなくなってしまった留学プログラムを続けるために、オンラインで代行していました。年に3回実施し、2023年度の春も実施予定です。そのため、コロナによって現地での実施が可能になったプログラムでは、オンラインでの留学の実施は行われなくなります。

Q2. (利用実態)昨年度(2021年度)のオンライン留学の制度別利用者数と利用率を教えてくださいませんか。

A2. 昨年度実施の一例としては、グローバル理工人コースの2週間ほどのオンライン留学、東工大 AYSEAS があります。語学力向上のため等、目的別での実施はしておりません。オンライン留学の年間参加者は、全体としては、多い時で年間100人ほどいました。100人という数字は、コロナ前の渡航者が500-600名だったことを考慮すると、少な

#### 4 サービス関連

い数だと思います。今年はオンライン留学をほぼ実施しておらず、参加者は20-30人程度でした。今年の、渡航した留学者数は、500-600名ほどで、コロナ前に近い数となっています。

Q3. (制度今後)今後のオンライン留学の拡大、縮小見込みとその背景(理由)を教えてくださいませんか？

A3. (縮小)今後の予定は未定ですが、オンラインでやらざるを得なくなっていたプログラムを、コロナ前の渡航可能な状態に戻している状況ですので、オンライン留学は事実縮小しており、今後も縮小していくと思います。

### 提言

以上を踏まえて、コロナ収束後のオンライン留学継続を提言します。

コロナ禍で海外渡航が制限されるようになった2020年度以降、現地に足を運んで実施されていた留学の代わりにオンライン留学が実施されていたこと、加えて2023年度以降は渡航しての留学へとほぼ完全に帰ることが、留学生交流課とのキャンパスミーティングを通じてわかりました(2023年2月現在)。

渡航制限中の代替措置として実施されたオンライン留学でしたが、コロナ収束後も継続をお願いします。学生の留学の障壁として、挙げられた2つの理由(経済的理由:49%、海外生活が不安:33%)はオンラインという形での留学であれば解決されると思われます。

## 学生の意見

- 新型コロナウイルスの影響が留学を考える際に障壁となっている。(同様意見 24 件)

## 現状分析

留学の障壁として「コロナ」を理由とする回答を、No.56「留学を考える上で何か障壁はありますか。(複数選択可)」という自由記述による設問へ、多数頂きました。

しかし、以下に記す留学生交流課とのキャンパスミーティングについての記述内容からもわかりますように、学勢調査 2022 実施時(2022 年 6 月末-7 月末)から、留学に対する本学の対応は大きく変わっている可能性があります。本調査結果は、あくまで調査実地時のものであることをご承知おきください。

コロナを理由とする具体的な事柄として、現地での医療体制、帰国拒否に対する不安等が自由記述回答として記されていました。具体的な記述を以下に掲載します。

- コロナなどの医療体制の違い。
- 医療制度が心配。
- コロナによる帰国拒否。
- コロナがいつ治るのかわからない。
- コロナ、コロナへの不安、コロナのリスク(同様意見 17 件)
- ワクチンの接種。

これらの現状を踏まえ、留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答をいただきました。

Q1. (制度実態)どのような留学中の医療体制のバックアップを準備していたか、教えていただけないでしょうか。

A1. コロナ前から危機管理会社と連携し保険を包括契約しており、留学者全員が加入するようになっていました。留学中に何かあった時の電話先が記載されており、サポートが受けられる仕組みになっております。コロナ禍での特別なバックアップというのは特にありませんが、他の疾病と同じように対応する流れになっています。実際のコロナ禍での留学において、帰国が遅れてしまった場合の航空便のサポートなどがされており、それらの対応状況が留学生交流課に連絡が来るようになっております。

Q2. (周知状況)Q1 でお答えいただいたものは、どのような方法で周知を行っていたかを教えていただけないでしょうか。

A2. あまり積極的に周知してきたわけではありませんでした。コロナ禍での留学中の医療体制バックアップ等を不安に思っている人が多いとは想定していなかったです。

## 提言

以上を踏まえて、以下の「コロナ禍における留学中の医療体制のバックアップがどれだけしっかりしているのか周知」することを提言します。

留学生交流課とのキャンパスミーティングを通じ、2023 年 2 月現在、既に本学実地の留学において、留学中の学生に対する医療体制のバックアップは多岐に渡り手厚く用意されていることがわかりました。これらのバックアップの存在の周知が進むと、より本学の学生の留学が推進されると考えられます。

# 5 その他

## 学生の意見

- 新型コロナウイルスの影響を考慮した防災訓練の実施内容について、動画を利用すること。(同様意見 11 件)
  - Provide video or PPT for students who are unable to participate in the exercise. (参加できなく学生に動画やスライドを提供してほしい。)
  - Providing videos of the useful locations and procedures during an emergency will be very helpful. (緊急の際に重要な場所や手順を動画にしてくれると助かります。)

## 現状分析

本学で年に1度行われている防災訓練は学生の参加率が低いことに対して、学勢調査ではその改善に向けた提言がなされてきました<sup>12</sup>。今年度(2022年度)の避難訓練は、3年ぶりに全学生・全教職員を対象に実施されました。本学での避難訓練を含めた防災訓練を知らない学生は、3年前の避難訓練時に在籍していない学生で多くいると考えられます。そこで、広報を強化することで学生への避難訓練やその内容の認知度を向上させることが必要だと考えます。今回、認知度を向上させるために、防災訓練の実施前に動画による広報告知を提言します。

本調査結果は、今年度10月の防災訓練前に実施されたもののため、アンケート結果は規模を縮小して行った2021年10月の防災訓練での体験を反映しています。2021年度の防災訓練は、避難訓練を行わない総合訓練と、任意参加の個別訓練が行われました。図5-1.1は、2021年の防災訓練の参加内容の結果です。60%以上の学生が安否確認メールに対応していたものの、どの在籍課程においても参加しなかった学生が10%程度いることが見受けられます。また、防災訓練に参加しなかった理由として「知らなかった」の割合が学士課程で50%以上、博士後期課程でも25%以上と多いことが分かります(図5-1.2)。特に研究室に所属していない学生の多い学士課程では、「何をすればよいのか分からなかった」という割合とともに、その傾向が顕著に見られました。

留学生について見ると、防災訓練に参加しなかった割合は留学生でない学生に比べて多く、また防災訓練に参加しなかった理由として「その時間に学内にいなかったため」というやむを得ない理由の次に「知らなかった」という学生の割合が2割以上と多くなっていることが分かります(図5-1.3(a),(b))。加えて、新型コロナウイルスの影響を考慮した防災訓練の実施内容の案として、留学生から情報が得られる映像や動画の提供を求める声が多く上がっていました。動画で非常時の対応や消火器の使い方を周知することは効果的と思われるかもしれませんが、実際に体験することこそが防災訓練を実施する意義だと考えます。そこで防災訓練実施前に動画による告知を行うことにより、特に地震の多くない国出身の留学生向けに防災へ興味を持ってもらい、意識を高めてもらうことができるのではないかと考えます。また、主に留学生を対象とするため、動画の言語は英語が良いと考えます。

<sup>1</sup> 学勢調査 2018 [http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2018/2018\\_gakusei\\_teigensyo.pdf](http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2018/2018_gakusei_teigensyo.pdf) (最終閲覧 2023年3月29日)

<sup>2</sup> 学勢調査 2016 [http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2016/2016\\_gakusei\\_teigensyo.pdf](http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2016/2016_gakusei_teigensyo.pdf) (最終閲覧 2023年3月29日)

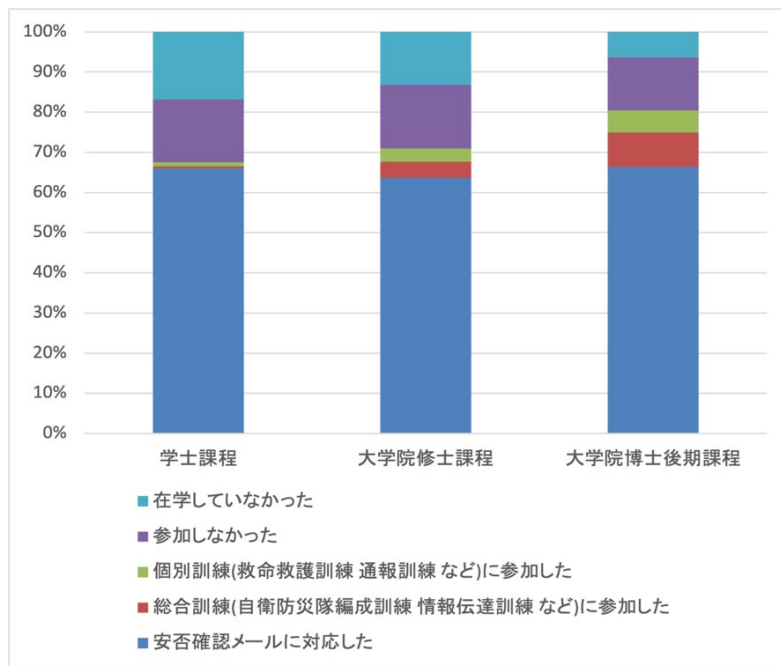


図 5-1.1 課程別の防災訓練の参加者

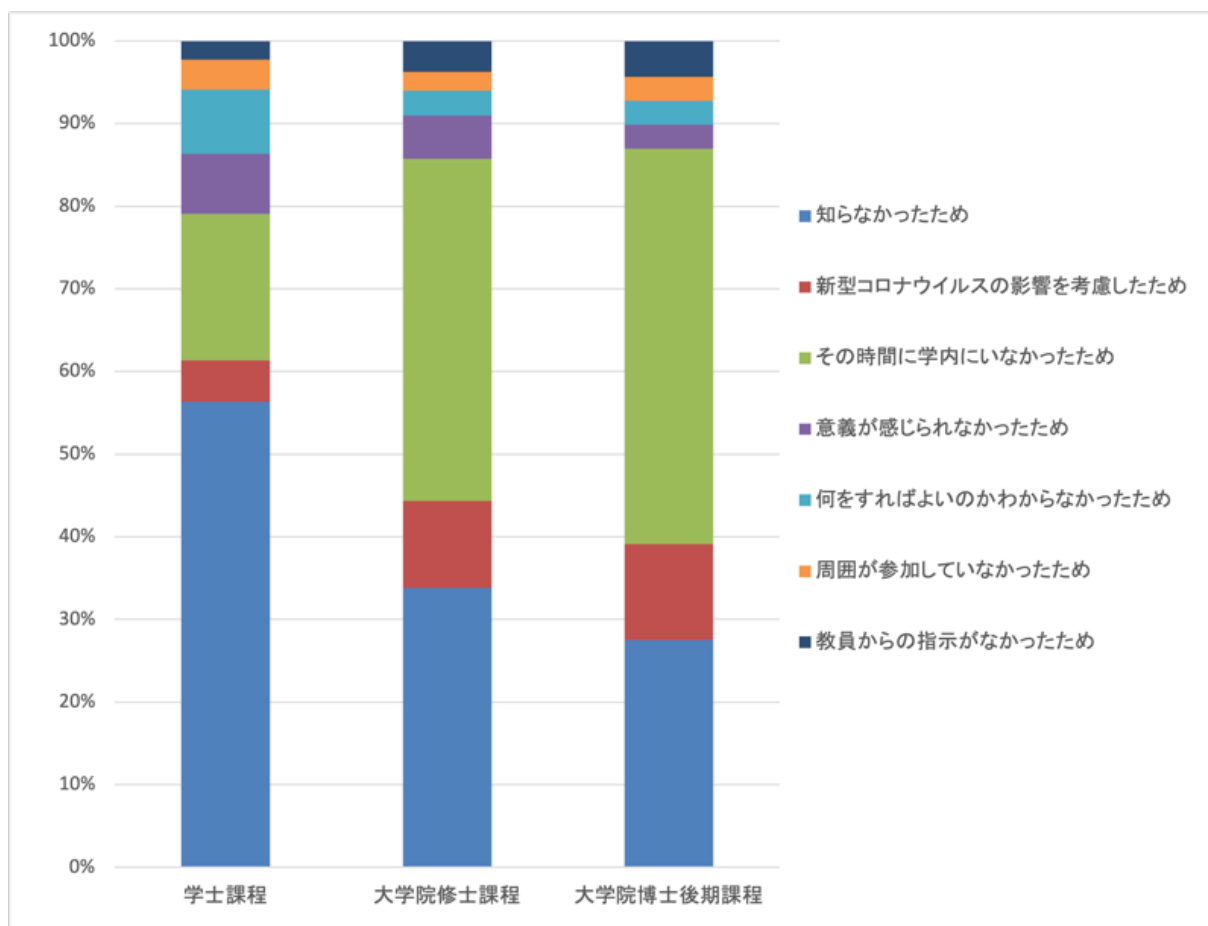


図 5-1.2 課程別の参加しなかった学生の参加しなかった理由

## 5 その他

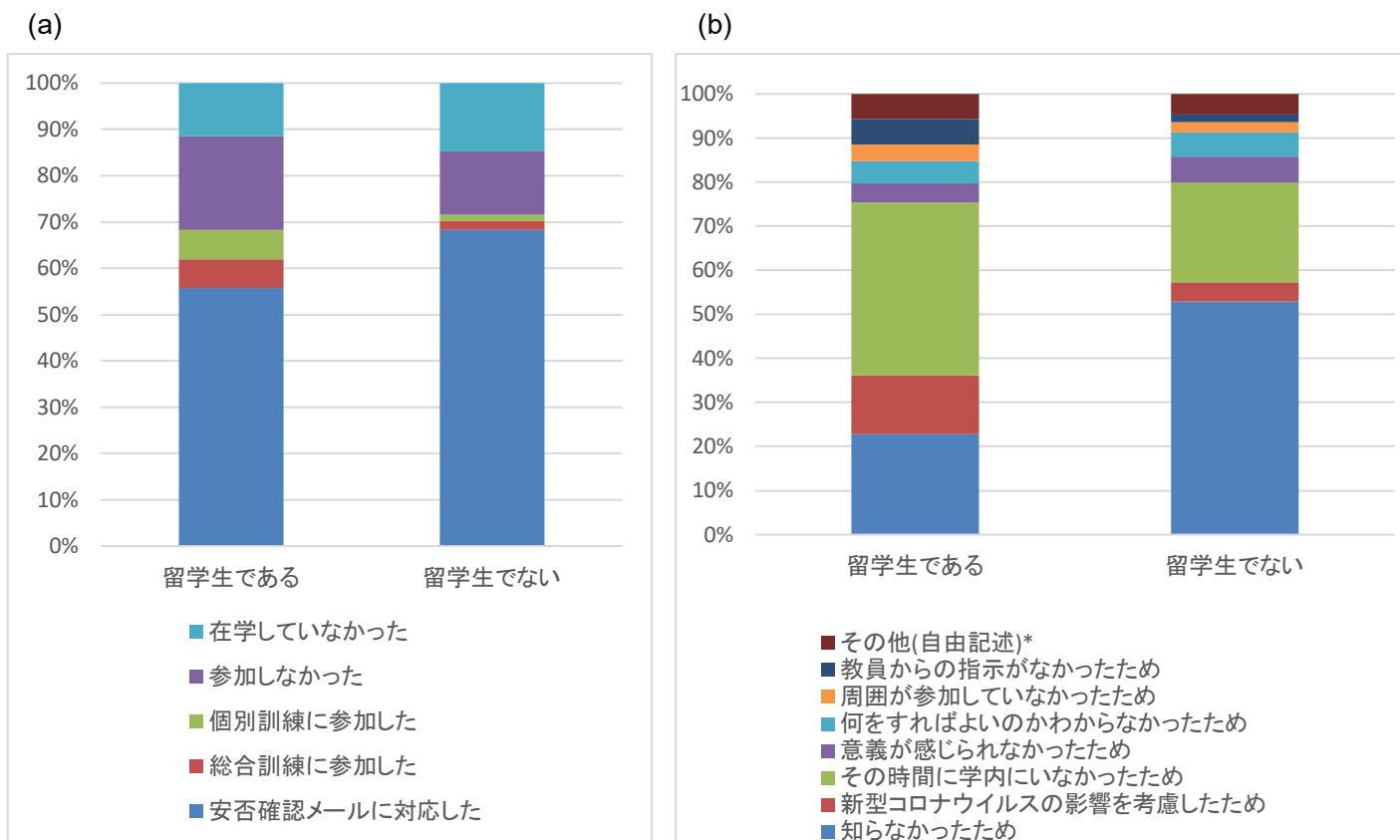


図 5-1.3 留学生と留学生ではない学生別の(a)防災訓練の参加者 (b) 参加しなかった学生の参加しなかった理由

これらの現状を踏まえ、安全企画課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

**Q1.** 今年度の防災訓練の広報は具体的にどのようにされたのでしょうか？(SNS やメールニュースは？留学生に対しては？)

**A1.** 複数の方法で行っています。具体的には、東工大メールニュース(日本語と英語)、東工大 HP のイベントカレンダー(日本語と英語)、総合安全管理部門の部門 HP(日本語と英語)、2 週間ほど前から本館等の電子掲示板による掲示(日本語と英語)、学修コンシェルジュの LINE 公式アカウントによる配信(日本語)を行っています。広報には、共通のポスターを利用して行いました。

**Q2.** 広報の際に総合訓練や個別訓練の実施内容はどこまで周知されているのでしょうか。

**A2.** ポスター内容のまま記載しています。具体的には、総合訓練で学生がとるべき行動、個別訓練で行う訓練内容を記載して周知しています。

**Q3.** これまで防災訓練前に資料の配布や動画による告知は広報として行ったことがありますか。

**A3.** 近隣住民の方々への周知を行っています。その際にポスターを印刷して、各自治体に配布しています。学生に対しては資料の配布は行っていません。動画による告知は行っていません。

**Q4.** 防災訓練に関して現在検討中の広報手段はありますか。

**A4.** 学生の参加率がそれほど高くないことから、周知の強化が必要と感じています。動画による告知なども検討したいと思います。

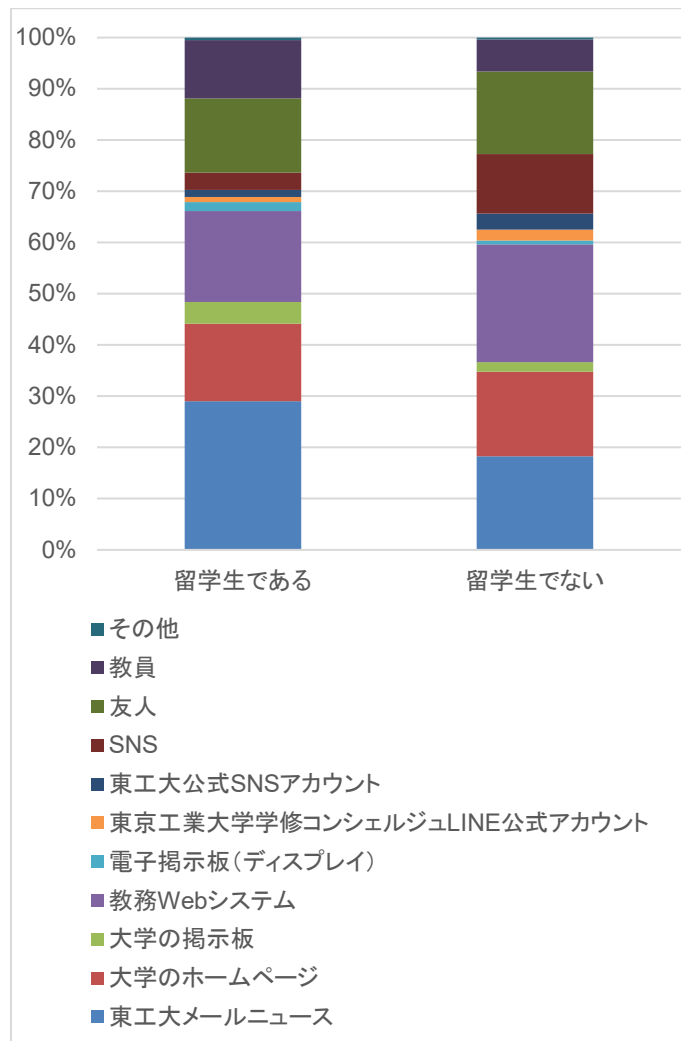


図 5-1.4 留学生と留学生ではない学生別の学生が大学の情報を得るために利用しているツール

キャンパスミーティングの回答から、東工大の HP、総合安全管理部門の部門 HP、電子掲示板による掲示、学修コンシェルジュの公式 LINE@配信で広報を行っていることが分かりました。これらは、留学生の 51%、留学生ではない学生の 40%が情報を得るために利用しているツールです(図 5-1.4)。そのため、広報の範囲として十分に行われているように感じました。それでも訓練に参加しない学生が一定数いることから、訓練参加者を増やすためには事前の印象的な周知が必要であると考えます。動画による告知はポスターの文字情報に比べて、情報が入ってきやすいという点でポスターを見るよりも情報が残りやすいと考えます。留学生が大学の情報を得るために多く利用している東工大メールニュースや大学 HP に動画を視聴してもらえるような導線を整備し、学生に周知することで、防災訓練の周知を促せると考えます。

## 提言

防災訓練実施前の広報強化を提言します。具体的な手段として動画による告知を提言します。

動画の内容として、防災訓練の重要性、今年度(2022年度)の防災訓練の内容、防災訓練に参加するメリットや意義などが良いと考えられますが、防災訓練を手伝っている東工大 VG(学生ボランティアグループ)や広報の強化に参加したい学生を募集し、そうした学生とともに学生の視点に立って、今後検討していくことを合わせて提言します。



## Work Pod のすずかけ台キャンパスへの 設置・用途の拡大

### 学生の意見

- オンライン授業や就活の Web 面接などで、声を出しても良いスペースを大学内にもっと増やしてほしい。(同様意見 6 件)
  - 個人用のオンラインミーティングスペースを設置してほしい。

### 現状分析

Work Pod は、大岡山キャンパス Taki Plaza 地下一階に 2 台ある個室ボックスで、教務 Web で事前予約することで利用できます。利用には以下のようなルールと注意事項が定められています。

- 【WORK POD の利用ルール】<sup>1</sup>
  - 利用用途は 1 月～7 月は就職活動の面接に限ります。8 月～12 月は就職活動全般でご利用いただけます。
  - 1 回につき最大 2 時間まで予約可能です。延長希望の際はご連絡ください。「説明」を必ず読んでからお申し込みください。
  - 同時に 2 回以上(WORK POD A/B 重複予約含む)の予約不可です。利用後に、次回の予約をいれてください。
- (注意事項)<sup>2</sup>
  - 用途は就職活動の面接に限定します。
  - ブース内は飲食禁止、定員は 1 名です。
  - 無線 LAN でのご利用となります。PC の設置はありませんので、自分でご用意ください。
  - 予約時間は延長出来ません。鍵の貸出しから返却までの時間に余裕を持って下さい。
  - キャンセルの場合は、必ずシステムでキャンセルをして下さい。貸出し時間 15 分を経過しても来ない場合は無断キャンセルとして扱い、次回から予約が出来ない場合がありますのでご注意ください。
  - 出来るだけ多くの方に、気持ちよく利用していただきたいため、マナーを守っての利用にご協力をお願いします。

今回、Work Pod の 1.すずかけ台キャンパスの設置、2.利用時期を限定した上での「個人での発声を伴う学習・研究及び教育活動」への用途の拡大、3.土日でも利用できるよう利用時間の拡大という 3 つを提言します。

- 提言の背景
  - 1.すずかけ台キャンパスの設置

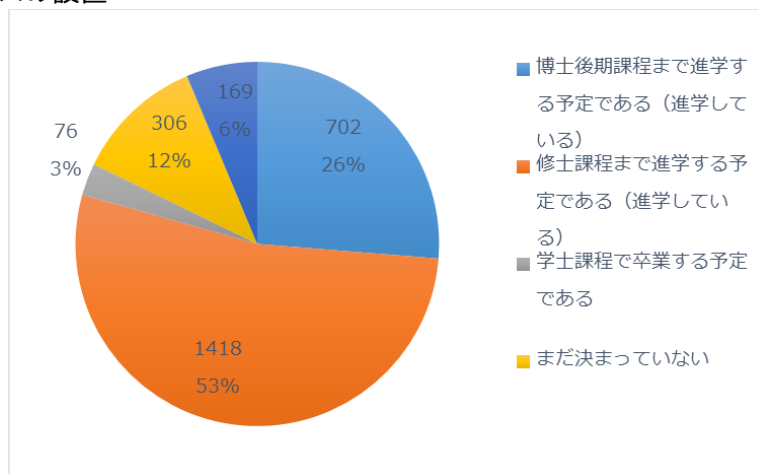


図 5-2.1 進学予定について、あてはまるものを選んでください。

<sup>1</sup> 教務 Web 施設予約ページ (最終閲覧:2023 年 3 月 16 日 20:42)

<sup>2</sup> 東工大 HP 「【Work pod】就職活動専用オンライン面接ブースの利用方法について」

<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/news/2022/063720> (最終閲覧:2023 年 3 月 16 日 20:42)

図 5-2.1 は、どの課程まで進学予定かを示した結果です。この図から、学士課程で就職活動する学生が少なく、修士課程で就職活動する学生が多いことが推測されます。すずかけ台キャンパスは、大学院生が多く利用するキャンパスであることから、大岡山キャンパスと同等以上の就職活動を目的とした Work Pod の利用需要があると考えられます。

### ➤ 2.用途の拡大

現状、オンライン授業を受けるために講義室がいくつか解放されています。しかし、複数人が同じ講義室で別々のオンライン授業を受けることになっているため、声が出しにくい環境と言えます。

### ➤ 3.土日の利用時間拡大

コロナ禍になり、就職活動は対面からオンライン中心に移行しました。それに伴い、面接や説明会もオンラインで開催されることが多くなりました。面接は平日に行われることが多いものの、説明会や就職活動関連イベントは土日にある場合もあります。家のインターネット環境や防音性を踏まえて、大学でそういったオンラインの就職活動イベントに参加したい学生もいると考えられます。

## ● 他大学の例

### ➤ 東京大学附属図書館の防音ブース

#### ◇ 2.用途の拡大<sup>1</sup>

- 防音ブースは、個人での発声を伴う学習・研究及び教育活動に利用できます。(語学の学習やオンラインでの研究会への参加など)

#### ◇ 3.土日祝日の利用日時拡大(図 5-2.2<sup>2</sup>)

- 2022 年 7 月より個室ブースの利用を土日祝日にも拡大しています。

### ➤ 信州大学個室型ワークブースの設置について<sup>3</sup>

#### ◇ 2.用途の拡大

- 利用できるのは、発声を伴う、以下の用途に限ります。
  - 就職活動 面接・面談
  - 就職活動 説明会
  - 就職活動 選考用動画撮影
  - 双方向(自分が発言する)オンライン授業・ゼミ
  - 学会発表
  - オンラインインターンシップ
- 就職活動以外の教育活動での利用も認められています。

### プロジェクトボックス、防音ブースの利用を土日祝日に拡大します

総合図書館 / ニュース

2022年7月22日

7月23日(土)より、試行として、土日祝日も開館中は本館2階のプロジェクトボックスと防音ブースが利用できるようになります。  
8:55-10:55、10:55-12:55、12:55-14:55、14:55-16:55、16:55-18:55の5つの枠が予約できます。  
(※8月の短縮開館期は16:55までとなります)  
予約は明日(7月23日)の分からは可能です。引き続き会話時のマスク着用などルールを守ってご利用ください。

利用するためには事前の申し込みが必要です。利用方法や申込方法は以下のページをご確認ください。

プロジェクトボックスの利用方法

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/facilities/project-covid>

防音ブースの利用方法

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/facilities/sound-covid>

図 5-2.2 東京大学附属図書館の利用日時拡大のお知らせ

これらの現状を踏まえ、学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. Work Pod の設置を開始した意図を教えてください。

A1. 学生から、コロナ禍で就職活動の採用面接がオンラインになったのでオンライン面接ができる場所がないか、と言われたことを受けて設置しました。Work Pod の導入前はそういった要望を持っていた学生に対して、80 年記念館の会議室や半開きのスペースの提供を行って来ました。そうした中、Work Pod が発売されましたので、予算を工面して導入に至りました。大岡山キャンパスの附属図書館には個室スペースがありますが就職活動には使えず、すずかけ台

<sup>1</sup> 東京大学附属図書館「防音ブースの利用方法」

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/facilities/sound-covid> (最終閲覧: 2023 年 3 月 16 日 20:43)

<sup>2</sup> 東京大学附属図書館「プロジェクトボックス、防音ブースの利用を土日祝日に拡大します」

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/news/20220721> (最終閲覧: 2023 年 3 月 16 日 20:43)

<sup>3</sup> 信州大学繊維学部「個室型ワークブースの設置について」

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/current/booth.html> (最終閲覧: 2023 年 3 月 16 日 20:43)

## 5 その他

キャンパスの附属図書館には就活活動にも使えるスペース(ただし完全個室ではない)が3階にあったことから、まず大岡山キャンパスへの導入を決めました。

**Q2.** ずずかけ台キャンパスの設置に向けて、Work Pod の需要についてお聞きします。大岡山キャンパスの Work Pod の利用率(週平均利用時間や週平均利用回数)を教えてください。

**A2.** 2021年11月に1台目を導入し、2022年3月から2台運用になりました。そのため、2台運用になった2022年3月以降の結果を図5-2.3に示します。月別利用回数の結果から、1週間の利用回数を計算すると、多い月では1週間で12~15回ほど予約が入っています。利用時間は最大2時間の利用であることから、1~2時間程度で利用している方が多く、平均利用時間は2時間弱ほどです。

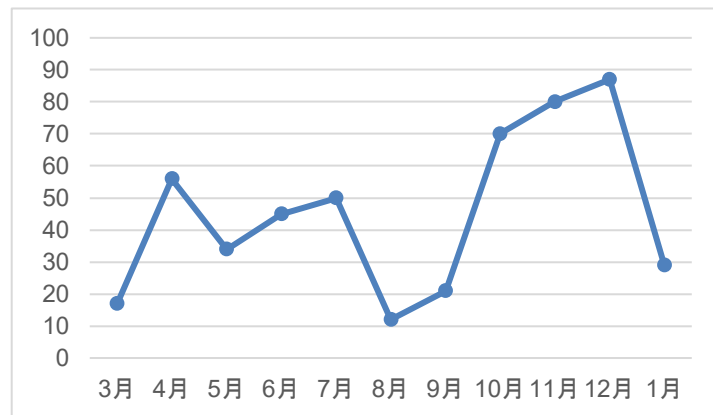


図 5-2.3 Work pod の月別利用回数

(2022年3月中旬～2023年1月17日時点)

**Q3.** 利用時期を限定した上での「個人での発声を伴う学習・研究及び教育活動」への用途の拡大の提言に向けて、利用を就職活動に制限している理由について教えてください。

**A3.** 就職活動で重要になる面接を中心に利用させてあげたいという思いから用途を限定しています。しかし、これまでの利用の様子から、面接での利用が少ないと思われる期間(9月~3月)に、Work Pod が空いていれば就職活動以外での利用もできることを検討しています。適切な利用方法でないと、面接したい時に他の用途で Work Pod が埋まってしまうという恐れがあるため、そうしたことはないように検討していこうと思っています。

**Q4.** 土日も利用できるよう利用時間の拡大に向けて、利用の前後に支援課の職員の方が Work Pod 内で何かしらの確認や消毒等を行っているのでしょうか。

**A4.** Work Pod を利用した学生が消毒を行っています。

**Q5.** 土日も利用できるよう利用時間の拡大に向けて、土日に利用することは可能でしょうか。

**A5.** 土日に外部の業者の方に窓口対応をお願いしているため、予約管理を行っている教務 Web システムを見ることができず対応が難しい状態です。また、個室ブースなので、内側から鍵をかけられる仕様になっています。そのため、本学の教職員がいない状況で、何かしらのトラブルがあった場合の対応ができないという点でも利用を拡大することは難しいです。平日の利用時間の拡大についても上記と同じ理由で難しいと考えています。

## 提言

### Work Pod について

1. ずずかけ台キャンパスの設置
2. 利用可能時期を限定した上での「個人での発声を伴う学習・研究及び教育活動」への用途の拡大
3. 土日も利用できるよう利用時間の拡大

を提言します。

キャンパスミーティングの回答から、3については現状では実現が難しいようなので、1と2からの検討をお願いします。

1については、ずずかけ台キャンパスの設置場所として、附属図書館内もしくは併設のキャリアアドバイザールームが適切と考えます。

2については、Work Pod の利用回数の月別変化や就職活動のオンライン面接の割合の変化を考慮して、就職活動での利用が少ない時期には教育活動でも利用できるよう、用途の拡大を提言します。

## 学生の意見

- 生理用品を無料配布してほしい。(同様意見 2 件)

## 現状分析

現在、東京工業大学では大学入試で女子枠を設けるなど、女子学生を増やすことに取り組んでいます。そのために大学は、女性が過ごしやすい環境を整えることが必要不可欠になります。学勢調査 2022 では女子学生から生理用品を無料配布してほしいという意見がいくつか寄せられました。

現在、日本国内にとどまらず世界中で生理用品を女子トイレに設置するという動きが増えてきています。その背景としては、生理の貧困と呼ばれる問題が浮上してきたことが挙げられます。生理の貧困とは、一生涯で生理用品にかかる費用は約 45 万円(平均月 1000 円ほどで、初経から閉経までの期間は平均 38 年で計算)と試算されていますが、経済的貧困により、生理用品の交換頻度を少なくしたり、トイレットペーパーで代用をしたりする人がいることと、生理に対する社会的理解度の低さによって、家庭で生理用品が購入してもらえないことなどに起因した問題を指します<sup>1</sup>。このように生理用品へのアクセス向上は多くの女性にとって重要であることがわかります。

この問題を受けて、学校の女子トイレにも生理用品を設置しようとする動きが見られています。全都立高校において、学校の保健室で用意していた生理用品を、女子トイレにて無料配布することが始まりました<sup>2</sup>。また、国内の大学においても女子トイレに生理用品を設置しようとする動きはいくつも見られ、関西で初めて設置をした龍谷大学をはじめ、早稲田大学<sup>3</sup>では生理用ナプキンを常備し無料で提供するサービス「OiTr(オイテル)<sup>4</sup>」の導入、中央大学<sup>5</sup>など多くの大学では生理用品の無料配布が行われています。また兵庫県によると、県内の大学を含めた全学校で生理用品を無料配布することが決定されました<sup>6</sup>。

海外の動きを見てみると、2020 年 2 月にスコットランドにて、生理用品を全国民に必要な時に無料提供する法案が可決しています。この法案によると、地方自治体はあらゆる人が生理用品へアクセスできるように法的義務を課すものでした。同年 11 月には本法律が制定されました。2017 年に世界で初めて教育機関に生理用品を無償で設置をしてから、スコットランドでは生理の貧困の問題に向き合ってきていました<sup>7</sup>。このような流れは世界のいくつかの国でも起こってきており、今後日本においてもさらに整備が進んでいくと考えられます。

本提言に先駆けて、本学の Taki Plaza にて生理用品のプレ設置が行われたり、すずかけ台キャンパスのある休養室にて生理用品が無料配布されていたりと関連する取り組みがいくつか見られますが、その現状は不十分であると考えています。一点目に、いくつかの女子トイレにおいては有料でしか生理用品を入手することできないため、生理の貧困の直接的な解決策になっていません。また二点目に生理用品を設置している女子トイレが圧倒的に少なく、全学生がそれらにアクセスすることは困難になっています。

<sup>1</sup> 厚生労働省 「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」結果概要：  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000919897.pdf> 2022 年 2 月 (最終閲覧日:2023 年 3 月 16 日)

<sup>2</sup> BuzzFeedNews 「保健室でナプキン手渡し→女子トイレに設置で使用は 160 倍に。学校での生理用品配布の「その後」」:<https://www.buzzfeed.com/jp/sumirekotomita/sanitarypad-school-tokyo> (最終閲覧日:2023 年 3 月 16 日)

<sup>3</sup> 早稲田大学 「戸山キャンパスに生理用ナプキンを無料で提供するサービスを導入」:  
<https://www.waseda.jp/top/news/topic/76422> (最終閲覧日:2023 年 3 月 16 日)

<sup>4</sup> OiTr 「service」:<https://www.oitr.jp/service/>

<sup>5</sup> 中央大学 「中央大学のキャンパス内で生理用品の無料配布を開始しました」:<https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/communication/press/2022/03/59644/> (最終閲覧日:2023 年 3 月 16 日)

<sup>6</sup> 神戸新聞 NEXT 「生理用品の無料配布 兵庫県内の全大学、私立学校にも拡大へ 県補正予算案に関連経費」:  
<https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202302/0016056904.shtml> (最終閲覧日:2023 年 3 月 16 日)

<sup>7</sup> CNN 「スコットランド、全土で生理用品を無料提供 世界初の法案可決」:<https://www.cnn.co.jp/world/35162894.html> (最終閲覧日:2023 年 3 月 16 日)

## 5 その他

これらの現状を踏まえ、学生支援課(生活支援グループ)とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. Taki Plaza に仮設置されたのにはどのような経緯があったのでしょうか？

A1. 現在建設中の第一食堂のトイレの設置に関して、アクセシビリティが向上するような新たな取り組みを検討していたところ、本学のとある学生から、女子トイレにて生理用品を無償配布している取り組みがあるという話を聞いたのがきっかけでした。その後の話し合いの中で、学生にどれほど需要があるかを調査したいという考えに基づき、一番継続的に利用者の多い Taki Plaza に生理用品をプレ設置して、学生の動向を調査しようとした経緯があり、設置することになりました。

Q2. Taki Plaza にプレ設置をしていましたが、今後拡大していく予定はありますか？また継続する予定はありますか？

A2. 仮設置したもののフィードバックを踏まえて、新入生が入学してくる4月ごろに二回目のプレ設置を行おうと考えています。拡大の予定は今のところ未定ですが、利用者の多い女子トイレを中心に検討していくつもりです。

Q3. 現在、どこかで生理用品をもらえるところがありますか？

A3. 緊急の場合は保健管理センターでもらうことが可能です。

## 提言

1. 大学構内の主要施設の女子トイレに生理用品を設置する

- 大岡山キャンパスだけではなく、緑ヶ丘地区、石川台地区、すずかけ台キャンパス、田町キャンパスにも設置する。特に、すずかけ台は女子学生の比率が相対的に高いため、生理用品の設置を急務で進める。
- 生理用品へのアクセスを高めるために、人を通して生理用品を受け取るのではなく、誰でも気軽に生理用品を利用できる環境を整備する。

## 学生の意見

- 東京大学の「高校生と大学生のための金曜特別講座」と類似の公開講座を開講してほしい。(同様意見 2 件)
- 履修の関係上講義を取ることができない先生や興味のある分野で著名な先生の講座を聴講したい。(同様意見 13 件)
- 他分野の最先端の研究の話を知りたい。(同様意見 2 件)

## 現状分析

現在、本学においても研究室や教員が主体となって開催している講座やセミナーなどはいくつか存在していますが、その対象は基本的に大学生以上となっています。またそれらの公開講座やセミナーなどは、東京工業大学のホームページ<sup>1</sup>に一覧として記載されていますが、そのページでは大学内で開催されているすべての講座を網羅しているわけではありません。

学生側の意見として、カリキュラムにある講義以外で興味のある分野の講座を開講してほしいと考えている人が一定数存在していましたが、今までカリキュラム以外で学生に向けて講義を行ったり、それを受講したりできる仕組みは現状ほとんどありません。

2024 年度に行われる東京工業大学と東京医科歯科大学の大学統合に際して、学際的な学修を推進していく中で、異分野交流の場が必須であると考えています。大学統合によって実現される両大学間の取り組みとして現段階で公開されているものはまだあまりありませんが、その取り組みの先駆けとして活用できると考えられます。

本学学生の意見ではありませんが、本学を志望する高校生を対象とした学校説明会では、大学全体の概要の説明と各学院でどのような教育や研究が行われているかのアウトラインの紹介はされていますが、実際に、東京工業大学に進学するとどのような研究ができるのか、どの学院や系に行けば自分のやりたいことができるのか、といった具体的な中身を知ることは比較的困難になっています。一方昨年度 8 月に行われた取り組みとして「東工大 Web 体験講座」<sup>2</sup>が挙げられます。この講座は各学院から 6 人の教員が 1 コマずつ講義を担当し、東京工業大学で学ぶということを実際に体験できます。これは本学の HP 上に公開されており、検索すればだれでも視聴することが可能となっています。しかし講座数はまだ少なく、内容も限られており、具体的な研究内容などを理解するにはこの取り組みのみでは不十分であると考えています。

他の大学での公開講座の代表例として、東京大学で開講されている「高校生と大学生のための金曜特別講座」が挙げられます。これは、高校生や大学生に向けた初学者でもわかりやすいような研究や専門分野の話をする毎週連続の公開講座です。この公開講座は、近隣の高校からの要望を受けて、初めは高校生向けの土曜特別講座として開講し、ほどなく 2 年次からの進路選択に悩む大学生も対象になりました。そこからいくつかの段階を経て、現在では一般の方も聴講が可能となっており、毎週金曜日の 17 時半から 19 時までの 90 分間を使って様々な講義が行われています。残念ながら現在は新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの開講となっていますが、以前は駒場東大前駅にある東京大学の駒場キャンパスにて行われていました<sup>3</sup>。

<sup>1</sup> 東京工業大学「イベントカレンダー」：<https://www.titech.ac.jp/event>（最終閲覧日：2023 年 3 月 26 日）

<sup>2</sup> 東京工業大学「高校生・受験生向け『東工大 Web 体験講義』開講」：<https://www.titech.ac.jp/news/2021/061553>（最終閲覧日：2023 年 3 月 26 日）

<sup>3</sup> 東京大学「高校生と大学生のための金曜特別講座」：<https://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/>（最終閲覧日：2023 年 3 月 26 日）

## 5 その他

以上を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. 東京工業大学の知名度を上げるための広報活動の一環としても活用できると考えていますが、公開講座の実現可能性はどのくらいありますか？

A1. 現状、教務課としては特に予定はありません。

Q2. 個別で行っている講演やセミナーを把握している部署などは存在していますか？

A2. 現状、そのような部署は存在しておらず、大学の HP にまとめているものに限って把握しています。

Q3. 個別の講座を一般に公開するための手続きなどはありますか？

A3. 手続きは特に存在しません。一般の方は自由に出入り可能となっています。

## 提言

提言 1) 毎週連続で各学院が持ち回りの高校生と大学生向けの公開講座の開講

- 本講座の対象者は高校生と大学生が基本だが、地域の方やその他の一般の方も聴講可能にする。
- レベルとしては大学の学士 1, 2 年生を想定した講義で、高校生にとっては高校の科目を越えた少し背伸びをして聴講したい内容であり、大学生にとっては初めて触れる分野であれば基本の導入部分や概要をつかめるような内容構成であり、一般の方にとってはある程度の基礎知識があれば理解できかつ専門的で最先端の研究の話聞けるような内容とする。
- 公開講座のやり方としては、平日の夕方(東大に倣って金曜日の 17 時ごろが好ましいか)に 1 時間程度、70 周年記念講堂などを利用する。講義を行う教員については、リベラルアーツ研究教育院を含めた 7 学院の隔週持ち回りで、教員の研究分野の基礎知識や、自身の研究してきた内容、その分野の最先端の研究の紹介などを行う。
- 2024 年度に東京工業大学と東京医科歯科大学の大学統合が予定されており、両大学の学生交流や分野横断的な専門的知識の理解を深めるためにも、重要な取り組みであると考えられる。大学統合は、東京医科歯科大学の教員にも講座を担当していただき、両学生が互いの分野を学ぶ場となることが期待される。
- 東京工業大学の強みの一つとして、最先端の研究を行っている教員が多数存在していることが挙げられる。この公開講座を通して、教員の研究内容を広く社会に認知されることが予想され、昨今では社会的賛同が必要不可欠な大学の取り組みを学外の方に知ってもらえる場にもなると考えられる。また高校生も本講座の対象とすることで、未来の優秀な学生と教員間のつながりの形成やコミュニケーションの強化、そして新たなアイデアの創出なども期待できる。

提言 2) 現在個別で行っている公開講座の情報を本学の HP 上に集約・広報活動の推進、強化

- 提言 1 の公開講座の前段階として、各研究室や教員がすでに行っている公開講座に本学学生や高校生、その他地域の方々などがさらに参加しやすくなるように、公開講座を開講する際に本学の HP 作成の担当部署(広報課など)に連絡をして情報を反映する。東京工業大学の全公開講座が一つのページ上で閲覧できるようにする。

# 6 調査資料集

本章では2022年6月22日から同年7月22日にかけて行われた学勢調査2022アンケートの集計結果を掲載します。ここに掲載する集計結果は、自由記述の調査項目以外の結果全てです。集計結果のグラフや表中の数字は、該当選択肢への回答者数です。今回の総回答者数は2671名です。なお、一部の調査項目は、表記の都合上、実際の質問文とは表現が異なる場合があります。

## 6.1 基本情報

(1) 現在あなたの所属している課程を教えてください。

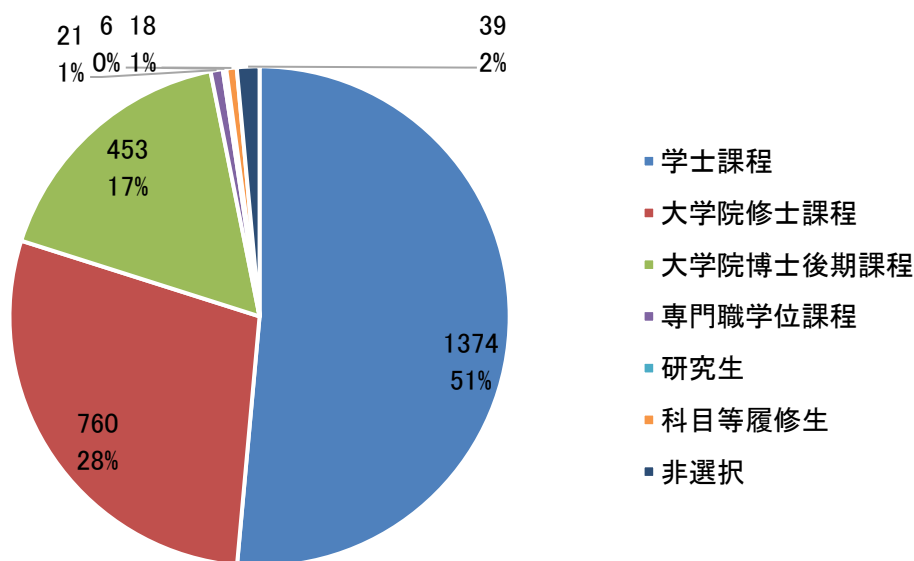


図 6-1.1 所属課程

(2) あなたの受験方式を教えてください。

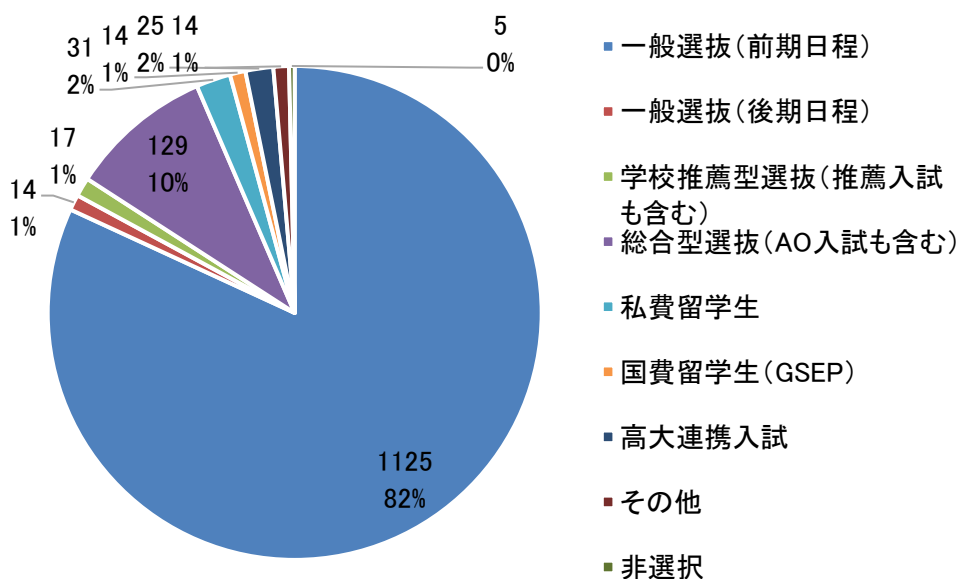




図 6-1.2 受験方式

(3) 現課程への入学年度

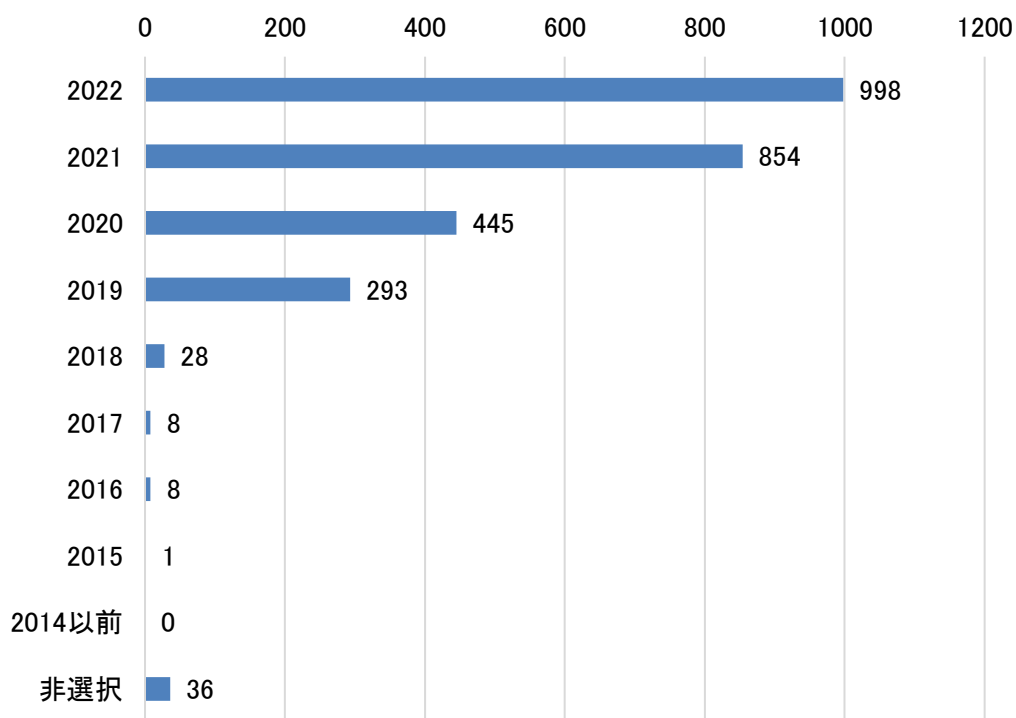


図 6-1.3 現課程への入学年度

(4) 高専や他大学に在籍していたことがあるか(複数選択可)。

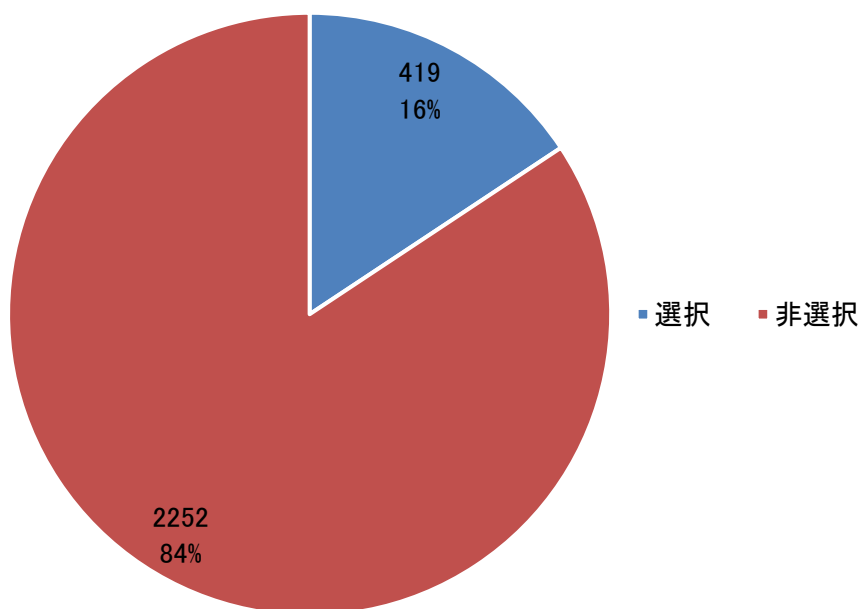


図 6-1.4 高専や他大学への在籍経験

(5) 留学生であるか。

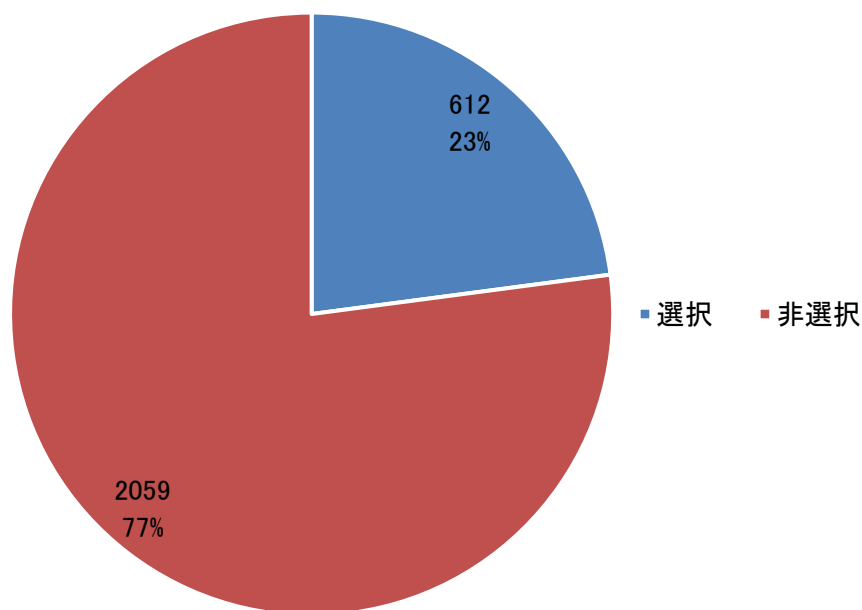


図 6-1.5 留学生であるか

(6) あなたの所属する学院を教えてください。

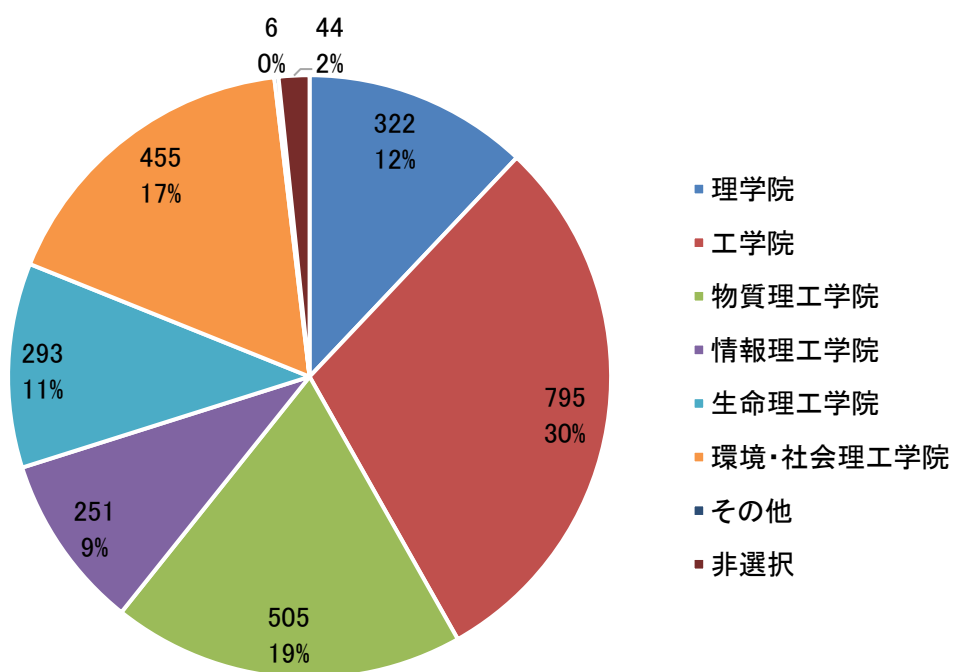


図 6-1.6 所属する学院

(7) 性別

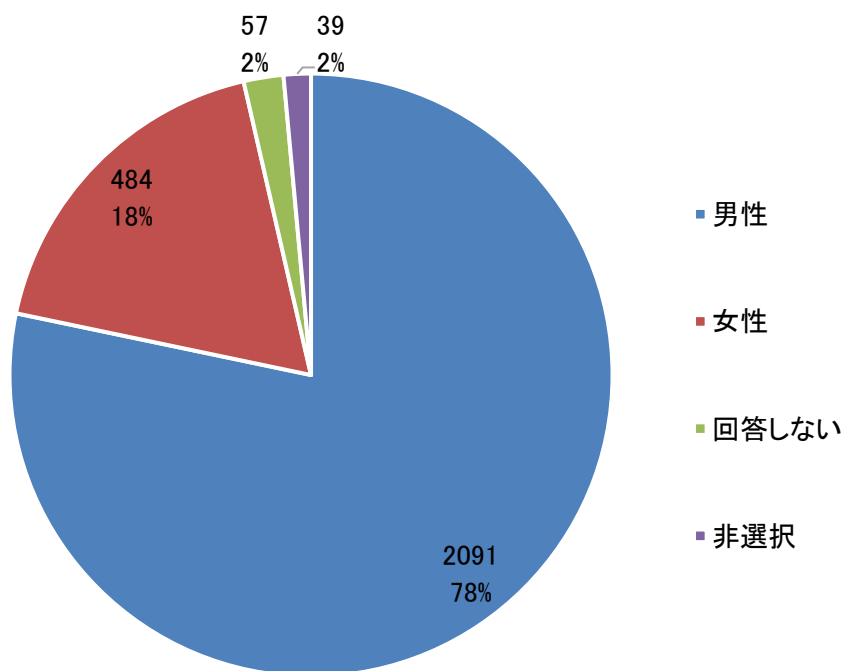


図 6-1.7 性別

## 6.2 大学生生活

(8) サークル等の課外活動について、参加しているものがあれば教えてください。(複数回答可)

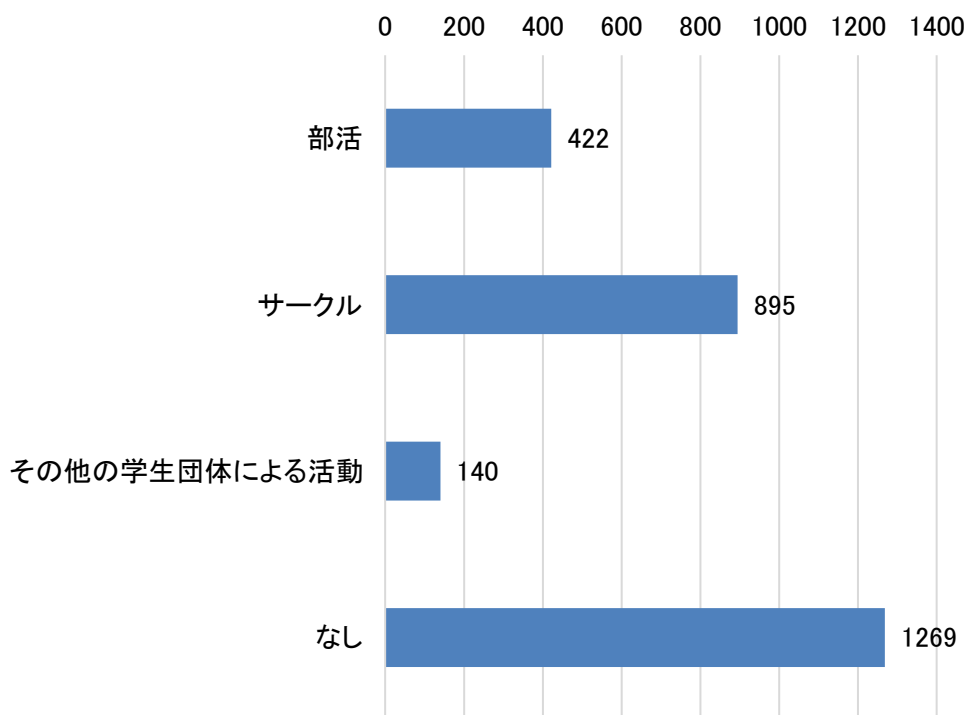


図 6-2.1 部活・サークル・その他の学生団体への参加の有無

(9) 勉強・研究時間の長さについて、当てはまるものを選んでください。

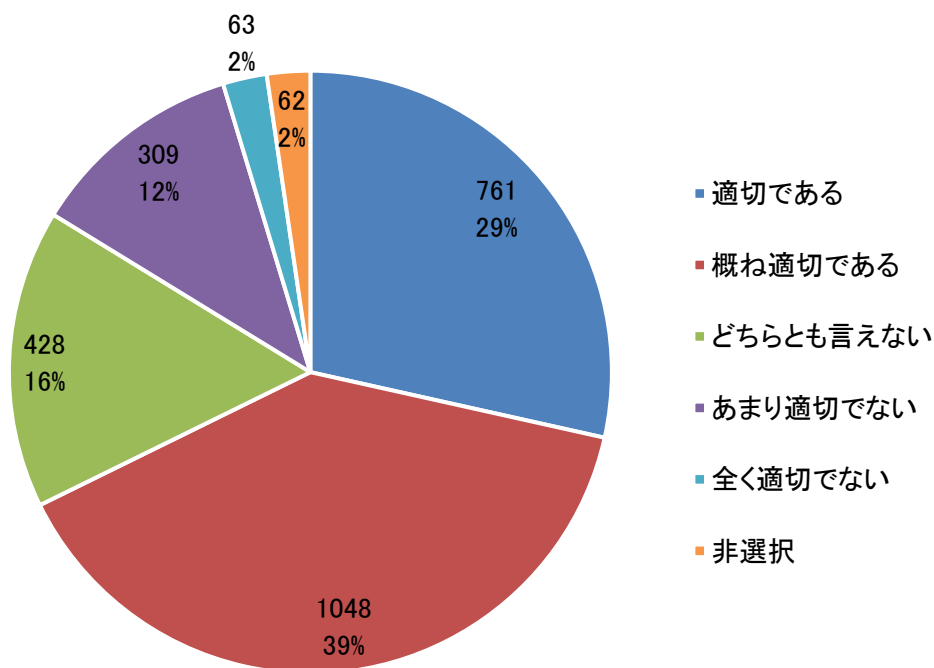


図 6-2.2 勉強・研究時間の長さ

(10) 一週間の平均登校回数を教えてください。

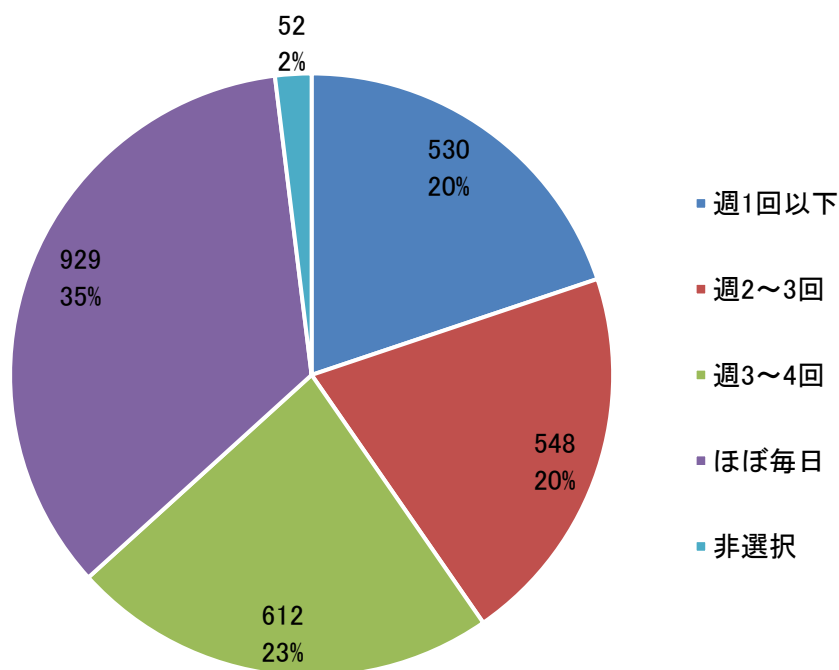


図 6-2.3 一週間の平均登校回数

6 調査資料集

(11) 大学に登校した際の、1日あたりのおおよその平均滞在時間を教えてください。

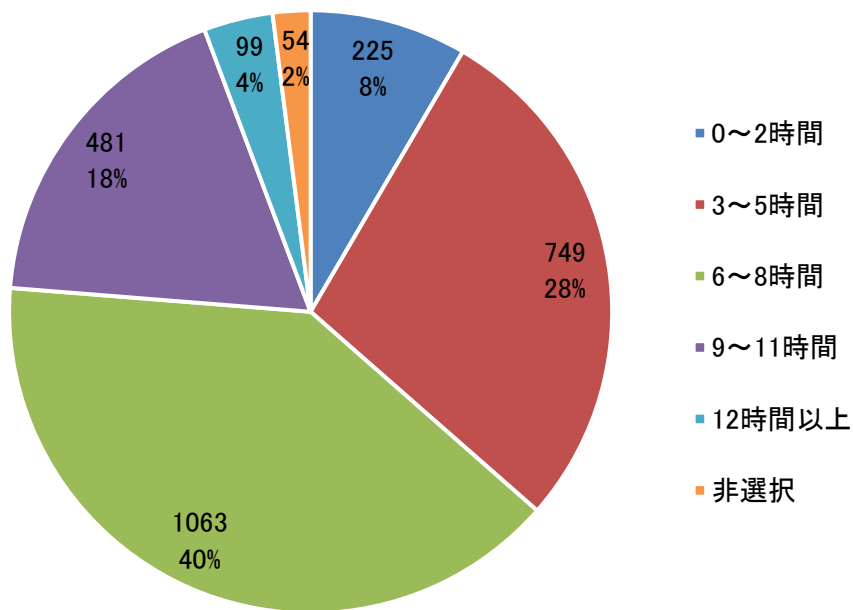


図 6-2.4 大学に登校した際の、1日あたりのおおよその平均滞在時間

(12) 新型コロナウイルスの影響がないと想定したうえで、理想の登校頻度を教えてください。

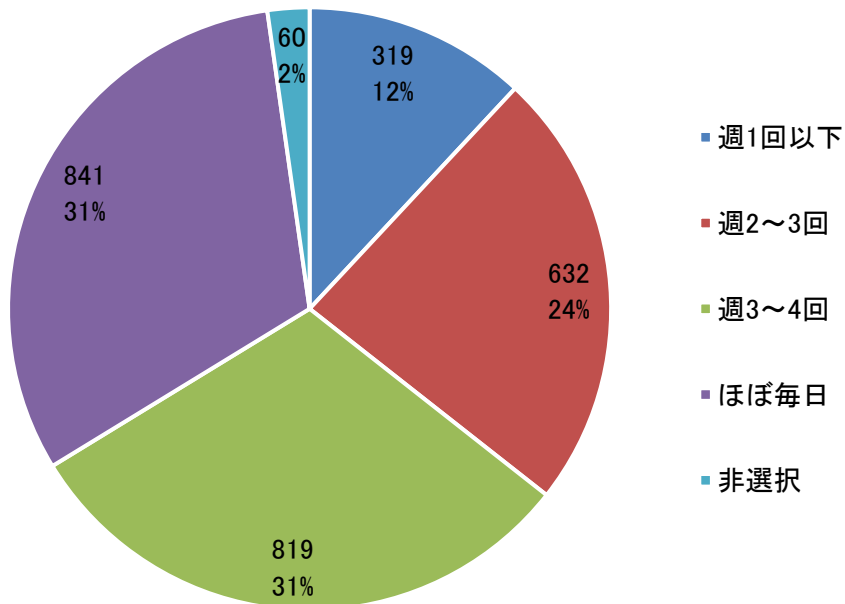


図 6-2.5 理想の登校頻度

## 6.3 学修

大学の教育・講義について

(13) あなたが思う東工大の人材育成における進むべき方向性を教えてください。(複数選択可)

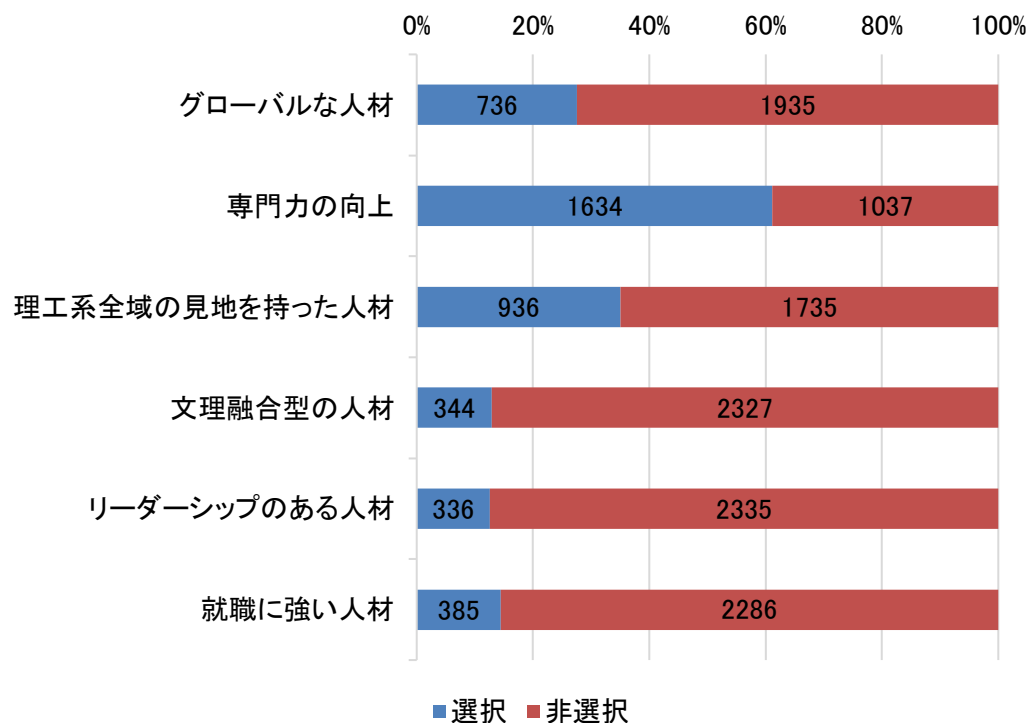


図 6-3.1 東工大の人材育成において進むべき方向性

(14) 東工大生としてプライドを持っていますか。

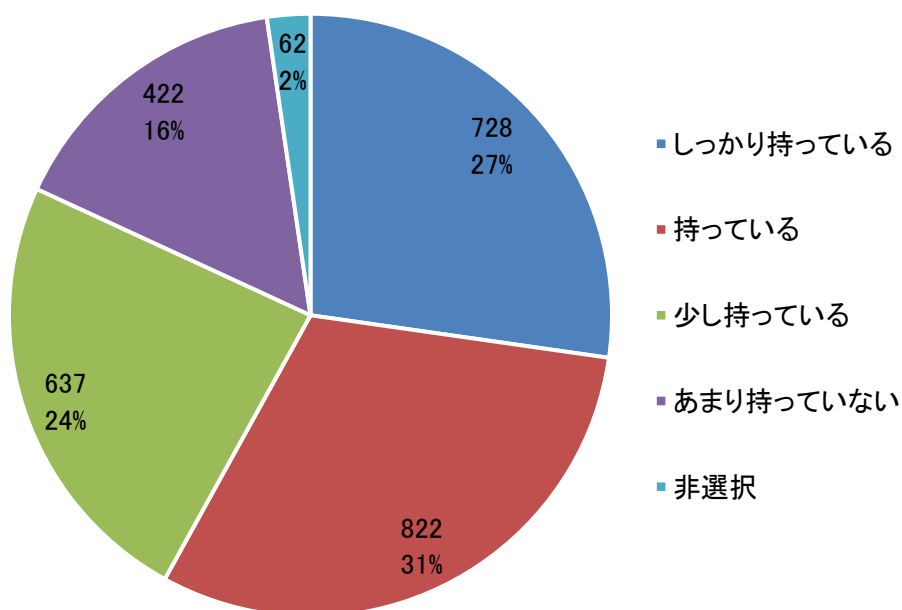


図 6-3.2 東工大生としてのプライド

6 調査資料集

(15) 東工大が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイントを教えてください。(複数選択可)

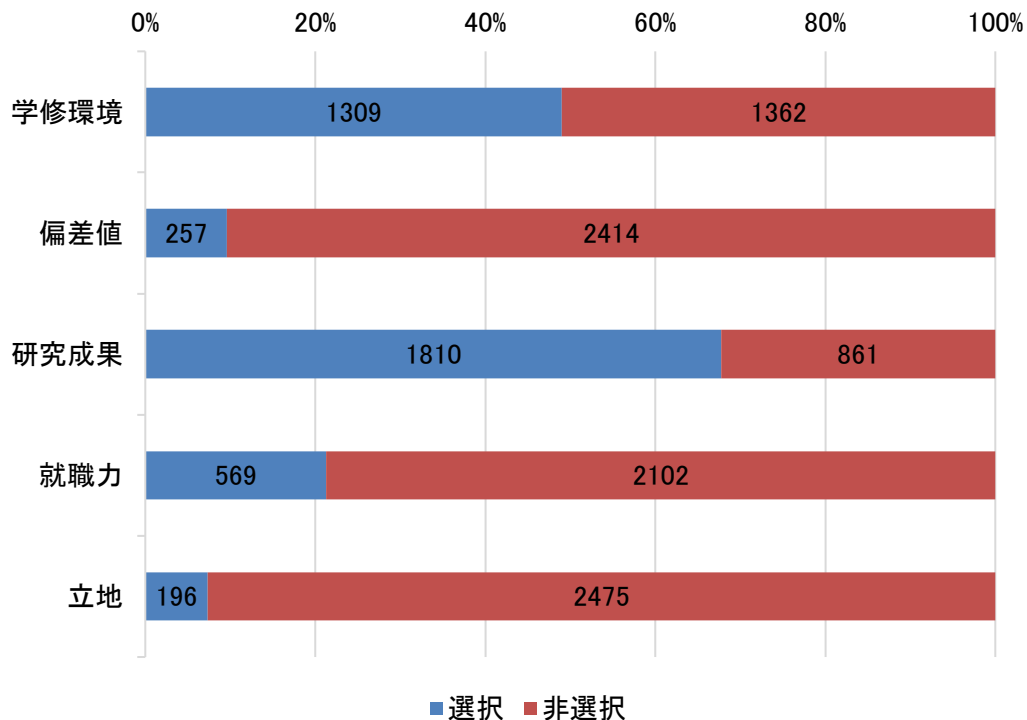


図 6-3.3 学外へ積極的にアピールすべきと感じるポイント

(16) 本学に進学した理由を教えてください。(複数選択可)

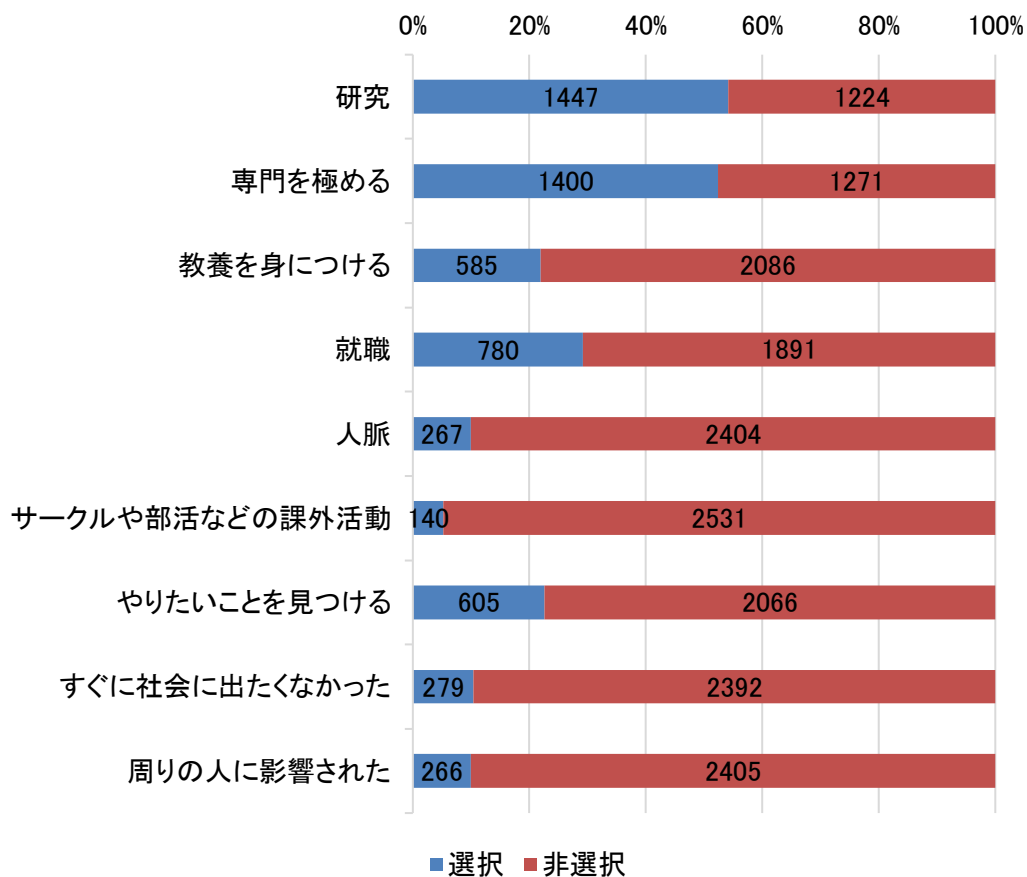


図 6-3.4 本学への進学理由

(17) 現在在籍している系・コース(学科・専攻)等への不満があれば教えてください。(複数選択可)

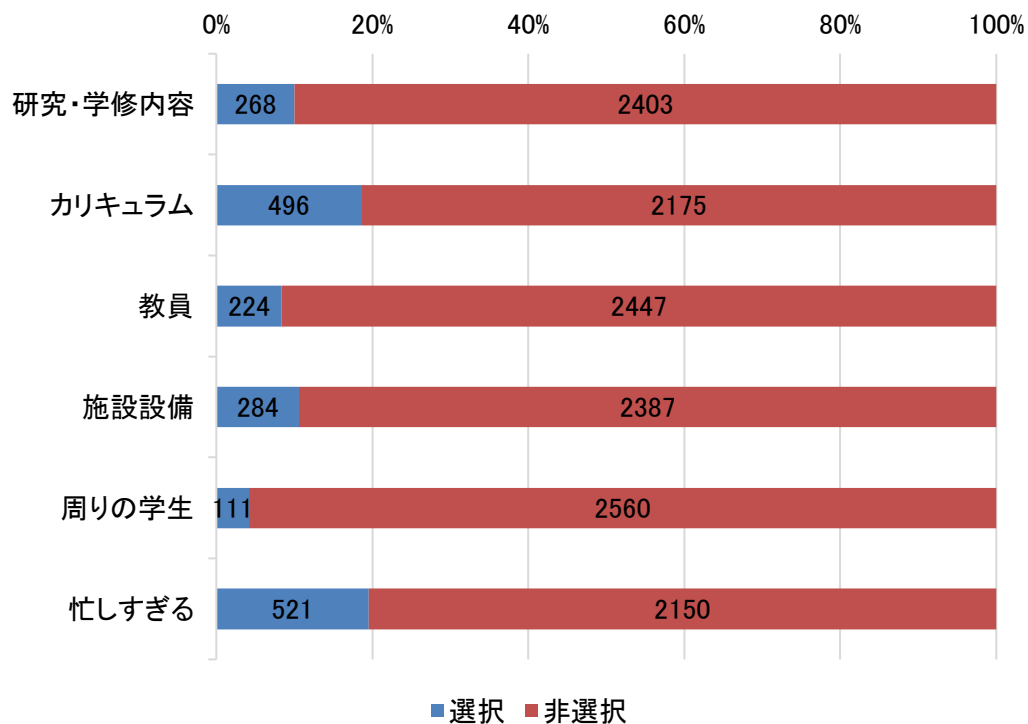


図 6-3.5 在籍している系・コース(学科・専攻)への不満

(18) T2SCHOLA の使い勝手を教えてください。

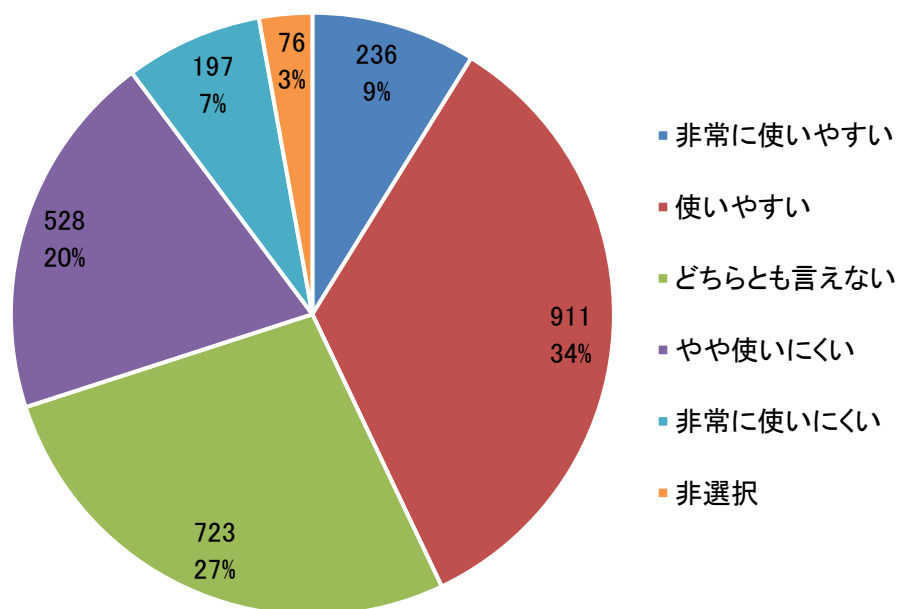


図 6-3.6 T2SCHOLA の使い勝手



6 調査資料集

(19) 卓越研究院について知っているものを教えてください。(複数選択可)

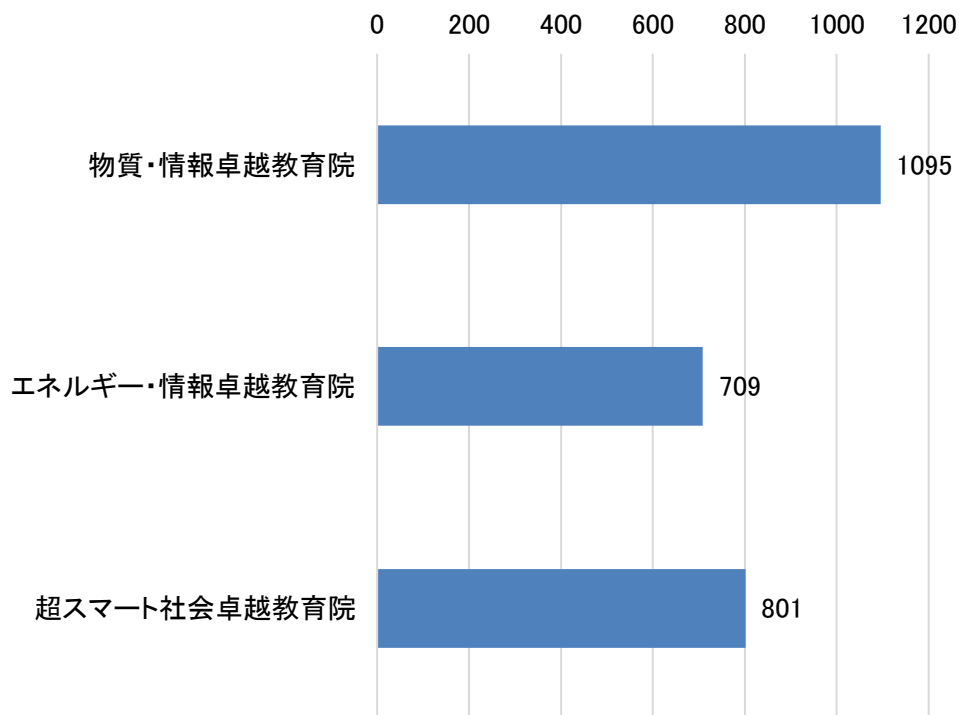


図 6-3.7 卓越研究院への認知

(20) 学内郵送およびオンラインで続けてほしい手続きについて、継続してほしいサービスがあれば教えてください。(複数選択可)

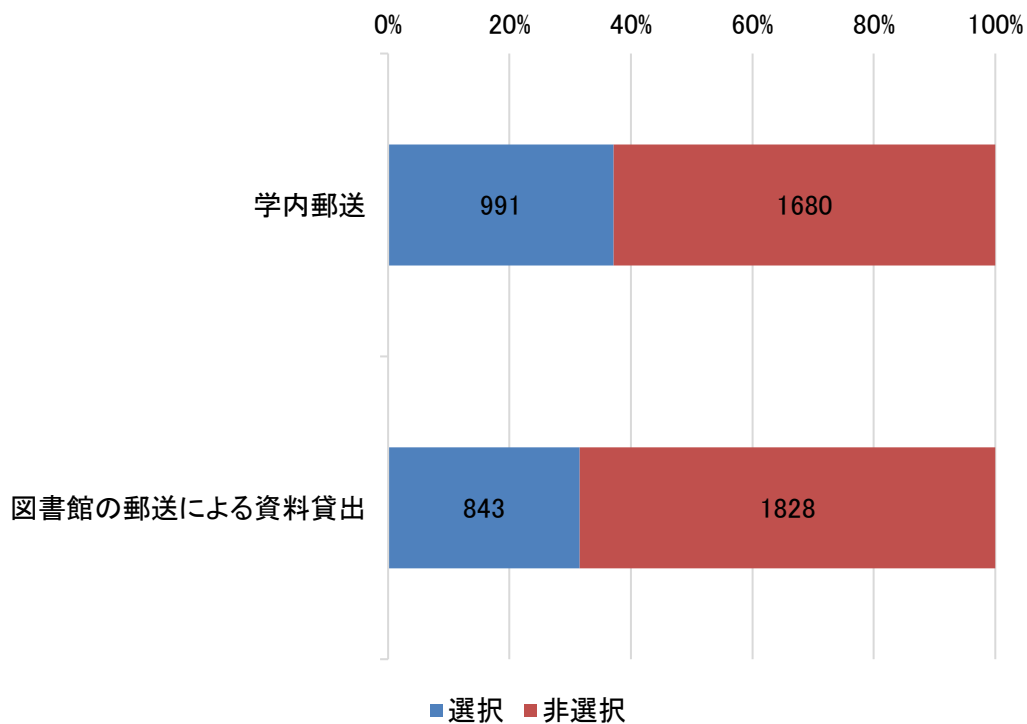


図 6-3.8 継続してほしいサービス

(21) 現在のクォーター間の休みに満足していますか。

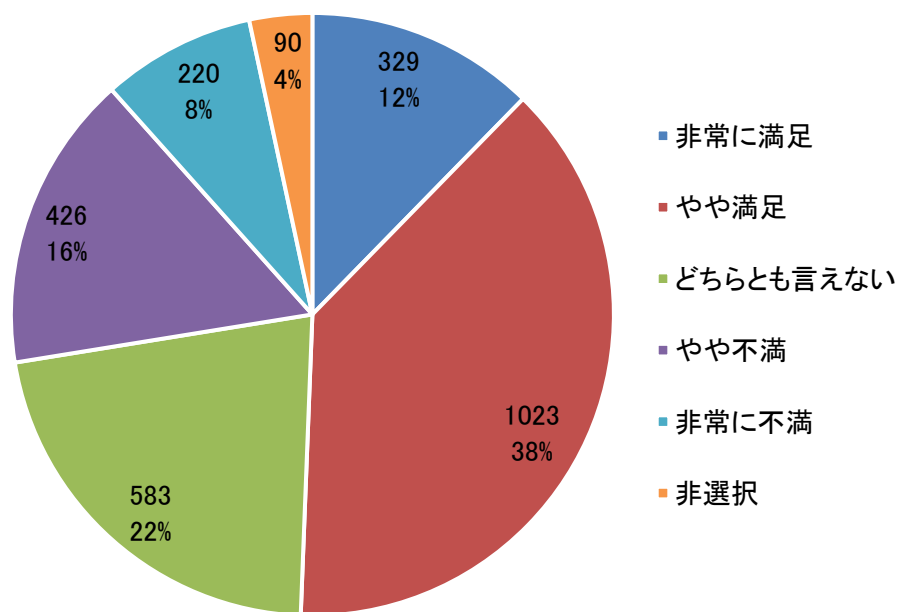


図 6-3.9 クォーター間の休みへの満足度

(22) 現在の授業開始時間と終了時間の設定は適切だと思いますか。

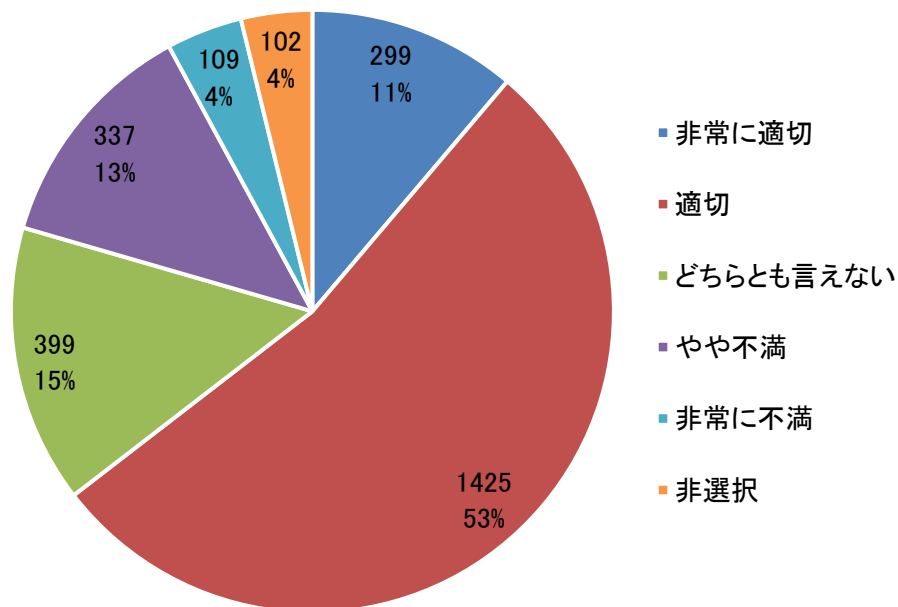


図 6-3.10 授業開始時間と終了時間への満足度

6 調査資料集

授業形式について(新型コロナウイルスの収束後を想定し、答えてもらいました。)

(23) 対面授業のメリットを教えてください。(複数選択可)

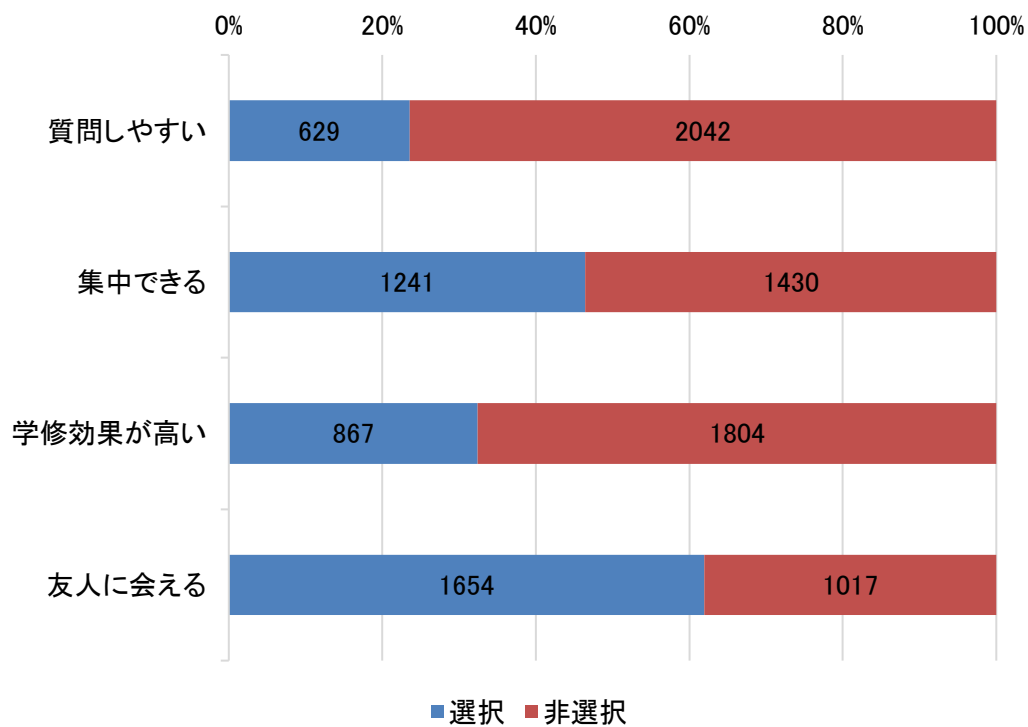


図 6-3.11 対面授業のメリット

(24) 対面授業のデメリットを教えてください。(複数選択可)

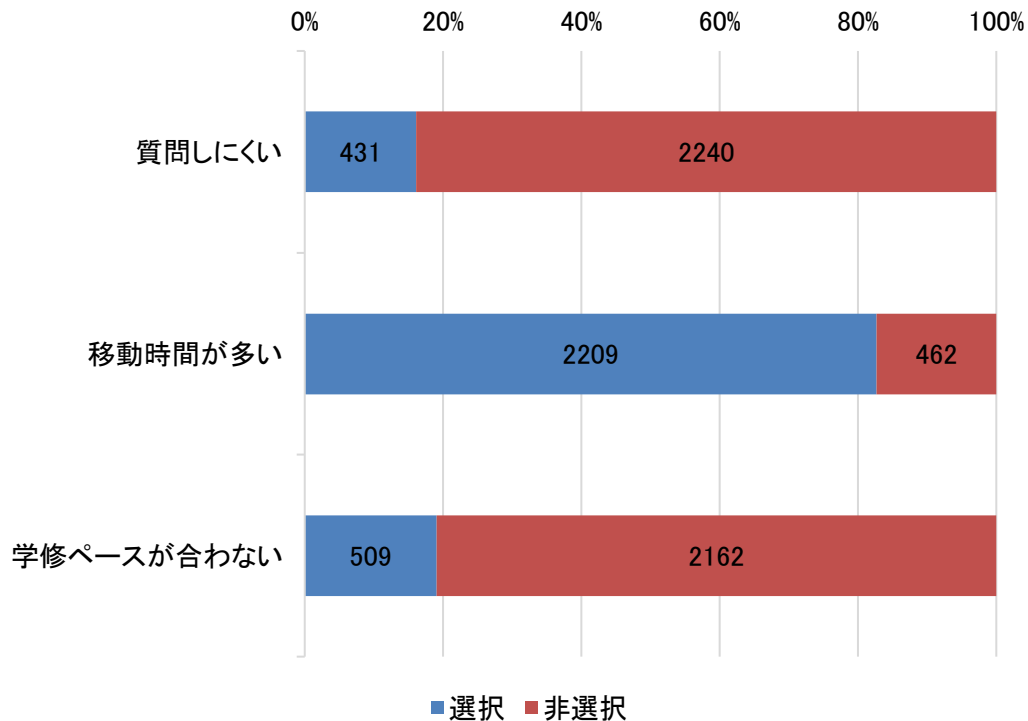


図 6-3.12 対面授業のデメリット

(25) オンライン授業のメリットを教えてください。(複数選択可)

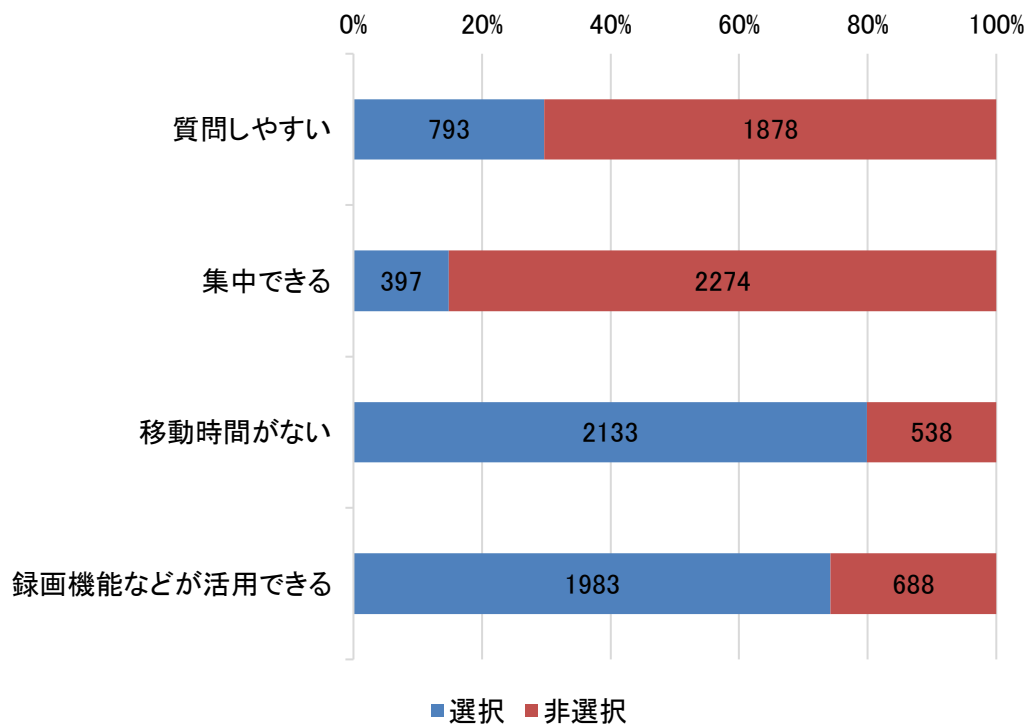


図 6-3.13 オンライン授業のメリット

(26) オンライン授業のデメリットを教えてください。(複数選択可)

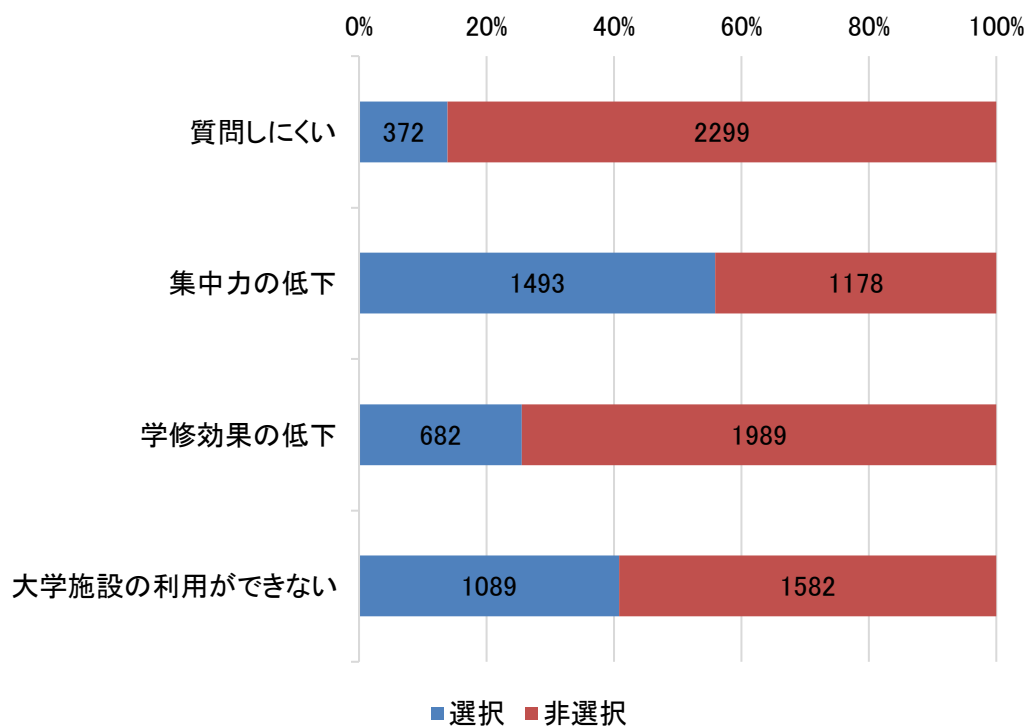


図 6-3.14 オンライン授業のデメリット

6 調査資料集

(27) 新型コロナウイルス収束後の授業形式について、望ましいと思う形式を教えてください。

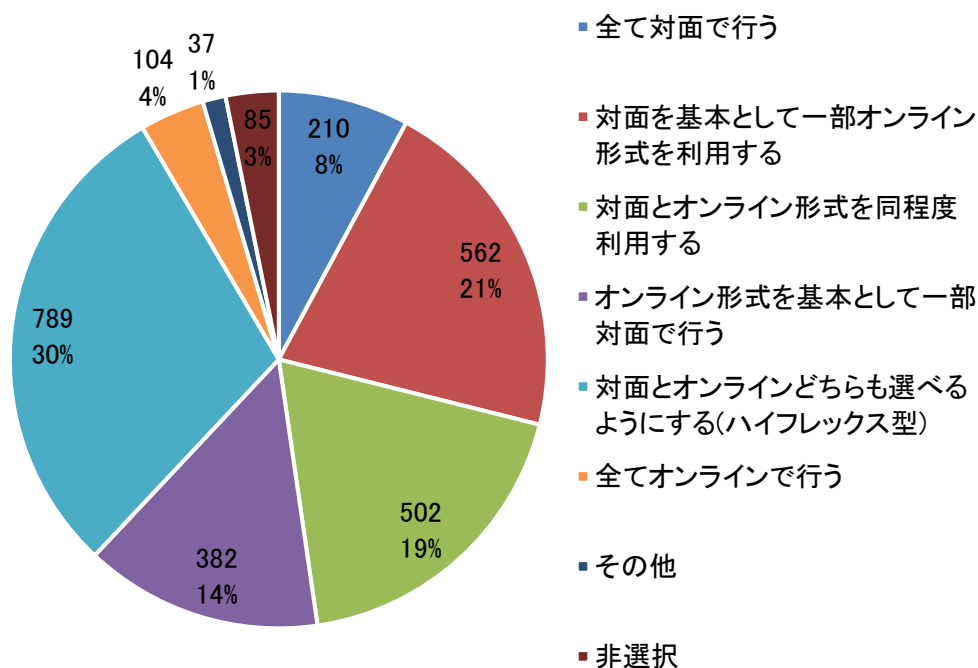


図 6-3.15 望ましい授業形式

(28) どのような授業をオンラインで行うべきだと思いますか。(複数選択可)

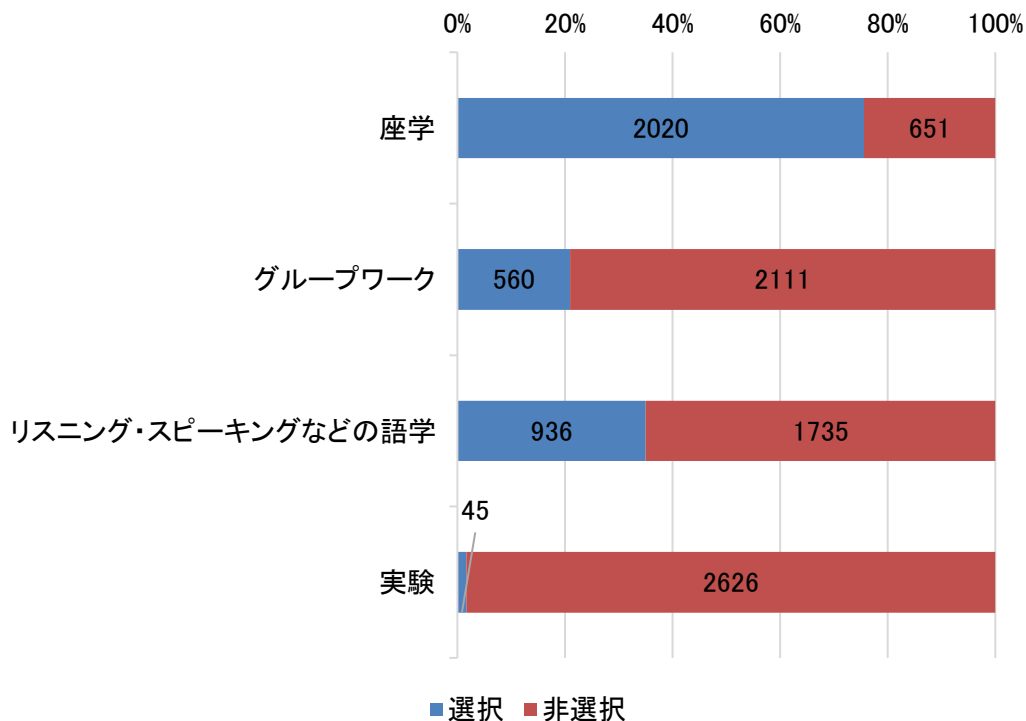


図 6-3.16 どのような授業をオンラインで行うべきか

(29) どのような授業を対面で行うべきだと思いますか。(複数選択可)

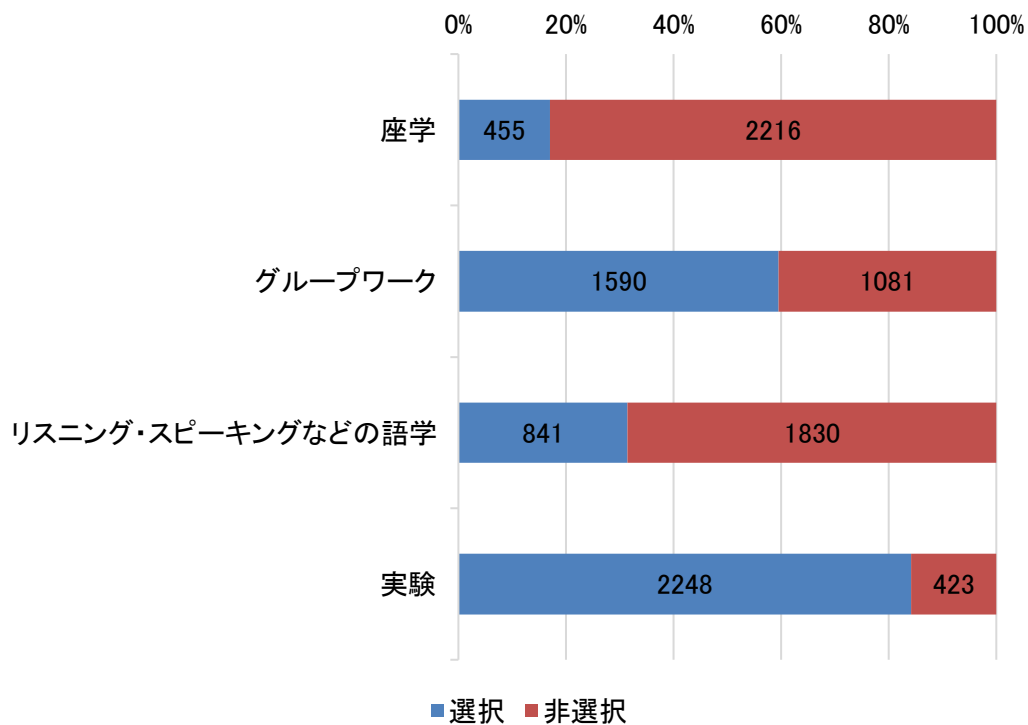


図 6-3.17 どのような授業を対面で行うべきか。

(30) オンライン講義の録画動画を、個別の申請など無しに受講者全員が利用可能な状態にするべきであると思いますか。

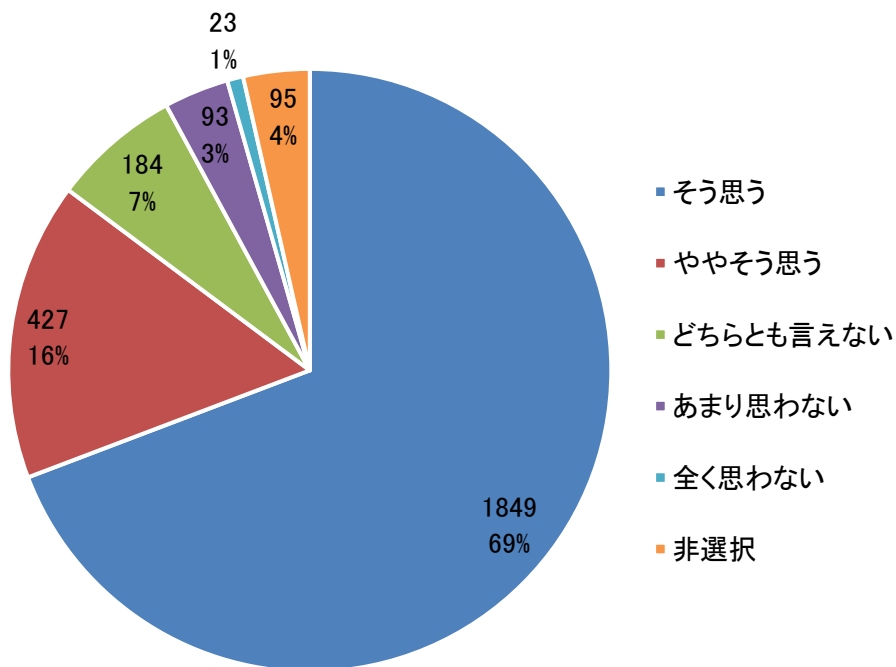


図 6-3.18 オンライン講義の録画動画を申請なしに受講者全員が利用可能にするべきか

6 調査資料集

(31) 対面授業の録画と公開を希望しますか。

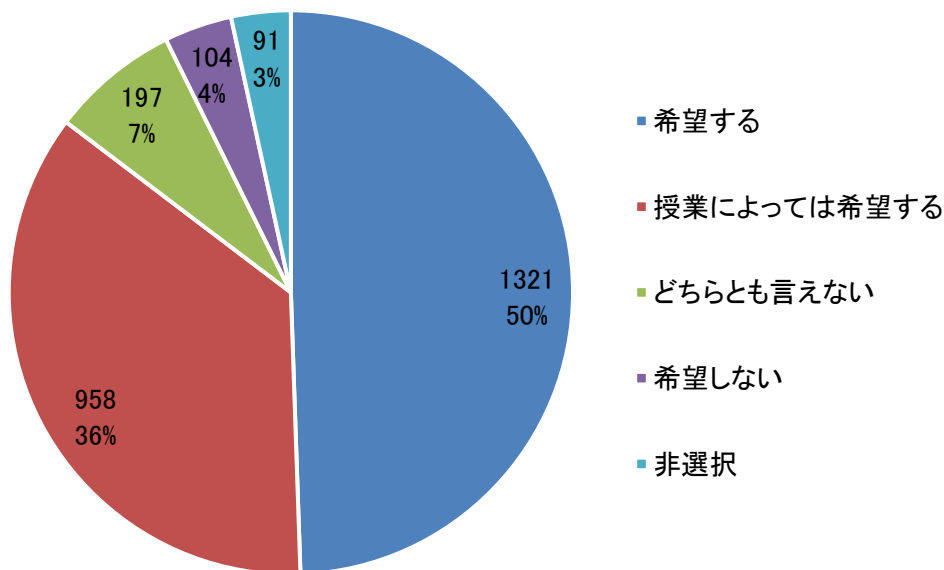


図 6-3.19 対面授業の録画と公開を希望するか

(32) どの対面授業の録画と公開を希望しますか。(複数選択可)

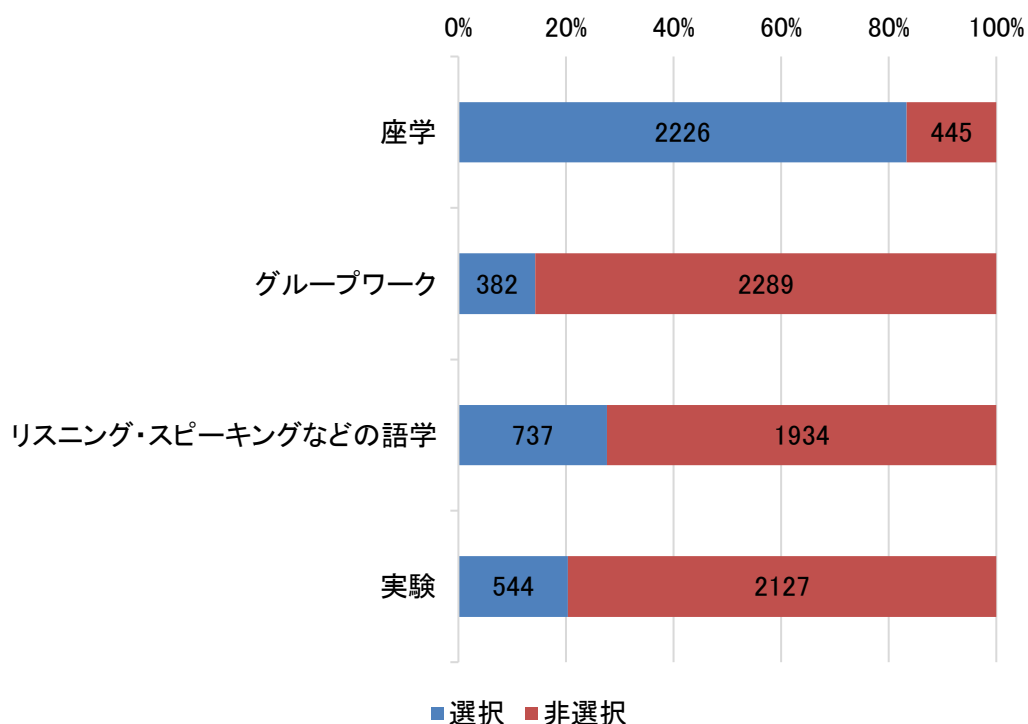


図 6-3.20 対面授業の録画と公開を希望する科目

履修について

(33) 専門科目(理工系教養科目を含む)について、履修をどのように決めていますか。(複数選択可)

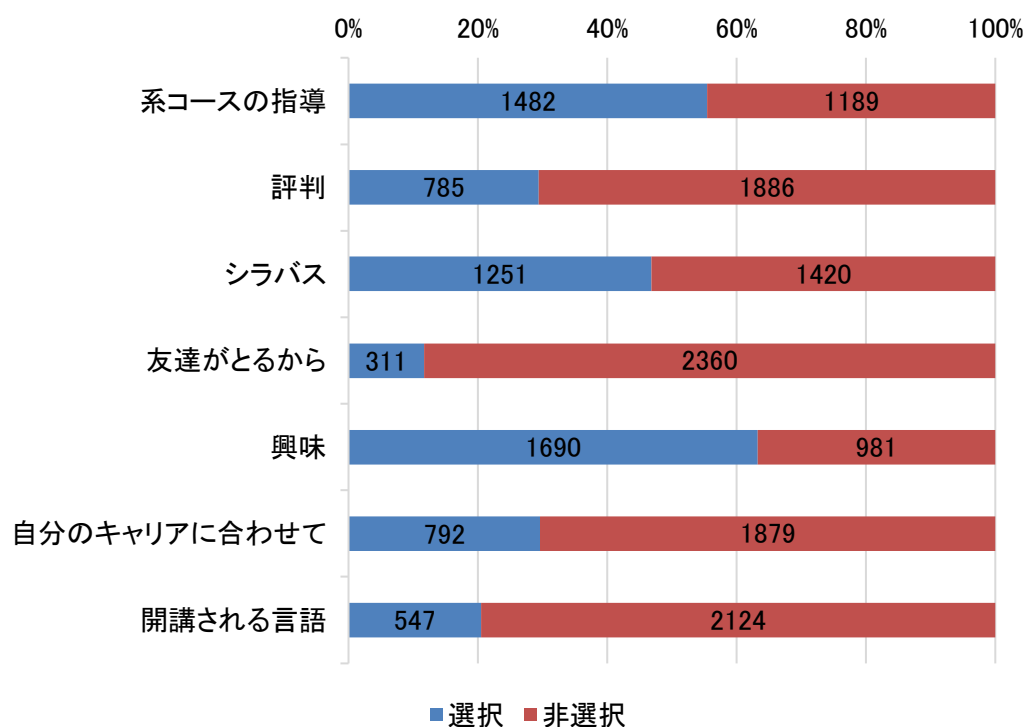


図 6-3.21 専門科目の履修の決定方法

(34) 専門科目(理工系教養科目を含む)以外について、履修をどのように決めていますか。(複数選択可)

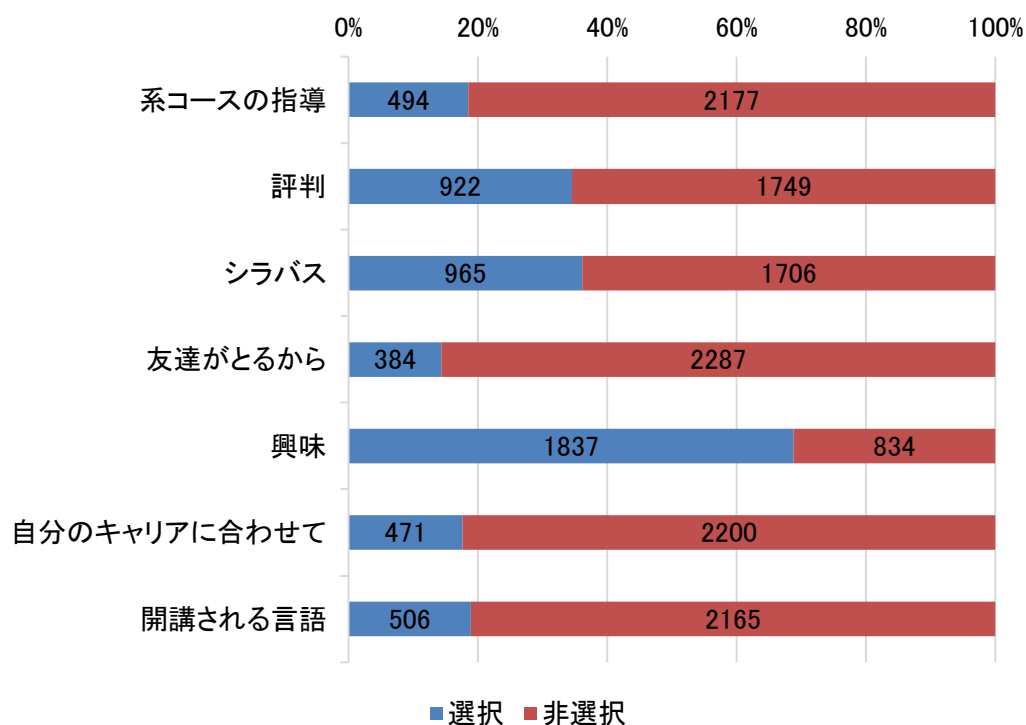


図 6-3.22 専門科目以外の履修の決定方法



6 調査資料集

(35) 現在の履修申告の制度に満足していますか。

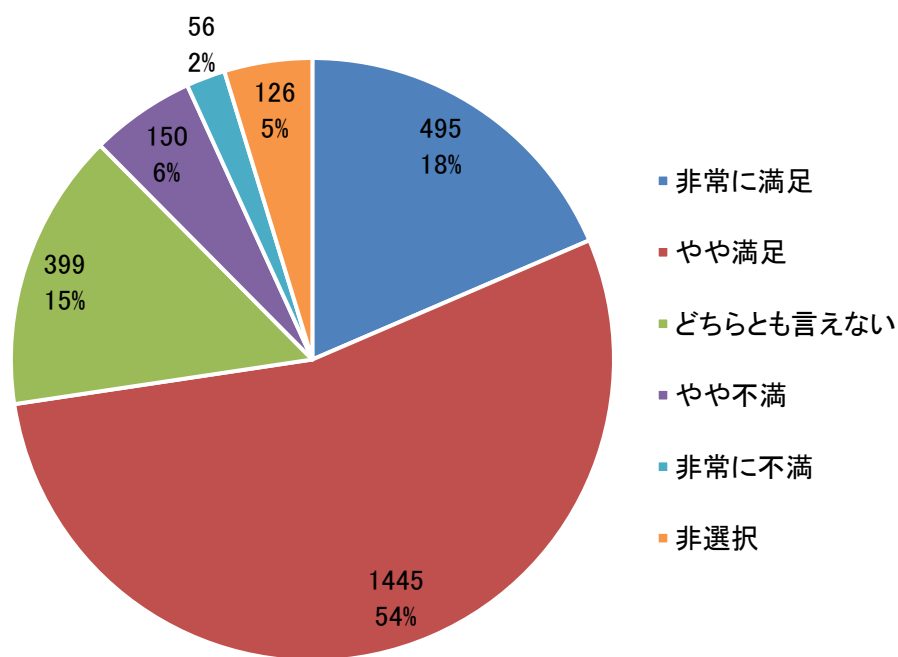


図 6-3.23 履修申告の制度への満足度

(36) 成績評価制度(GPA や CAP制、成績開示方法など)について、満足度を教えてください。

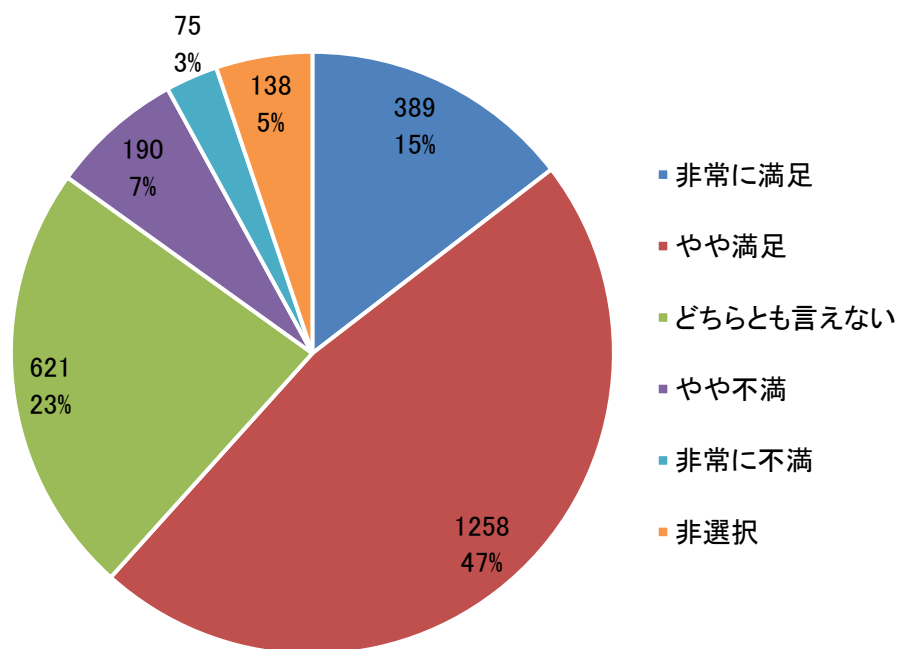


図 6-3.24 成績評価制度への満足度

(37) 日本語で授業を受けることに抵抗はありますか。(留学生のみが回答)

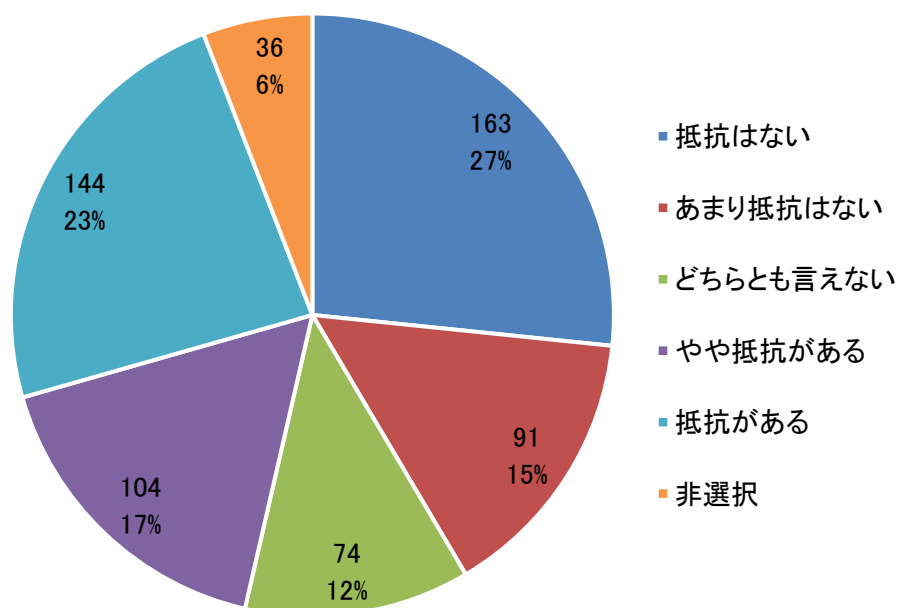


図 6-3.25 留学生が日本語で授業を受けることへの抵抗感

(38) 博士後期課程における文系教養科目について満足度を教えてください。

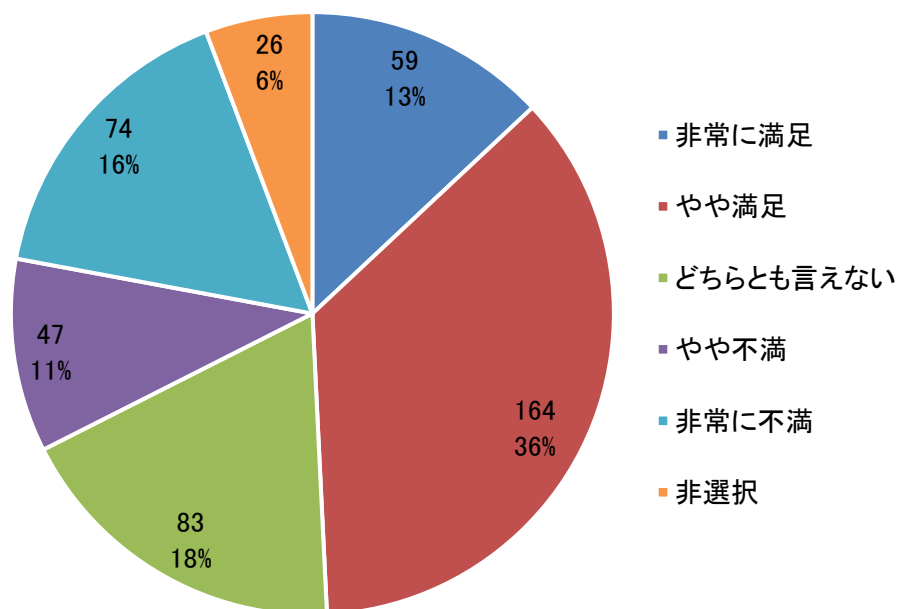


図 6-3.26 博士後期課程における文系教養科目への満足度

6 調査資料集

本学での進学について

(39) 進学予定について教えてください。

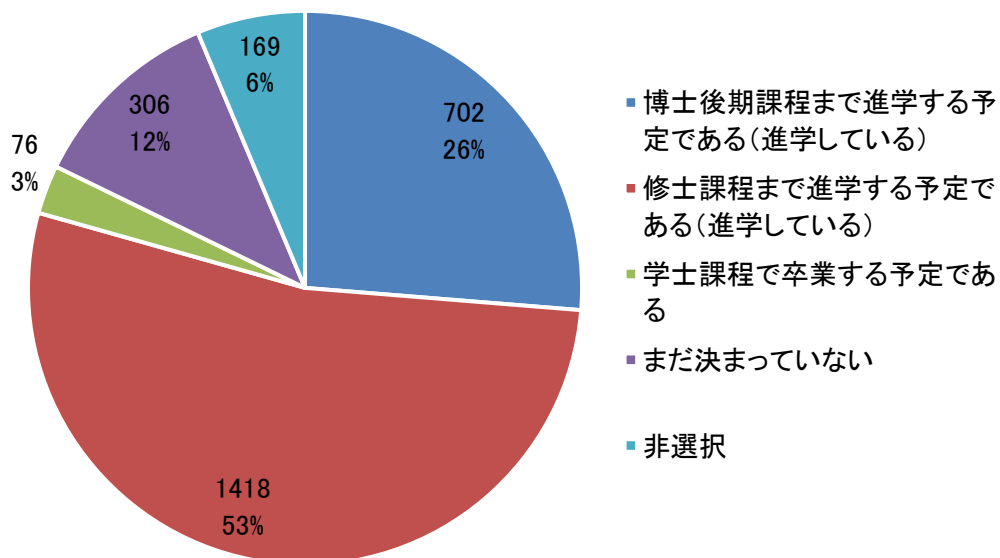


図 6-3.27 修士・博士後期課程への進学予定

(40) 本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

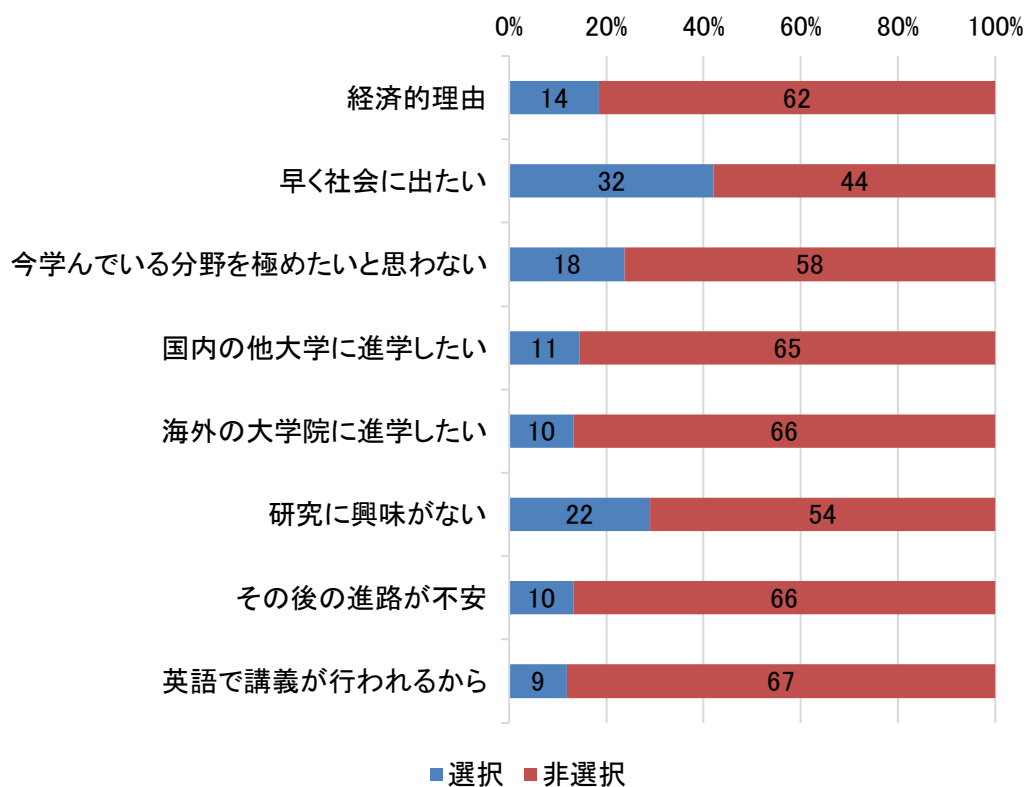


図 6-3.28 本学での修士課程進学を希望しない理由

(41) 修士課程に進学した/進学希望なのはなぜですか。

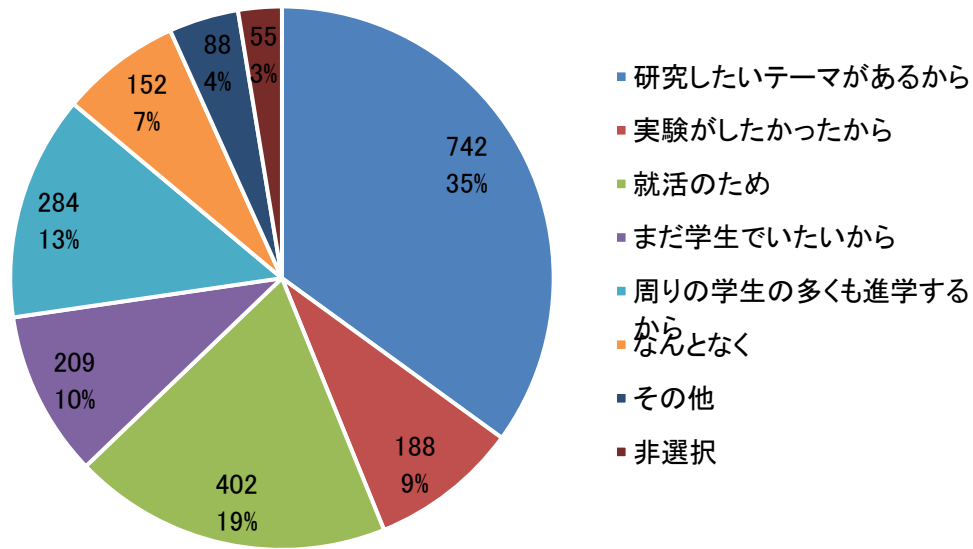


図 6-3.29 修士課程に進学した/進学希望の理由

(42) 本学での博士後期課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

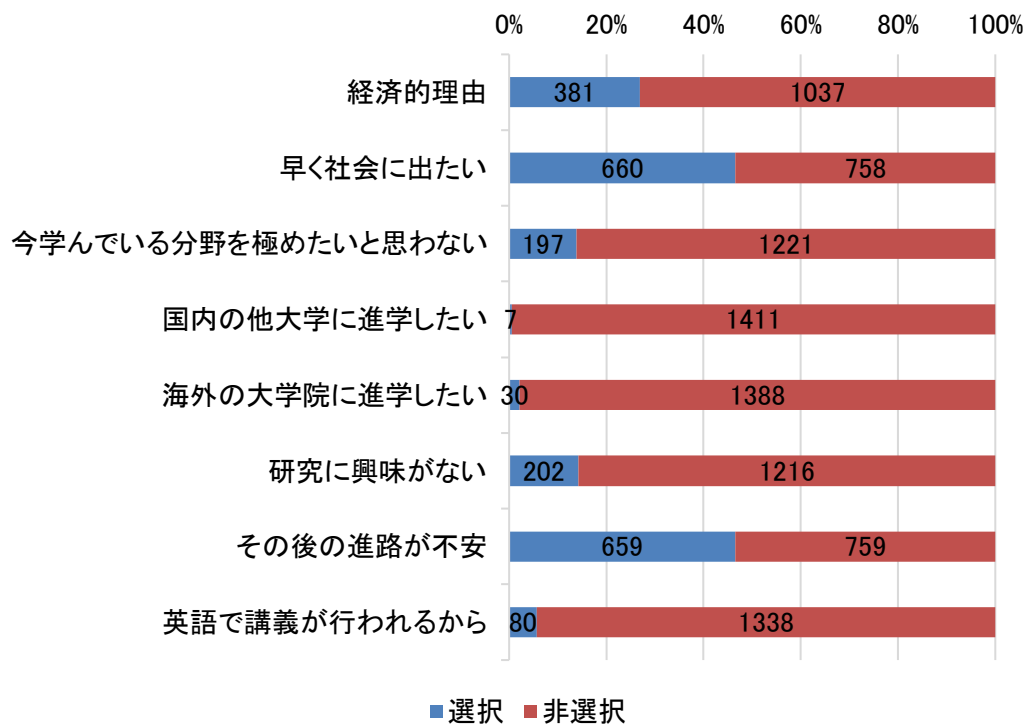


図 6-3.30 本学での博士後期課程進学を選択しない理由

(43) 博士後期課程に進学した、または進学希望である理由を教えてください。

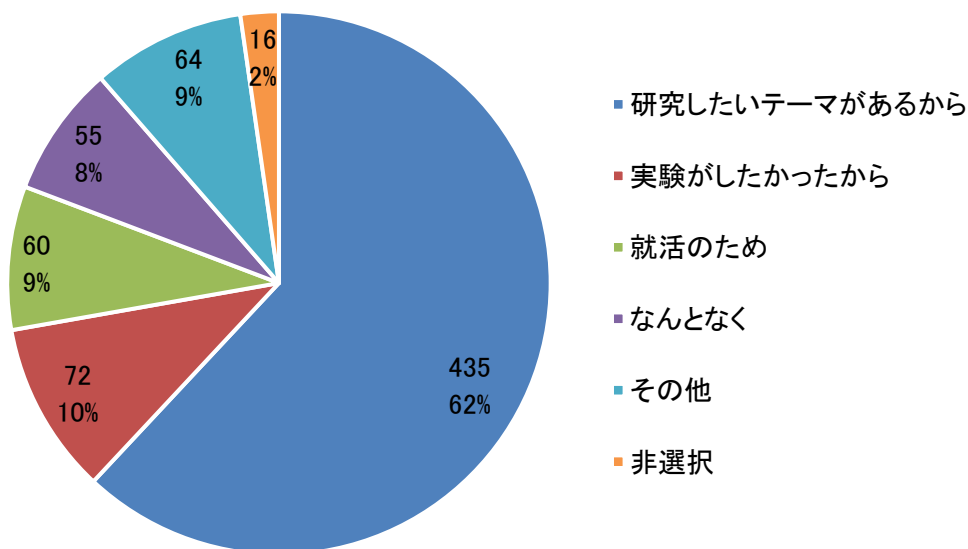


図 6-3.31 博士後期課程に進学した/進学希望である理由

## 6.4 学修サービス

(44) あなたは留学したことがありますか。

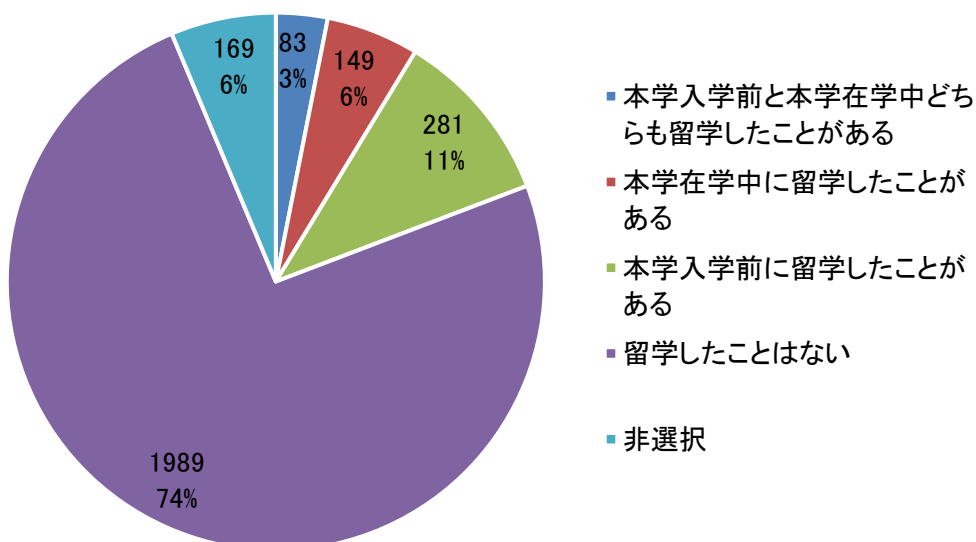


図 6-4.1 留学経験の有無

(45) 留学をしてみたいと思いますか。

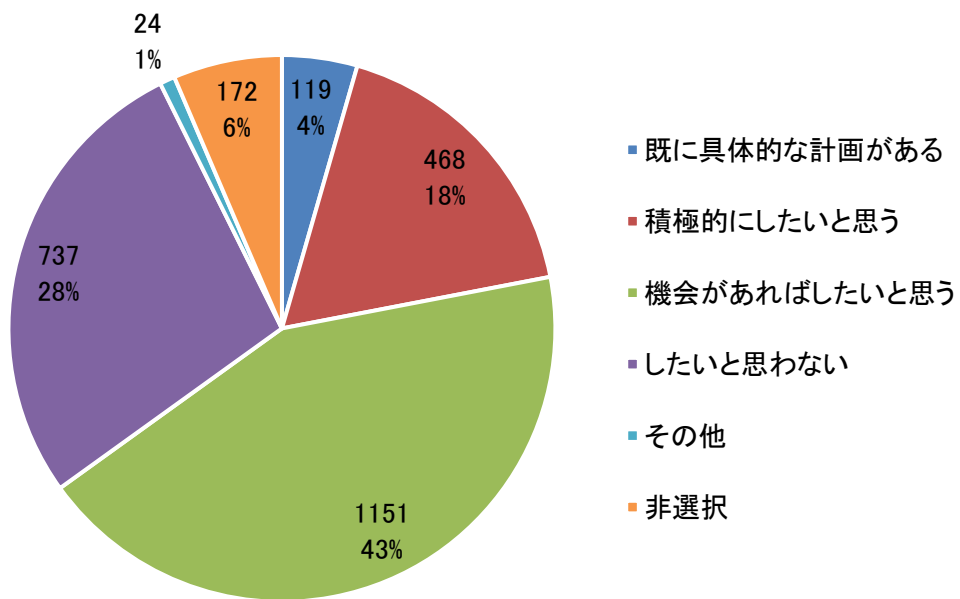


図 6-4.2 留学をしてみたいと思うか

(46) 留学を考える上で何か障壁はありますか。(複数選択可)

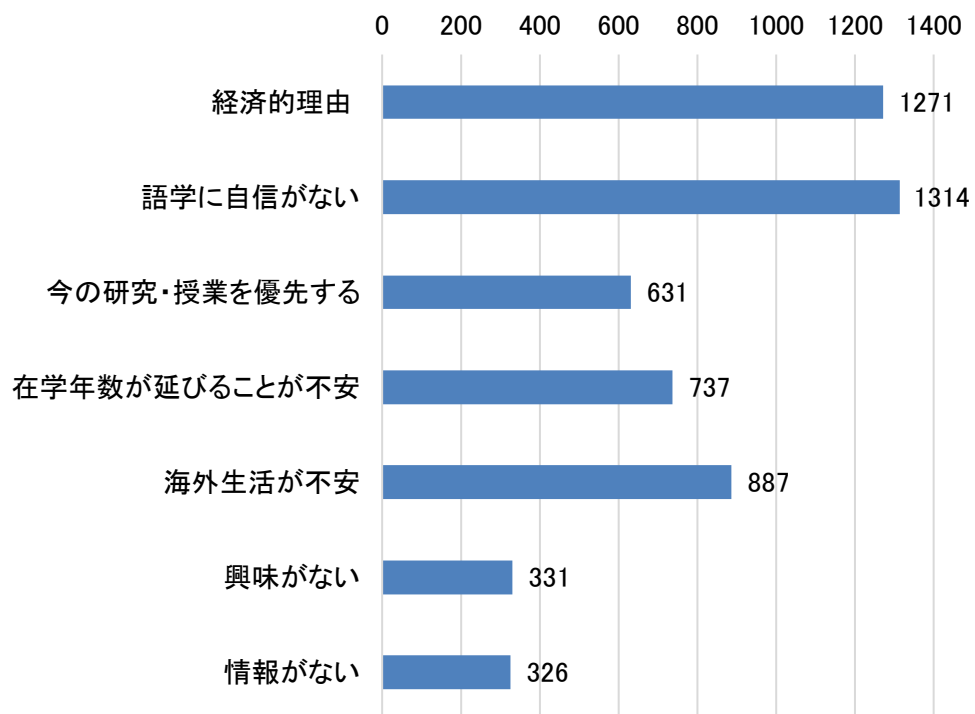


図 6-4.3 留学を考える上での障壁

6 調査資料集

(47) 留学関連のイベントに参加したことがありますか。

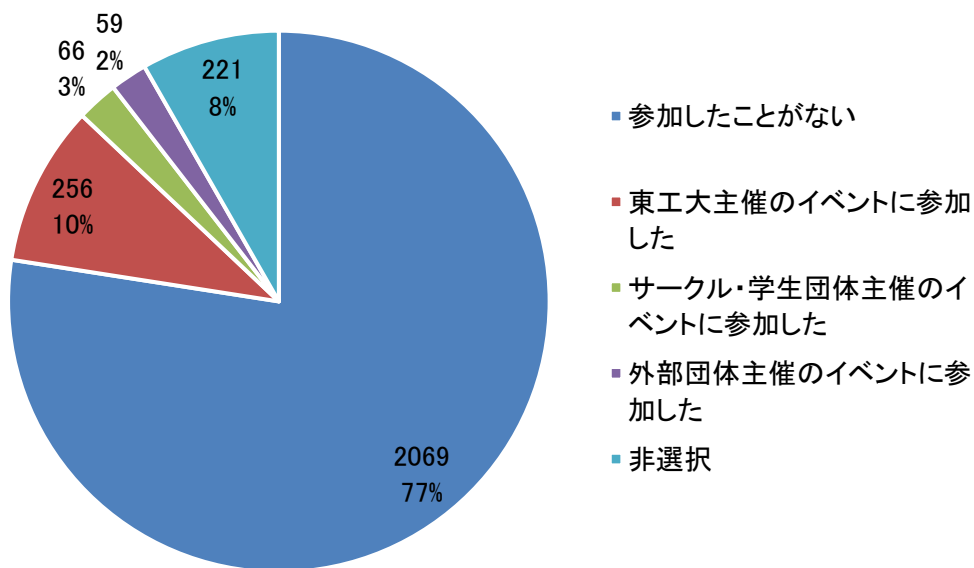


図 6-4.4 留学関連のイベントへの参加の有無

(48) 留学に関する東工大の取り組みについて、良いと思うものがあれば教えてください。(複数選択可)

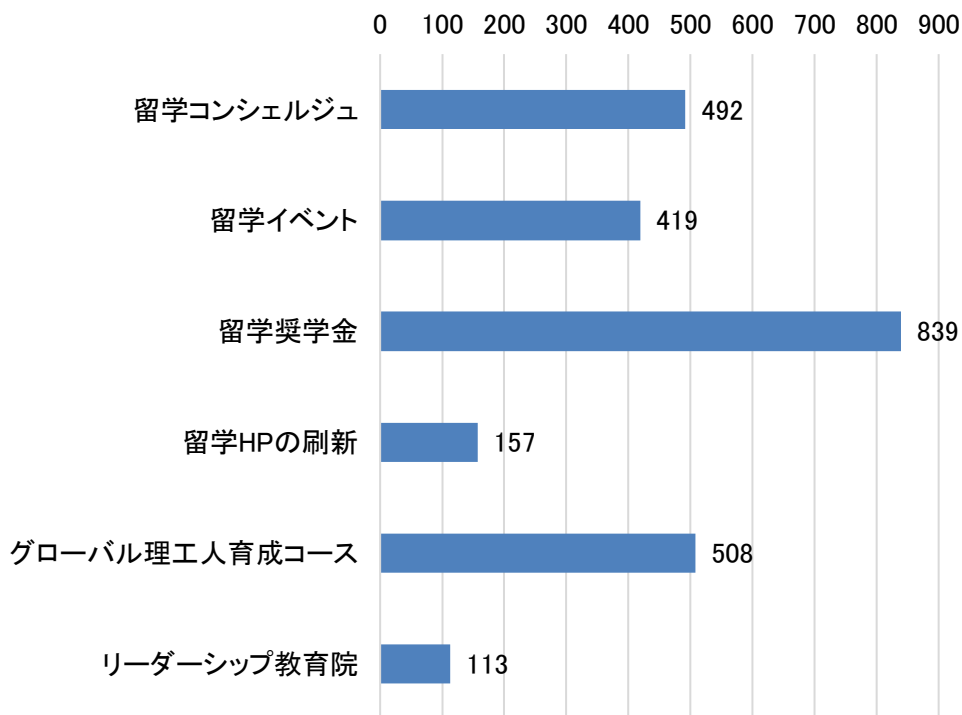


図 6-4.5 留学に対する取り組みで良いと思うもの

(49) 留学生との交流など、異なる文化に触れる機会を積極的に持っていますか。

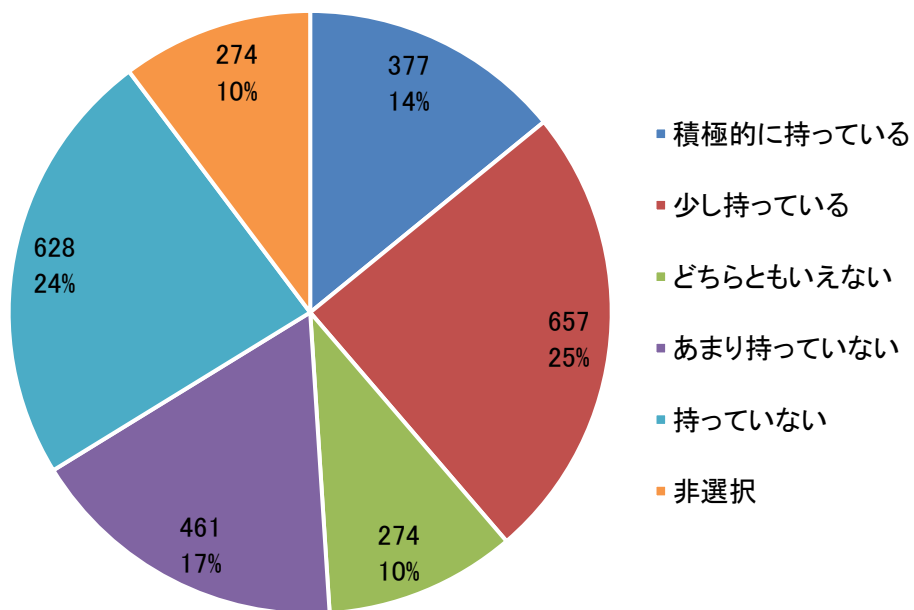


図 6-4.6 異なる文化に触れる機会の有無

(50) Taki Plaza で行われている異文化交流イベントを知っていますか。

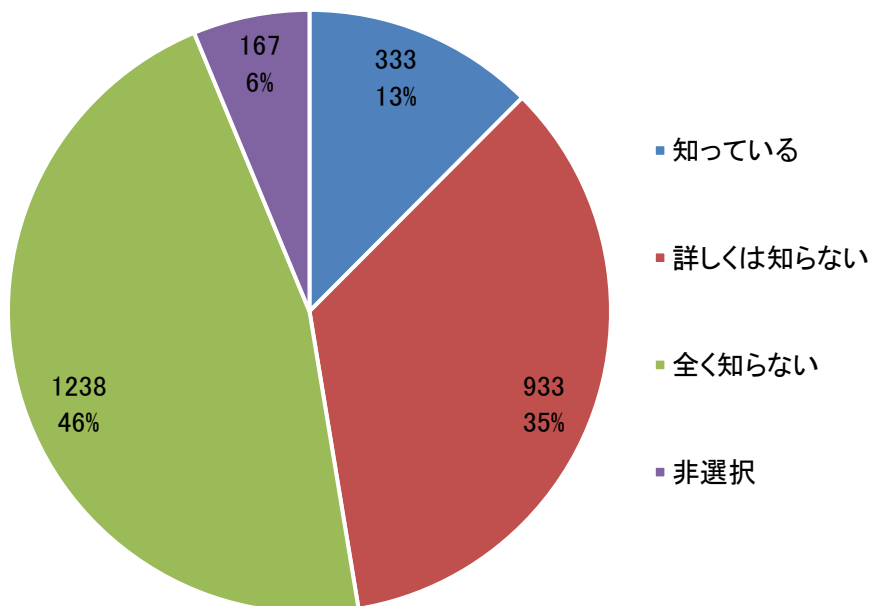


図 6-4.7 Taki Plaza で行われている異文化交流イベントの認知度



6 調査資料集

(51) 起業について、ご自身の考えに当てはまるものを教えてください。

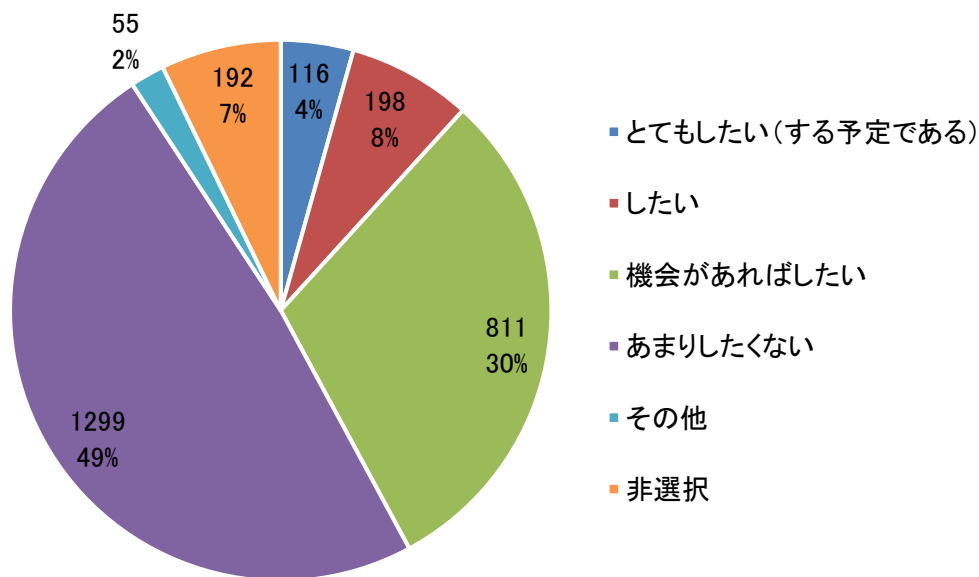


図 6-4.8 起業についての考え

(52) 起業に関する東工大の取り組みについて、知っているものを教えてください。(複数選択可)

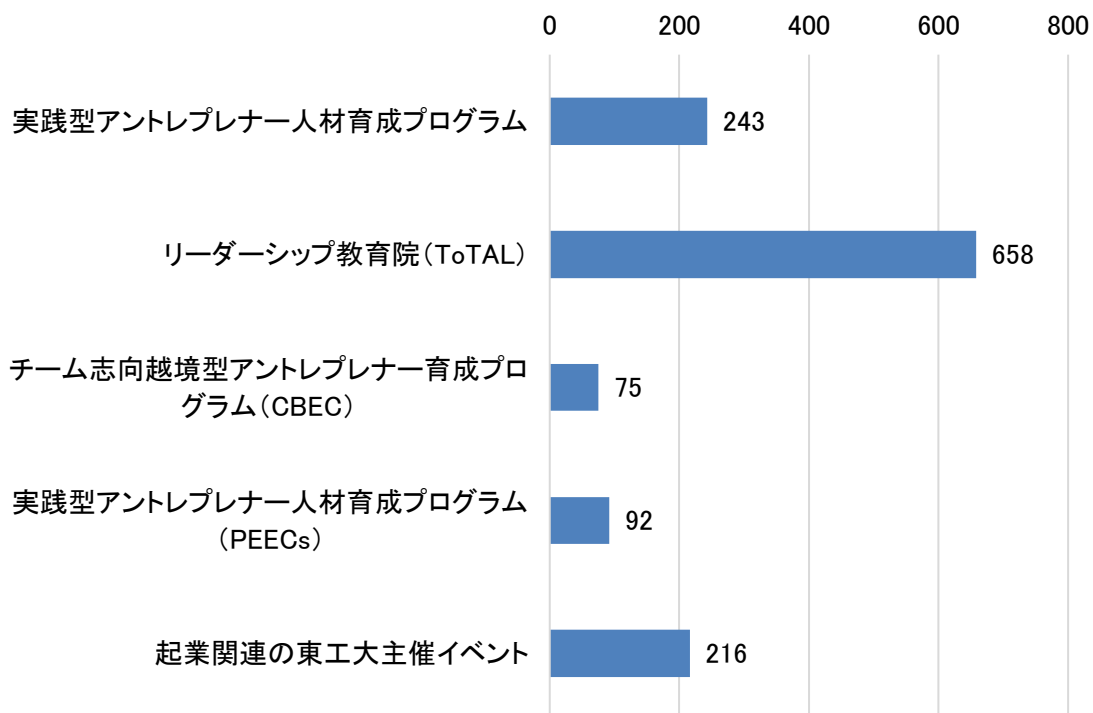


図 6-4.9 起業に関する取り組みの認知度

## 6.5 食事

(53) 2021 年度および 2022 年度について、大学で食事をとりましたか。

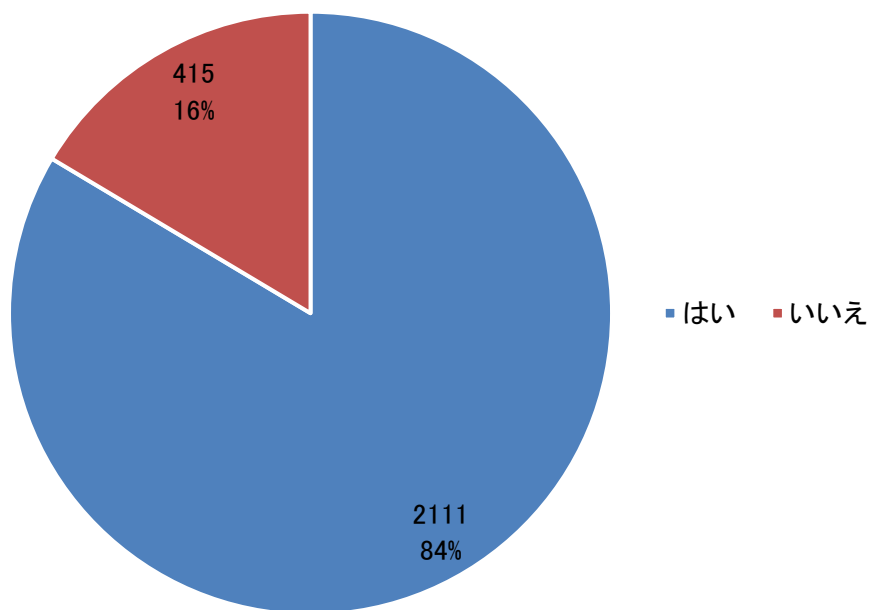


図 6-5.1 大学で食事をとったか

(54) 平日の昼食は主にどこを利用していますか。

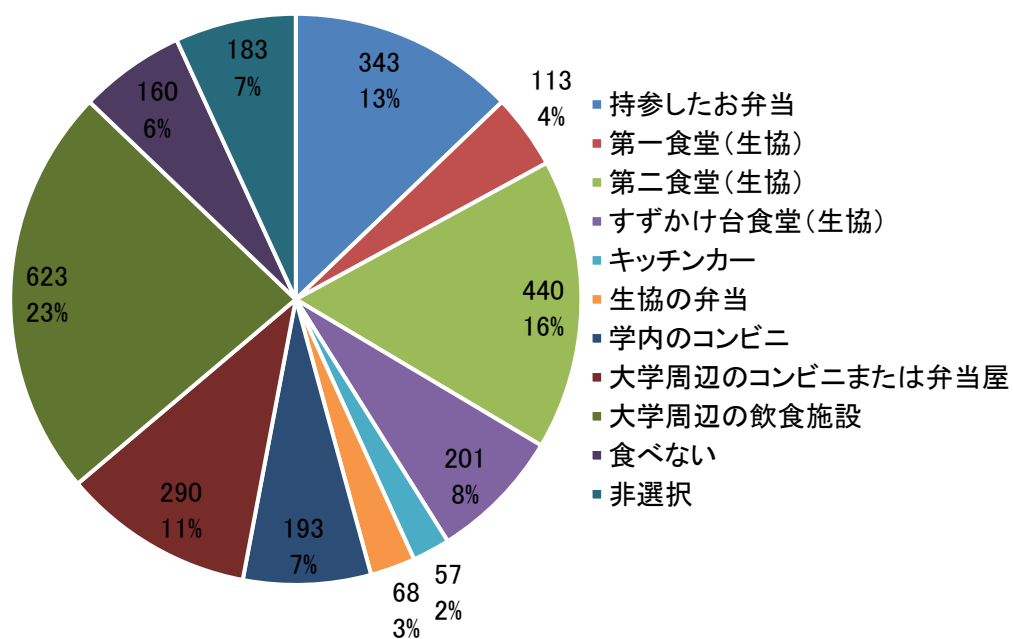


図 6-5.2 平日の昼食場所

6 調査資料集

(55) ハラルフードやヴィーガンメニューなどに関する大学の対応について、満足度を教えてください。

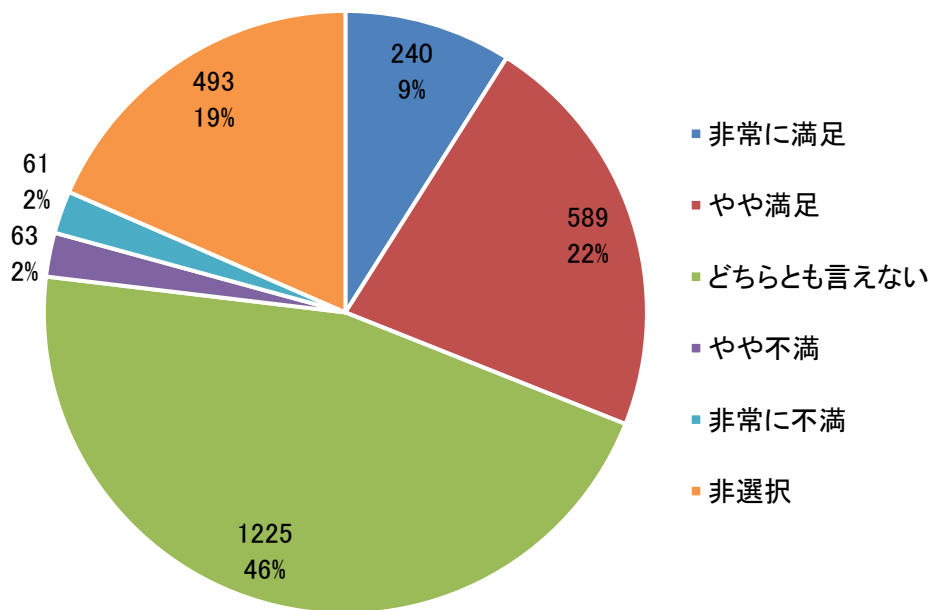


図 6-5.3 ハラルフードやヴィーガンフードへの満足度

生協食堂について

(56) 生協食堂をどのくらいの頻度で利用しますか。

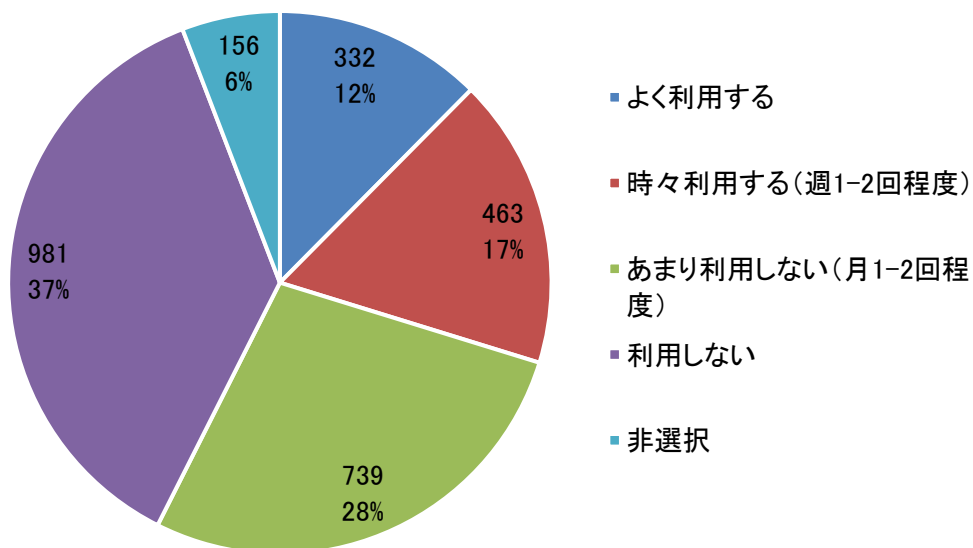


図 6-5.4 生協食堂の利用頻度

(57) 生協食堂が提供する食事の質および価格はいかがですか。

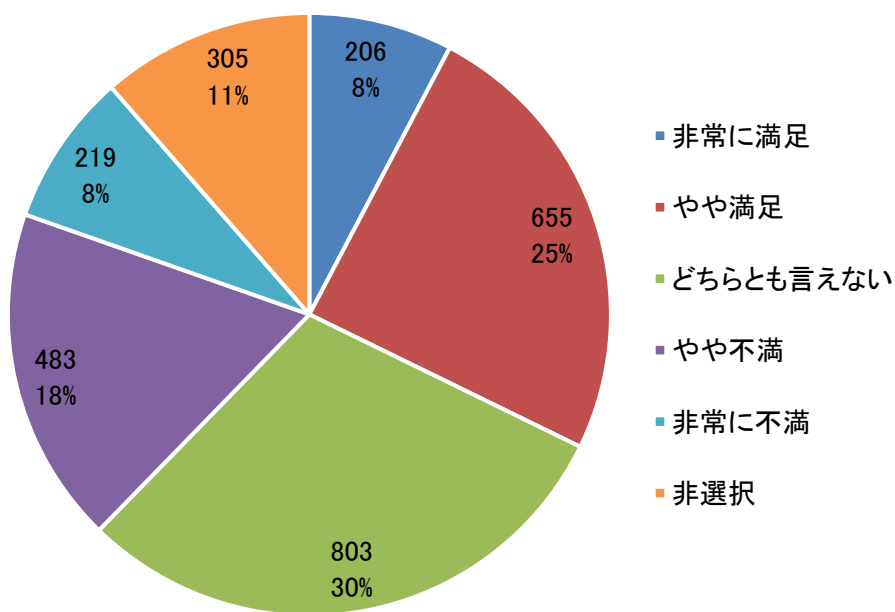


図 6-5.5 生協食堂が提供する食事への満足度

キッチンカーについて

(58) キッチンカーをどれくらいの頻度で利用しますか。

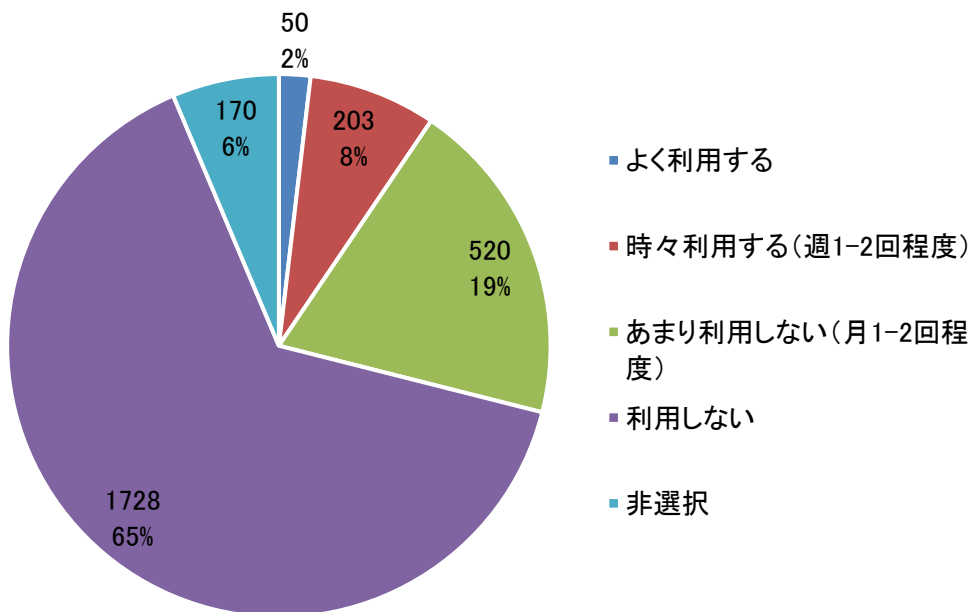


図 6-5.6 キッチンカーの利用頻度

## 6 調査資料集

(59) キッチンカーが提供する食事の質および価格はいかがですか。

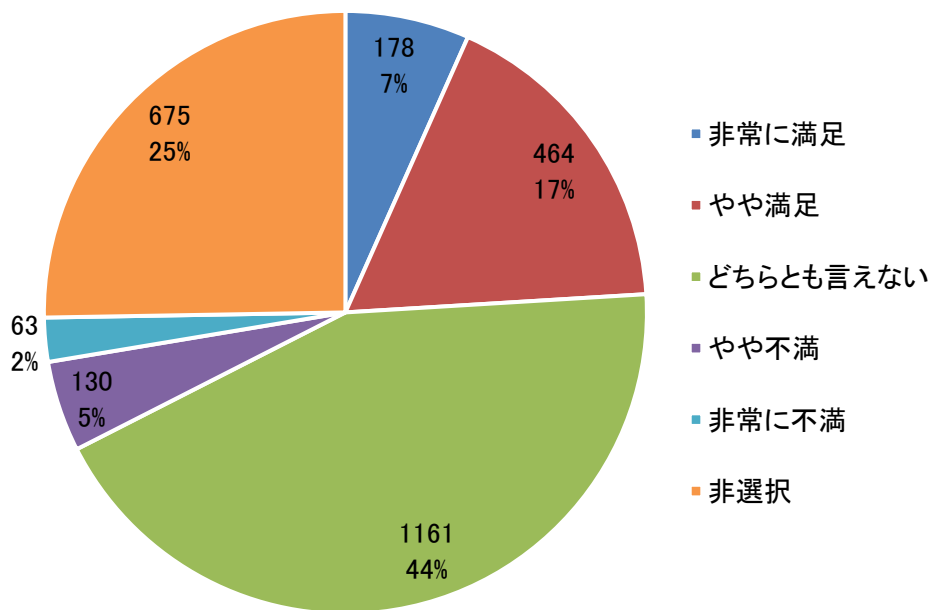


図 6-5.7 キッチンカーが提供する食事への満足度

## 6.6 施設

(60) 附属図書館をどの程度利用していますか。

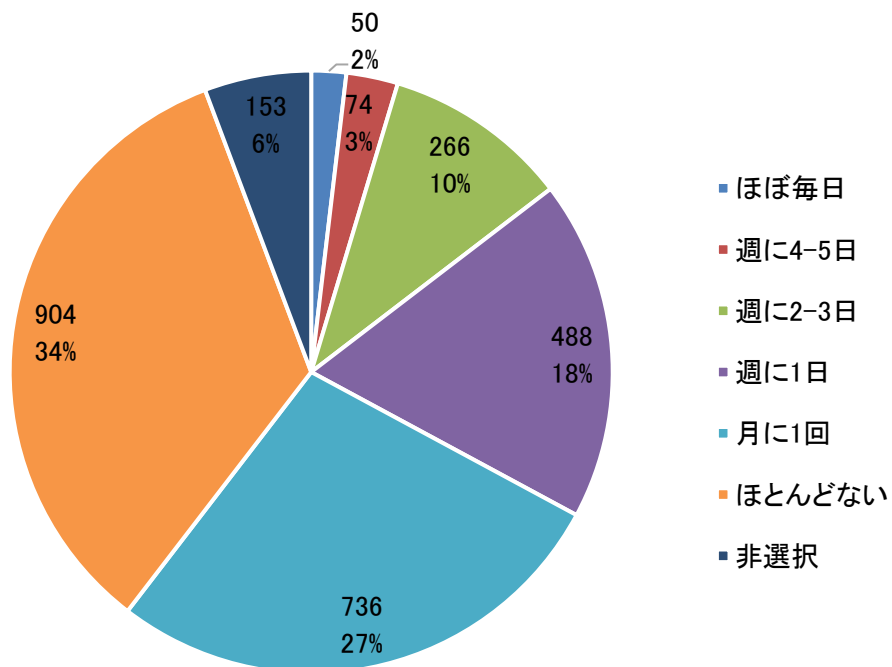


図 6-6.1 附属図書館の利用頻度

(61) 生協購買部をどの程度利用していますか。

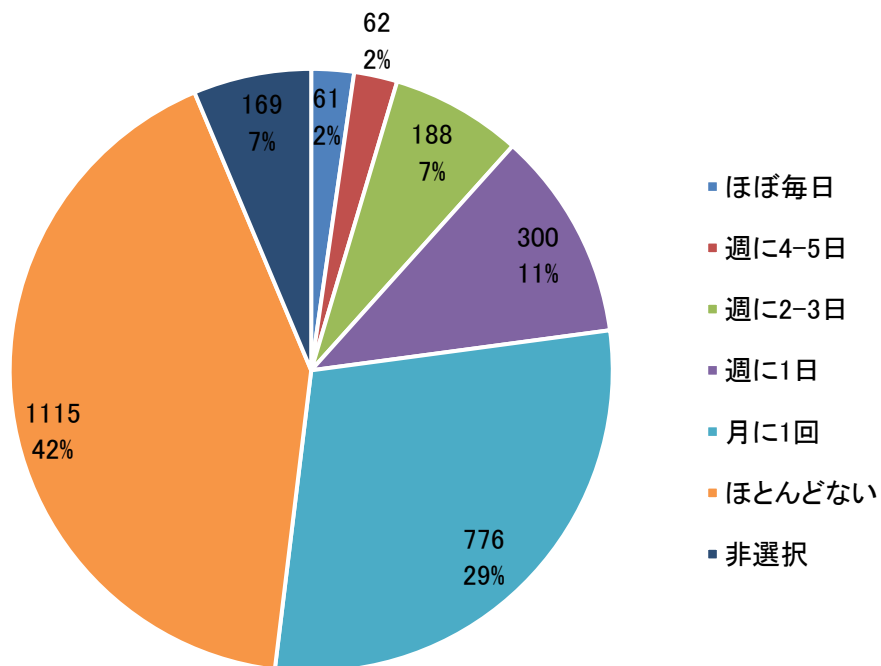


図 6-6.2 生協購買部の利用頻度

(62) Taki Plaza をどの程度利用していますか。

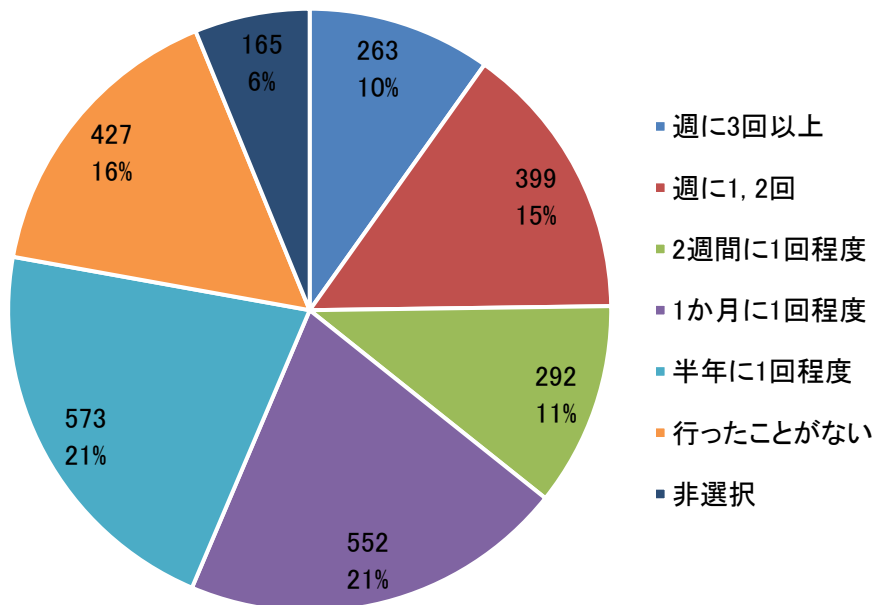


図 6-6.3 Taki Plaza の利用頻度

6 調査資料集

(63) サークル棟をどの程度利用していますか。

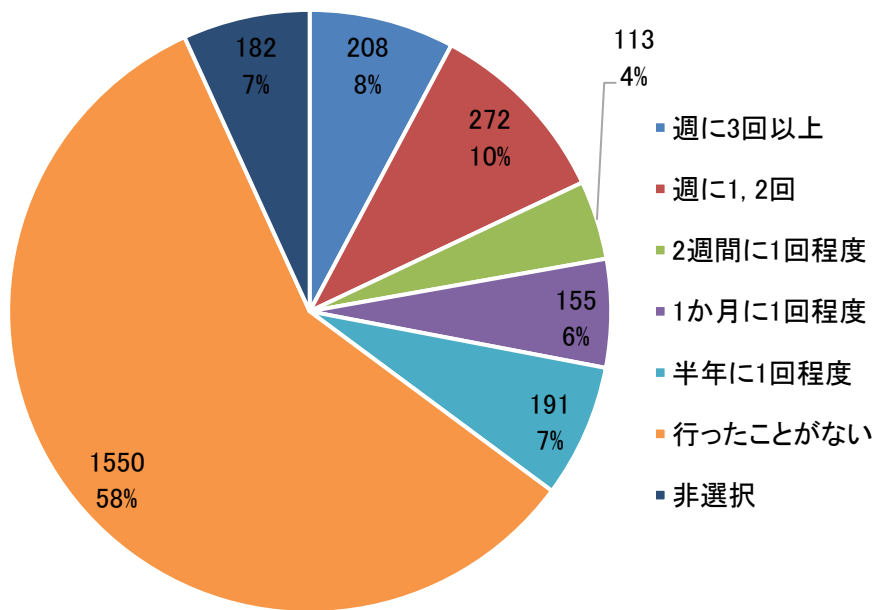


図 6-6.4 サークル棟の利用頻度

(64) 喫煙所について、大学発表のロードマップでは 2025 年に完全廃止予定ですが、あなたが適切だと考える時期を教えてください。

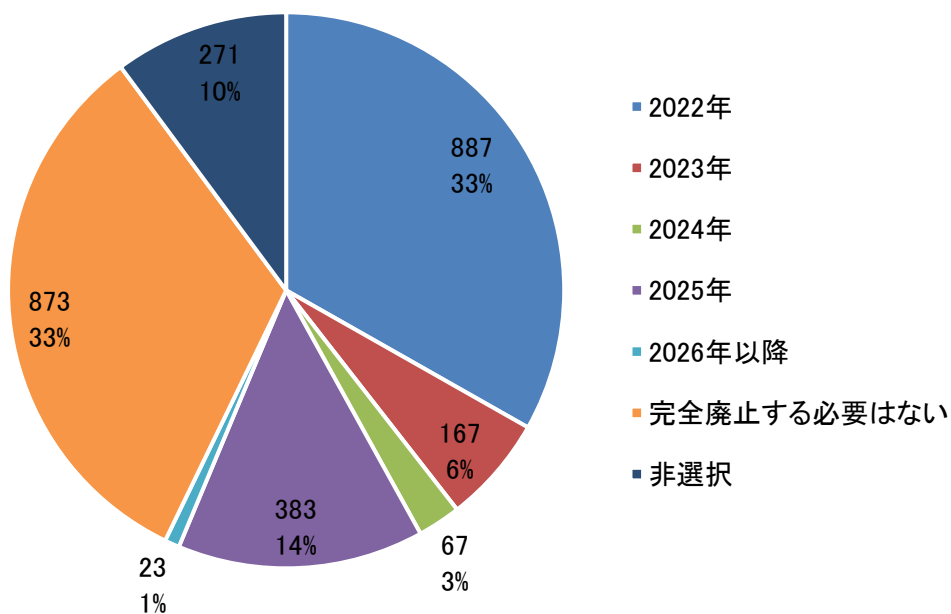


図 6-6.5 喫煙所の適切な廃止時期

## 6.7 大学

(65) 授業や学内行事など大学の発信する情報を得るために主に利用するものを選択してください。(複数選択可)

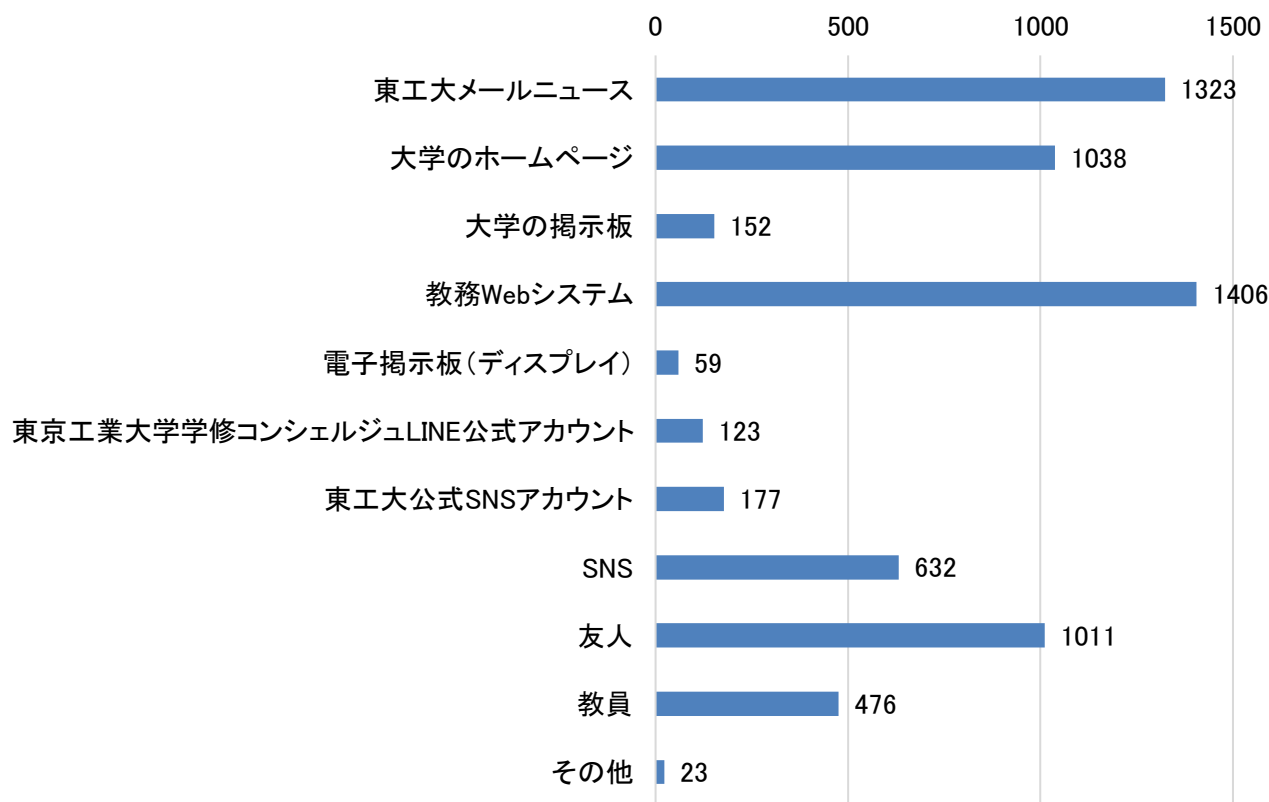


図 6-7.1 大学が発信する情報を得るために利用するもの

(66) 東工大メールニュースをどのくらい読みますか。

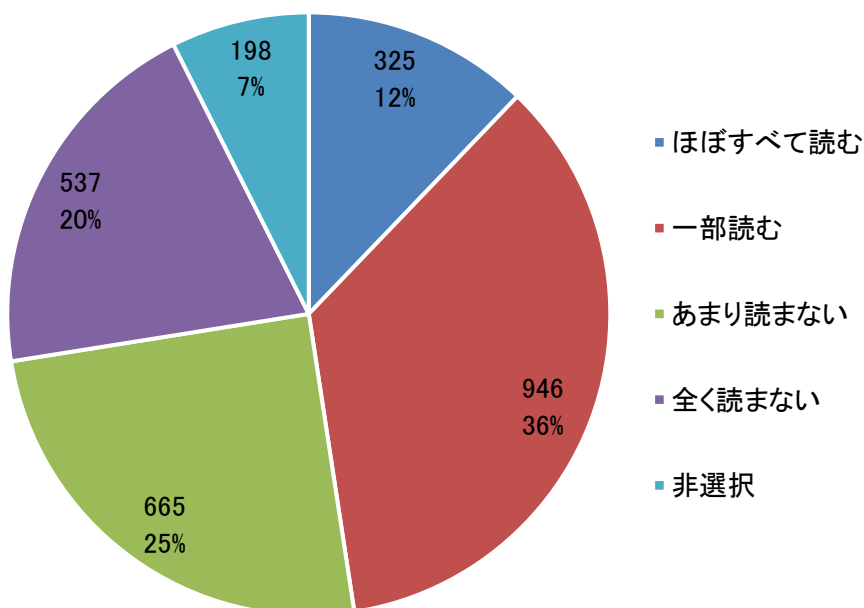


図 6-7.2 東工大メールニュースをどのくらい読むか



6 調査資料集

(67) ハラスメント(アルコール・セクシャル・アカデミック・パワーハラスメント・その他のハラスメント)を見聞きしたことがありますか。

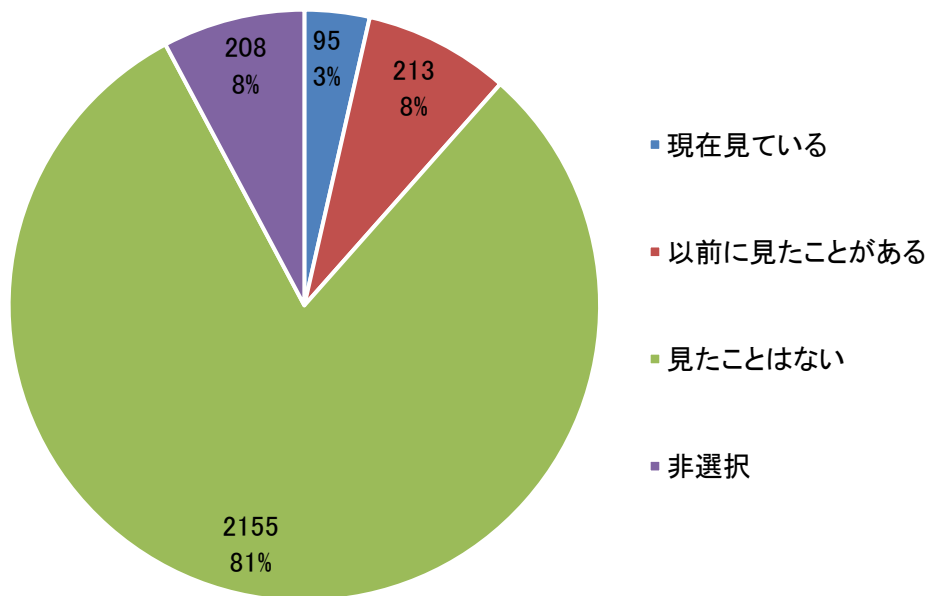


図 6-7.3 ハラスメントを見聞きした経験の有無

(68) どのようなハラスメントを見聞きしたことがありますか。(複数選択可)

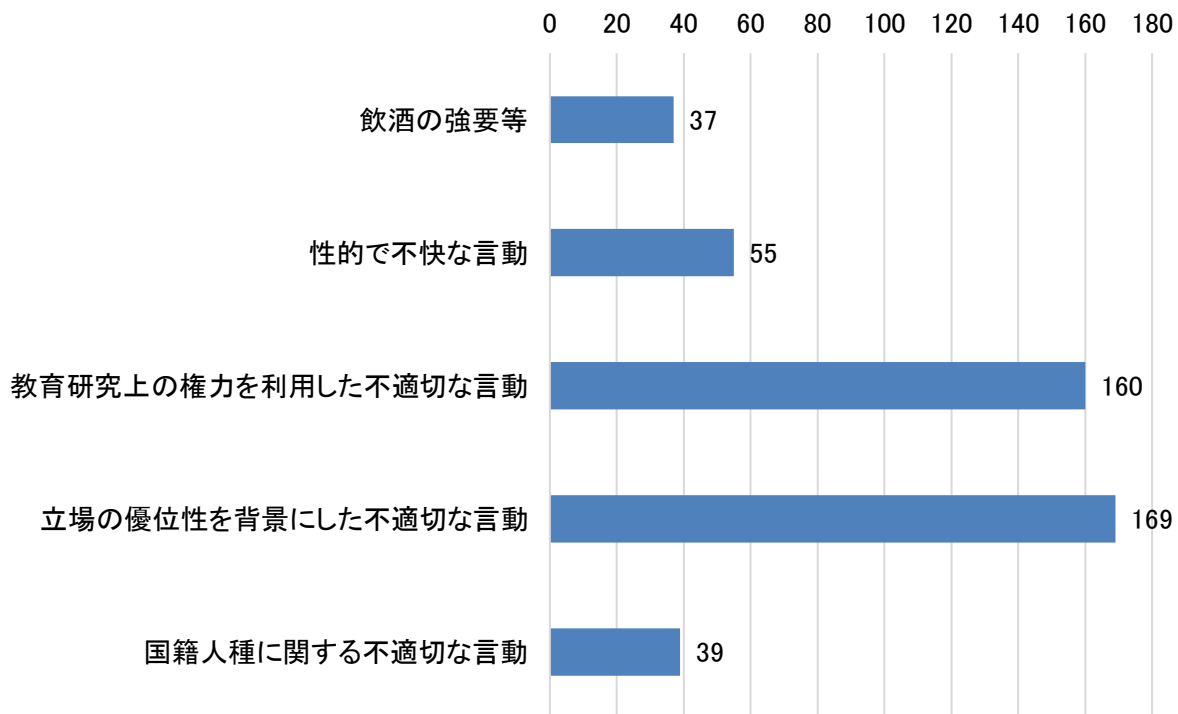


図 6-7.4 見聞きしたハラスメントの種類

(69) 昨年の学内の防災訓練に参加しましたか。(複数選択可)

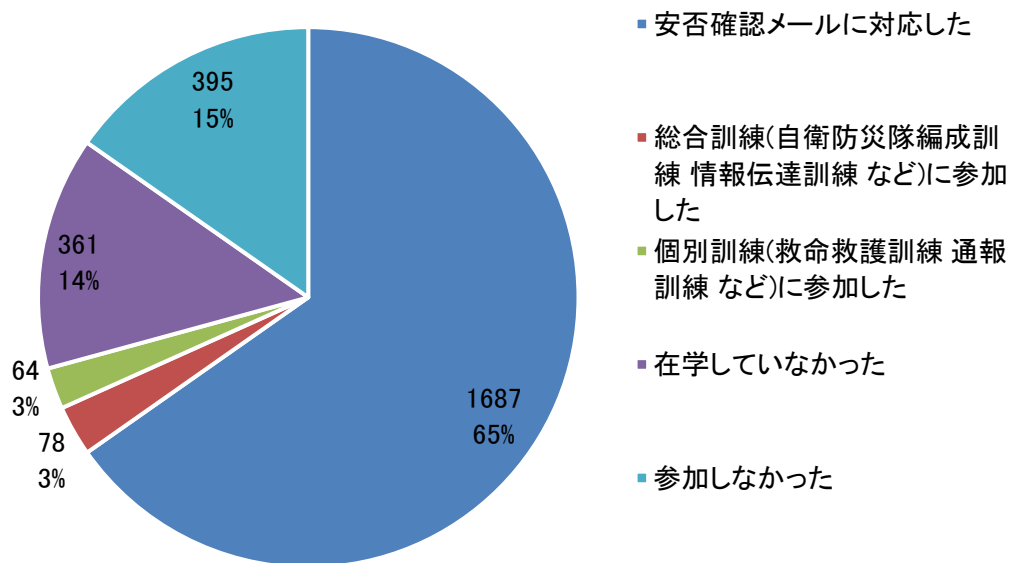


図 6-7.5 昨年の学内の防災訓練への参加の有無

(70) 防災訓練に参加しなかった理由を教えてください。(複数選択可)

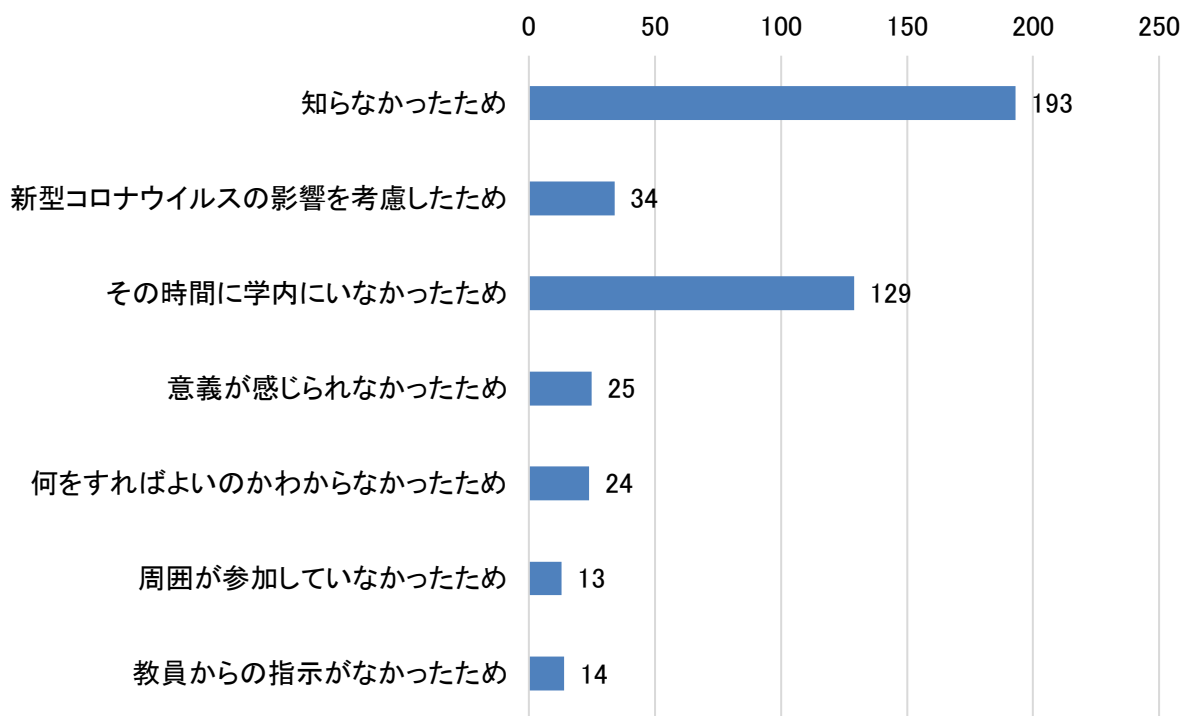


図 6-7.6 防災訓練に参加しなかった理由

## 6 調査資料集

(71) 新型コロナウイルスの影響においても、対面で防災訓練を行いたいと思いますか。

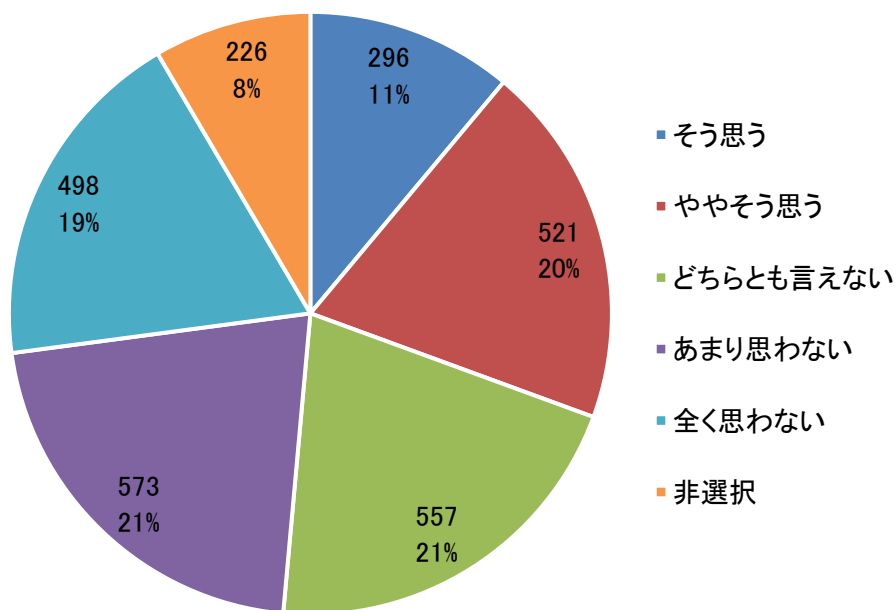


図 6-7.7 対面で防災訓練を行いたいか

(72) 学生の意見を迅速に大学に伝えたり、話し合いを行い大学の対応に学生の意見を反映させることを目的とした「学生自治会」のような組織が必要だと思いますか(例:新型コロナウイルスへの対応など。)

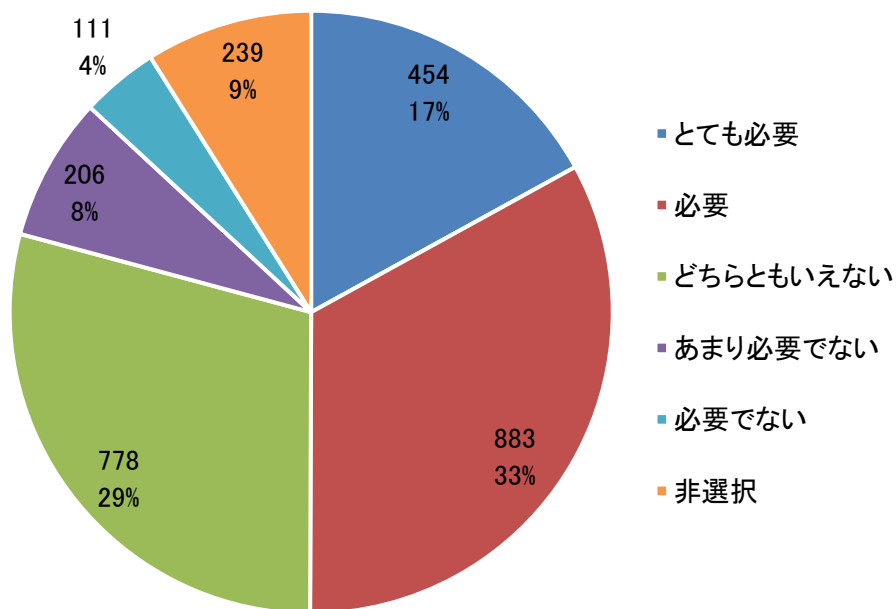


図 6-7.8 「学生自治会」のような組織は必要か

## 6.8 学勢調査 2022 設問一覧(日本語)

○:ラジオボタン □:チェックボックス

### I. 基本

1 現在あなたの所属している課程を教えてください。

○学士課程 ○大学院修士課程 ○大学院博士後期課程 ○専門職学位課程 ○研究生 ○科目等履修生 ○その他(自由記述)

2 あなたの受験方式を教えてください

○一般 ○学校推薦型 ○推薦型 ○総合型 ○AO ○編入 ○留学 ○その他(自由記述)

3 現課程への入学年度を教えてください。

○2022 ○2021 ○2020 ○2019 ○2018 ○2017 ○2016 ○2015 ○2014 以前

4 以下に該当する方はチェックを入れてください。(複数選択可)

□高専や他大学に在籍していたことがある □留学生である

5 あなたの所属する学院の所属を教えてください。

○理学院 ○工学院 ○物質理工学院 ○情報理工学院 ○生命理工学院 ○環境・社会理工学院

6 性別

○男性 ○女性 ○回答しない

### II. 大学生活

1 大学生活についてお聞きします。

1-1 サークル等の課外活動について、参加しているものがあれば教えてください。(複数選択可)

□部活 □サークル □その他の学生団体による活動 □なし □その他(自由記述)

1-2 勉強・研究時間の長さについて、当てはまるものを選んでください。

○適切である ○概ね適切である ○どちらとも言えない ○あまり適切でない ○全く適切でない

1-3 一週間の平均登校回数を教えてください。

○週1回以下 ○週2~3回 ○週3~4回 ○ほぼ毎日

1-4 大学に登校した際の、1日あたりのおおよその平均滞在時間を教えてください。

○0~2時間 ○3~5時間 ○6~8時間 ○9~11時間 ○12時間以上

1-5 新型コロナウイルスの影響がないと想定した上で、理想の登校頻度を教えてください。

○週1回以下 ○週2~3回 ○週3~4回 ○ほぼ毎日

### Ⅲ. 学修

#### 1 大学の教育・講義についてお聞きします。

##### 1-1 あなたが思う東工大の人材育成における進むべき方向性を教えてください。(複数選択可)

- グローバルな人材
- 専門力の向上
- 理工系全域の見地を持った人材
- 文理融合型の人材
- リーダーシップのある人材
- 就職に強い能力
- その他(自由記述)

##### 1-2 東工大生としてプライドを持っていますか。

しっかり持っている  持っている  少し持っている  あまり持っていない

##### 1-3 東工大が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイントを教えてください(複数選択可)

- 学習環境
- 偏差値
- 研究成果
- 就職力
- 立地
- その他(自由記述)

##### 1-4 本学に進学した理由を教えてください。(研究・就職のため・教養力の育成 など)(複数選択可)

- 研究
- 専門を極める
- 教養を身につける
- 就職
- 人脈
- サークルや部活などの課外活動
- やりたいことを見つける
- すぐに社会に出たくなかった
- 周りの人に影響された
- その他(自由記述)

##### 1-5 現在在籍している系・コース(学科・専攻)等への不満があれば教えてください。(複数選択可)

- 研究・学習内容
- カリキュラム
- 教員
- 施設設備
- 周りの学生
- 忙しすぎる
- その他(自由記述)

##### 1-6 大学や学修カリキュラムに意見がある場合は記入してください。(自由記述)

##### 1-7 東工大に提供してほしい授業があれば教えてください。(自由記述)

##### 1-8 T2SCHOLA の使い勝手を教えてください。

非常に使いやすい  使いやすい  どちらとも言えない  やや使いにくい  非常に使いにくい

##### 1-9 卓越教育院について知っているものを教えてください。(複数選択可)

物質・情報卓越教育院 エネルギー・情報卓越教育院 超スマート社会卓越教育院

1-10 学内郵送およびオンラインで続けてほしい手続きについて、継続してほしいサービスがあれば教えてください。(複数選択可)

学内郵送 図書館の郵送による資料貸出 その他(自由記述)

1-11 現在のクォーター間の休みに満足していますか。

非常に満足 やや満足 どちらとも言えない やや不満 非常に不満

1-12 前問で「どちらとも言えない,やや不満,非常に不満」を選んだ理由について教えてください。(自由記述)

1-13 現在の授業開始時間と終了時間の設定は適切だと思いますか。

非常に適切 適切 どちらとも言えない やや不満 非常に不満

1-14 前問で「どちらとも言えない,やや不満,非常に不満」を選んだ理由について教えてください。(自由記述)

## 2 以下の質問は、新型コロナウイルスが収束した後を想定してお答えください

2-1 対面授業のメリットを教えてください。(複数選択可)

質問しやすい 集中できる 学修効果が高い 友人に会える その他(自由記述)

2-2 対面授業のデメリットを教えてください。(複数選択可)

質問しにくい 移動時間が多い 学修ペースが合わない その他(自由記述)

2-3 オンライン授業のメリットを教えてください。(複数選択可)

質問しやすい 集中できる 学修効果が高い 友人に会える その他(自由記述)

2-4 オンライン授業のデメリットを教えてください。(複数選択可)

質問しにくい 移動時間が多い 学修ペースが合わない その他(自由記述)

2-5 新型コロナウイルス収束後の授業形式について、望ましいと思う形式を教えてください。(複数選択可)

全て対面で行う

対面を基本として一部オンライン形式を利用する

対面とオンライン形式を同程度利用する

オンライン形式を基本として一部対面で行う

対面とオンラインどちらも選べるようにする(ハイフレックス型)

全てオンラインで行う

その他(自由記述)

2-6 どのような授業をオンラインで行うべきだと思いますか。(複数選択可)

座学 グループワーク リスニング・スピーキングなどの語学 実験 その他(自由記述)

2-7 どのような授業を対面で行うべきだと思いますか。(複数選択可)

座学 グループワーク リスニング・スピーキングなどの語学 実験 その他(自由記述)

2-8 オンライン講義の録画動画を、個別の申請など無しに受講者全員が利用可能な状態にするべきであると思いますか。

そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまり思わない 全く思わない

2-9 対面授業の録画と公開を希望しますか。

希望する 授業によっては希望する どちらとも言えない 希望しない

2-10 どの対面授業の録画と公開を希望しますか。(複数選択可)

座学 グループワーク リスニング・スピーキングなどの語学 実験 その他(自由記述)

### 3 履修についてお聞きします

3-1 専門科目(理工系教養科目を含む)について、履修をどのように決めていますか。(複数選択可)

系コースの指導 評判 シラバス 友達がとるから 興味 自分のキャリアに合わせて 開講される言語  
その他(自由記述)

3-2 専門科目(理工系教養科目を含む)以外について、履修をどのように決めていますか。(複数選択可)

系コースの指導 評判 シラバス 友達がとるから 興味 自分のキャリアに合わせて 開講される言語  
その他(自由記述)

3-3 現在の履修申告の制度に関して満足していますか。

非常に満足 やや満足 どちらとも言えない やや不満 非常に不満

3-4 履修申告の制度に満足していない方は、その理由を教えてください。(自由記述)

4 シラバスについて改善してほしい点がある場合は記入してください。(自由記述)

5 成績評価制度(GPA や GAP 制、成績開示方法など)について、満足度を教えてください。

非常に満足 やや満足 どちらとも言えない やや不満 非常に不満

6 前問について、どのように改善されるべきか教えてください。(自由記述)

7 英語での講義について意見があれば記入してください。(自由記述)

8 日本語で授業を受けることに抵抗はありますか。

抵抗はない あまり抵抗はない どちらとも言えない やや抵抗がある 抵抗がある

9 博士後期課程における文系教養科目について満足度を教えてください。

非常に満足 やや満足 どちらとも言えない やや不満 非常に不満

10 前問について、どのように改善されるべきか教えてください。(自由記述)

### 11 本学での進学についてお聞きします

11-1 進学予定について、以下のうちあてはまるものを選んでください。

博士後期課程まで進学する予定である(進学している)

修士課程まで進学する予定である(進学している)

学士課程で卒業する予定である

まだ決まっていない

11-2 本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

経済的理由

早く社会に出たい

今学んでいる分野を極めたいと思わない

国内の他大学に進学したい

海外の大学院に進学したい

研究に興味がない

その後の進路が不安

英語で講義が行われるから

その他(自由記述)

11-3 修士課程に進学した/進学希望なのはなぜですか。(複数選択可)

研究したいテーマがあるから

実験がしたかったから

- 就活のため
- まだ学生でいたいから
- 周りの学生の多くも進学するから
- なんとなく
- その他(自由記述)

11-4 本学での博士後期課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

- 経済的理由
- 早く社会に出たい
- 今学んでいる分野を極めたいと思わない
- 国内の他大学に進学したい
- 海外の大学院に進学したい
- 研究に興味がない
- その後の進路が不安
- 英語で講義が行われるから
- その他(自由記述)

11-5 博士後期課程に進学した、または進学希望である理由を教えてください。(複数選択可)

- 研究したいテーマがあるから
- 実験がしたかったから
- 就活のため
- なんとなく
- その他(自由記述)

12 授業や研究室の環境を改善するための意見があれば教えてください。(自由記述)

## IV. 学修サービス

### 1 留学についてお聞きします。

1-1 あなたは留学したことがありますか。

- 本学入学前に留学したことがある
- 本学在学中に留学したことがある
- 本学入学前と本学在学中どちらも留学したことがある
- 留学したことはない

1-2 留学をしてみたいと思いますか。

- 既に具体的な計画がある
- 積極的にしたいと思う
- 機会があればしたいと思う
- したいと思わない
- その他(自由記述)

1-3 留学をしようと思ったきっかけを教えてください。(自由記述)

1-4 留学を考える上で何か障壁はありますか。(複数選択可)



## 6 調査資料集

経済的理由  語学に自信がない  今の研究・授業を優先する  在学年数が延びることが不安  
 海外生活が不安  興味がない  情報がない  その他(自由記述)

1-5 留学関連のイベントに参加したことがありますか。

- 参加したことがない  
 東工大主催のイベントに参加した  
 サークル・学生団体主催のイベントに参加した  
 外部団体主催のイベントに参加した

1-6 東工大の留学制度について意見がある場合は記入してください。(自由記述)

1-7 留学に関する東工大の取り組みについて、良いと思うものがあれば教えてください。(複数選択可)

- 留学コンシェルジュ  
 留学イベント  
 留学奨学金  
 留学 HP の刷新  
 グローバル理工人育成コース  
 リーダーシップ教育院  
 その他(自由記述)

1-8 留学生との交流など、異なる文化に触れる機会を積極的に持っていますか。

積極的に持っている  少し持っている  どちらともいえない  あまり持っていない  持っていない

2 Taki Plaza で行われている異文化交流イベントを知っていますか。

知っている  詳しくは知らない  全く知らない

3 起業について、ご自身の考えに当てはまるものを教えてください。

とてもしたい(する予定である)  したい  機会があればしたい  あまりしたくない  その他(自由記述)

4 起業に関する東工大の取り組みについて、知っているものを教えてください。(複数選択可)

- 実践型アントレプレナー人材育成プログラム  
 リーダーシップ教育院(ToTAL)  
 チーム志向越境型アントレプレナー育成プログラム(CBEC)  
 実践型アントレプレナー人材育成プログラム(PEECs)  
 起業関連の東工大主催イベント  
 その他(自由記述)

## V. 食事

1 大学における食事についてお聞きします。

1-1 2021 年度および 2022 年度について、大学で食事をとりましたか。

はい  いいえ

1-2 平日の昼食は主にどこを利用していますか。

持参したお弁当  第一食堂(生協)  第二食堂(生協)  すずかけ台食堂(生協)  キッチンカー  生協の弁当  学内のコンビニ  大学周辺のコンビニまたは弁当屋  大学周辺の飲食施設  食べない

1-3 ハラルフードやヴィーガンメニューなどに関する大学の対応について、満足度を教えてください。

○非常に満足 ○やや満足 ○どちらとも言えない ○やや不満 ○非常に不満

1-4 前問に関連して、不満を感じる点を具体的に教えてください。(自由記述)

## 2 生協食堂についてお聞きします。

2-1 生協食堂をどれくらいの頻度で利用しますか。

○よく利用する ○時々利用する(週 1-2 回程度) ○あまり利用しない(月 1-2 回程度) ○利用しない

2-2 生協食堂を利用しない理由を教えてください。(自由記述)

2-3 質及び価格はいかがですか。

○非常に満足 ○やや満足 ○どちらとも言えない ○やや不満 ○非常に不満

2-4 生協食堂について要望がある場合は記入してください。(自由記述)

## 3 キッチンカーについてお聞きします。

3-1 キッチンカーをどれくらいの頻度で利用しますか。

○よく利用する ○時々利用する(週 1-2 回程度) ○あまり利用しない(月 1-2 回程度) ○利用しない

3-2 質及び価格はいかがですか。

○非常に満足 ○やや満足 ○どちらとも言えない ○やや不満 ○非常に不満

3-3 キッチンカーについて要望がある場合は記入してください。(自由記述)

# VI. 施設

## 1 学内の施設についてお聞きします。

1-1 附属図書館をどの程度利用していますか。

○ほぼ毎日 ○週に 4-5 日 ○週に 2-3 日 ○週に 1 日 ○月に 1 回 ○ほとんどない

1-2 附属図書館について、気に入っているところを教えてください。(自由記述)

1-3 附属図書館に対する要望を自由に記入してください。(自由記述)

1-4 生協購買部をどの程度利用していますか。

○ほぼ毎日 ○週に 4-5 日 ○週に 2-3 日 ○週に 1 日 ○月に 1 回 ○ほとんどない

1-5 生協購買部に対する要望を自由に記入してください。(自由記述)

1-6 Taki Plaza をどの程度利用していますか。

○週に 3 回以上 ○週に 1,2 回 ○2 週間に 1 回程度 ○1 か月に 1 回程度 ○半年に 1 回程度 ○行ったことがない

1-7 Taki Plaza に対する要望があれば自由に記入してください。(自由記述)

1-8 サークル棟をどの程度利用していますか。

○週に 3 回以上 ○週に 1,2 回 ○2 週間に 1 回程度 ○1 か月に 1 回程度 ○半年に 1 回程度 ○行ったことがない

1-9 サークル棟に対する要望があれば自由に記入してください。(自由記述)

1-10 喫煙所について、大学発表のロードマップでは 2025 年に完全廃止予定ですが、あなたが適切だと考える時期を教えてください。

○2022 年 ○2023 年 ○2024 年 ○2025 年 ○2026 年以降 ○完全廃止する必要はない

1-11 学内の施設に関しての意見があれば自由に記入してください。(自由記述)

## VII. 大学

### 1 大学全般についてお聞きします。

1-1 授業や学内行事など大学の発信する情報を得るために主に利用するものを選択してください。(複数選択可)

東工大メールニュース 大学のホームページ 大学の掲示板 教務 Web システム

電子掲示板(ディスプレイ) 修学支援部門 LINE@ 東工大公式 SNS アカウント

SNS 友人 教員 その他

1-2 東工大メールニュースをどのくらい読みますか。

ほぼすべて読む 一部読む あまり読まない 全く読まない

1-3 現在の東工大メールニュースについて何か意見がある場合は記入してください。(自由記述)

1-4 東工大ポータル(OCW-i、教務 Web、東工大メールシステム、ポートフォリオなど)や OCW について何か意見がある場合は記入してください。(自由記述)

1-5 学生生活サービス(就職活動、奨学金、保険、サークル活動への支援など)について何か意見があれば記入してください。(自由記述)

1-6 教員・職員の対応に関して意見があれば記入してください。(自由記述)

### 2 ハラスメントについてお聞きします。

2-1 ハラスメント(アルコール・セクシャル・アカデミック・パワーハラスメント・その他のハラスメント)を見聞きしたことがありますか。

現在見ている 以前に見たことがある 見たことはない

2-2 どのようなハラスメントを見聞きしたことがありますか。(複数選択可)

飲酒の強要等 性的で不快な言動 教育研究上の権力を利用した不適切な言動

立場の優位性を背景にした不適切な言動 国籍人種に関する不適切な言動 その他の不適切な言動

2-3 ハラスメント相談窓口に関して要望があれば教えてください。(自由記述)

### 3 防災についてお聞きします。

3-1 昨年の学内の防災訓練に参加しましたか。

安否確認メールに対応した

総合訓練(自衛防災隊編成訓練 情報伝達訓練 など)に参加した

個別訓練(救命救護訓練 通報訓練 など)に参加した

3-2 防災訓練に参加しなかった理由を教えてください。(複数選択可)

知らなかったため

新型コロナウイルスの影響を考慮したため

その時間に学内にいなかったため

意義が感じられなかったため

何をすればよいのかわからなかったため

周囲が参加していなかったため

教員からの指示がなかったため

その他(自由記述)

3-3 防災・避難訓練に関して大学に求めることがあれば記入してください。(2000 字以内)

3-4 新型コロナウイルスの影響下においても、対面で防災訓練を行いたいと思いますか。

そう思う  ややそう思う  どちらとも言えない  あまり思わない  全く思わない

3-5 新型コロナウイルスの影響下における防災訓練について、効果的と思われる実施方法や実施内容、または行って欲しい訓練などがあれば教えてください。(自由記述)

4 学生の意見を迅速に大学に伝えたり、話し合いを行い大学の対応に学生の意見を反映させることを目的とした「学生自治会」のような組織が必要だと思いますか(例:新型コロナウイルスへの対応など。)

とても必要  必要  どちらともいえない  あまり必要でない  必要でない

5 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行に対する大学の対応や、現在の状況について意見があれば自由に記入してください。(2000字以内)

6 東工大で過ごすにあたって、気に入っている点を教えてください。(自由記述)

7 ほしいと思う制度、サービス、施設などがあれば教えてください。

特にない  ある(自由記述)

## VIII. 全体

1 全体を通してお聞きします。

1-1 最後に全体を通して意見があれば自由に記入してください。(2000字以内)

## 6.9 Questions of Student Survey 2022 (English)

: radio button  : check box

### I . Basic information

#### 1 What is your current status at Tokyo Tech?

- Bachelor's degree student  Master's degree student  
 Doctoral degree student  Professional master's degree student  
 Research student  Non Degree Students  Other

#### 2 What was your path to admission?

- Regular entrance exam (first round)  Regular entrance exam (second round)  
 School recommendation  Administrative admission exam (inclusive of AO exam)  
 Admitted as a privately funded international student  Admitted as a MEXT scholarship student (GSEP)  
 Entrance exam under a high school-university collaboration  Other

#### 3 Year enrolled in your current program

- 2022  2021  2020  2019  2018  2017  2016  2015  2014 or before

#### 4 Check the items that apply.

- I have attended other technical colleges or universities.  
 I am an international student.

#### 5 Which school are you affiliated with?

- School of Science  
 School of Engineering  
 School of Material and Chemical Technology  
 School of Computing  
 School of Life Science and Technology  
 School of Environment and Society  
 Other (please specify)

#### 6 Gender

- Male  Female  Rather not specify

### II . Lifestyle habits

#### 1 Please answer the following questions about lifestyle habits.

##### 1-1 What extracurricular activities, if any, do you participate in (multiple selections allowed) ?

- School clubs  Student clubs  Other student organizations  Other (please specify)  None

##### 1-2 Please select the most suitable answer regarding your study and research time.

- Appropriate

- Generally appropriate
- Neither appropriate nor inappropriate
- Not very appropriate
- Not appropriate at all

1-3 On average, how many times do you come to the campus per week?

- Once a week or less
- 2-3 times a week
- 3-4 times a week
- Almost every day

1-4 On average, how much time do you spend per day on campus when you attend?

- 0~2hours
- 3~5hours
- 6~8hours
- 9~11hours
- 12hours or more

1-5 Assuming that there was no COVID-19, how often would you come to campus?

- Once a week or less
- 2-3 times a week
- 3-4 times a week
- Almost every day

### III. Studies

1 Please answer the following questions about university education and lectures.

1-1 How should Tokyo Tech educate and nurture its students? (multiple selections allowed)

- Develop Global Talent
- Improvement of professional skills
- Develop perspectives from all areas of science and engineering
- Integrate the humanities and sciences
- Develop leadership skills
- Enhance ability useful for employment
- Others (free description)

1-2 Are you proud to be a Tokyo Tech student?

- Yes, absolutely
- Yes, somewhat
- Yes, sort of
- No, not at all

1-3 What features do you feel Tokyo Tech should proactively promote to those outside the university?(multiple selections allowed)

- Educational environment
- Test scores
- Research achievements
- Employment results
- Location
- Other (please specify)

1-4 Please indicate your reasons for attending the Institute. (for Professional skills, employment, overall competence, etc.) (multiple selections allowed)

- for Research
- mastering a specialty
- acquiring education
- finding a job
- networking
- extracurricular activities such as clubs and activities
- finding what I want to do
- didn't want to go out into the world right away
- influenced by people around me
- other (free description)

1-5 If you have any complaints about your current department, major, etc., please tell us the general nature of the problem(s) (multiple selections allowed).

- Research/study content
- Curriculum
- Faculty members
- Facilities and equipment
- Other students
- Too busy
- Other (please specify)

## 6 調査資料集

1-6 Please provide your opinions regarding the curriculum of Tokyo Tech. (An open-ended question)

1-7 Do you have any requests for new subjects you would like to be offered by Tokyo Tech? (An open-ended question)

1-8 How easy is it to use T2SCHOLA?

Very easy Easy Undecided Somewhat difficult Very difficult

1-9 Which of the Tokyo Tech Academies do you know about? (multiple selections allowed)

Tokyo Tech Academy for Convergence of Materials and Informatics

Tokyo Tech Academy of Energy and Informatics

Tokyo Tech Academy for Super Smart Society

1-10 What services would you like to see continue to be offered through on-campus mail and online? (multiple selections allowed)

On-campus mail Books-by-mail service by the libraries Other (please specify)

1-11 Are you satisfied with your current quarter-to-quarter breaks?

Very satisfied Somewhat satisfied Undecided Somewhat dissatisfied Very dissatisfied

1-12 Please tell us why you answered “Undecided, Somewhat dissatisfied, Very dissatisfied” to the previous question. (An open-ended question)

1-13 Do you think the current starting and ending times for classes are appropriate?

Very satisfied Somewhat satisfied Undecided Somewhat dissatisfied Very dissatisfied

1-14 Please tell us why you answered “undecided, somewhat unsatisfactory, or very unsatisfactory” to the previous question. (An open-ended question)

2 Please answer the following questions assuming that the COVID-19 pandemic has ended.

2-1 What are the advantages of face-to-face classes? (multiple selections allowed)

Easy to ask questions Can concentrate Increased learning effectiveness

Can meet friends Other (please specify)

2-2 What are the disadvantages of face-to-face classes? (multiple selections allowed)

Difficult to ask questions Too much travel time Learning pace is not suitable Other (please specify)

2-3 What are the advantages of online classes? (multiple selections allowed)

Easy to ask questions Can concentrate Increased learning effectiveness

Can meet friends Other (please specify)

2-4 What are the disadvantages of online classes? (multiple selections allowed)

Difficult to ask questions Too much travel time Learning pace is not suitable Other (please specify)

2-5 What is your preferred class format after COVID-19 has been contained?

All face-to-face

Mostly face-to-face with some online

Half face-to-face and half online

Mostly online with some face-to-face

Option of both face-to-face and online (hybrid-flexible, “HyFlex”)

All online

Other (please specify)

2-6 What types of classes do you think should be offered online (multiple selections allowed)?

Lectures  Group work  Language (listening, speaking, etc.)  Experiment  Other (please specify)

2-7 What types of classes do you think should be offered face-to-face (multiple selections allowed)?

Lectures  Group work  Language (listening, speaking, etc.)  Experiment  Other (please specify)

2-8 Do you think that all students of the class should have access to video recordings of online lectures without having to make individual requests?

Agree  Somewhat agree  Neither agree nor disagree  Do not agree  Do not agree at all

2-9 Would you like to have face-to-face classes recorded and made available for viewing ?

Yes  Depending on the class  Undecided  No

2-10 What type of face-to-face classes do you want to have recorded and available for viewing (multiple selections allowed)?

Lectures  Group work  Language (listening, speaking, etc.)  Experiment  Other (please specify)

3 Please answer the following questions about course registration.

3-1 How do you decide which specialized courses (including basic science and technology courses) to take (multiple selections allowed)?

Instruction from my department/major  Reputation  Syllabus  Same courses as my friends

Interest  To fit my career  Language the course is taught in  Other (please specify)

3-2 How do you decide which courses other than specialized courses (including basic science and technology courses) to take (multiple selections allowed)?

Instruction from my department/major  Reputation  Syllabus  Same courses as my friends

Interest  To fit my career  Language the course is taught in  Other (please specify)

3-3 How do you feel about the current course registration system?

Very satisfied  Somewhat satisfied  Undecided  Somewhat dissatisfied  Very dissatisfied

3-4 If you are not satisfied with the course registration, please state the reason(s). (An open-ended question)

4 What improvements would you like to see in the syllabi? (An open-ended question)

5 Please tell us how satisfied you are with the grading system (GPA, CAP system, grade disclosure method, etc.).

Very satisfied  Somewhat satisfied  Undecided  Somewhat dissatisfied  Very dissatisfied

6 Regarding the previous question, please tell us what improvements should be made. (An open-ended question)

7 Do you have any comments regarding classes in English? (An open-ended question)

8 How do you feel about taking classes in Japanese?

Confident  Quite confident  Neither confident nor worried  Somewhat worried  Worried

9 Please tell us your level of satisfaction with the liberal arts (humanities and social science) courses in the doctoral degree programs.

Very satisfied  Somewhat satisfied  Undecided  Somewhat dissatisfied  Very dissatisfied

10 Regarding the previous question, please tell us what improvements should be made. (An open-ended question)

11 Please answer the following questions about postgraduate education.

11-1 Please select the following that apply to your plans for higher education.

I am a master's student planning to advance to a doctoral program at the Institute / I am a doctoral student.

I am a bachelor's student planning to advance to a master's program at the Institute / I am a master's student planning to leave the Institute once I obtain my degree.



## 6 調查資料集

I am a bachelor's student planning to leave the Institute once I obtain my degree.

Undecided

11-2 If you are not planning to advance to a doctoral program at the Institute, please indicate the reasons why.(multiple selections allowed)

Financial reasons.

I want to begin work.

I am not interested in pursuing my current field of study.

I would like to enroll in another local university.

I would like to pursue postgraduate studies abroad.

I am not interested in research.

I am concerned about my future career.

The courses are conducted in English.

Other

11-3 Why did you/would you want to enter a master's program?

I have a theme I want to research

I wanted to do experiments

For job hunting

I still want to be a student

Many students around me are also going on to higher education

No special reason

Other (please specify)

11-4 If you are not planning to advance to a doctoral program at the Institute, please indicate the reasons why. (multiple selections allowed)

Financial reasons.

I want to begin work.

I am not interested in pursuing my current field of study.

I would like to enroll in another local university.

I would like to pursue postgraduate studies abroad.

I am not interested in research.

I am concerned about my future career.

The courses are conducted in English.

Other

11-5 Why did you/would you want to enter a doctoral program?

I have a theme I want to research

I wanted to do experiments

For job hunting

No special reason

Other (please specify)

12 Do you have any suggestions for improving classes or the laboratory environment? (An open-ended question)

## IV. Education-related services

### 1 Please answer the following questions about studying abroad.

#### 1-1 Have you ever studied abroad?

- Yes, both before and after enrolling at Tokyo Tech.
- Yes, after enrolling at Tokyo Tech.
- Yes, before enrolling at Tokyo Tech.
- No, I have not.

#### 1-2 Do you want to study abroad?

- Already have a concrete plan
- Wish to do so
- Willing to do so if given the opportunity
- No desire
- Other (please specify)

#### 1-3 Why did you decide to study abroad? (An open-ended question)

#### 1-4 Is there anything that prevents you from studying abroad? (multiple selections allowed)

- Financial reasons.
- I am not confident with my foreign language skills.
- I want to prioritize my current studies and research.
- I am concerned about extending the duration of my enrollment at the university.
- I am worried about staying in a foreign country.
- I am not interested.
- I do not have enough information.
- Other (please specify)

#### 1-5 Have you ever participated in study abroad events hosted by Tokyo Tech?

- No
- Participated in a Tokyo Tech-sponsored event
- Participated in a student club/organization event
- Participated in an event put on by an outside organization

#### 1-6 Please provide your opinions regarding Tokyo Tech's study abroad programs (An open-ended question)

#### 1-7 Which of the study abroad-related initiatives Tokyo Tech conducts do you feel are good?(multiple selections allowed).

- Study abroad support service
- Study abroad events
- Scholarships for study abroad
- Renewal of the study abroad website
- Global Scientists and Engineers Course
- Tokyo Tech Academy for Leadership

## 6 調査資料集

Other (please specify)

1-8 Do you actively take advantage of opportunities to experience different cultures, such as through exchanges with international students?

Whenever possible Sometimes Not sure Not often No

2 Do you know about the cross-cultural exchange events held at Taki Plaza?

Yes Do not know much No

3 Please tell us what you think about entrepreneurship as it applies to you.

Very much want to (plan to) Want to Want to if given the opportunity Do not want to Other

4 Please tell us what you know about Tokyo Tech's initiatives regarding entrepreneurship (multiple selections allowed).

Progressive Graduate Minor in Practice-Based Entrepreneurship Education

Tokyo Tech Academy for Leadership (ToTAL)

Cross Border Entrepreneur Cultivating program (CBEC)

Practical-based Entrepreneur Education Courses (PEECs)

Entrepreneurship-related events held by Tokyo Tech

Other (please specify)

## V. Food in Tokyo Tech

1 Please answer the following questions about the lunch.

1-1 Did you eat on campus during the 2021 or 2022 academic year?

Yes No

1-2 Where do you normally get lunch on weekdays?

I bring my own lunch.

I go to the University Co-op's First Cafeteria.

I go to the University Co-op's Second Cafeteria.

I go to the University Co-op's Suzukakedai Cafeteria.

I use the food trucks.

I buy the University Co-op's bento (lunch box).

I use the convenience store on campus.

I use convenience stores or bento shops off campus.

I go to cafes and restaurants off campus.

1-3 Please indicate your level of satisfaction with Tokyo Tech's response regarding halal food and vegan menus.

Very satisfied Somewhat satisfied Undecided Somewhat dissatisfied Very dissatisfied

1-4 Regarding the previous question, please tell us specifically what you find unsatisfactory. (An open-ended question)

2 Please answer the following questions about the University Co-op's cafeterias.

2-1 How often do you eat at the cafeterias?

Very often Sometimes (once or twice a week) Not much (once or twice a month) Not at all

2-2 What do you think about the quality of food served? (An open-ended question)

2-3 What do you think about the quality of food served?

Very satisfied Somewhat satisfied Undecided Somewhat dissatisfied Very dissatisfied

2-4 Please provide any suggestions for the cafeteria. (An open-ended question)

3 The following are questions regarding the food trucks.

3-1 How often do you use the food trucks?

Very often Sometimes (once or twice a week) Not much (once or twice a month) Not at all

3-2 What do you think about the quality?

Very satisfied Somewhat satisfied Undecided Somewhat dissatisfied Very dissatisfied

3-3 Please note any suggestions for the food trucks. (An open-ended question)

## VI. The Institute's facilities

1 Please answer the following questions about the Institute's facilities.

1-1 How frequently do you use the Institute's libraries?

Almost every day. Four to five days a week. Two to three days a week.

Once a week. Once a month. Almost never.

1-2 What do you like about the libraries? (An open-ended question)

1-3 Please provide any comments or requests you may have regarding the libraries.(An open-ended question)

1-4 How frequently do you use the University Co-op Shops?

Almost every day. Four to five days a week. Two to three days a week.

Once a week. Once a month. Almost never.

1-5 Please provide any comments or requests you may have regarding the University Co-op Shops.(An open-ended question)

1-6 How often do you use Taki Plaza?

Three or more times a week Once or twice a week About once every two weeks

About once a month About once every six months Never used it

1-7 Please list any requests you have for Taki Plaza.(An open-ended question)

1-8 Please list any requests you have for Taki Plaza.

Three or more times a week Once or twice a week About once every two weeks

About once a month About once every six months Never used it

1-9 Please list any requests you have for the Extracurricular Activities Building.(An open-ended question)

1-10 Tokyo Tech has announced in its "road map" that it will close all smoking areas by 2025. Please tell us when you think is the best time to do so.

2022 2023 2024 2025 2026 or beyond No need to completely close

1-11 Please provide any comments regarding the facilities at Tokyo Tech. (An open-ended question)

## VII. The Institute

1 Please answer the following questions about the general questions

1-1 How do you acquire information regarding courses and events at Tokyo Tech? (multiple selections allowed)

- Tokyo Tech Mail News Tokyo Tech website Campus bulletin boards  
Web System for Students and Faculty Electronic bulletin board  
Tokyo Tech's Student life coaches LINE account Tokyo Tech's twitter account  
Social network service Friends

1-2 How often do you read the Tokyo Tech Mail News?

- Read all Read some Read a little Don't read

1-3 Please provide any comments regarding the Tokyo Tech Mail News. (An open-ended question)

1-4 Please note any comments regarding the Tokyo Tech Portal and/or OCW (OCW-i, Web System for Students and Faculty, Tokyo Tech mail system, Learning Portfolio, etc.) (An open-ended question)

1-5 Please provide any comments regarding student life services (such as support for job hunting, scholarships, insurance, and extracurricular activities). (An open-ended question)

1-6 Please provide any comments you may have regarding the services provided by faculty and administrative staff. (An open-ended question)

2 Please answer the following questions about harassment.

2-1 Have you ever witnessed any form of harassment at the Institute (sexual, academic, power, alcohol-related, etc.)?

- Yes, currently there is a case(s) of harassment to which I have been witness.  
Yes, I have in the past. No, I have not.

2-2 What kinds of harassment have you heard of or witnessed? (multiple selections allowed)

- Forced drinking  
Sexually offensive language or behavior  
Inappropriate language or behavior using educational or research authority  
Inappropriate language or behavior based on superiority of position  
Inappropriate language or behavior regarding nationality or race  
Other inappropriate language or behavior (please specify)

2-3 Do you have any requests for the harassment consultation service? (An open-ended question)

3 Please answer the following questions about disaster preparedness.

3-1 Did you participate in on-campus disaster drills last year? (multiple selections allowed)

- Responded to safety confirmation emails  
Participated in the comprehensive drills (disaster prevention team formation drills, information communication drills, etc.)  
Participated in individual drills (lifesaving and rescue drills, reporting drills, etc.)

3-2 Please tell us why you did not participate in the disaster drill. (Select all that apply)

- Did not know about them  
Due to COVID-19-related issues  
Was not on campus at the time  
Did not feel the need to

- Did not know what to do
- No one around me was participating
- Was not instructed by an instructor
- Other (please specify)

3-3 Please provide any comments or suggestions you may have regarding Tokyo Tech's disaster prevention and drills. (Maximum 1250 words)

3-4 Do you want to participate in face-to-face disaster prevention drills even during the COVID-19 pandemic?

- Yes  Will consider it  Not sure  Probably not  No

3-5 During the COVID-19 pandemic, what do you think is the most effective implementation method and content for disaster drills, and is there a particular drill you think we should conduct? (An open-ended question)

4 Do you think we need an organization such as a student government that promptly communicates student opinions to the university and discusses issues with the university to ensure that student opinions are reflected in university responses (such as the response to COVID-19)?

- Very necessary  Necessary  Neither necessary nor unnecessary  
 Unnecessary  Very unnecessary

5 Provide any comments about the measures taken by Tokyo Tech against the coronavirus or the current management in general. (Maximum 1250 words)

6 What do you like about life at Tokyo Tech? (An open-ended question)

7 Tell us about any systems, services or facilities you would like to see added.

- None in particular  Yes (Please specify)

## VIII. Overall

1 Please answer the following question about your overall experience at the Institute.

1-1 Please provide any comments regarding your overall experience at the Institute. (Maximum 1250 words)

# 7 学勢調査 2022 追加調査速報

学勢調査 2022 の実施後に、「東京医科歯科大学との統合」、「学士課程入学試験における女子枠の導入」について行った学勢調査 2022 追加調査の結果については、2023 年 6 月をめどに結果を公開し、大学に報告する予定です。

ここでは追加調査結果の概略について報告します。

## 7.1 調査目的

学勢調査 2022 実施以降、本学では大きな決定が 2 つありました。「東京医科歯科大学との統合」と「学士課程入試における女子枠の導入」です。この 2 点は学勢調査 2022 のアンケート実施後に発表されたものです。学生生活への影響がとて大きいと考えられることから、学勢調査 2022 の追加調査として現在の学生への意識調査を緊急実施することにしました。

## 7.2 調査主体

学生支援センター未来人材育成部門に置かれている学勢調査 2022WG が、学生スタッフを募集し、アンケート調査を実施しました。

## 7.3 調査時期・調査対象・調査事項

本追加調査は 2022 年 12 月 27 日から 2023 年 1 月 27 日の間に実施しました。調査対象は本学に在籍する全学生です。調査事項については、「8: 調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご覧ください。

## 7.4 調査方法・分析方法

本追加調査は、教務 Web システムのアンケート機能を利用して行われました。本学学生のみが回答できるものの、個人は特定できないようにアンケートを集計するシステムになっています。

調査項目は設問検討会議を通じて学生スタッフが決定しました。回答データの解析についても、学生スタッフがデータの分析、議論を行い、その結果についてまとめます。

## 7.5 回答者の属性

表 7-5.1 所属課程、留学生、性別、24 年度以降在学予定見込みについての各回答者人数

	所属課程		留学生		性別		24 年度以降 在学予定見込み	
	学士	837	留学生	350	男	1,263	はい	896
	修士	428			女	299	進学を希望 している	218
	博士後期	294			回答しない	47	いいえ	454
	その他	64	非選択	1273	非選択	14	非選択	55
総計		1,623		1,623		1,623		1,623

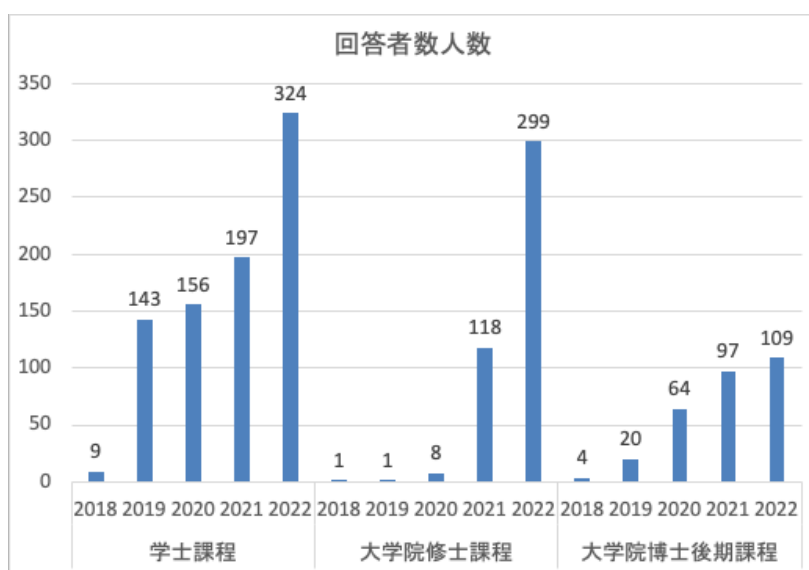


図 7-5.1 学士/修士/博士のそれぞれの入学年度ごとの回答者数の人数



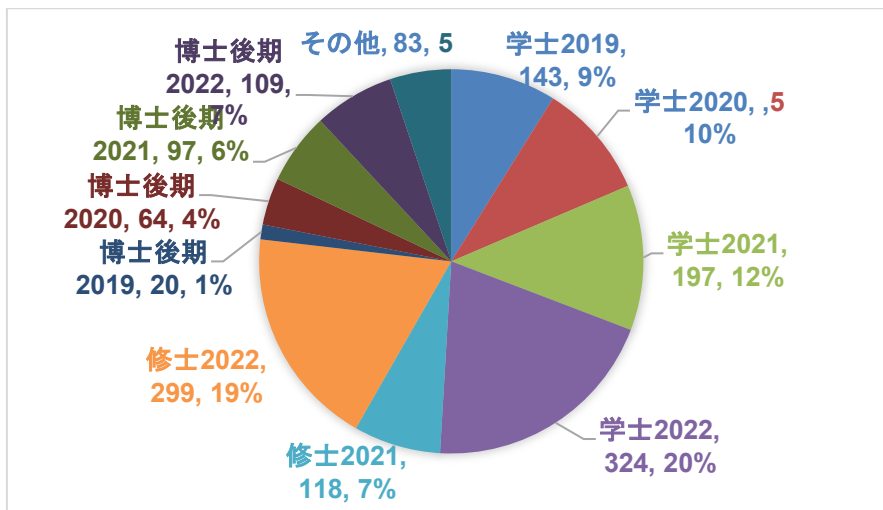


図 7-5.2 学士/修士/博士のそれぞれの入学年度ごとの回答者数の割合

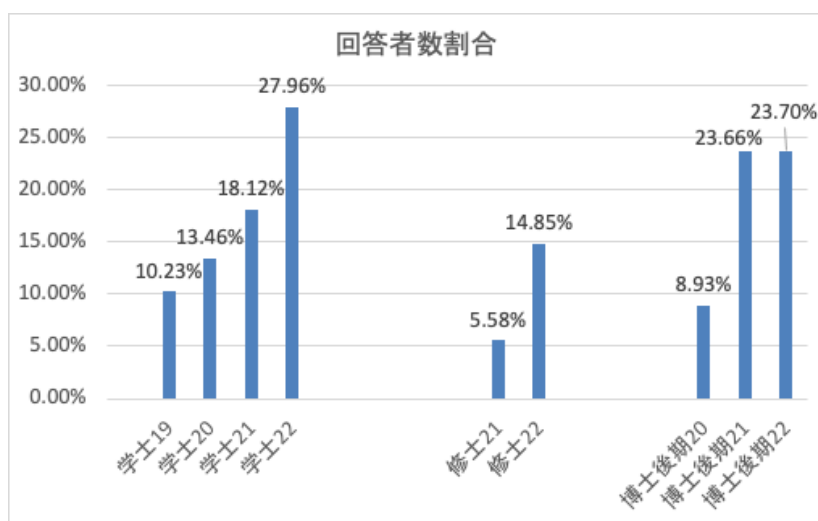


図 7-5.3 学士/修士/博士のそれぞれの入学年度の人数に対する回答者数の割合 (各学年の所属人数は本学公表データに基づく<sup>1</sup>)

図 7-5.1 と大学の統計データをもとに、図 7-5.2,3 に示した入学年度ごとの回答者数の割合を算出しました。22 年度入学の学士課程、すなわち学士 1 年の回答者数割合は 27.96%であり、3-4 人に 1 人が回答しており、統合と女子枠に対する関心が高いことが推測されます。学士、修士、博士どの課程においても、学年を追うごとに回答者数が減ります。博士後期課程への進学が少ないため、24 年度以降の変化の影響を受けない修士 2 年(修士 21)の回答者数割合はわずか 5.58%と、非常に関心が低いことがわかりました。

表 7-5.1 における回答者の人数比は、留学生 14.8%、性別においては男性 8823 人、女性 1845 人、回答しない 47 人であり、「男性:女性=4.78:1」の比率は大学全体の人数比(留学生: 1810/10648 人=17.0%)、男女比(男:女=4.22:1)と大きな差がなかったため、性別と留学生の比率という観点では回答者に偏りはほとんどないと見られます。ただし、大学全体における所属人数の情報は、性別の区分が男性/女性の 2 つである点、注意が必要です。

24 年度とは、統合と女子枠の導入が開始される年度です。24 年度以降在籍予定見込みの学生か否かで回答結果に影響があると予測しており、こちらの区分についても、今後クロス集計を行う予定です。

<sup>1</sup> 東工大 HP 東工大について 統計データ <https://www.titech.ac.jp/public-relations/about/disclosure/facts> (最終閲覧: 2023 年 3 月 28 日)

## 7.6 東京医科歯科大学との統合についての調査結果概観

### 数値データについて

東京医科歯科大学との統合について、選択式の設問を 13 問実施しました。ここでは 2 つの設問をピックアップして紹介いたします。

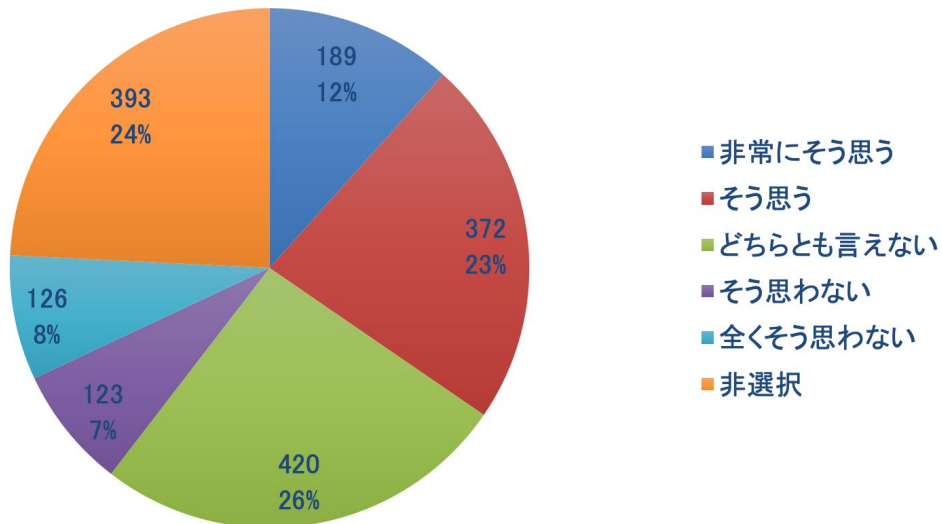


図 7-6.1 統合を楽しみにしていますか

1 つは「あなたは統合を楽しみにしていますか」という設問です。「非常にそう思う」から「全くそう思わない」まで 5 段階で統合に対する素朴な期待感を問う設問で、約 1600 件の回答をいただきました(図 7-6.1)。「非常にそう思う」「そう思う」の合計が 35%、「そう思わない」「全くそう思わない」の合計が 15%という結果となっており、楽しみにしていないという意見が比較的少ないことが分かります。一方で「どちらともいえない」および「非選択」の合計が 50%を占めており、およそ半数の学生が統合に対する期待感について判断を保留していることも伺えます。

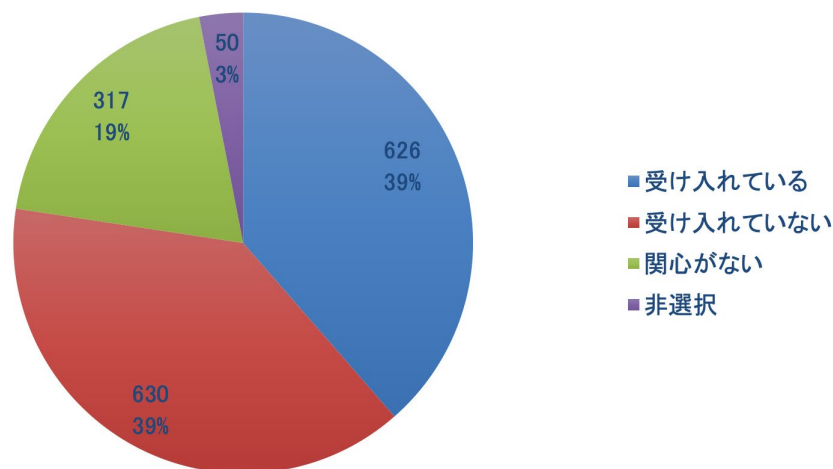


図 7-6.2 大学名が変更されることを受け入れていますか

2つ目は、「あなたは東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れていますか」という設問で、「受け入れている」「受け入っていない」「関心がない」の三択とし、こちらも約 1600 件の回答をいただきました(図 7-6.2)。回答は大きく2つに割れる結果となり、受け入れている、受け入っていないのどちらも 39%となっています。約 2 割の学生は名称に対してあまり関心がないものの、名称の変更については学生間で賛否両論がはっきりと分かれていることが伺えます。なお、この調査の実施期間中の 1 月 19 日に新名称の発表があったため、名称発表前後の回答が混在しています。

## 自由記述について

No.26 「統合について、意見があれば自由に記入してください。」という記述型の質問については、統合後の大学の名称について特に多くの意見が挙げられました。新名称の公表前の回答からは、就職活動等への影響を憂慮して、現在両校の持つネームバリューを保てるような名称にしてほしいという意見、新名称公表後の回答からは、新名称について賛否両方の立場から意見が寄せられました。統合全体についても、

- 面白い取り組みだと思うので期待している
- 医工連携を深め、活発な研究が行われることを望む

といった賛成意見が挙がった一方、

- 制度面など統合にかかるコストが大きい割に、学生への恩恵があまり期待できない
- 両校のネームバリューがなくなるだけでメリットがない

という反対意見もありました。また

- 統合の具体的なメリットもデメリットも分からないため賛成でも反対でもない
- 名称変更以外特に興味がない

という中立意見も多く挙げられました。

## 7.7 学士課程入試における女子枠の導入についての調査結果概略

### 数値データについて

女子枠導入に対する設問として

- No.27: 女子学生の比率が増えることについてどう思いますか
- No.28: 女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか
- No.29: 女子枠の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか
- No.30: 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか

の 4 つを質問しました。結果は以下の図 7-7.1~4 のようになっています。

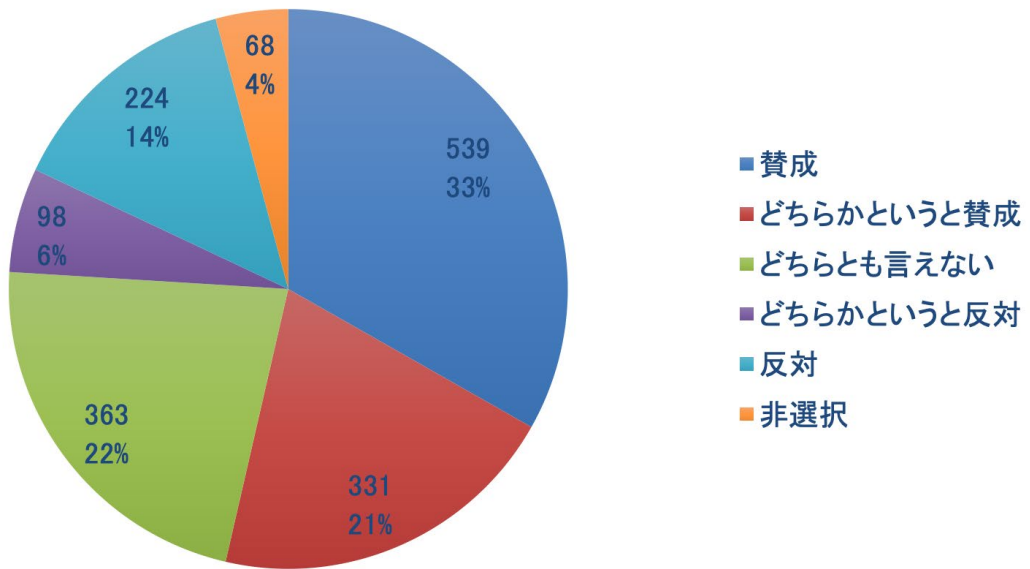


図 7-7.1 女子学生の比率が増えることについてどう思いますか

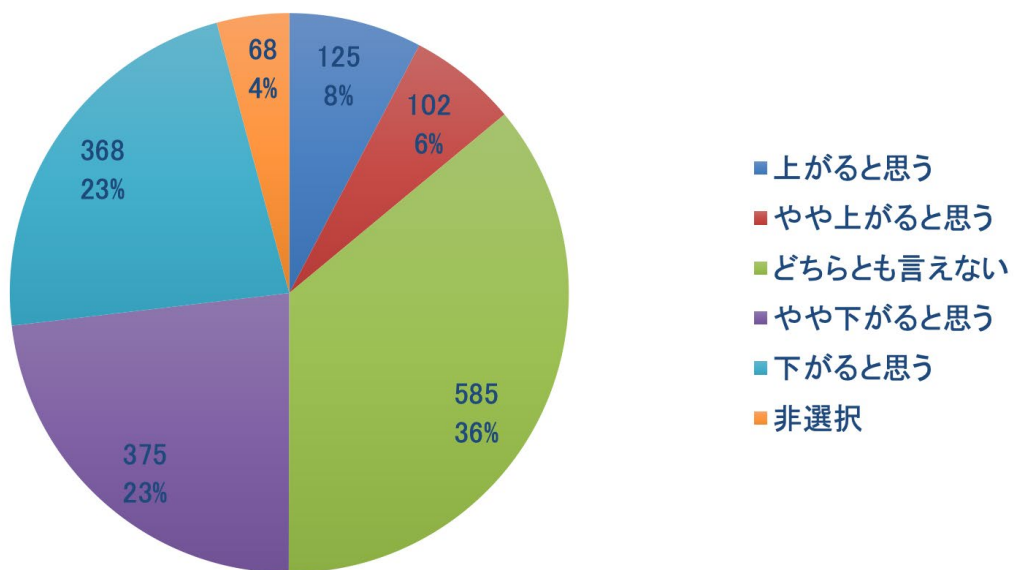


図 7-7.2 女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか

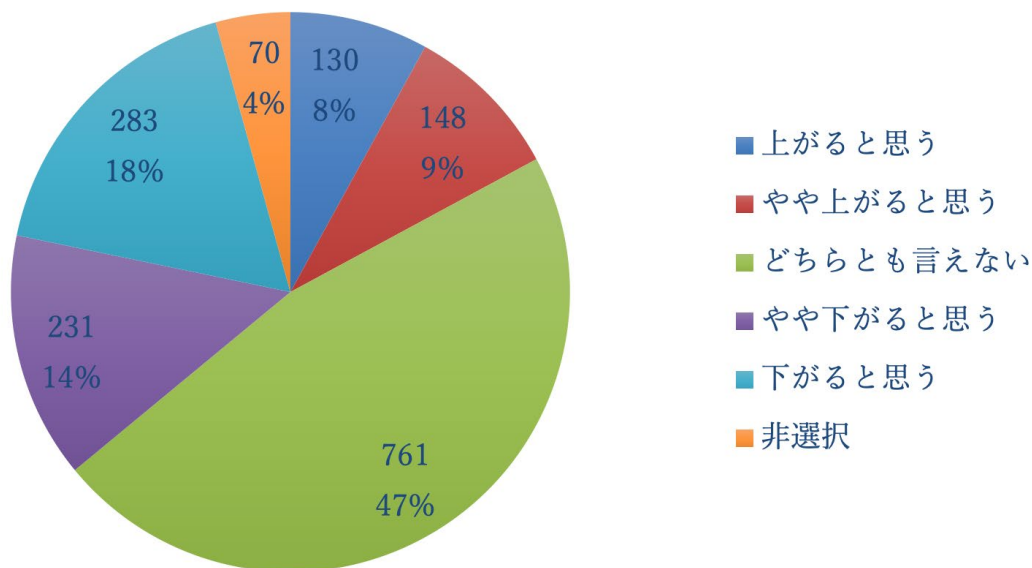


図 7-7.3 女子卒の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか

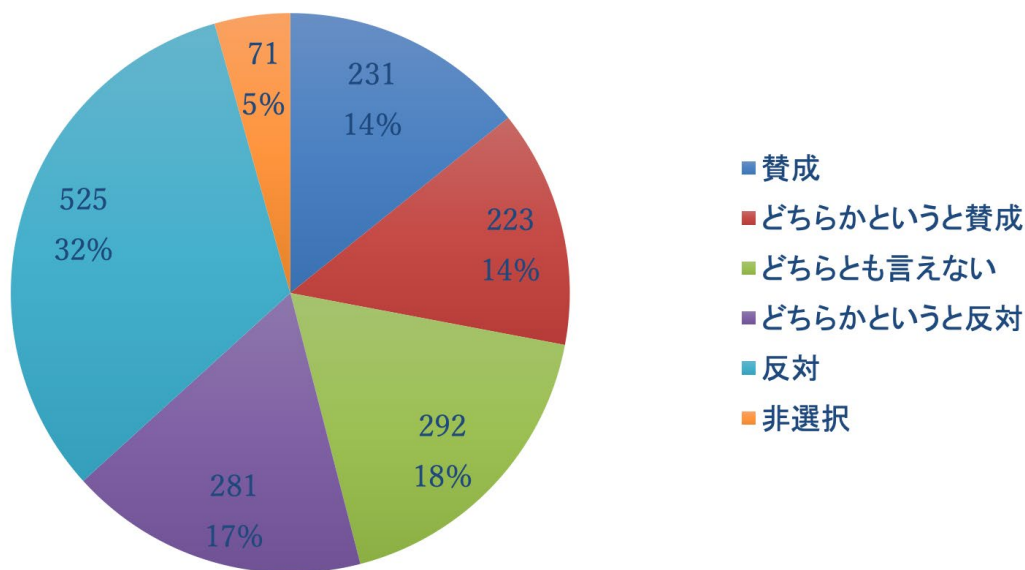


図 7-7.4 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子卒を導入するという取り組み全体についてどう思いますか

女子学生の比率が増えることに対しては肯定的な意見が多い一方で、女子卒導入に対しては否定的な意見が多く、女子学生比率を上げる取り組みとして女子卒導入は学生間であまり受け入れられていないことがわかりました。また、女子卒導入による学生の学力、研究力に対してはどちらとも言えないと回答した人が多い結果となりました。どちらとも言えないと回答した人が多い理由として、設問内容が予測の難しいものであったのではないかと考えられます。

## 自由記述について

No.32「女子枠の導入について、意見があれば自由に記入してください。」という記述型の質問については、全体的に女子枠導入に反対する意見が多く寄せられました。理由としては、

- 男子学生への性差別になっていると考えるから
- 女子枠で入学した女子学生に対する蔑視が学内外から生じることへの対策が足りていないと考えるから
- 性的少数者(LGBTQ)への対応が明確に示されていないから

などが挙げられました。一方で、

- 多様性の観点から女子枠導入に賛成する
- 女子枠の導入による良い効果を期待する

といった意見も挙げられました。

## 7.8 追加調査全体を通じての結果

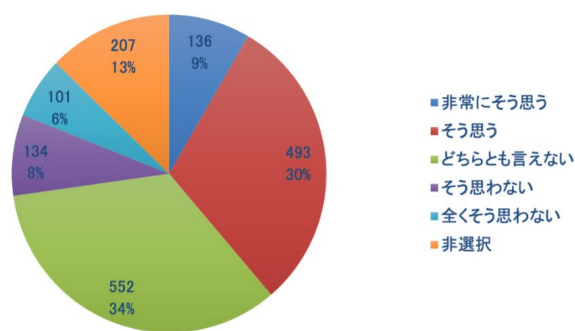


図 7-8.1 (左図)統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか

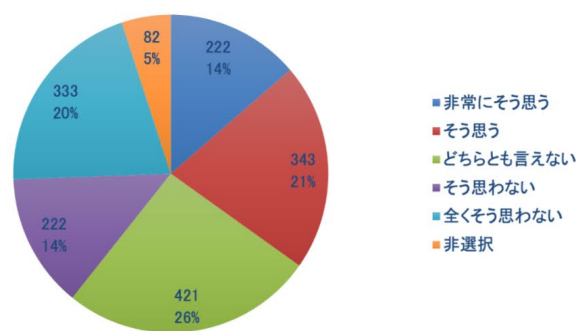


図 7-8.2 (右図)女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか

統合と女子枠の導入についての設問に共通して設けた唯一の選択式設問は、No.25,31の「D&Iが促進されると思いますか」という質問でした。両者とも「どちらともいえない」という回答が最も多くなっており、判断しかねている層が多数でした(図 7-8.1,2)。両者を比較してみると、「非常にそう思う」もしくは「全くそう思わない」と改革について強く肯定若しくは否定している学生は、統合よりも女子枠の導入についての設問で多くなっていました。D&Iはどちらの改革においても主軸に置かれている概念ですが、統合と女子枠の導入の間にはD&Iについて学生の意識の違いが存在していると考えられます。

表 7-8.1 自由記述設問の回答数

No.21: 現行の東工大の制度のうち、統合後も変えないで欲しい制度は何かありますか、またそれはなぜですか	No.22: 現行の東工大の制度のうち、統合を機に変えて欲しいものは何かありますか、またどう変わって欲しいですか	No.23: 統合後、異なる所属の学生間の交流を推進するために継続または新設してほしい制度はありますか	No.24: 統合後、情報基盤システムに関して何か要望はありますか	No.26: 統合について、意見があれば自由に記入してください	No.32: 女子卒の導入について、意見があれば自由に記入してください
521	527	350	395	265	646

今回の調査で独立した自由記述の設問は、No.21～ 24、 26、 32 の 6 問でした。統合についての設問では、統合後に変えてほしいもしくは変えないでほしい制度についての回答が共に 500 件を超えています(表 7-8.1)。

また、女子卒の導入について自由に意見を求めた設問では、646 件もの回答がありました(表 7-8.1)。統合及び女子卒の導入における学生の関心の高さが現れた調査結果になったといえます。

# 8 追加調査 調査資料集

本章では2022年12月27日から2023年1月27日にかけて行われた学勢調査2022追加調査の集計結果を掲載します。ここに掲載する集計結果は、自由記述の調査項目以外の結果全てです。集計結果のグラフや表中の数字は、該当選択肢への回答者数です。今回の総回答者数は1623名です。なお、一部の調査項目は、表記の都合上、実際の質問文とは表現が異なる場合があります。

## 8.1 基本情報

(1) 現在あなたの所属している課程を教えてください。

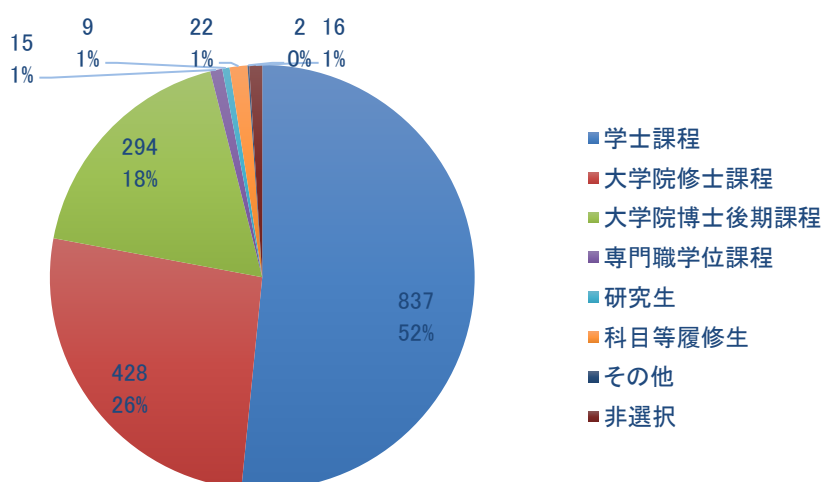


図 8-1.1 所属課程

(2) あなたの受験方式を教えてください。

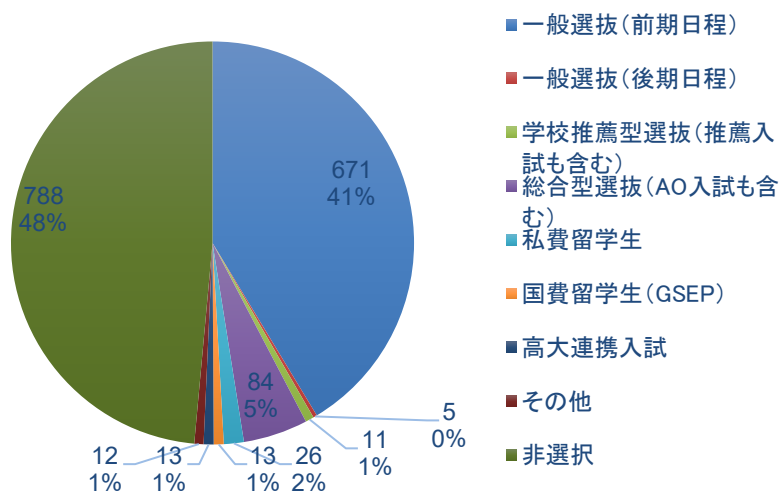


図 8-1.2 受験方式



(3) 現課程への入学年度を教えてください。

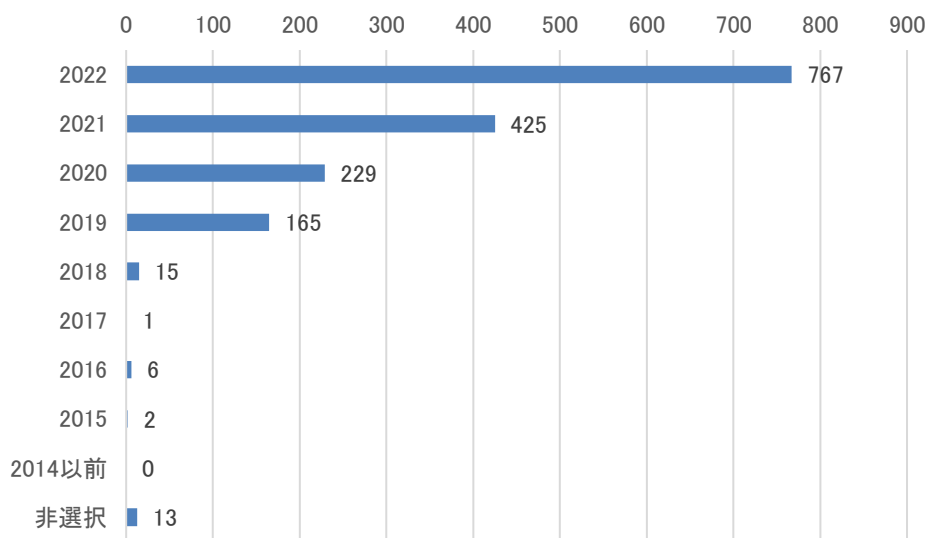


図 8-1.3 現課程への入学年度

(4) 高専や他大学に在籍していたことがあるか(複数選択可)。

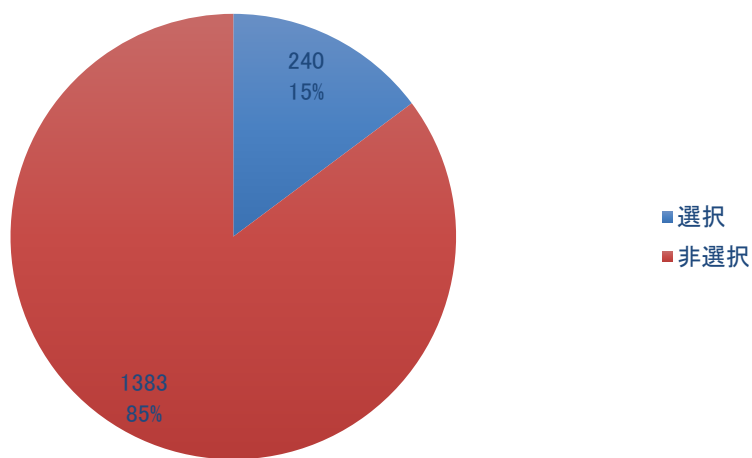


図 8-1.4 高専・他大学への在籍経験

(5) 留学生であるか。

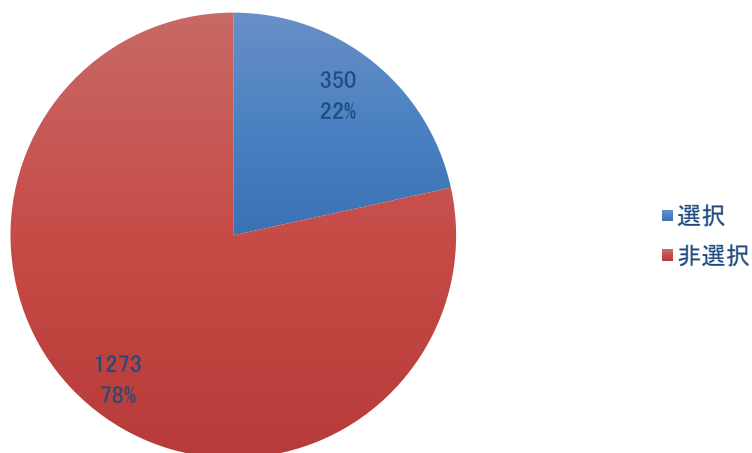


図 8-1.5 留学生であるか

(6) あなたの所属する学院を教えてください。

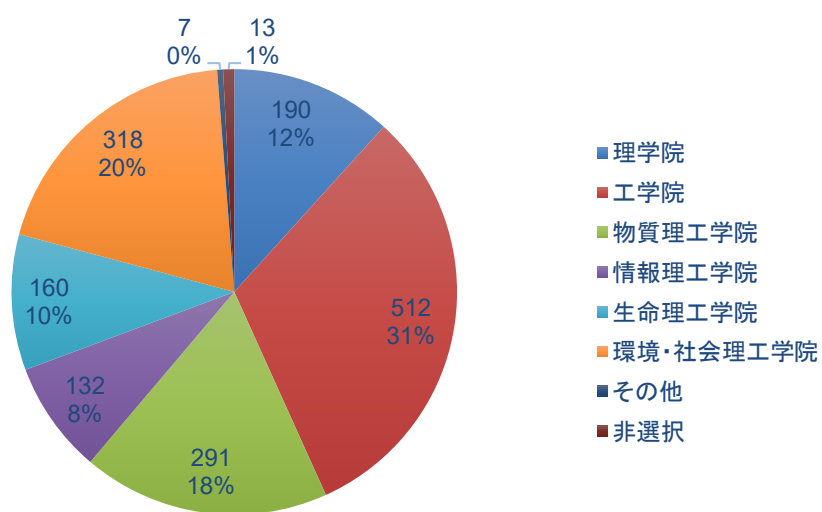


図 8-1.6 所属学院

(7) 性別

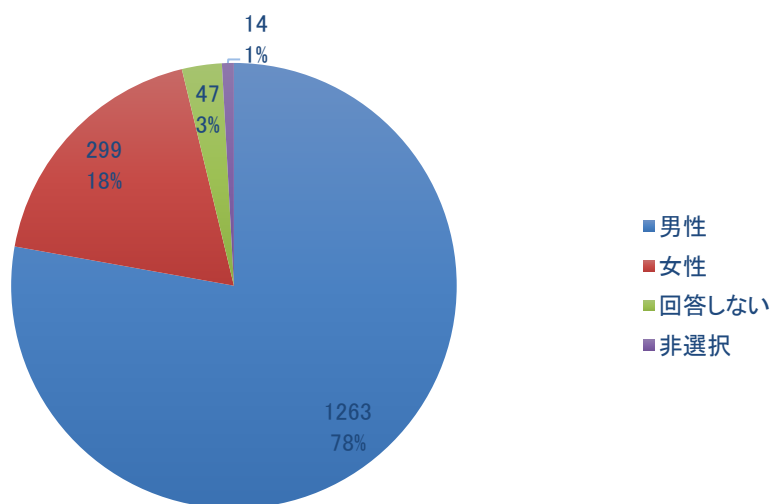


図 8-1.7 性別

(8) サークル等の課外活動について、参加しているものがあれば教えてください。(複数選択可)

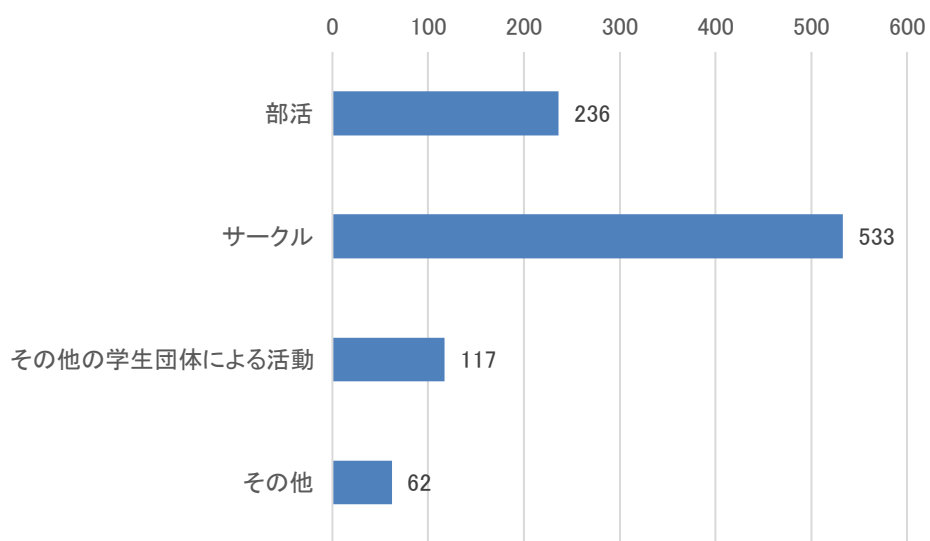


図 8-1.8 部活・サークル・その他の学生団体への参加の有無

(9) 2024 年度に大学が統合後、在籍予定ですか。

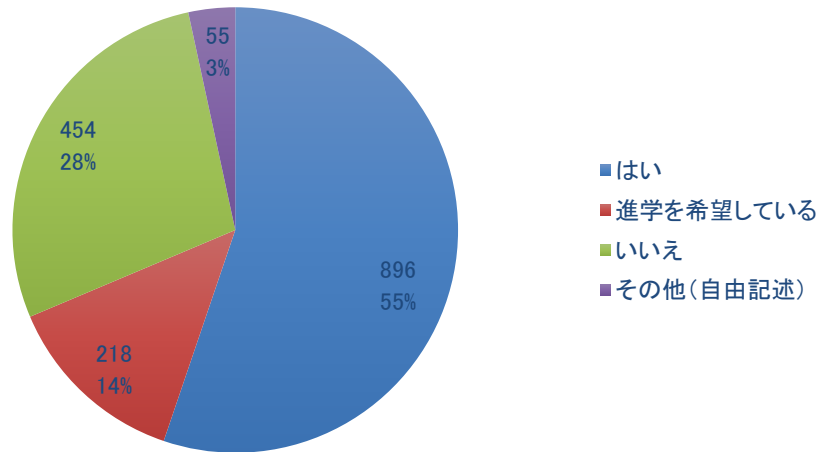


図 8-1.9 2024 年度に大学が統合後、在籍予定であるか

## 8.2 東京医科歯科大学との統合

(1) 統合後の新大学はどのようにあるべきですか。(複数選択可)

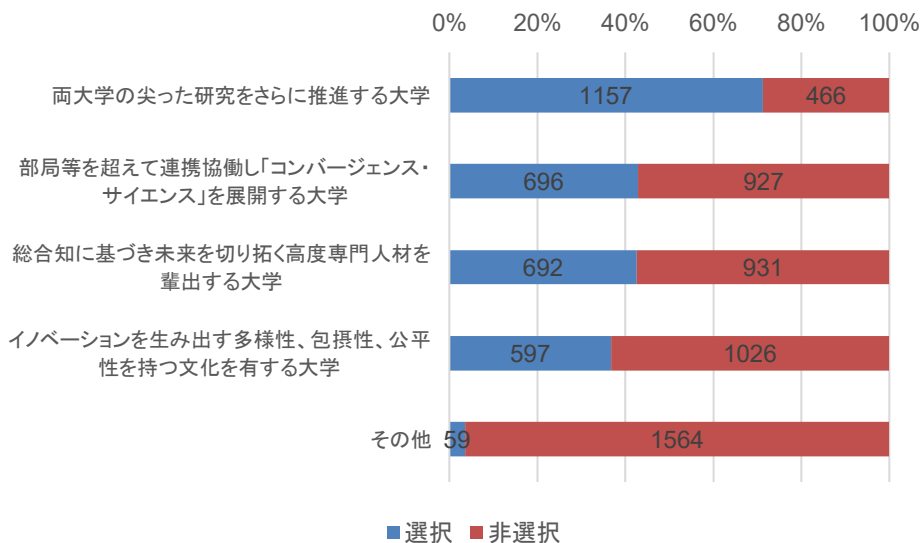


図 8-2.1 統合後の新大学はどのようにあるべきか

(2) 統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください。(複数選択可)

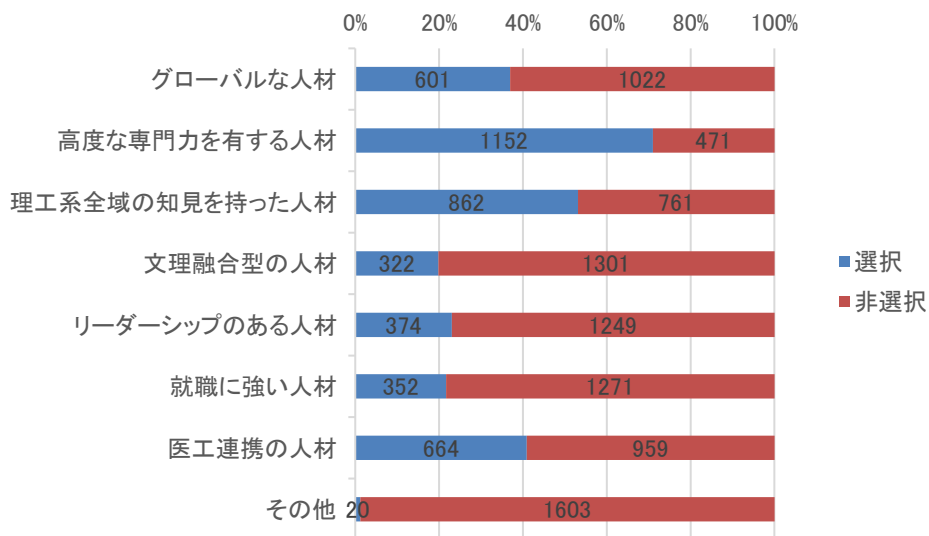


図 8-2.2 統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性

(3) 統合による、あなた自身にとってのメリットはどこにあると思いますか。(複数選択可)

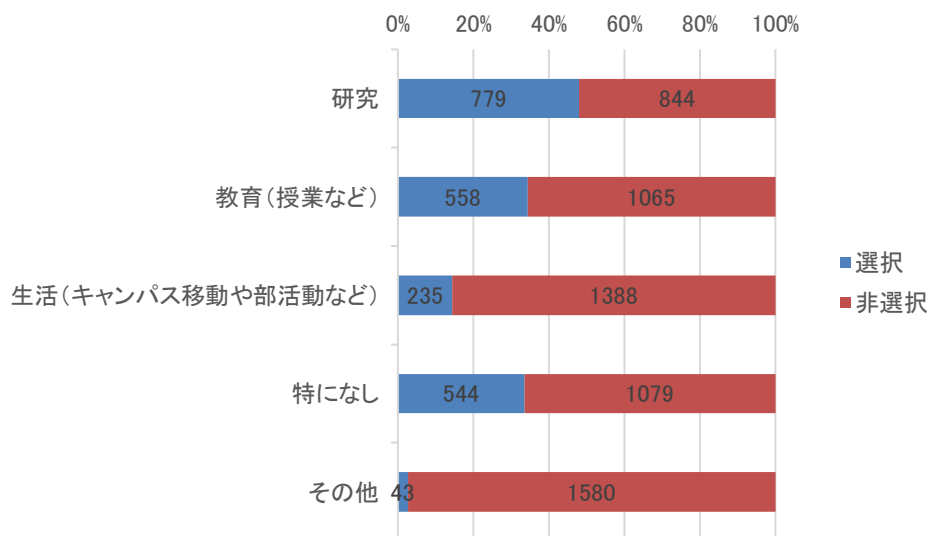


図 8-2.3 統合による、あなた自身にとってのメリット

(4) 統合による、あなた自身にとってのデメリットはどこにあると思いますか。(複数選択可)

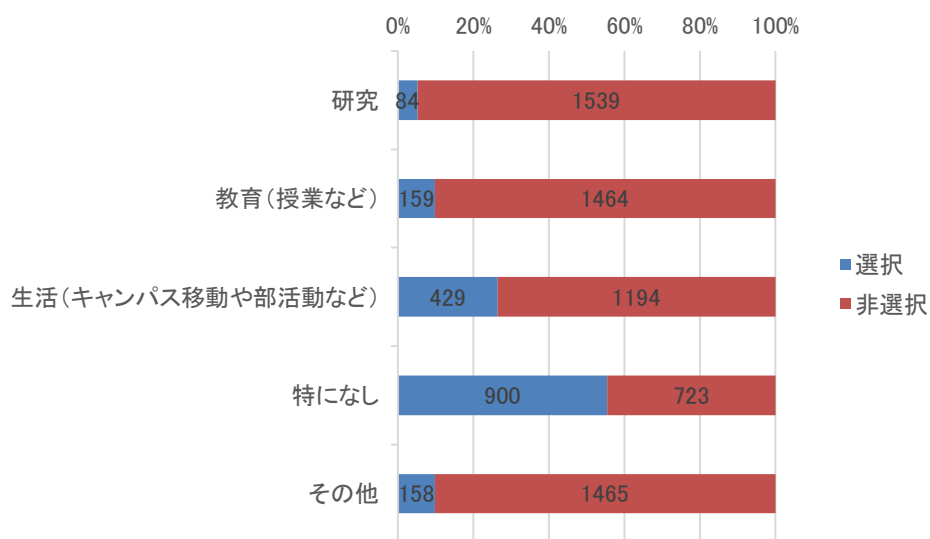


図 8-2.4 統合による、あなた自身にとってのデメリット

(5) 東京医科歯科大学で行われている部活・サークル・学生団体などの活動について知っていますか、また参加したい活動はありますか。

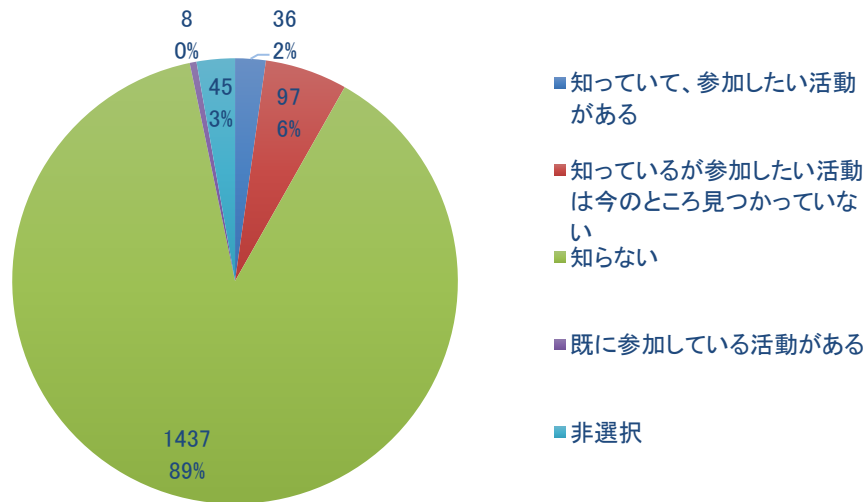


図 8-2.5 東京医科歯科大学で行われている学生活動について知っているか、参加したいか

(6) 統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか。

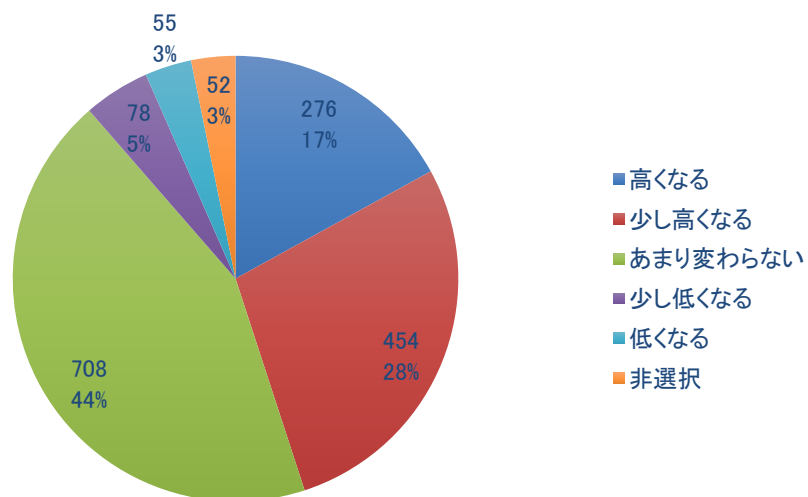


図 8-2.6 統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べてどうなると思うか

(7) 統合によって世界大学ランキングは現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか。

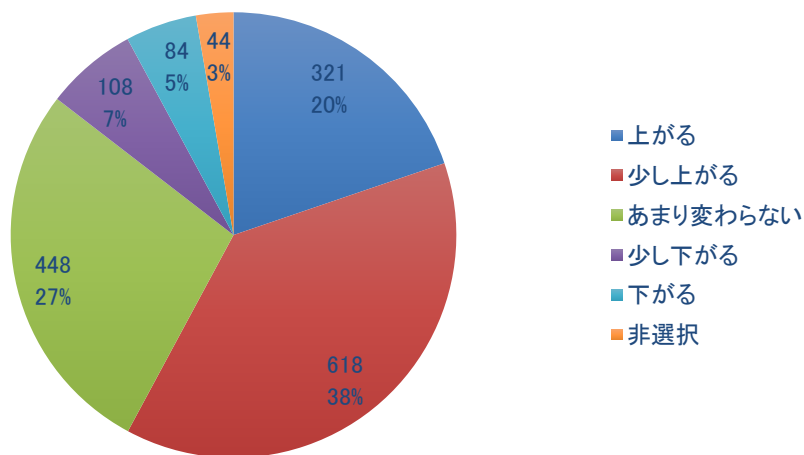


図 8-2.7 統合によって世界大学ランキングは現在の東京工業大学と比べてどうなると思うか

(8) 統合はあなた自身の就職活動に良い影響を与えますか。

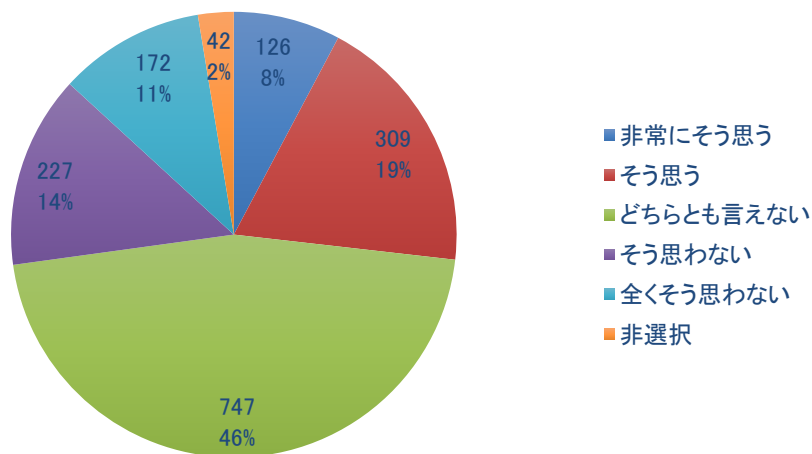


図 8-2.8 統合はあなた自身の就職活動に良い影響を与えると思うか



(9) 統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイントを教えてください。(複数選択可)

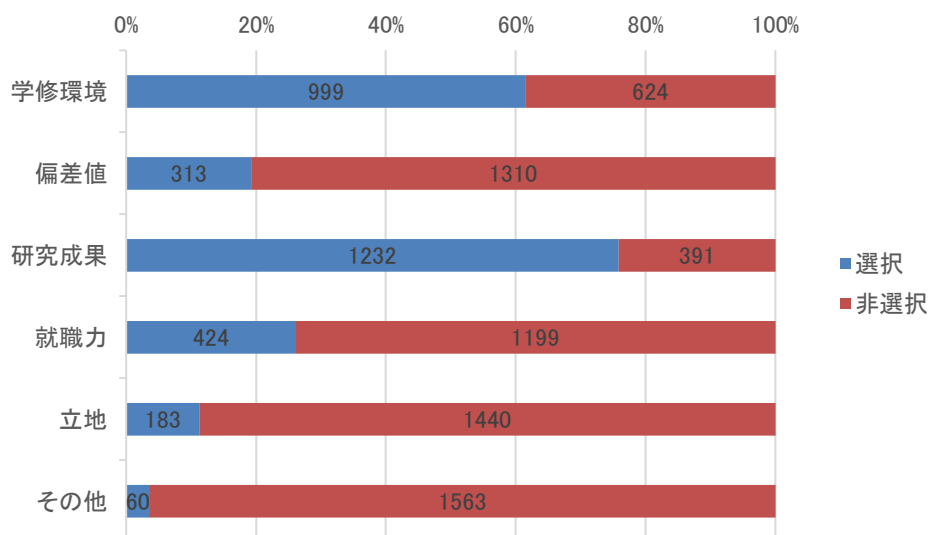


図 8-2.9 統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイント

(10) あなたは統合を楽しみにしていますか。

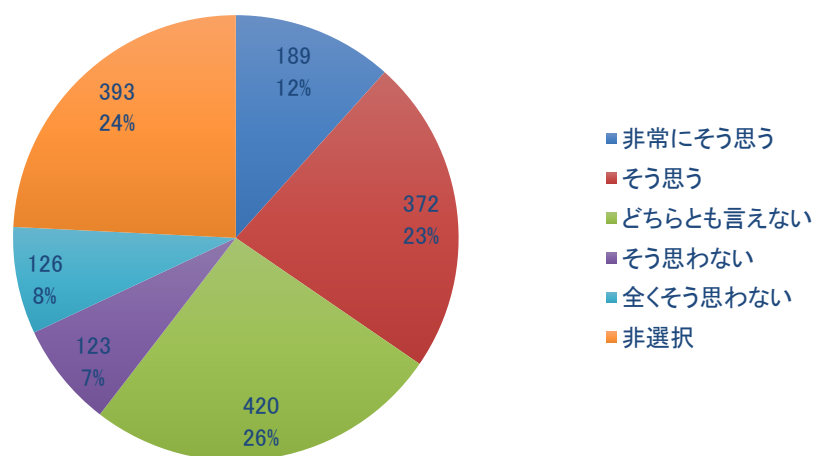


図 8-2.10 統合を楽しみにしているか

(11) 統合に対する周囲(東工大生以外、家族など)の反応は好意的だと思いますか。

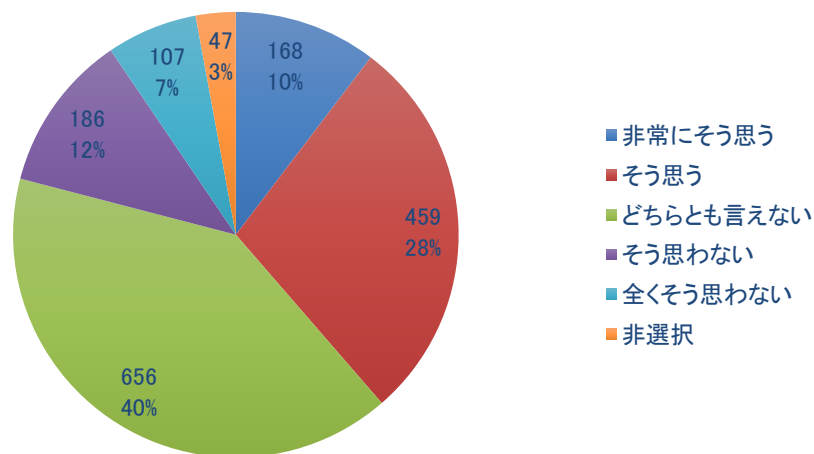


図 8-2.11 統合に対する周囲の反応は好意的だと思うか

(12) あなたは東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れていますか。

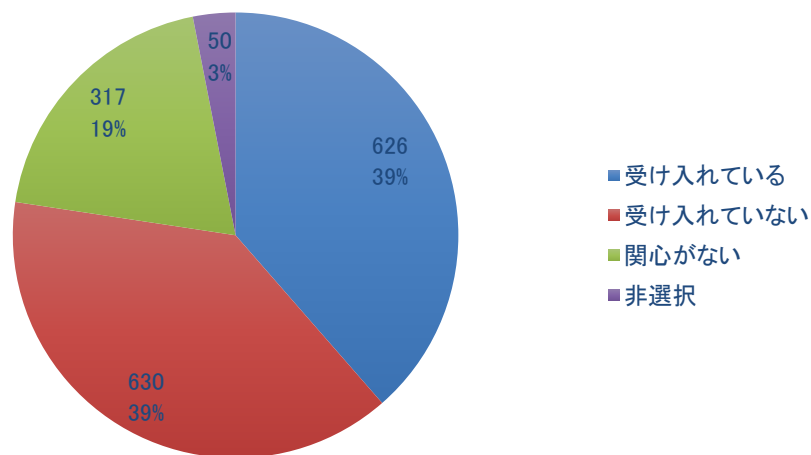


図 8-2.12 東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れているか

(13) 統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか。

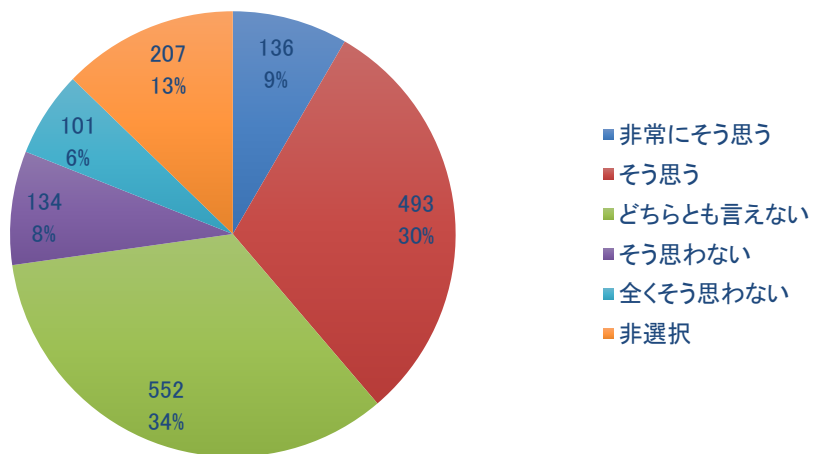


図 8-2.13 統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思うか

## 8.3 女子枠導入

(1) 女子学生の比率が増えることについてどう思いますか。

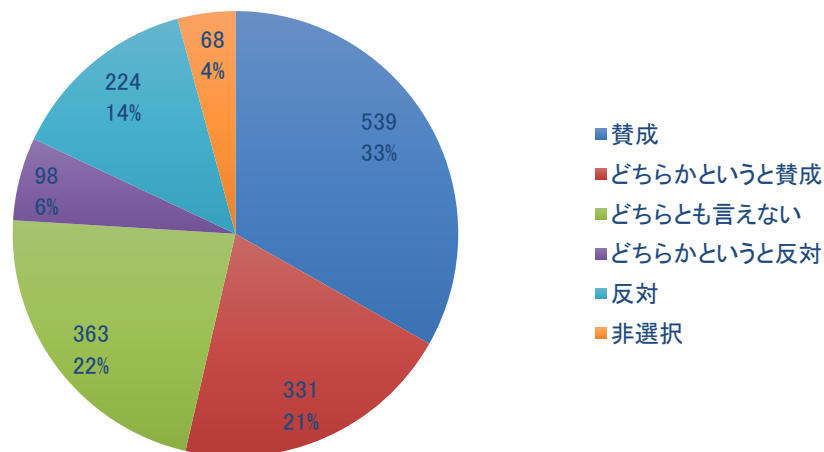


図 8-3.1 女子学生の比率が増えることについてどう思うか

(2) 女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか。

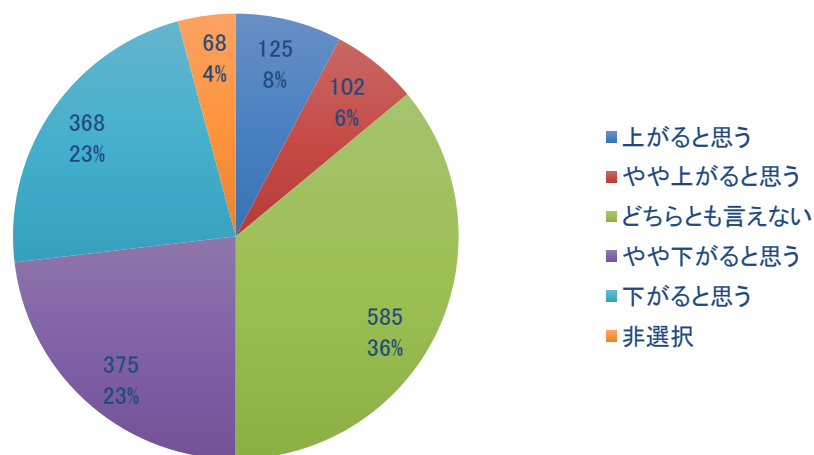


図 8-3.2 女子枠導入によって、学生の学力はどうなると思うか

(3) 女子卒の導入によって、**学生の研究力**はどうかと思いますか。

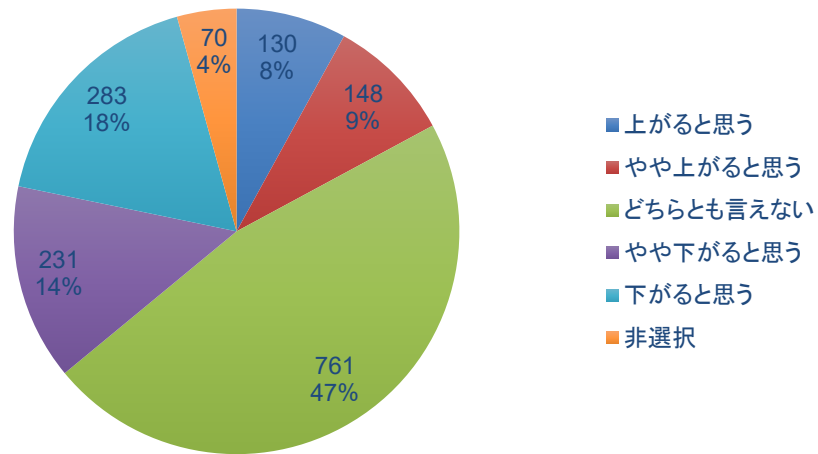


図 8-3.3 女子卒の導入によって、学生の研究力はどうかと思うか

(4) 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、**女子卒を導入する**という取り組み全体についてどう思いますか。

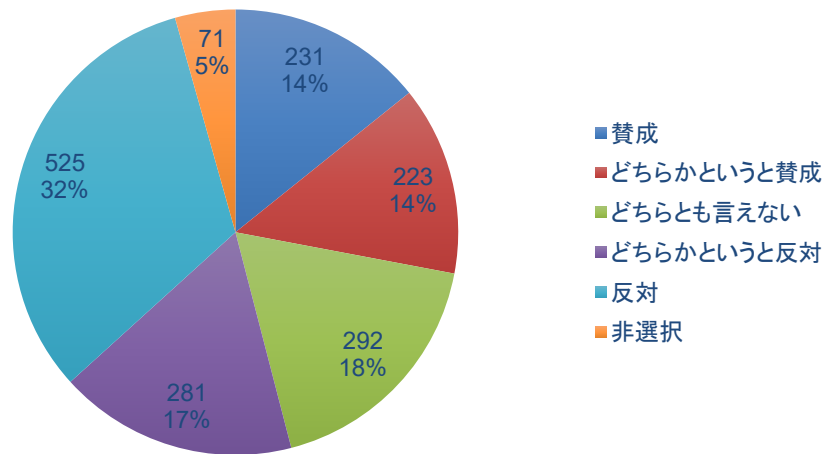


図 8-3.4 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子卒導入という取り組み全体についてどう思うか

(5) 女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか。

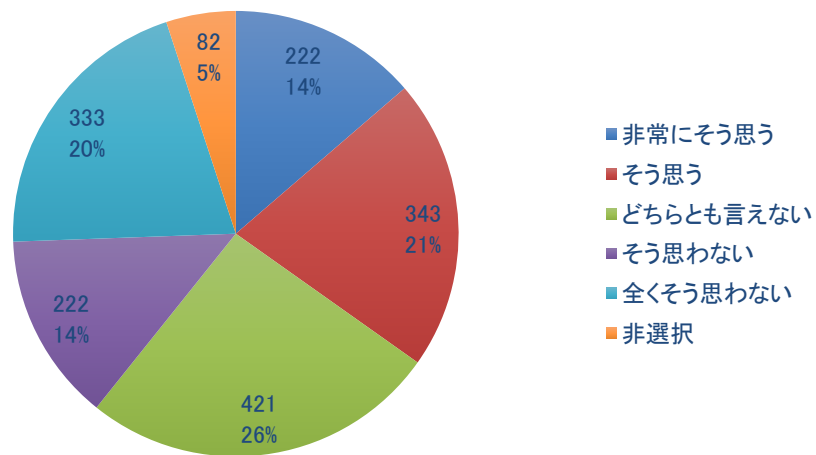


図 8-3.5 女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思うか

## 8.4 学勢調査 2022 追加調査 設問一覧(日本語)

○:ラジオボタン □:チェックボックス

### I.基本

1 現在あなたの所属している課程を教えてください。

○学士課程 ○大学院修士課程 ○大学院博士後期課程 ○専門職学位課程 ○研究生 ○科目等履修生 ○その他

2 あなたの受験方を教えてください

○一般選抜(前期日程) ○一般選抜(後期日程) ○学校推薦型選抜(推薦入試も含む) ○総合型選抜(AO入試も含む) ○私費留学生 ○国費留学生(GSEP) ○高大連携入試 ○その他

3 現課程への入学年度を教えてください

○2022 ○2021 ○2020 ○2019 ○2018 ○2017 ○2016 ○2015 ○2014 以前

4 以下に該当する方はチェックを入れてください(複数選択可)

□高専や他大学に在籍していたことがある □留学生である

5 あなたの所属する学院の所属を教えてください

○理学院 ○工学院 ○物質理工学院 ○情報理工学院 ○生命理工学院 ○環境・社会理工学院 ○その他(自由記述)

6 性別

○男性 ○女性 ○回答しない

7 サークル等の課外活動について、参加しているものがあれば教えてください(複数選択可)

□部活 □サークル □その他の学生団体による活動 □その他(自由記述)

8 2024年度に大学が統合後、在籍予定ですか

○はい ○進学を希望している ○いいえ ○その他(自由記述)

### II.東京医科歯科大学との統合

東京医科歯科大学との統合についてお聞きします

大学統合に向けての情報や資料は、本学 HP 東工大ニュース「国立大学法人東京工業大学と国立大学法人東京医科歯科大学の統合に向けた基本合意書を締結」(<https://www.titech.ac.jp/news/2022/065089>)に掲載されています。

1 統合後の新大学はどのようにあるべきですか

以下の4つは大学側が提示しているものですが、賛同するものにチェックを入れるとともに、学生の皆さんが考える大学像があれば「その他」の自由記述へお願いします(複数選択可)

※「コンバージェンス・サイエンス」とは

歴史的に異なる複数の学問領域が融合し、これが単なる加算(1+1=2)ではなく、収斂後に新しい学問領域を生み出すことで未知の課題を発見し、社会課題を解決していくアプローチ(1+1>2)をコンバージェンス・サイエンスという。(東京工業大学「法人統合および大学統合について」<https://www.titech.ac.jp/news/pdf/tokyotechpr20221014-integration2.pdf>より引用)

□両大学の尖った研究をさらに推進する大学

□部局等を超えて連携協働し「コンバージェンス・サイエンス」を展開する大学

□総合知に基づき未来を切り拓く高度専門人材を輩出する大学

イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化を有する大学

その他(自由記述)

2 統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください(複数選択可)

グローバルな人材

高度な専門力を有する人材

理工系全域の知見を持った人材

文理融合型の人材

リーダーシップのある人材

就職に強い人材

医工連携の人材

その他(自由記述)

3 統合による、あなた自身にとってのメリットはどこにあると思いますか(複数選択可)

研究

教育(授業など)

生活(キャンパス移動や部活動など)

特になし

その他(自由記述)

4 統合による、あなた自身にとってのデメリットはどこにあると思いますか(複数選択可)

研究

教育(授業など)

生活(キャンパス移動や部活動など)

特になし

その他(自由記述)

5 東京医科歯科大学で行われている部活・サークル・学生団体などの活動について知っていますか、また参加したい活動はありますか

知っている、参加したい活動が

ある 知っているが参加したい活動は今のところ見つかっていない 知らない 既に参加している活動がある

6 統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか

高くなる 少し高くなる あまり変わらない 少し低くなる 低くなる

7 統合によって世界大学ランキングは現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか

上がる 少し上がる あまり変わらない 少し下がる 下がる

8 統合はあなた自身の就職活動に良い影響を与えますか

非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない

9 統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールするべきだと感じるポイントを教えてください(複数選択可)

学修環境

偏差値

研究成果

就職力

立地

その他(自由記述)



10 あなたは統合を楽しみにしていますか

○非常にそう思う ○そう思う ○どちらとも言えない ○そう思わない ○全くそう思わない

11 統合に対する周囲(東工大生以外、家族など)の反応は好意的だと思いますか

○非常にそう思う ○そう思う ○どちらとも言えない ○そう思わない ○全くそう思わない

12 あなたは東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れていますか

○受け入れている ○受け入れていない ○関心がない

13 現行の東工大の制度のうち、統合後も変えないで欲しい制度は何かありますか、またそれはなぜですか(自由記述)

例:学修カリキュラム、系・研究室所属システム、大学院入試システム(A,B 日程など)、T2SCHOLA 等学修システム、留学制度など

14 現行の東工大の制度のうち、統合を機に変えて欲しいものは何かありますか、またどう変わって欲しいですか(自由記述)

例:学修カリキュラム、系・研究室所属システム、大学院入試システム(A,B 日程など)、T2SCHOLA 等学修システム、留学制度など

15 統合後、異なる所属の学生間の交流を推進するために継続または新設してほしい制度はありますか(自由記述)

例:ユニット制、転系制度など

16 統合後、情報基盤システムに関して何か要望はありますか(自由記述)

例:ドメインネーム、東工大ポータル、T2SCHOLA、Slack、Box 等は残してほしい

17 統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか(自由記述)

※ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)については、本学 HP「東工大ダイバーシティ&インクルージョン」([\[https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion\]](https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion))を参照してください。

○非常にそう思う ○そう思う ○どちらとも言えない ○そう思わない ○全くそう思わない

18 統合について、意見があれば自由に記入してください(自由記述)

### Ⅲ.女子枠導入

女子学生を増やすための入試制度である女子枠導入についてお聞きます

女子枠導入に関する情報や資料は、本学 HP 東工大ニュース「東京工業大学が総合型・学校推薦型選抜で 143 人の「女子枠」を導入」([\[https://www.titech.ac.jp/news/2022/065237\]](https://www.titech.ac.jp/news/2022/065237))に掲載されています。

1 女子学生の比率が増えることについてどう思いますか

○賛成 ○どちらかという賛成 ○どちらとも言えない ○どちらかという反対 ○反対

2 女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか

○上がると思う ○やや上がると思う ○どちらとも言えない ○やや下がると思う ○下がると思う

3 女子枠の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか

○上がると思う ○やや上がると思う ○どちらとも言えない ○やや下がると思う ○下がると思う

4 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか

○賛成 ○どちらかという賛成 ○どちらとも言えない ○どちらかという反対 ○反対

5 女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか

※ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)については、本学 HP「東工大ダイバーシティ&インクルージョン」([\[https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion\]](https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion))を参照してください。

○非常にそう思う ○そう思う ○どちらとも言えない ○そう思わない ○全くそう思わない

6 女子枠の導入について、意見があれば自由に記入してください(自由記述)

#### IV.全体

学勢調査 2022 の追加調査についてお聞きます

1 本追加調査について、意見があれば自由に記入してください(自由記述)

## 8.5 Questions of Student Survey 2022: Additional Questions

: radio button  : check box

### I .Basic information

1 What is your current status at Tokyo Tech?

- Bachelor's degree student  Master's degree student  Doctoral degree student  
 Professional master's degree student  Research student  Non Degree Students  
 Other

2 What was your path to admission?

- Regular entrance exam (first round)  Regular entrance exam (second round)  School recommendation   
Administrative admission exam (inclusive of AO exam)  Admitted as a privately funded international student   
Admitted as a MEXT scholarship student (GSEP)  Entrance exam under a high school–university collaboration   
Other

3 Year enrolled in your current program.

- 2022  2021  2020  2019  2018  2017  2016  2015  2014 or before

4 Check the items that apply.

- I have attended other technical colleges or universities.  
 I am an international student.

5 Which school are you affiliated with?

- School of Science  School of Engineering  School of Material and Chemical Technology  School of Computing  
 School of Life Science and Technology  School of Environment and Society  Other (please specify)

6 Gender

- Male  Female  Rather not specify

7 What extracurricular activities, if any, do you participate in (multiple selections allowed) ?

- School clubs  Student clubs  Other student organizations  Other (please specify)

8 At the time of the university integration in AY 2024, will you be studying at your current program at Tokyo Tech?

- Yes.  I plan to advance to a higher program.  No.  Other (please specify)

### II .Integration with TMDU

See the link below for information and materials regarding the university integration posted on Tokyo Tech News:

“Tokyo Institute of Technology and Tokyo Medical and Dental University sign a basic agreement for integration”  
[<https://www.titech.ac.jp/english/news/2022/065130>]

1 What do you expect from the new university?

The four descriptions below are the new university's goals set by Tokyo Tech and TMDU. Please tick all options with which you agree. You can also describe your idea of a desired university, if any, in “Other” section (multiple selections allowed).

“Convergence science” is an approach in which multiple historically different disciplines converge, resulting not merely in addition ( $1+1=2$ ), but rather the creation of new disciplines after convergence to discover unknown issues and solve social problems ( $1+1>2$ ).

[<https://www.titech.ac.jp/english/news/2022/065130>]

- Further promote cutting-edge research at both institutions

- Develop “convergence science” through cooperation and collaboration across departmental and other borders
- Produce highly specialized professionals who will pioneer the future based on comprehensive knowledge
- Nurture a culture of diversity, inclusion, and equity to foster innovation
- Other (please specify)

2 What kind of talent do you think the new university should focus on developing? (multiple selections allowed)

- Globalized
- Highly specialized
- With expertise generally covering science and technology fields
- With combination of humanities and science knowledge
- With strong leadership
- With strong advantage in job-seeking
- Capable of connecting medical sciences and engineering
- Other (please specify)

3 In which areas will the university integration likely be **advantageous** to you? (multiple selections allowed)

- Research
- Education (lectures, etc.)
- Student life (traveling between campuses, extracurricular activities, etc.)
- None particularly
- Other (please specify)

4 In which areas will the university integration likely be **disadvantageous** to you? (multiple selections allowed)

- Research
- Education (lectures, etc.)
- Student life (traveling between campuses, extracurricular activities, etc.)
- None particularly
- Other (please specify)

5 Do you know about school clubs, student clubs, and other student organizations of TMDU? Is there any specific activity you wish to join? \_\_\_\_\_

I know of some and yes, there is a specific activity I wish to join.  I know of some, but I have not found any I wish to join so far.  I do not know of any.  I have already joined some activities.

6 Do you think that the rate of applications for undergraduate programs at the new university will be higher or lower compared to the current rate at Tokyo Tech?

Higher  A little higher  Mostly unchanged  A little lower  Lower

7 Do you think that the new university will be ranked higher or lower in the World University Rankings compared to the current Tokyo Tech ranking?

Higher  A little higher  Mostly unchanged  A little lower  Lower

8 Do you think the university integration will be beneficial to your job hunting?

Yes, absolutely.  Yes, somewhat.  Maybe.  No, not really.  No, not at all.

9 Please tick all areas regarding which you think the new university should strongly appeal to outside parties (multiple selections allowed).

- Learning environment
- Hensachi (deviation score for academic rating)

## 追加調査 調査資料集

- Research achievements
- Strengths in job hunting
- Location
- Other (please specify)

### 10 Are you looking forward to the university integration?

Yes, absolutely.  Yes, somewhat.  I'm neutral.  No, not really.  No, not at all.

### 11 Are reactions from your friends (non-Tokyo Tech members), family, etc. about the university integration positive?

Yes, absolutely.  Yes, somewhat.  They are neutral.  No, not really.  No, not at all.

### 12 Do you feel comfortable that the name Tokyo Institute of Technology will no longer exist after integration?

Yes  No I have no strong feelings either way.

### 13 Among currently available systems at Tokyo Tech, please name anything you **want to be maintained** even after the integration, and explain why.

Example: Curriculum, department/laboratory affiliation, graduate admission system (A/B schedule, etc.), learning management system (T2SCHOLA, etc.), study-abroad programs, etc.

### 14 Among currently available systems at Tokyo Tech, name anything you **want to be improved** through integration, and explain how you want to be changed.

Example: Curriculum, department/laboratory affiliation, graduate admission system (A/B schedule, etc.), learning management system (T2SCHOLA, etc.), study-abroad programs, etc.

### 15 Please name any frameworks of inter-department/affiliation exchanges among students you wish to be maintained or launched after the university integration.

Example: Student unit for undergraduate students, transfer of department/major

### 16 Do you have any requests regarding the post-integration information infrastructures?

Example: Want to continue to use the domain name, Tokyo Tech Portal, T2SCHOLA, Slack, Box, etc.

### 17 Do you think the university integration will help promote the diversity and inclusion initiative?

See the link below for "Diversity and Inclusion at Tokyo Tech":

[<https://www.titech.ac.jp/english/diversity-inclusion>]

Yes, absolutely.  Yes, somewhat.  Maybe.  No, not really.  No, not at all.

### 18 Please provide any comments you may have regarding the university integration.

## III. Introduction of the female student quota

See the link below for information and materials regarding the introduction of female student quotas posted on Tokyo Tech News:

"Tokyo Tech to introduce new admission methods, female student quotas"

[<https://www.titech.ac.jp/english/news/2022/065243>]

### 1 Would you support **having more female students** on campus?

Yes, absolutely.  Maybe.  I'm neutral.  Maybe not.  No, not at all.

### 2 How do you think that **the academic ability of students** will be affected by the introduction of female quotas?

It will improve.  It will improve somewhat.  It will neither improve nor be impaired.

It will be somewhat impaired.  It will be impaired.

### 3 How will **the research ability of students** be affected by the introduction of female quotas?

It will improve.  It will improve somewhat.  It will neither improve nor be impaired.

It will be somewhat impaired. I will be impaired.

4 Would you support **the overall methodology** in trying to reach our goal of admitting more females?

Yes, absolutely. Maybe. I'm neutral. Maybe not. No, not at all.

5 Do you think the introduction of female quotas will help promote the diversity and inclusion initiative?

See the link below for “Diversity and Inclusion at Tokyo Tech”:

[<https://www.titech.ac.jp/english/diversity-inclusion>]

Yes, absolutely. Yes, somewhat. I'm neutral. No, not really. No, not at all.

6 Please provide any comments you may have regarding the introduction of female quotas.

## IV. Overall

Please answer the following questions about the Additional survey.

1 Please provide any comments you may have overall regarding this additional survey.

## 9 謝辞

この学勢調査 2022 アンケートの実施及び本提言書の作成に際し、多くの皆様にご協力を頂きましたので、ここで感謝の意を表したいと思います。

まず、学勢調査 2022 のアンケート調査に回答して下さった 2671 名の本学学生の皆様に厚く御礼申し上げます。皆様から頂いた声はすでに多くの教職員にフィードバックされ、今後の改善の参考にしていただいております。多数の貴重なご意見をありがとうございました。

次に、ご多用の中キャンパスミーティングなどを通じて意見交換をさせていただき、本提言書の作成に多大なご協力を頂いた、本学教員の皆様、職員の皆様に深く感謝いたします。皆様のご協力なしには、本提言書の完成はありませんでした。ありがとうございました。

2023 年 3 月

学勢調査 2022 学生スタッフ一同

学勢調査 2022 に協力していただいた本学学生の皆様

学院(下記)の皆様

理学院

生命理工学院

リベラルアーツ研究教育院の皆様

共通支援組織(下記)の皆様

保健管理センター

学生支援センター

学術国際情報センター

企画本部ダイバーシティ推進室の皆様

事務局(下記)の皆様

総務部人事課労務室

総務部安全企画課

学務部教務課

学務部学生支援課

学務部留学生交流課

東京工業大学生生活協同組合の皆様

# 10 学勢調査 2022 学生スタッフ

代表	生命理工学院	生命理工学系	学士3年	長谷川 義人
副代表	理学院	物理学系物理学コース	修士1年	吉田 拓暉
副代表	環境・社会理工学院	融合理工学系	学士4年	渡部 晃子

## 学修班

班員	生命理工学院	生命理工学系	学士3年	長谷川 義人
班員	工学院	機械系エンジニアリングデザインコース	修士1年	野村 彩乃
班員	理学院	物理学系物理学コース	修士1年	吉田 拓暉
班員	環境・社会理工学院	融合理工学系	学士3年	Fabiano Bruno Barros de Almeida
班員	工学院		学士1年	東 翼
班員	生命理工学院	生命理工学系	学士2年	松本 淳弥
班員	生命理工学院		学士1年	山崎 彩佳

## 施設班

班員	生命理工学院	生命理工学系	学士3年	長谷川 義人
班員	工学院	システム制御系	学士2年	吉村 亮哉
班員	物質理工学院		学士1年	川上 夏香



サービス班

班員	生命理工学院	生命理工学系	学士3年	長谷川 義人
班員	物質理工学院	材料系材料コース	修士1年	伊藤 龍寿
班員	環境・社会理工学院	建築学系建築学コース	修士1年	高井 峻
班員	環境・社会理工学院	融合理工学系	学士4年	渡部 晃子
班員	生命理工学院		学士1年	山崎 彩佳

その他

班員	生命理工学院	生命理工学系	学士3年	長谷川 義人
班員	物質理工学院	材料系材料コース	修士1年	伊藤 龍寿
班員	生命理工学院		学士1年	山崎 彩佳
班員	物質理工学院		学士1年	川上 夏香

所属・学年は2023年3月現在

# 11 学勢調査 2022 WG 教職員スタッフ

環境・社会理工学院	教授	鍵 直樹（主査）
リベラルアーツ研究教育院	教授	弓山 達也
リベラルアーツ研究教育院	教授	猪原 健弘
科学技術創成研究院	准教授	長谷川 純
国際教育推進機構	特任教授	太田 絵里
保健管理センター	教授	齋藤 憲司
保健管理センター	准教授	高田 純
学生支援センター	教授	伊東 幸子
学生支援センター	マネジメント准教授	山田 恵美子
学生支援課	課長	平山 隆広
学生支援課支援企画グループ	グループ長	田中 寿弥
学生支援課支援企画グループ	スタッフ	高際 紋歌
学生支援センター	事務支援員	吉江 綾子
学生支援センター	事務支援員	小黒 七葉
超スマート社会卓越教育院/工学院	特任教授	西原 明法
教育・国際連携本部 アドミッション部門	特命教授	篠崎 和夫